
伊 奈 町

向 原 遺 跡 II

上尾都市計画事業伊奈特定土地地区画整理事業関係
埋蔵文化財調査報告書

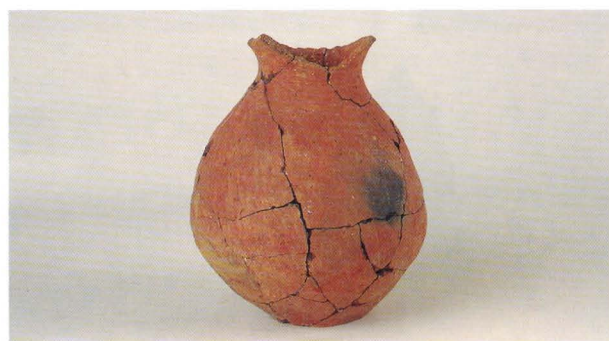
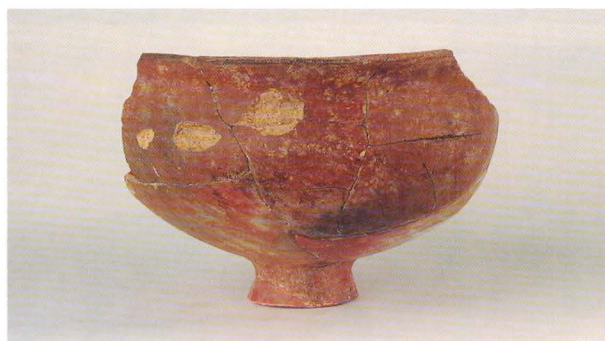
— VII —

2 0 0 1

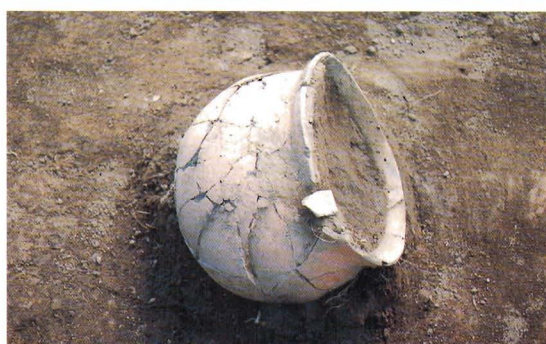
埼 玉 県

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

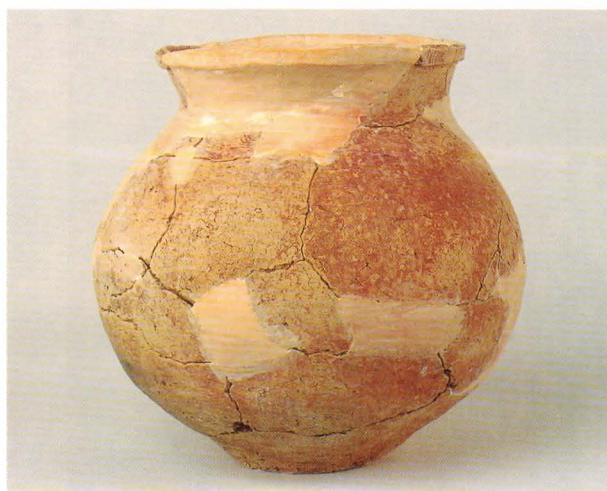
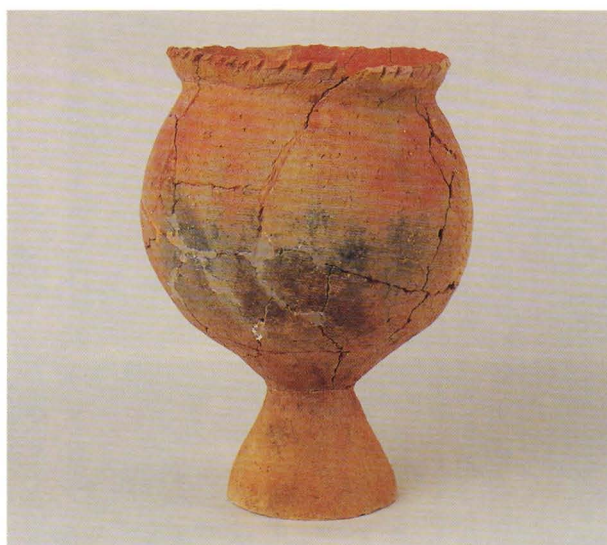




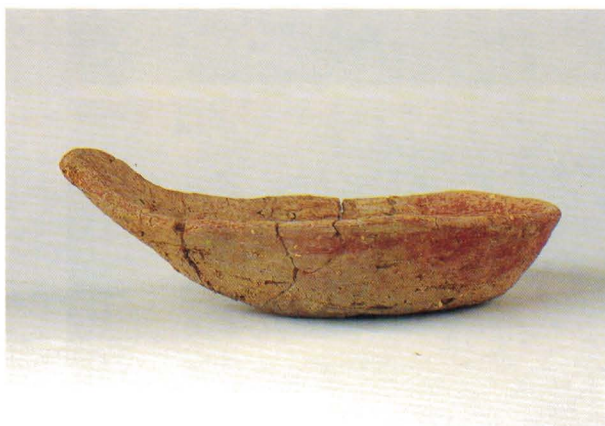
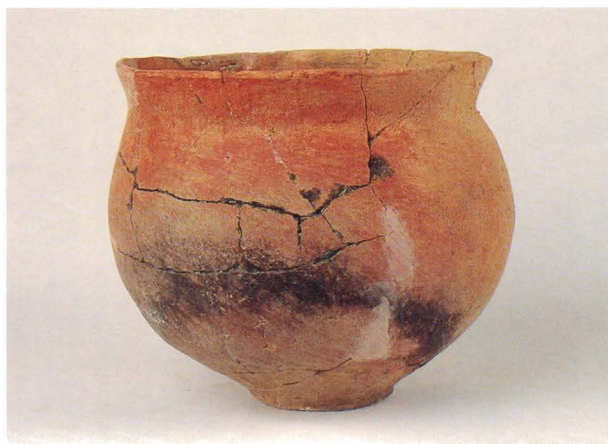
第85号住居跡

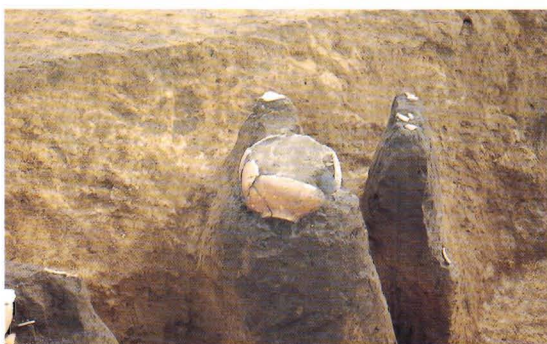
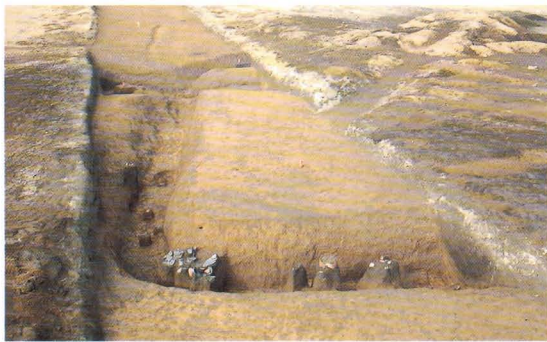


第96号住居跡 (1)

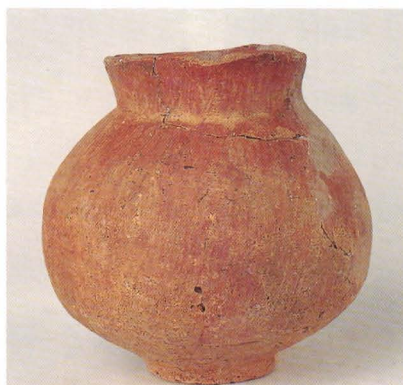


第96号住居跡（2）





第2号方形周溝墓（1）



第2号方形周溝墓（2）



第31図 4



第52図 5



第97図 1



第97図 2



第103図 1



第103図 5

土器胎土（土器破碎粒）

序

首都に隣接する埼玉県は、ベッドタウンとして近年人口が増加している地域であります。21世紀を迎えて、さらなる高次の都市機能を集積した中枢都市圏の形成に寄与するため、伊奈町北部地域に良質な住宅や緑とハイテクの就業地区を備えたモデルタウンを建設することになりました。現在この計画を促進するため、上尾都市計画事業伊奈特定土地区画整理事業が進められております。

人の住みやすいところは、昔も今も変わりませんが、事業計画地内には旧石器時代から連綿と人びとが生活していた集落などの遺跡がたくさんあります。このため計画地内に所在する埋蔵文化財の取り扱いについては、関係機関が慎重に協議してまいりましたが、やむを得ず記録保存の措置を講じることになりました。

発掘調査は、埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課の調整により、当事業団が埼玉県伊奈新都市建設事務所の委託を受け、実施いたしました。

本報告書はこれらの遺跡のうち、向原遺跡の発掘調査報告であります。

向原遺跡は、今までに11回の調査が行われました。今回は、第9次調査から第11次調査までをまとめたものでありますが、旧石器時代から縄文時代及び古墳時代から近世にいたるまで多くの竪穴住居跡や土壌のほか、土器や石器、陶磁器などの貴重な遺物が発見されました。

とくに、今回の報告では古墳時代前期の竪穴住居跡などが数多く検出され、当時の人々の生活や村の様子を知る上で大変貴重なものになりました。

出土した遺物についても、東関東地方から東北地方につながる石鏃やミニチュア土器が出土し、一方、方形周溝墓からは、東海地方の影響を受け櫛描波状文が施された飾り壺も出土しました。大宮台地を取り巻く古墳時代前期の世の中の動きを知る手がかりとなるものです。

今回、整理作業の効率化・迅速化を図るための試行を行いました。パソコンによる遺構のトレースと図版の作成などデジタル化による作業を行いました。今後もこうした努力を重ねて行きたいと思っております。

本書はこれらの成果をまとめたものであります。埋蔵文化財の保護や学術研究の基礎資料として、また、埋蔵文化財の普及・啓発の資料として広く活用していただければ幸いです。

本書の刊行にあたり、発掘調査に関する諸調整に御尽力をいただきました埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課をはじめ、発掘調査から報告書刊行に至るまで御協力いただきました埼玉県伊奈新都市建設事務所、伊奈町教育委員会並びに地元関係各位に対し深く感謝申し上げます。

平成13年11月

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
理 事 長 中 野 健 一

例 言

1. 本書は埼玉県北足立郡伊奈町に所在する向原遺跡に関する発掘報告書である。
2. 向原遺跡は第9次調査から第11次調査まで行われた。遺跡の略号と代表番地及び発掘調査に対する指示通知と発掘調査担当者は、以下の通りである。

向原遺跡(No.18-68)

第9次調査

遺跡の所在地

伊奈町大字小針内宿字向原1241番地 1 他

面 積 1,850㎡

調査期間

平成11年12月1日～平成12年3月24日

調査員 西井幸雄・栗岡 潤

指示通知

教文第2-19号(平成11年12月14日付け)

第10次調査

遺跡の所在地

伊奈町大字小針内宿字向原1002番地他

面 積 7,205㎡

調査期間

平成12年7月1日～平成12年12月28日

調査員 坂野和信・橋本 勉

指示通知

教文第2-34号(平成12年7月14日付け)

第11次調査

遺跡の所在地

伊奈町大字小針新宿字梶川882番地他

調査面積 5,875㎡

調査員 赤熊浩一・吉田 稔

調査期間

平成12年10月1日～平成13年3月23日

指示通知

教文第2-87号(平成12年11月27日付け)

3. 発掘調査は、上尾市都市計画事業伊奈特定土地区画整理事業に伴う事前調査であり、埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課が調整し、埼玉県伊奈新都市建設事務所の委託を受けて、財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施した。
4. 本事業は第Ⅰ章の組織により実施した。整理・報告書刊行は黒坂・橋本が担当し、平成13年2月1日～平成13年3月26日、平成13年4月9日～平成13年11月30日まで実施した。
5. 遺跡の基準点測量及び航空写真は中央航業株式会社に委託した。
6. 発掘調査時の写真は、各調査次の調査員が撮影し、遺物の写真撮影は橋本が撮影した。
7. 出土品の整理及び図版の作成は黒坂、橋本が行った。
8. 本書の執筆はⅠ-1を埼玉県生涯学習部文化財保護課が、それ以外は橋本が行った。
9. 本書の編集は、橋本があたった。
10. 本書にかかる資料は平成11年度以降、埼玉県埋蔵文化財センターが管理・保存する。
11. 本書を作成するにあたり、生涯学習部文化財保護課及び、伊奈町教育委員会の御指導、御協力を賜った。記して謝意を表します。

凡 例

1. 本書の遺跡全体におけるX・Yの座標数値は、国土標準平面直角座標第Ⅲ系に基づく座標値を示し、方位はすべて座標北を表す。
2. 本遺跡では各次の調査時点で個別のグリッド呼称を行っていたが、報告の時点で統一し、10mのグリッドを遺跡全体に設定し直した。その呼称については北西杭を基準とし、西から東へ向かって0～50・南北方向はA A…A Z…B A…B Z…C A…と振り直した。巻末に新旧対照表を掲載した。
3. グリッドは10mを大グリッドとして設定した。先土器時代のグリッド、遺構の位置等の表記は、大グリッドを基準としている。
4. 遺構図及び実測図の縮尺は、原則として以下のとおりである。

遺構図

住居跡……………	1/60
土壇……………	1/60
埋甕……………	1/60
井戸……………	1/60
土壇・溝……………	1/800

遺 物

縄文時代土器実測図……………	1/4
土製品・拓本・石器……………	1/3
小型土製品・小型石器……………	1/2
古墳時代～中・近世の遺物……………	1/4

その他に関しては、スケール及び縮尺率等をその都度表記して示した。

5. 赤採された土器は実測図番号下に「赤採」と記載した。縄文時代の繊維混入土器については断面に荒い点描をした。奈良・平安時代の須恵器は、断面を黒く塗りつぶしてある。
6. 本報告書に掲載した挿図に使用されている遺構の略号は次の通りである。

S J…住居跡 S B…掘立柱建物跡 F P…炉

穴 S K…土壇 S E…井戸 S D…溝 S R…方形周溝墓 S F…炭焼き窯

7. 胎土の表記について

古墳時代前期土器の胎土表記及び調整方法は下記のようにした。

胎土の表記方法

- A 細砂粒を含む。混入物は少ない
B 細粒を含む。混入物が多い
1. 小石を多く含む。
 2. 褐色粒子を多く含む
 3. 石英の小石を含む。
 4. 土器破碎粒子を多く含む

調整方法

1. ナデ(工具不明)
2. 小口ナデ
 - A. 刷毛目状に明瞭に痕跡が残る
 - B. 擦痕が残る
 - C. 小口の幅だけが残る

奈良時代以降の須恵器の胎土表記は下記のようにした。

A—片岩、長石粒子 B—白色微粒子 C—黒色微粒子 D—赤色微粒子 E—酸化鉄粒子 F—黒色ガラス質粒子 H—針状白色粒子

8. 遺構平面図に付した出土状況の番号は、挿図中の土器実測図番号に対応する。
9. 本報告書を刊行するに当たり、各次調査段階で個別に付けていた遺構番号を、遺跡全体の通し番号に振り替えた。なお、遺構番号の新旧対応表を巻末に掲載した。
10. 遺構断面図における水平値は、海拔高度を示しており、単位はmである。
11. 本書に掲載した地形図は、建設省国土地理院発行の1/5000の地形図を使用した。
12. 本書に使用した参考・引用文献は(著者、発行年)で表記し、巻末にその一覧表を掲載した。

目 次

口絵

序

例言

凡例

目次

I 発掘調査の概要

- 1. 調査に至る経過 1
- 2. 発掘調査・報告書作成の経過 2
- 3. 発掘調査・整理報告書刊行の組織 4

II 遺跡の立地と環境 5

III 遺跡の概要

IV 遺構と出土遺物

1. 第9次調査

- 調査の概要 12
 - (1) 土壌 15
 - (2) 溝 17
 - (3) グリッド出土遺物 18

2. 第10次調査

- 調査の概要 20
 - (1) 旧石器時代の石器集中 23
 - (2) 住居跡 24
 - (3) 土壌 72
 - (4) 炉穴 97

- (5) 小竪穴 97
- (6) 掘立柱建物跡 100
- (7) 井戸 101
- (8) 溝 103
- (9) グリッド出土遺物 114

3. 第11次調査

- 調査の概要 118
 - (1) 住居跡 120
 - (2) 土壌 133
 - (3) 地下式抗 146
 - (4) 炉穴 147
 - (5) 方形周溝墓 151
 - (6) 溝 151
 - (7) グリッド出土遺物 162

V 結語

- (1) 古墳時代前期について 171
- (2) 古墳時代前期の土器胎土について 174

挿 図 目 次

- 第1図 埼玉県の地形図 5
- 第2図 周辺の遺跡分布図 6
- 第3図 遺跡周辺の地形図 10
- 第4図 向原遺跡グリッド配置図(第1～11次) 11
- 第5図 向原遺跡グリッド配置図(第9次) 12
- 第6図 第9次調査区全体図 13
- 第7図 土壌(1) 14
- 第8図 土壌(2) 15
- 第9図 土壌出土遺物 16

- 第10図 グリッド出土遺物 19
- 第11図 向原遺跡グリッド配置図(第10次) 20
- 第12図 第10次調査区全体図 21
- 第13図 第12号石器集中 22
- 第14図 第43号住居跡 23
- 第15図 第44号住居跡 24
- 第16図 第45号住居跡 25
- 第17図 第46号住居跡(1) 26
- 第18図 第46号住居跡(2) 27

第19図	第47号住居跡	28	第56図	第83号住居跡 (1)	62
第20図	第48号住居跡	29	第57図	第83号住居跡 (2)	63
第21図	第49号住居跡	30	第58図	第84～87号住居跡 (1)	64
第22図	第50号住居跡	31	第59図	第84～87号住居跡 (2)	65
第23図	第51号住居跡	32	第60図	第84～87号住居跡 (3)	66
第24図	第52号住居跡	33	第61図	第88・89号住居跡	68
第25図	第53号住居跡	34	第62図	第89号住居跡	69
第26図	第54号住居跡	35	第63図	土壙 (1)	74
第27図	第55号住居跡	36	第64図	土壙 (2)	75
第28図	第56号住居跡	37	第65図	土壙 (3)	84
第29図	第57号住居跡	36	第66図	土壙 (4)	85
第30図	第58号住居跡	37	第67図	土壙 (5)	86
第31図	第59号住居跡 (1)	38	第68図	土壙 (6)	87
第32図	第59号住居跡 (2)	39	第69図	土壙 (7)	88
第33図	第60・61号住居跡	40	第70図	土壙 (8)	89
第34図	第61号住居跡	41	第71図	土壙 (9)	90
第35図	第62号住居跡 (1)	42	第72図	土壙 (10)	92
第36図	第62号住居跡 (2)	43	第73図	土壙 (11)・炉穴 (第21・22号)	93
第37図	第63・64・65号住居跡	44	第74図	第2号小竪穴	94
第38図	第64・65号住居跡	45	第75図	第3号小竪穴	95
第39図	第66号住居跡	46	第76図	第4号小竪穴	96
第40図	第67号住居跡	47	第77図	第5号小竪穴	97
第41図	第67・68・69号住居跡	46	第78図	第7号掘立柱建物跡	98
第42図	第69号住居跡	47	第79図	第8号掘立柱建物跡	99
第43図	第70号住居跡	48	第80図	第9号掘立柱建物跡	100
第44図	第71号住居跡	49	第81図	第10号掘立柱建物跡	101
第45図	第72号住居跡	50	第82図	井戸 (第7～12号)	102
第46図	第73号住居跡	51	第83図	土壙・溝 (中・近世) (1)	104
第47図	第74号住居跡	52	第84図	土壙・溝 (中・近世) (2)	105
第48図	第75号住居跡	53	第85図	土壙・溝 (中・近世) (3)	106
第49図	第76号住居跡 (1)	54	第86図	土壙・溝 (中・近世) (4)	108
第50図	第76号住居跡 (2)	55	第87図	土壙・溝 (中・近世) (5)	109
第51図	第77・78号住居跡	56	第88図	土壙・溝 (中・近世) (6)	110
第52図	第77・79号住居跡	57	第89図	土壙・溝 (中・近世) (7)	111
第53図	第80号住居跡	58	第90図	グリッド出土遺物 (1)	115
第54図	第81号住居跡	59	第91図	グリッド出土遺物 (2)	116
第55図	第82号住居跡	60	第92図	グリッド出土遺物 (3)	117

第93図	向原遺跡グリッド配置図 (11次)	118	第114図	土壇 (9)	146
第94図	第11次調査区全体図	119	第115図	土壇 (10)	147
第95図	第90号住居跡	120	第116図	土壇 (11)	148
第96図	第91号住居跡	121	第117図	地下式坑(第1～4号)・第13号井戸	149
第97図	第90・91号住居跡	122	第118図	炉穴(第23～25号)	150
第98図	第92号住居跡	124	第119号	第2号方形周溝墓(1)	152
第99図	第92・93号住居跡	125	第120図	第2号方形周溝墓(2)	153
第100図	第93・94号住居跡	126	第121図	土壇・溝(中・近世)(1)	154
第101図	第95号住居跡	127	第122図	土壇・溝(中・近世)(2)	155
第102図	第96号住居跡(1)	128	第123図	土壇・溝(中・近世)(3)	156
第103図	第96号住居跡(2)	129	第124図	土壇・溝(中・近世)(4)	158
第104図	第16号住居跡	130	第125図	土壇・溝(中・近世)(5)	159
第105図	第17号住居跡	131	第126図	グリッド出土遺物(1)	163
第106図	土壇(1)	132	第127図	グリッド出土遺物(2)	164
第107図	土壇(2)	133	第128図	グリッド出土遺物(3)	165
第108図	土壇(3)	140	第129図	グリッド出土遺物(4)	166
第109図	土壇(4)	141	第130図	グリッド出土遺物(5)	167
第110図	土壇(5)	142	第131図	戸崎前遺跡方形周溝墓出土土器	171
第111図	土壇(6)	143	第132図	向原遺跡方形周溝墓出土土器	172
第112図	土壇(7)	144	第133図	特殊遺物と出土土器	173
第113図	土壇(8)	145			

表 目 次

第1表	周辺の古墳時代前期遺跡	8	第12表	土器観察表(8)	67
第2表	石器一覧表(1)	18	第13表	土器観察表(9)	68
第3表	第12号石器集中	22	第14表	石器観察表(3)	117
第4表	土器観察表(1)	32	第15表	土器観察表(10)	123
第5表	土器観察表(2)	39	第16表	土器観察表(11)	127
第6表	石器観察表(2)	42	第17表	土器観察表(12)	130
第7表	土器観察表(3)	43	第18表	土器観察表(13)	151
第8表	土器観察表(4)	44	第19表	石器観察表(4)	167
第9表	土器観察表(5)	49	第20表	土器観察表(14)	168
第10表	土器観察表(6)	55	第21表	新旧対応表(1)	169
第11表	土器観察表(7)	61	第22表	新旧対応表(2)	170

図 版 目 次

- 図版 1 第 9 次調査全景 (1) 第 9 次調査全景 (2)
- 図版 2 第241号土壙 (第 8 図) 第 9 次ローム層基本土層
- 図版 3 第10次調査航空写真 (1) 第10次調査航空写真 (2)
- 図版 4 第10次調査全景 (1) 第10次調査全景 (2)
- 図版 5 第10次調査全景 (3) 第10次調査全景 (4)
- 図版 6 第10次調査全景 (5) 第10次調査南側攪乱部分
- 図版 7 第11次調査全景 (1) 第11次調査全景 (2)
- 図版 8 第11次調査全景 (3) 第11次調査全景 (4)
- 図版 9 第43号住居跡 (第14図) 第44号住居跡 (第15図) 第45号住居跡 (第16図) 第46号住所跡 (第17・18図) 第46号住居跡・遺物(アメリカ式石鏃) (第17図) 第46号住居跡・遺物(ミニチュア土器) (第17図) 第47号住居跡 (第19図) 第48号住居跡 (第20図)
- 図版10 第49号住居跡 (第21図) 第49号住居跡・遺物 (第21図) 第51号住居跡 (第23図) 第52号住居跡 (第24図) 第53号住居跡 (第25図) 第54号住居跡 (第26図) 第55号住居跡 (第27図) 第56号住居跡 (第28図)
- 図版11 第59号住居跡 (第31図) 第59号住居跡・掘り方 (第32図) 第59号住居跡・遺物 (第31図) 第60号住居跡 (第33図) 第61号住居跡 (第34図) 第62号住居跡 (第36図) 第62号住居跡・炭化材 (第35図) 第62号住居跡・遺物 (第35図)
- 図版12 第63号住居跡 (第37図) 第64～66号住居跡 (第38・39図) 第67号住居跡 (第40図) 第69号住居跡 (第42図) 第70号住居跡 (第43図) 第71号住居跡 (第44図) 第72号住居跡 (第45図) 第73号住居跡 (第46図)
- 図版13 第74号住居跡 (第47図) 第74号住居跡・遺物(1) (第47図) 第74号住居跡・遺物 (2) (第47図) 第75号住居跡 (第48図) 第76号住居跡 (第49図) 第76号住居跡・遺物 (第49図) 第76号住居跡・カマド (第50図) 第77・78号住居跡 (第51図)
- 図版14 第79号住居跡 (第52図) 第80号住居跡 (第53図) 第81号住居跡 (第54図) 第82号住居跡 (第55図) 第83号住居跡 (第56図) 第83号住居跡・掘り方 (第57図) 第83号住居跡・遺物 (第56図) 第84～87号住居跡 (第59図)
- 図版15 第85・87号住居跡・遺物 (第58図) 第85号住居跡・遺物(1) (第58図) 第85号住居跡・遺物(2) (第58図) 第88号住居跡 (第61図) 第89号住居跡 (第62図) 第12号石器集中 (第13図) 第406号土壙 (第65図) 第407号土壙 (第65図)
- 図版16 第412号土壙 (第66図) 第413・414号土壙 (第66図) 第422号土壙 (第68図) 第424号土壙 (第68図) 第467号土壙 (第70図) 第469号土壙 (第70図) 第473～475号土壙 (第72図) 第477号土壙 (第72図)
- 図版17 第21号炉穴 (第73図) 第22号炉穴 (第73図) 第 2 号小竪穴 (第74図) 第 3 号小竪穴 (第75図) 第 4 号小竪穴 (第76図) 第 5 号小竪穴 (第77図) 第 7 号掘立柱建物跡 (第78図) 第 9 号掘立柱建物跡 (第80図)
- 図版18 第 7 号井戸 (第82図) 第 8 号井戸 (第82図) 第 9 号井戸 (第82図) 第11号井戸

- (第82図) 第12号井戸(第82図) 第159・160号溝(第83図・第84図・第86図) 第161・162号溝(第86図) 第166・167号溝(第86図・第87図)
- 図版19 第169号溝(第86図・第87図) 第184号溝(第88図・第89図) 第185・190号溝(第88図・第89図) 第188・189号溝(第88図・第89図) 第197号溝(第88図) 第90号住居跡(第95図) 第90号住居跡・遺物(第95図) 第91号住居跡(第96図)
- 図版20 第91号住居跡・炉(第96図) 第92号住居跡(第98図) 第93号住居跡(第99図) 第95号住居跡(第101図) 第96号住居跡(第102図) 第96号住居跡・遺物(1)(第102図) 第96号住居跡・遺物(2)(第102図) 第11次調査土壌群(1)
- 図版21 第11次調査土壌群(2) 第11次調査土壌群(3) 第506号土壌(第106図) 第507号土壌(第106図) 第528号土壌(第108図) 第532号土壌(第109図) 第1号地下式坑(第117図) 第2号地下式坑(第117図)
- 図版22 第3号地下式坑(第117図) 第4号地下式坑(第117図) 第13号井戸(第117図) 第23号炉穴(第118図) 第24・25号炉穴(第118図) 第2号方形周溝墓(第119図) 第2号方形周溝墓・遺物(1)(第119図) 第2号方形周溝墓・遺物(2)(第119図)
- 図版23 第2号方形周溝墓・遺物(3)(第119図) 第202号溝(第121図) 第203・204号溝(第121図・第122図) 第208号溝(第121図・第122図) 第211・213号溝(第121図・第122図) 第214・216号溝(第121図・第122図) 第217号溝(第121図・第122図) 第221号溝(第121図)
- 図版24 第235号土壌・遺物第46号住居跡・遺物(1) 第46号住居跡・遺物(2) 第46号住居跡・遺物(3) 第46号住居跡・遺物(4) 第46号住居跡・遺物(5)
- 図版25 第59号住居跡・遺物(1) 第59号住居跡・遺物(2) 第59号住居跡・遺物(3) 第62号住居跡・遺物 第76号住居跡・遺物(1) 第76号住居跡・遺物(2)
- 図版26 第85号住居跡・遺物(1) 第85号住居跡・遺物(2) 第85号住居跡・遺物(3) 第85号住居跡・遺物(4) 第85号住居跡・遺物(5) 第85号住居跡・遺物(6)
- 図版27 第85号住居跡・遺物(7) 第85号住居跡・遺物(8) 第90号住居跡・遺物(1) 第92号住居跡・遺物 第93号住居跡・遺物 第96号住居跡・遺物(1)
- 図版28 第96号住居跡・遺物(2) 第96号住居跡・遺物(3) 第96号住居跡・遺物(4) 第96号住居跡・遺物(5) 第96号住居跡・遺物(6) 第96号住居跡・遺物(7)
- 図版29 第96号住居跡・遺物(8) 第96号住居跡・遺物(9) 第96号住居跡・遺物(10) 方形周溝墓・遺物(1) 方形周溝墓・遺物(2) 方形周溝墓・遺物(3)
- 図版30 方形周溝墓・遺物(4) 方形周溝墓・遺物(5) 第96号住居跡・遺物(11) 第96号住居跡・遺物(12)
- 図版31 第96号住居跡・遺物(13) 第96号住居跡・遺物(14)
- 図版32 第21号炉穴・遺物 第93・94号住居跡・遺物
- 図版33 第524・526・527・529土壌・遺物 第528・531・532・533・535土壌・遺物
- 図版34 第11次調査グリッド・遺物(1) 第11次調査グリッド・遺物(2)

I 発掘調査の概要

1. 発掘調査に至るまでの経過

埼玉県では、伊奈町北部地域において職・住・遊・学などが集積した中枢都市圏の形成に寄与するため、21世紀に向けたモデルタウンの建設を進めている。その一環として、乱開発を防止し、また田園と融和した地域社会の形成を図るための基礎作りを目的として、上尾都市計画事業伊奈特定土地区画整理事業が計画された。

埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課では、こうした各種開発事業に対応するため、開発部局と事前協議を行い、文化財保護と開発事業との調整をすすめているところである。

当事業にかかる埋蔵文化財包蔵地の取扱いについては、伊奈新都市建設事務所所長より文化財保護課部長あて、昭和63年1月6日付け伊都建第587号で、埋蔵文化財の所在について照会があった。これに対し、文化財保護課では詳細分布調査を行い、それに基づいて9ヶ所の埋蔵文化財包蔵地の所在を、平成元年6月26日付け教文第444号で回答した。取扱いについては、対象地域が広範囲であるため、事業計画と調整を図りながら別途試掘調査を実施することとした。

平成11年度における向原遺跡の発掘調査については、調査実施機関である財団法人埼玉県埋蔵文化財

調査事業団、伊奈新都市建設事務所、文化財保護課の三者により、調査方法、期間、経費等を中心に協議が行われた。その結果、平成11年12月1日から平成12年3月24日までの日程で第9次調査を実施することで協議が整った。

平成12年度における向原遺跡の発掘調査については、前年と同様な協議が行われた。その結果、第10次調査を平成12年7月1日から平成12年12月28日まで、第11次調査を平成12年11月1日から平成13年3月28日まで実施することで協議が整った。

発掘調査に先立って、埼玉県知事から文化財保護法第57条3第1項の規定に基づく発掘通知が、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団からは同法第57条第1項の規定に基づく発掘調査届が提出され、発掘調査が実施された。

発掘調査届に対する指示通知は、次のとおりである。

向原遺跡

第9次 平成11年12月14日付け教文第2-113号

第10次 平成12年7月14日付け教文第2-34号

第11次 平成12年11月27日付け教文第2-87号

(文化財保護課)

2. 発掘調査・報告書刊行の経過

発掘調査

向原遺跡の発掘調査は、現在まで11次にわたって行われている。今回報告されるのは第9次調査～第11次調査で、平成11年～平成13年にかけて行われた。(平成11年度)

平成11年度の発掘調査は、平成11年12月1日から平成12年3月24日にかけて実施した。調査面積は1850㎡であった。

12月 12月までに事務手続きなどを終了させ、12月にはいつて現場事務所の設営、重機による表土掘削、基準点測量などを実施した。その後、遺構確認に入った。

1月 検出された溝、土壌などの調査に入った。土壌、溝ともにあまり状態が良くなかった。遺物も少なく作業は順調に進んだ。

2月 精査が終了した遺構から実測、写真撮影を行った。下旬には、おおよそ終了した。

3月 図面、写真などの確認作業を行い、終了した時点で旧石器時代の確認作業を行った。テストピットをかなり開けたが、石器は検出できなかった。すべての調査が終了した時点で、安全対策のための簡易埋め戻しを行い、事務所などの撤去をした。終了時の事務手続きをして、第9次調査を終了した。(平成12年度)

平成12年度の発掘調査は、平成12年7月1日から平成13年度3月23日まで実施した。調査面積は13,080㎡であった。

7月 初旬に事務手続き、現場事務所の設営などを行った。中旬に人通りのある部分に囲柵を行い、重機による表土の掘削作業、抜根および処分、基準点測量を行った。並行して調査補助員による遺構確認を開始した。北側部分では、縄文の遺構が薄く認められた。近世期以降の溝、土壌なども多数検出された。

8月 中央部から南側にかけて、遺構確認を拡大

した。古墳時代前期の竪穴住居跡が検出されだした。精査は、北側部分から始め、終了したものから順に写真撮影、遺構の実測をした。

9月 中央部分に精査を拡大した。東側BG-38グリッドからBL-35グリッドにかけてはかなり攪乱が入っており遺構は検出できなかった。火災にあった住居跡も数件検出・精査した。

10月 遺跡南側で竪穴住居跡の密度が高くなった。調査は煩雑を極めた。上旬に県民活動総合センターの発掘体験学習が当現場を使って行われた。下旬には第11次調査開始の事務手続きを行った。

11月 第10次調査は南側に調査の主点が移ってきた。引き続き古墳時代前期の竪穴住居跡を精査する。並行して初旬から第11次調査が始まった。人員の増加に伴い、現場事務所の一部を拡張した。重機による表土の掘削作業、抜根および処分、基準点測量などを行い、中旬から遺構確認作業に入った。中・近世期の溝や土壌などが検出され始める。

12月 第10次調査は上旬までに精査、写真撮影、図面作成が終了した。中旬に航空写真撮影を行った。また、伊奈町教育委員会との共催で現地説明会を行った。下旬に安全のための簡易埋め戻し、囲柵撤去を行い調査はすべて終了した。11次調査は中央部分で古墳時代前期の遺構が検出された。精査が終了したものから写真撮影、図面作成を行った。

1月 中央部分および北側の古墳時代前期遺構の精査に入る。竪穴住居跡、方形周溝墓などから土器が出土した。斜面部・中央部の縄文遺構の精査も始める。

2月 遺構精査が下旬までにほぼ終了し、写真撮影、図面作成などに集中する。

3月 上旬にはほぼ調査が終了する。最後に、安全のための簡易埋め戻しを実施した。機材・事務所などの撤収を行い、本年度の調査は終了した。

整理・報告書刊行

平成13年2月1日～平成13年3月26日、平成13年4月9日～平成13年11月30日まで行った。調査回数が多い発掘の整理作業であったが、順調に進んだ。

第9次調査

図面整理は2月中に行った。図面を修正した後、第二原図を作成し、トレースを行った。終了したものから、インレタ・スクリントーンなどを貼り付けた。

遺物は2月～3月にかけて実施した。遺構ごとに分類し、接合・復元を行った。復元の終わったものから実測作業に入った。併行して、縄文土器破片の拓本をとった。遺物実測の終わったものから、トレースに入った。

3月に版組を行い、遺物写真撮影、割り付け、原稿執筆を終了した。

第10次調査

図面整理は4月から5月まで行った。図面修正をした後、第二原図を作成し、トレースを行った。終了したものから、インレタ・スクリントーンなどを貼り付けた。パソコンによるトレースを試行した。

遺物は4月～5月にかけて、遺構ごとに分類し、接合・復元を行った。5月から復元の終わった遺物の実測作業に入った。並行して、縄文土器破片の拓本をとった。遺物実測の終わったものから、トレースに入った。

6月に版組みを行い、遺物写真撮影、割り付け、原稿執筆を終了した。

第11次調査

図面整理は7月から8月まで行った。図面修正をした後、第二原図を作成し、トレースを行った。終了したものから、インレタ・スクリントーンなどを貼り付けた。パソコンによるトレースを試行した。

遺物は7月から8月にかけて、遺構ごとに分類し、接合・復元を行った。復元の終わった遺物から実測作業に入った。併行して、縄文土器破片などの拓本をとった。遺物実測の終わったものから、トレースに入った。

9月に版組を行い、遺物写真撮影、割り付け、原稿執筆を終了した。最後に、第9次調査分から第11次調査分を合体した。一部遺物図版をデジタル化（スキャナーで読み込んでファイル化）した。

10月 印刷所に入稿し、その後校正を行った。

11月 中旬に本書の印刷を行い、下旬に刊行した。

3. 発掘調査・整理・報告書刊行の組織

主体者 財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

(1) 発掘調査

〔平成11年度〕

理事長	荒 井 桂
副理事長	飯 塚 誠一郎
常務理事兼管理部長	広 木 卓

<管理部>

管理部副部長兼経理課長	関 野 栄 一
主任	福 田 昭 美
主任	腰 塚 雄 二
主任	菊 池 久
庶務課長	金 子 隆
主査	田 中 祐 二
主任	江 田 和 美
主任	長 滝 美智子

<調査部>

調査部長	増 田 逸 郎
調査部副部長	水 村 孝 行
調査第四担当	杉 崎 茂 樹
統括調査員	西 井 幸 雄
主任調査員	栗 岡 潤

〔平成12年度〕

理事長	中 野 健 一
副理事長	飯 塚 誠一郎
常務理事兼管理部長	広 木 卓

<管理部>

管理部副部長兼経理課長	関 野 栄 一
主席（庶務担当）	安 部 正 浩
主査（施設担当）	野 中 廣 幸
主任	菊 池 久
主席（経理担当）	江 田 和 美
主任	長 滝 美智子
主任	福 田 昭 美
主任	腰 塚 雄 二

<調査部>

調査部長	高 橋 一 夫
調査部副部長	石 岡 憲 雄
専門調査員（調査第一担当）	坂 野 和 信
統括調査員	橋 本 勉

統括調査員

赤 熊 浩 一

主任調査員

吉 田 稔

(2) 整理・報告書刊行

〔平成12年度〕

理事長	中 野 健 一
副理事長	飯 塚 誠一郎
常務理事兼管理部長	広 木 卓

<管理部>

管理部副部長	関 野 栄 一
主席（庶務担当）	阿 部 正 治
主席（施設担当）	野 中 廣 幸
主任	菊 池 久
主席（経理担当）	江 田 和 美
主任	長 滝 美智子
主任	福 田 昭 美
主任	腰 塚 雄 二

<調査部>

調査部長	高 橋 一 夫
資料部副部長	鈴 木 敏 昭
主席調査員（資料整理担当）	磯 崎 一
統括調査員	黒 坂 禎 二

〔平成13年度〕

理事長	中 野 健 一
副理事長	飯 塚 誠一郎
常務理事（兼）管理部長	大 館 健

<管理部>

管理幹	持 田 紀 男
主任	菊 池 久
主任	江 田 和 美
主任	長 滝 美智子
主任	福 田 昭 美
主任	腰 塚 雄 二

<調査部>

調査部長	高 橋 一 夫
調査部副部長	坂 野 和 信
主席調査員（資料整理担当）	磯 崎 一
統括調査員	橋 本 勉

Ⅱ 遺跡の立地と環境

向原遺跡は、埼玉県北足立郡伊奈町大字小針内宿字向原1241番地他、伊奈町大字小針新宿字梶川882番地他に所在し、高崎線桶川駅から東北東へ約5 kmの地点にある。上越新幹線沿いに走る新交通システム・ニューシャトルの終点内宿駅から100 m前後内に位置する。

遺跡は鴻巣市付近に端を発するいわゆる大宮台地のおよそ中央部に位置している。綾瀬川によって開析された沖積地に面する台地上に立地する。綾瀬川は鴻巣市付近から分岐する元荒川の旧河道の一部と思われる部分を流れており、元荒川は蓮田市付近にかけて複数の流路を形成し、縄文時代の遺跡が多く存在している。

綾瀬川右岸の伊奈町付近は、綾瀬川方面に張り出す舌状台地と樹枝状谷が発達している。大半の谷筋

は沖積化が進み、比高差の少ないフラットな景観を持つ。沖積化の影響で台地の裾部分は埋もれており、標高約9 m以下の遺跡は埋没していて遺跡として確認されていない可能性が高い。

向原遺跡の周辺には、多くの遺跡が存在する。

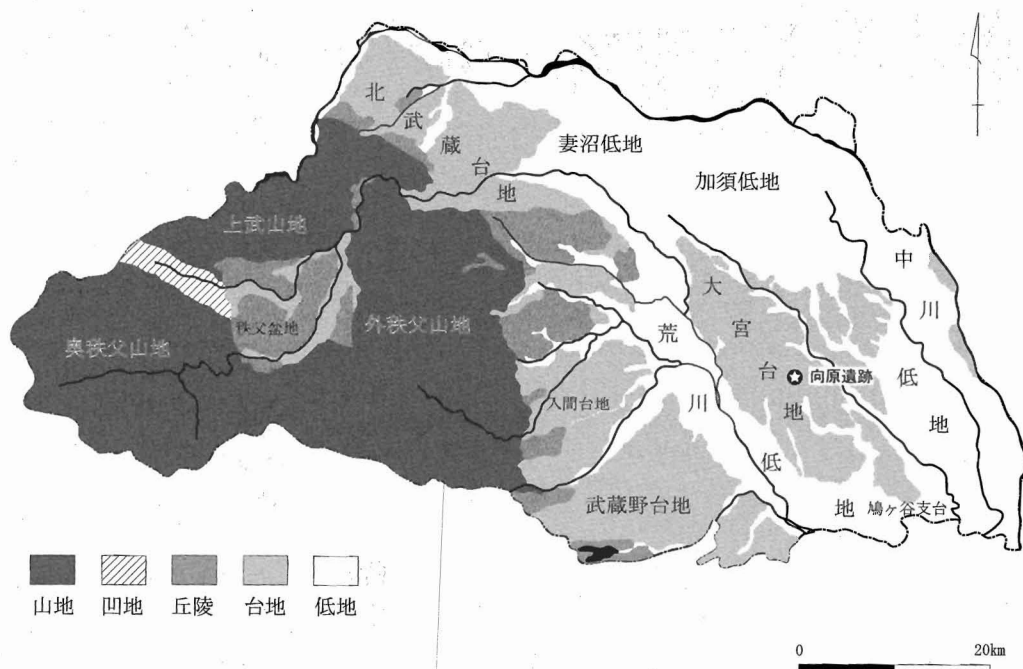
旧石器時代は、戸崎前遺跡、向原遺跡、久保山遺跡、大山遺跡、提灯木山遺跡などで検出している。

縄文時代草創期は、十二番耕地遺跡で隆起線文系土器・多縄文系土器・爪形文系土器などが出土している。

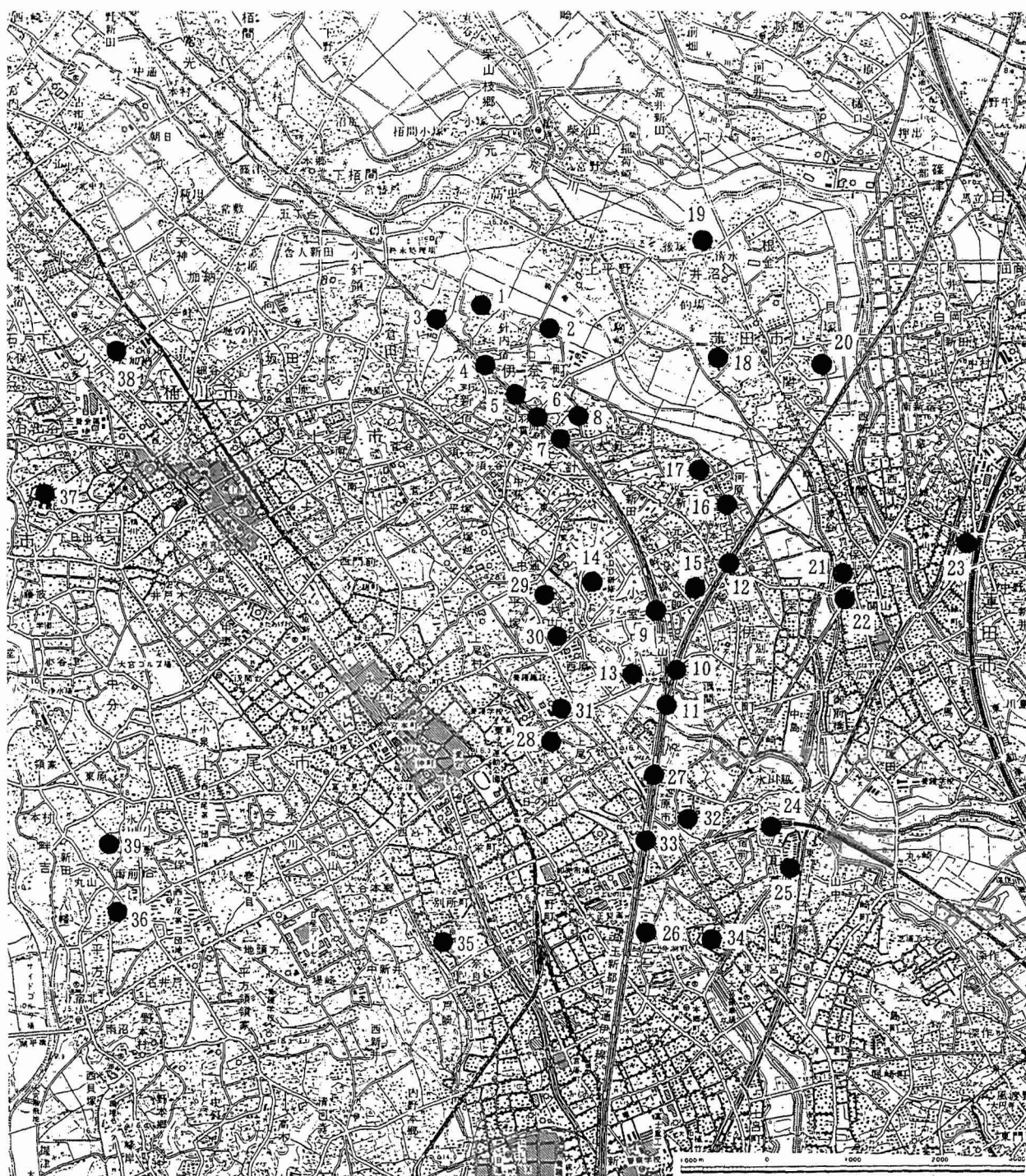
縄文時代早期は、条痕文系の住居跡が薬師堂根遺跡、向原遺跡、戸崎前遺跡で発見されている。他に、多くのファイヤーピットや土壌が検出されている。

縄文時代前期では、付近にタイプサイトになっている遺跡もあり多数の遺跡が存在する。蓮田市には

第1図 埼玉県の地形図



第2図 周辺の遺跡分布図



- | | | | | | |
|------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 1. 薬師堂根遺跡 | 2. 戸崎前遺跡 | 3. 向原遺跡 | 4. 相野谷遺跡 | 5. 八幡谷遺跡 | 6. 原遺跡・谷畑遺跡 |
| 7. 北遺跡 | 8. 大針貝塚 | 9. 丸山遺跡 | 10. 赤羽遺跡 | 11. 伊奈氏屋敷遺跡 | 12. 久保山遺跡 |
| 13. 大山遺跡 | 14. 小室天神前遺跡 | 15. 志久遺跡 | 16. 氷川神社裏遺跡 | 17. 小貝戸貝塚 | 18. 栗崎貝塚 |
| 19. 井沼遺跡 | 20. 綾瀬貝塚 | 21. 関山貝塚 | 22. 坂堂貝塚 | 23. 椿山遺跡 | 24. 秩父山遺跡 |
| 25. 尾山台遺跡 | 26. 今羽丸山遺跡 | 27. 十二番耕地遺跡 | 28. 東町二丁目遺跡 | 29. 平塚氷川遺跡 | 30. 谷津下I遺跡 |
| 31. 八番耕地遺跡 | 32. 愛宕山遺跡 | 33. 三番耕地遺跡 | 34. 高台山遺跡 | 35. 奈良瀬戸遺跡 | 36. 在家遺跡 |
| 37. 高井遺跡 | 38. 提灯木山遺跡 | 39. 西通I遺跡 | | | |

関山式の標識遺跡である関山貝塚群、黒浜式の標識遺跡である黒浜貝塚群が存在する。この他に栗崎貝塚(18)、坂堂貝塚(22)など前期の貝塚が多い。本区画整理事業に伴う調査で、関山式期の住居跡が戸崎前遺跡と谷畑遺跡で発見されたが貝塚の形成は行われていなかった。

中期になると遺跡数が増加する。北遺跡は上越新幹線建設に伴い調査され、中期の住居跡が72軒検出された(金子1987)。原遺跡(6)は上越新幹線建設と伊奈特定土地区画整理事業に伴い調査され、中期の住居跡が85軒検出された(村田1997)。この二つの遺跡は本遺跡の周辺地域での拠点的な集落である。この他に戸崎前遺跡(2・金子1997)、大山遺跡(13・谷井他1979、金子1982)、小室天神前遺跡(14・田中1981)、志久遺跡(15・笹森他1976)、秩父山遺跡(24・赤石1978)など数多くの遺跡がある。

後期から晩期の遺跡は数量的に減少傾向にあるが、先にも述べたように綾瀬川の沖積土に埋没して発見されていない遺跡の存在に注意しなければならない。今回報告文も斜面部である。戸崎前遺跡の他に氷川神社裏遺跡、井沼遺跡(19・安岡1960)、今羽丸山遺跡(26・新屋1996)などがある。下って、元荒川沿いには、ささら(Ⅱ)遺跡、雅楽谷遺跡などの大集落がある。

弥生時代の遺跡はほとんど確認されていない。桶川市砂ヶ谷戸遺跡などで発掘例があるが数は少ない。

古墳時代前期の遺跡は多く発見されている。薬師堂根遺跡、戸崎前遺跡(2)、向原遺跡(3)、大山遺跡(13)、小室天神前遺跡、尾山台遺跡(25)などである。向原遺跡は上越新幹線建設と本区画整理事業に伴い調査され、今回報告分を含めて100軒を超える竪穴住居跡が発見された。また、方形周溝墓も発見され合計4基となった。尾山台遺跡も近年報告され様相が明らかになった。

古墳時代後期の遺跡は少なく、この区画整理事業地内ではほとんど無い。大山遺跡で住居跡が9軒発見されているのみである(谷井他1979)。

奈良・平安時代になると、遺跡は増加する。ただし、この区画整理事業地内では大規模な集落は無く、戸崎前遺跡で6軒、薬師堂根遺跡で1軒、今回報告分を含めて向原遺跡で3軒発見されているのみである。

中世期に入って遺跡としては薬師堂根遺跡(1・水口1998)、戸崎前遺跡(2)、相野谷遺跡(4)、伊奈氏屋敷跡(11)、東町二丁目遺跡(28)、在家遺跡(36)、西通Ⅰ遺跡(39) 菅谷北城跡、加納城跡などがある。薬師堂根遺跡では方形の溝で囲まれた墓壇、建物跡、土壇が多く検出された。戸崎前遺跡では土橋を伴う一辺約70mの堀跡が発見され、堀跡覆土の最下層から在地産土器の皿が発見された。堀の時期は薬師堂根遺跡よりも古い13世紀末から14世紀中頃と推定される。相野谷遺跡では多数の柱穴群とともに中世瓦が発見されている(金子他1987)。

新幹線建設等による調査で大規模な障子堀が発見されており、陣屋以前に城跡であったことが判明した。障子堀は県内では騎西町騎西城跡、加須市花崎城跡(古屋他1982)で検出されている。東町二丁目遺跡では地下式坑、在家遺跡では土墳墓が検出されている。西通Ⅰ遺跡では薬師堂根遺跡と同じような段切り遺構の中から多数の柱穴と土壇が検出されており、極めて似ている。また、遺跡の年代も15世紀～16世紀で薬師堂根遺跡と同じである。

近世期は、当地方ではいままであまり様相がわからなかった。国道122号線関係のささら遺跡、久台遺跡、関戸足利遺跡などで陶磁器、屋敷跡などが出土している。戸崎前遺跡では良好な一括資料が地下式坑から出土している。

第1表 周辺の古墳時代前期遺跡

市町村	遺 跡 名
伊奈町	向原遺跡
	小室天神前遺跡
	大山遺跡
	薬師堂根遺跡
	戸崎前遺跡
さいたま市 (浦和市)	大久保領家片町遺跡 (4地点)
	大崎東新井遺跡 (2次)
	大崎北久保遺跡 (2次)
	堤根遺跡
	東浦西遺跡
	水深遺跡 2次
	道場寺院遺跡
	白鍬宮腰遺跡
	別所遺跡 (第3次)
	下大久保新田遺跡
	水深遺跡 4次
	井沼方 (13次・14次・15次) 遺跡
	大久保領家片町遺跡 (4地点)
桶川市	滝の宮坂遺跡
	狐塚遺跡
岩槻市	加倉遺跡
	上野遺跡
	西原遺跡
	馬込遺跡
	平林寺遺跡
	木曾良遺跡
熊谷市	東沢遺跡
	池上遺跡
	北島遺跡
	根絡遺跡
戸田市	上戸田本村Ⅱ遺跡
	上戸田本村遺跡 (3次)
	鍛冶谷・新田口遺跡 (6次)
	鍛冶谷・新田口遺跡
	南原遺跡 (5次)
	南原遺跡 (6次)
鴻巣市	中三谷遺跡
	養田2号墳
	登戸新田遺跡
	赤台遺跡
	大間原遺跡
	下間遺跡
上尾市	畦吉遺跡
	秩父山遺跡
	薬師耕地前遺跡
	稲荷台-1遺跡
	天沼遺跡
	天沼Ⅰ遺跡
	柏座遺跡
	殿山遺跡
	江川古墳
	坂上遺跡
	堤下遺跡
	八番耕地遺跡
	東二丁目遺跡
	稲荷台遺跡
	三番耕地遺跡

市町村	遺 跡 名
川口市	東本郷遺跡
	上台遺跡
さいたま市 (大宮市)	後遺跡
	染谷遺跡
	膝子八幡神社遺跡
	片柳南部遺跡
	寿能泥炭層遺跡
	宮ヶ谷塔遺跡
	吉野原-2遺跡
	吉野原遺跡
	中里遺跡
	A-239号遺跡
	B-7号遺跡
	下加遺跡
	A-146号遺跡
	A-149号遺跡
	根切遺跡 (5次)
	高台山遺跡
	A-124号遺跡
	A-230号遺跡
	A-61号遺跡
	B-22号遺跡
	B-66W遺跡
	鎌倉公園遺跡
	御蔵山中遺跡 (3次)遺跡
	御蔵山中遺跡
	深作稲荷台遺跡
	西大宮バイパスNo.6遺跡
	大和田高明遺跡
	大和田本村遺跡
	南中丸下高井遺跡
北本市	上手遺跡
	八重塚遺跡
	丸山遺跡
与野市	東浦遺跡
	大久保領家片町遺跡
	小村田西・小村田遺跡
	中里前原遺跡
蓮田市	ささら遺跡 (3次)
	馬込八番遺跡 (4地点)
	日野手長崎遺跡
	宿裏遺跡 (8地点)
	宿上遺跡 (12地点)

Ⅲ 遺跡の概要

向原遺跡は伊奈町大字小針内宿字向原1241番地、1002番地他、大字小針新宿字梶川882番地他に所在する。

向原遺跡は大宮台地のおおよそ中央部に位置し、遺跡付近を流れる綾瀬川の右岸にある。樹枝状台地の北側に端部があり、西側に面した部分に約1000mにわたって形成されている。遺構の分布は、台地中央部に行くに従って希薄になる。

広大な面積に分布する遺跡は、旧石器時代から中・近世期にかけての複合遺跡である。伊奈特定土地区画整理事業関係での発掘調査は、一部を除いて基本的には道路幅であり、遺跡全面にトレンチを入れた状態であった。第11次調査までの発掘で各時代の範囲はほぼ確定されたといっている。

旧石器時代は、第3次調査、第7次調査、第10次調査で石器集中が検出調査された。一番古い石器群は、第3次調査で検出された黒色帯（Ⅴ、Ⅵ層）以下のもので、製品は見つからなかったが、安山岩を主体とした大形の縦長薄片で構成される。第11次調査でも表採資料を得ているので、新幹線の南側でも検出される可能性は高い。

次に検出される旧石器時代は、黒色帯（Ⅴ、Ⅵ層）より上で検出された石器群である。第3次調査では石器集中が6箇所検出された。概して、製品が極端に少ない。チャートや粗雑なメノウを主体とした薄片群で、黒色ガラス質安山岩を少数含む点に特徴がある。第7次調査で検出された石器群もほぼ同じ内容であった。古い石器群とともに今後の検出が期待される。

縄文時代に入ると、時期によって遺構の増減が激しい。縄文時代早期後半、中期後半～後期、後期前葉が主体となる。

向原遺跡で最初に検出される遺構は縄文時代早期後半条痕文系に伴う土壇と屋外炉である。集中的に検出されることはないが、第9次調査から第11次調

査まで漏れなく散発的に存在する。屋外炉跡から繊維を含む条痕文系の土器群が検出されることが多い。多くは野島式から鶴ヶ島台式期にかけてのものである。

第7次調査、第11次調査では住居跡もわずかに検出されているが、あまり明瞭ではないが不整な方形、長方形をしていた。

3番目に遺構が検出されのが、縄文時代中期後半から後期初頭にかけてである。加曾利EⅢ式から加曾利EⅣ式にかけての時期に相当する。第1次調査、第7次調査、第10次調査で竪穴住居跡や小竪穴、土壇が検出されている。台地の北側、北西から南東に伸びる約100m内外の範囲に集落が形成されたものと思われる。

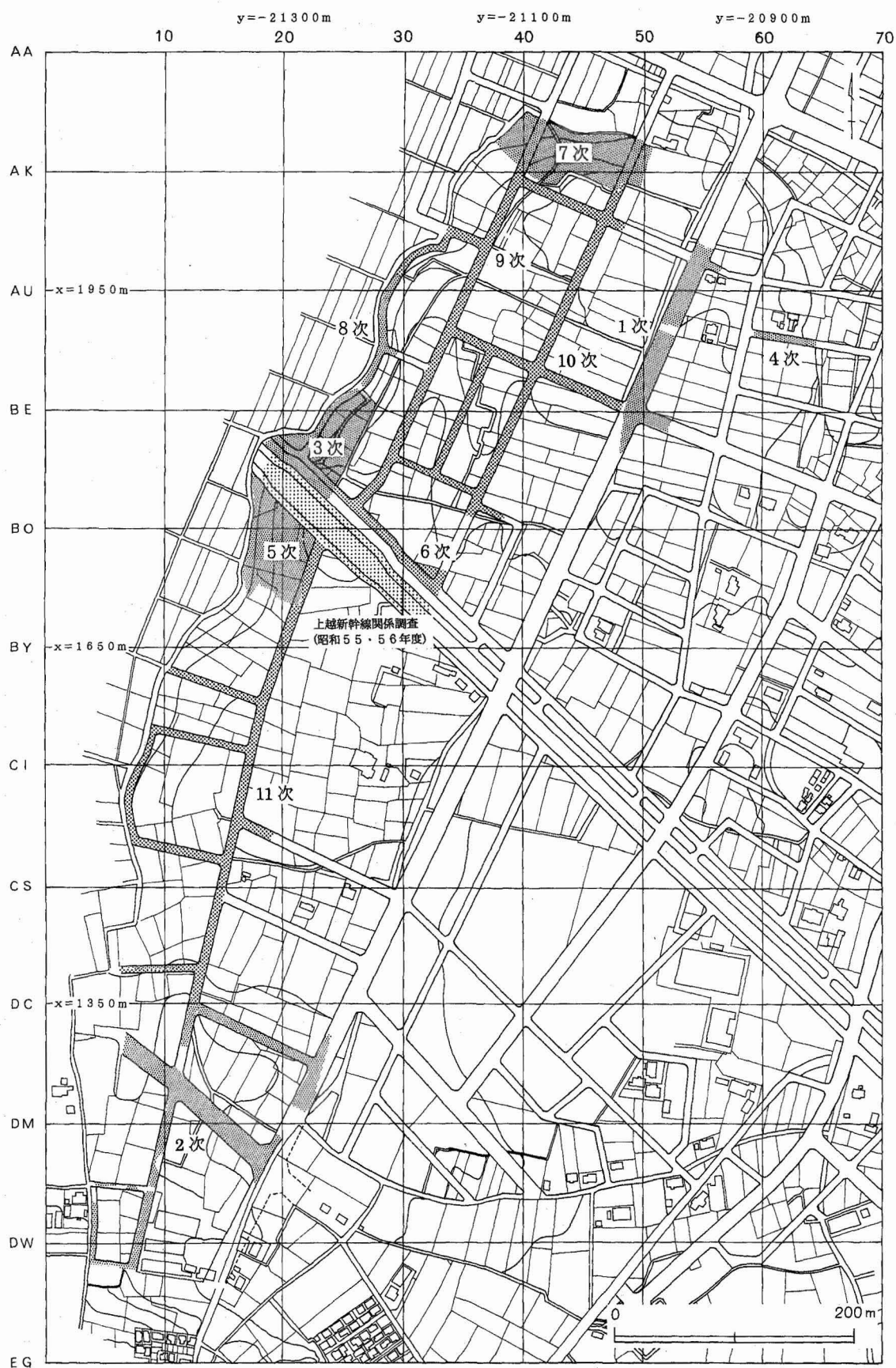
さらに、縄文時代後期前葉に続く。堀ノ内2式期の住居跡が第5次調査、第11次調査の西側斜面部で見つかっている。

古墳時代前期になると、総軒数100軒前後の大集落が出現する。ほぼ、3段階ほどの時期があると思われる。竪穴住居跡からの遺物も充実している。在地のもの、大宮台地南部のもの、東関東から東北地方に繋がるもの、神奈川から東海地方に繋がるものなどの各種遺物が出土し、古墳時代前期の世の中の動きが良くわかる。今後の調査でさらに竪穴住居跡の軒数が増加し、集落の状況が明確化するものと思われる。

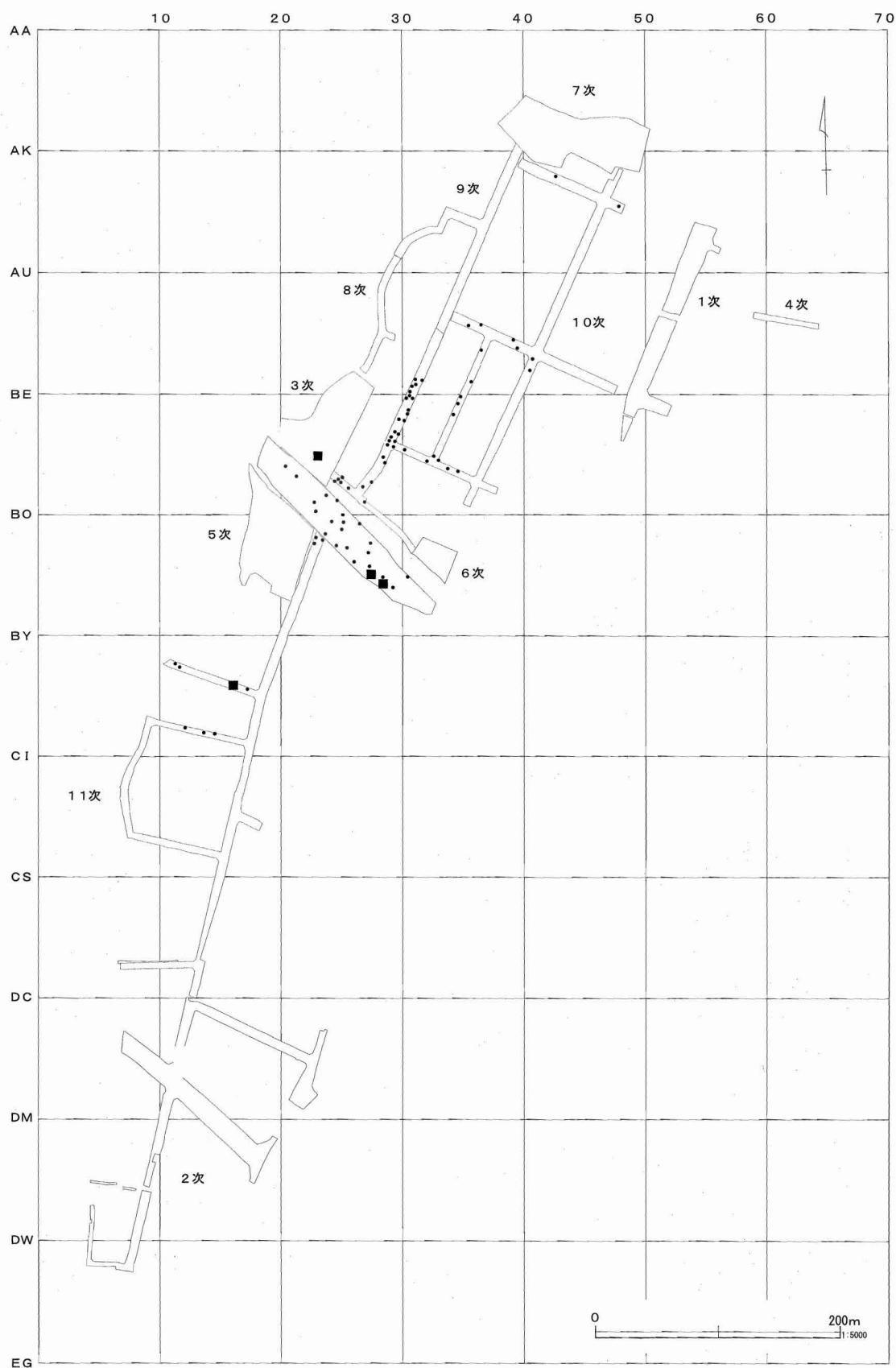
奈良・平安時代はわずかであるが、竪穴住居跡が検出される。第38号住居跡からは常陸産の須恵器が出土した。また、炭焼き窯が検出され古代に遡る可能性が指摘されている。中・近世期にかけては多くの溝や土壇が検出されるが、遺構から出土する遺物が少なく、時期の判断が難しかった。

今回の発掘調査では、古墳時代前期の竪穴住居跡が多数検出された。周辺地域との比較研究に大変有効であると思われる。

第3図 遺跡周辺の地形図



第4図 向原遺跡グリッド配置図（第1～11次）



1. 第9次調査

概要

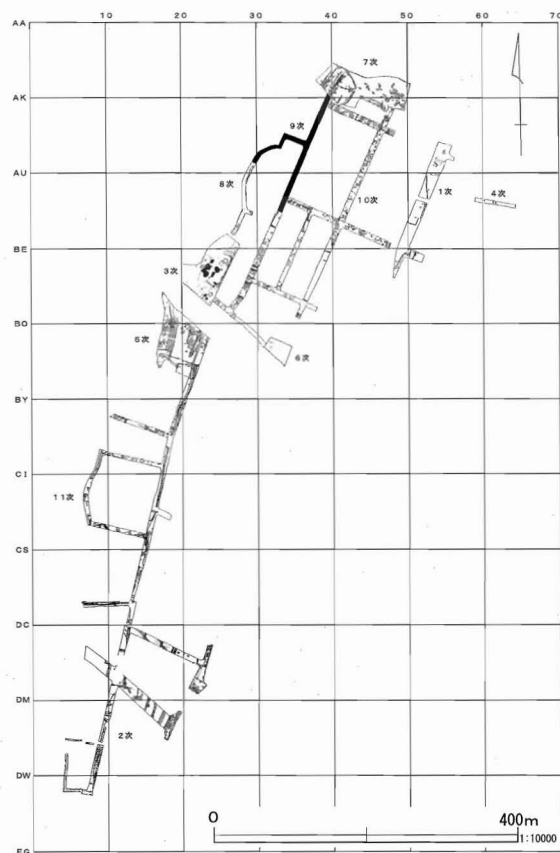
調査区は第8次調査区に続き、第7次調査・第11次調査に隣接する。台地崖線に沿って計画された幅6mと、幅8mの道路用地で南北に長い部分と枝分かれして、西に延びる部分で構成される。

全体的に検出された遺構は少なく、土壇が16基、溝が10条であった。出土遺物は少なく、縄文時代早期から晩期にかけての土器破片が少数と石鏃、石斧の石器が少数出土したに留まった。

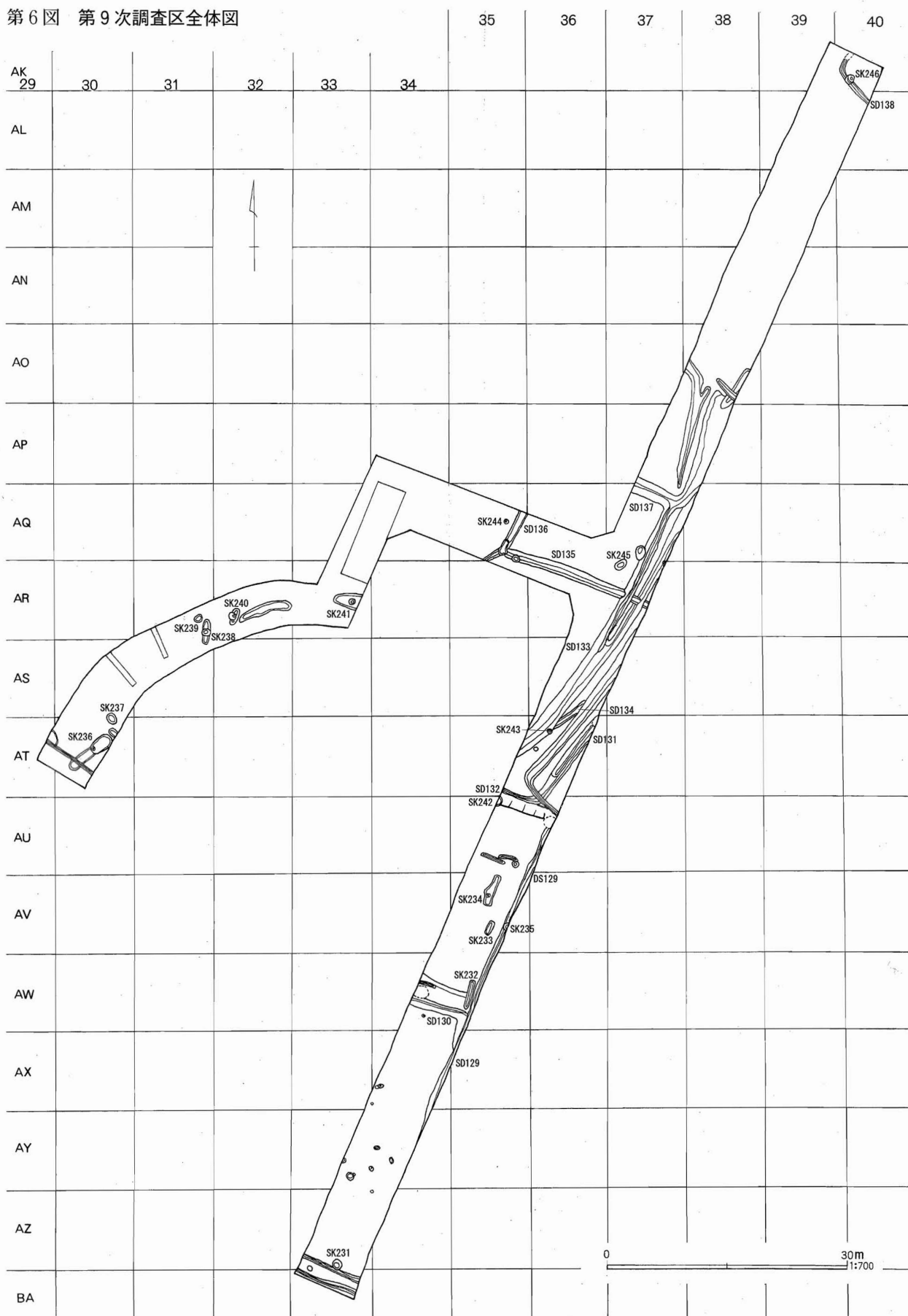
第7次調査で旧石器時代の石器集中が出土したとと、表採で旧石器時代の石器を得たため、確認のためのテストピットを多数開けた。が、石器集中、礫集中などは検出できなかった。

遺構に伴う遺物は、第235号土壇から縄文時代晩期の深鉢が出土した。安行Ⅲc式に属するものであった。

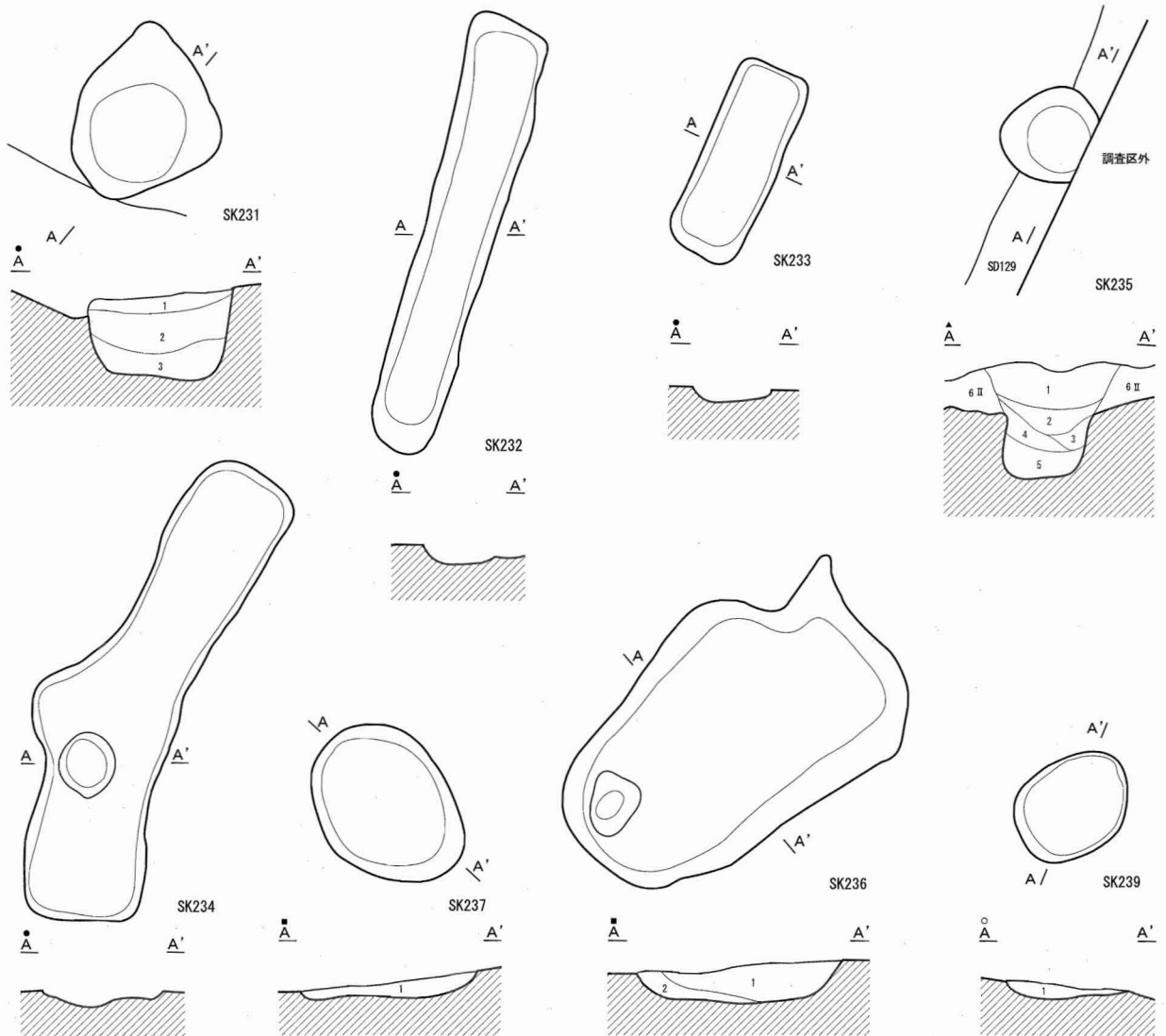
第5図 向原遺跡グリッド配置図（第9次）



第6図 第9次調査区全体図



第7図 土壌 (1)



SK231
1 暗黄褐色土
{ロームブロック}
2 暗褐色土
{ロームブロック(少)}
3 黄褐色土
{ロームブロック(多)}

SK235
1 暗褐色土
{褐色土粒子(少)}
2 暗褐色土
{黄褐色土ブロック(少)} {粘性(有)、
しまり(無)}
3 暗褐色土
{2層に近い} {粘性(有)、しまり(無)}
4 黄褐色土
{粘性(有)、しまり(無)}
5 黒褐色土
{粘性(有)、しまり(無)}
6 黒色土
基本土層Ⅱ

SK236
1 暗褐色土
{ローム粒子、ロームブロック} {しまり(無)}

2 黒色土
{しまり(無)}

SK237
1 黒色土
{ロームブロック}

SK239
1 暗褐色土
{ロームブロック、焼土粒子} {粘性(有)}

SK240
1 黒褐色土
{ローム粒子(微)、酸化鉄分(多)} {粘性
(やや有)}

SK241
1 暗褐色土
{ロームブロック、焼土粒子} {粘性(やや有)}
2 褐色土
{ロームブロック、酸化鉄分} {粘性(やや有)}

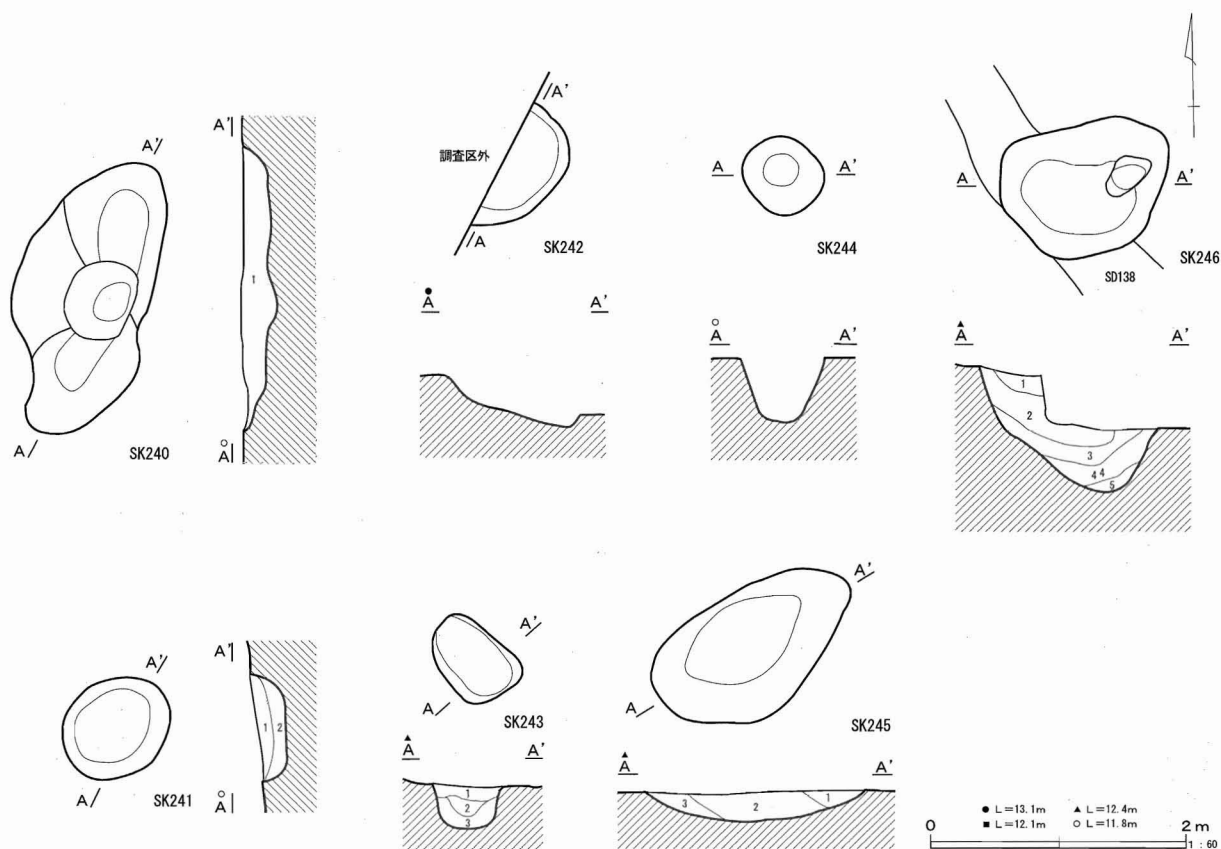
SK243
1 黄褐色土
{ロームブロック}
2 暗褐色土

{砂質}
3 黄褐色土
{ロームブロック(多)}

SK245
1 黒褐色土
{ローム粒子}
2 暗褐色土
{ロームブロック}
3 黒色土
{焼土ブロック(少)}

SK246
1 暗褐色土
{炭化物、多孔質} {粘性(やや有)、しまり
(やや有)}
2 黒褐色土
{炭化物(少)} {粘性(やや有)、しまり(有)}
3 明黄褐色土
{ソフトローム(多)} {粘性(有)}
4 黄褐色土
{炭化物(少)} {粘性(やや有)、しまり(有)}
5 暗灰色土
{炭化物(少)} {粘性(有)}

第8図 土墳（2）



（1）土墳

第231号土墳（第7図）

AZ-33グリッドに位置していた。長径-1.30m、短径-1.25mの不整円形をしていた。確認面からの深さは約0.75mであった。埋土の堆積状況は自然堆積であった。遺物は出土しなかったが、中・近世期の土墳と思われる。

第232号土墳（第7図）

AW-35グリッドに位置していた。長径-3.7m、短径-0.7mの長方形をしていた。確認面からの深さは約0.15mで浅かった。中・近世期の土墳と思われる。

第233号土墳（第7図）

AV-35グリッドに位置していた。長径約1.7m、短径約0.7mで長方形をしていた。確認面からの深さは約0.1mで浅かった。中・近世期の土墳と思われる。

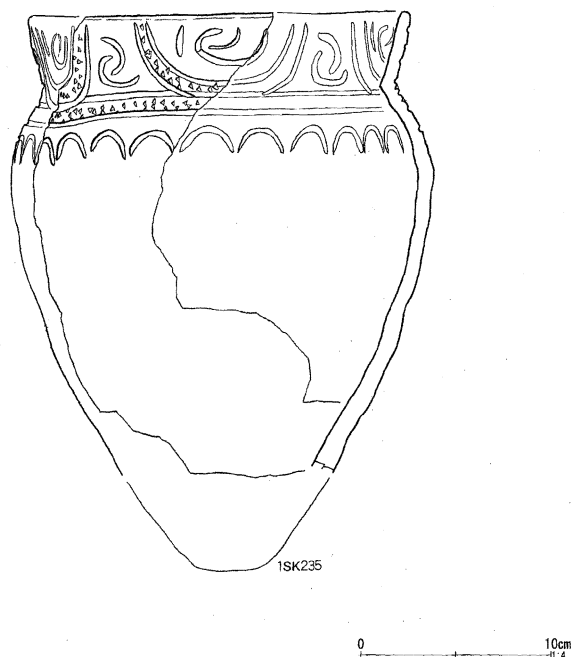
第234号土墳（第7図）

AV-35グリッドに位置していた。長径-4.2m、短径約1mのゆがんだ長方形をしていた。確認面からの深さは約0.15mと浅かった。中・近世期の土墳と思われる。

第235号土墳（第7図、第8図）

AV-35グリッドに位置していた。直径が約0.85mの円形をしていた。確認面からの深さは約1.0mで、自然堆積の土層であった。覆土から実測できる遺物が1点出土した。縄文時代晩期安行ⅢCの深鉢で大形の破片である。口縁部で「く」字状に屈曲し、刺突の入った横帯で区画する。口縁部には入組文と刺突を充填した弧線文が施文される。胴部には反対向きの弧線文が連続して描かれる。縄文時代晩期の土墳である。

第9図 土壇出土遺物



第236号土壇 (第7図)

AT-30グリッドに位置していた。長径-3.0m、短径-2.0mの不整長方形をしていた。確認面からの深さは約0.3mであった。埋土は自然堆積であった。中・近世期の土壇である。

第237号土壇 (第7図)

AS-30・AT-30グリッドに位置していた。長径-1.5m、短径-1.2mの楕円形をしていた。確認面からの深さは約0.15mで浅かった。中・近世期の土壇と思われる。

第238号土壇 (第7図)

AR-31・AS-31グリッドで検出された。長径-約3.0m、短径-約1.0mの不整楕円形をしていた。中央部に小ピットがある。

第239号土壇 (第7図)

AR-31グリッドに位置していた。長径-1.1m、短径-0.85mの楕円形をしていた。確認面からの深さは約0.1mと浅かった。中・近世期の土壇と思われる。

第240号土壇 (第7図)

AR-32グリッドに位置していた。長径-約2.3m、短径-約1.0mの不整楕円形をしていた。中央部に浅いピットがある。確認面から深さは約0.3mであった。中・近世期の土壇と思われる。

第241号土壇 (第7図)

AR-32グリッドに位置していた。径-約0.9mの円形をしていた。確認面からの深さは約0.25mで埋土は自然堆積であった。時期は不明。

第242号土壇 (第7図)

AU-35グリッドに位置していた。西側は調査区域外であった。径-約1.1mの略円形をしていたものと思われる。確認面からの深さは約0.3mと思われる。時期は不明。

第243号土壇 (第7図)

AT-36グリッドに位置していた。長径-0.75m、短径-0.5mの不整楕円形をしていた。確認面からの深さは、0.35mであった。埋土は自然堆積であった。時期は不明。

第244号土壇 (第7図)

AQ-35グリッドに位置していた。径-約0.65mの円形をしていた。確認面からの深さは約0.5mであった。時期は不明。

第245号土壇 (第7図)

AR-37グリッドに位置していた。長径-約1.75m、短径-約1.0mの楕円形をしていた。確認面からの深さは約0.25mであった。時期は不明。

第246号土壇 (第7図)

AK-40グリッドに位置していた。溝に切られている。長径-約1.45m、短径-約1.0mの不整楕円形をしていた。確認面からの深さは約1mほどあったものと思われる。埋土は自然堆積であった。時期は不明。

(2) 溝

第129号溝 (第6図)

AU-36グリッドからAY-34グリッドにかけて検出された。調査区の東側に検出され、大部分は調査区域外であった。現状では長さ-(40)m、幅約(1.0)mで、北東から南西に流れる。近世期以降の溝と思われる。

第130号溝 (第6図)

AW-34グリッドからAW-35・AX-35グリッドにかけて検出された。長さ-約(8.0)m、幅-約3.5mで東西に流れ、途中で直角に南側に向きを変える。遺物はほとんど出土しなかった。近世期以降の溝と思われる。

第131号溝 (第6図)

AT-36グリッドからAU-36・AT-35グリッドにかけて検出された。長さ-(15)m前後、幅-(1.5)m前後で西に行くに従って幅が狭くなる。AU-36グリッド付近で西に直角に曲がる。遺物はほとんど出土しなかった。

第132号溝 (第6図)

AS-37グリッドからAU-36グリッドにかけて検出された。長さ-約25m、幅-2.0m前後で南側で細くなる。AT-36グリッド付近で東に直角に折れる。遺物はほとんど検出されなかった。

第133号溝 (第6図)

AO-38グリッドからAT-35・AT-36グリッドにかけて検出された。内部で切りあう溝があるが、まとめて本溝とした。長さ-約60m、幅-3.0m前後で北東から南西に流れる。北側で一部が北西に屈曲する。

第134号溝 (第6図)

AS-36グリッドからAT-36グリッドにかけて検出された。両側を第132号溝・第133号溝に切られる。長さ-約5.0m、幅-約1.0mで南西に流れる。遺物はほとんど出土しなかった。近世期以降の溝と思われる。

第135号溝 (第6図)

AQ-35グリッドからAR-37グリッドにかけて検出された。長さ-約20m、幅-1.5m前後でほぼ東西に流れる。近世期以降である。

第136号溝 (第6図)

AQ-35グリッドで検出された。長さ-約8.0m、幅-約1.0mで南西方向に流れる。近世期以降の溝である。

第137号溝 (第6図)

AP-37グリッドからAQ-37グリッドにかけて検出された。東側で第133号溝に融合する。長さ-約5.0m、幅-約2.0mであった。切りあいは不明。近世期以降の溝と思われる。

第138号溝 (第6図)

AK-40グリッドからAL-40グリッドにかけて検出された。長さ-約5.0m、幅は1.0m内外で、東側に直角に屈曲する。近世期以降の溝と思われる。

(3) グリッド出土遺物

第1群土器 (第10図1～3)

縄文時代早期後半沈線文系の土器群を一括する。1は端部が鋭い工具で、沈線文が描かれる。2・3は胴部破片で文様はない。田戸下層式と思われる。

第2群土器 (第10図4～15)

縄文時代早期後半条痕文系の土器群である。4～8までは、条痕文を地文とした沈線文が描かれる。端部の丸い工具で浅く描かれる。5、6は同一固体。縦に区画した沈線内に斜行する沈線を充填している。10～15は、胴部破片で表裏条痕が描かれる。いずれにも繊維が含まれる。

第3群土器 (第10図16～24)

縄文時代中期後半加曾利EⅢ式土器を一括する。いずれも胴部破片であった。17～21は無文部の面積が広い胴部磨消縄文破片である。いずれもRL縦回転の縄文である。22、23は縦位櫛状工具による波状文が描かれる。

第4群土器 (第10図25～29)

縄文時代後期前半堀ノ内2式に属すると思われる。25は曲線状の磨消縄文を持つ。26は先端の鋭い工具で「ハ」字状の沈線文が描かれる。27～29は荒い縄文が施文された胴部破片。

第5群土器 (第10図30、31)

縄文時代後期後半安行式の胴部破片である。30、31ともに器壁が薄い。帯縄文の最下部で条線文が見えている。

石器 (第10図32～34)

32は石鏃。表裏両面から丹念に押圧剥離で整形される。基部に挟りが加えられる。33は打製石斧である。表面部に自然面を残す。中央部に着柄部が作成されている。34は磨石・敲石の類である。

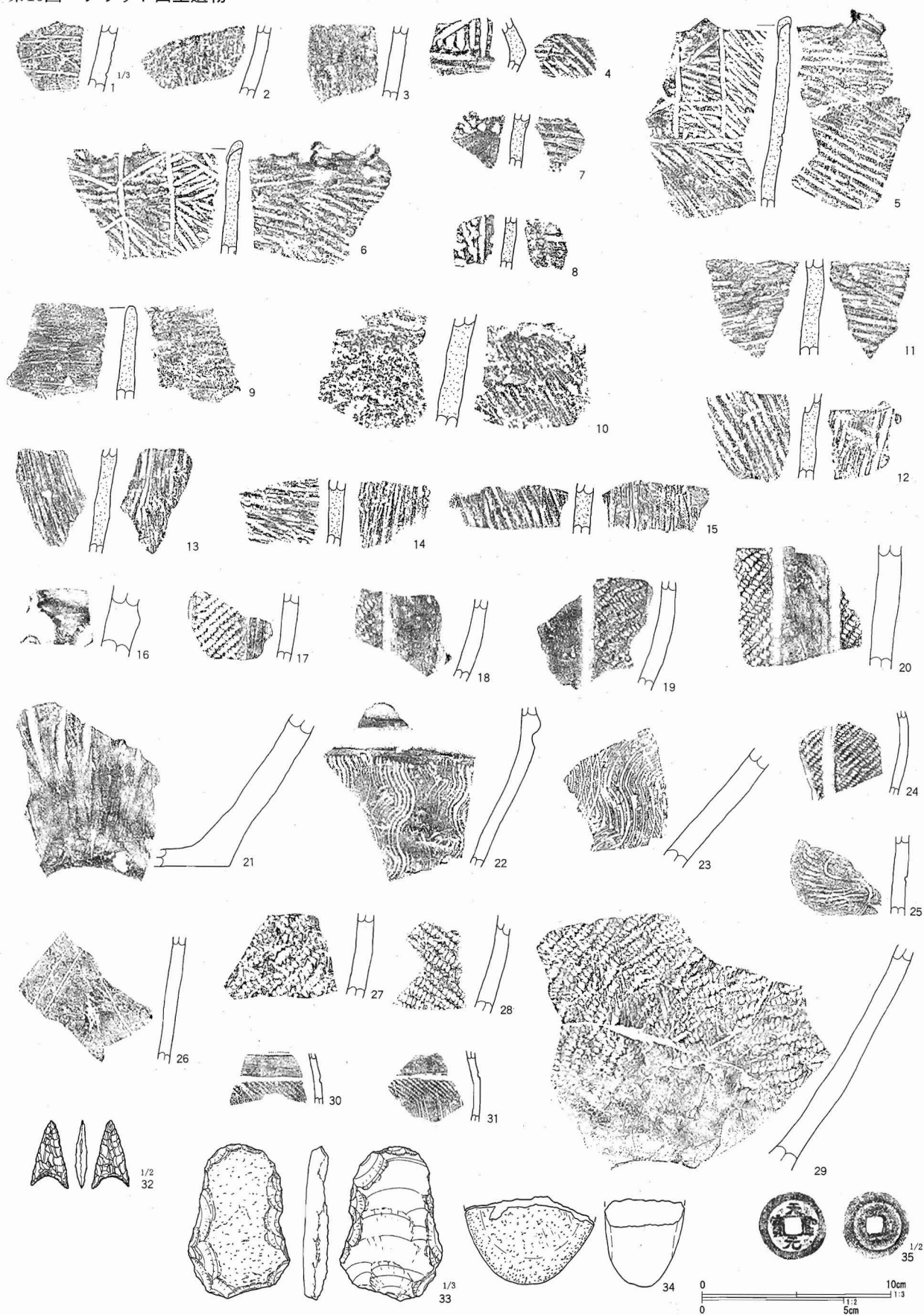
古銭 (第10図35)

1点だけ出土した。銭種は「天聖元宝」であった。

第2表 石器一覧表(1)

図版番号	出土位置	器 種	縦×横×厚さ(cm)	重量(g)	石 質	備 考
10図-32	グリッド	石鏃	2.3×1.3×0.4	0.79	黒曜石	
10図-33	グリッド	打製石斧	8.2×5.4×1.3	86.1	粘板岩	
10図-34	グリッド	磨石・敲石	(4.7)×(6.9)×4.2	152.74	安山岩	

第10図 グリッド出土遺物



2. 第10次調査

概要

調査区は、台地の中央部から西側斜面にかかる部分で、幅8mと6mの道路部分であった。第7次調査区の南側、第3次調査区、第9次調査区の東側に当たる。第11次調査区とは新幹線で便宜的に分断されている。調査区の地目は畑地と山林で中央部から南東部にかけてはかなり攪乱が入っていた。また、新幹線に沿った工場敷地部分では大規模な攪乱が入っていた。

旧石器時代

北側で1箇所見つけた。黒色帯より上のローム層で確認され、小規模な集中が認められた。出土した遺物はいずれも剥片であった。

縄文時代

遺跡は北側で縄文時代中期後半の遺構が検出され、第1次調査・第7次調査との関連がうかがえた。縄文時代中期後半から後期初頭にかけての集落を形成していたものと思われる。また、縄文時代早期の土壌と炉穴がわずかに検出され、縄文時代早期後半条痕文系の土器群が出土した。

古墳時代前期

調査区の中央から南側にかけて古墳時代前期の竪穴住居跡群が検出された。今回調査分総数44軒で集落の北側と東側の境が確定した。残念ながら、中央部の竪穴住居跡は攪乱と削平がおびただしく、残存を検出したに過ぎなかった。ただし、西側から南側にかけては比較的良好な状態で竪穴住居跡が調査できた。上越新幹線関係の発掘調査、第3次調査、第5次調査、第11次調査と合わせて集落のおおよその範囲と規模、土器の様相が推測できるようになった。

今回の調査では他の近隣遺跡と同じように、火災住居跡が検出された。特に、第46号住居跡では東関

東や東北地方に繋がる石鏃とミニチュア土器が出土した。これらの遺物は古墳時代前期の人々の結びつきを知る上でとても重要である。

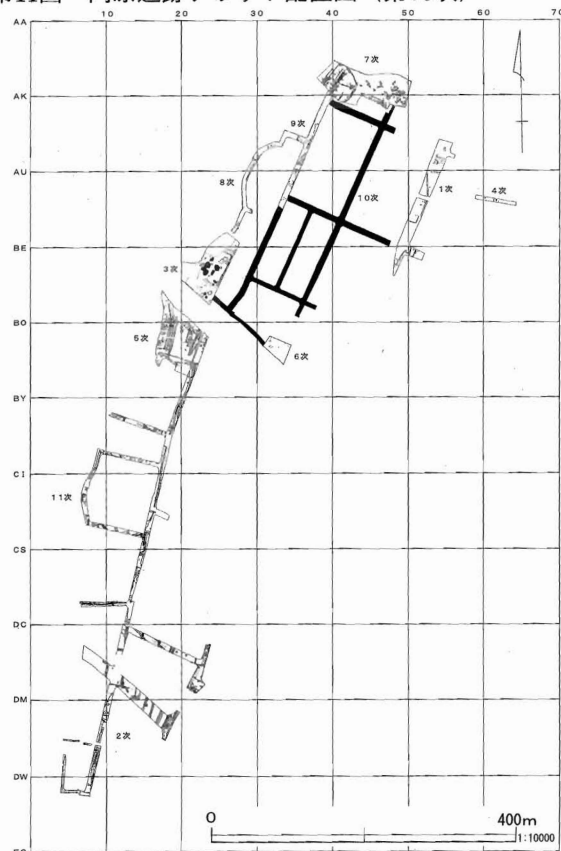
奈良・平安時代

北側にカマドを持つ竪穴住居跡が1軒だけ検出された。ほぼ8世紀中葉と思われる。付近には、第3次調査での1軒だけで、向原遺跡全体でも3軒を数えるに過ぎない。

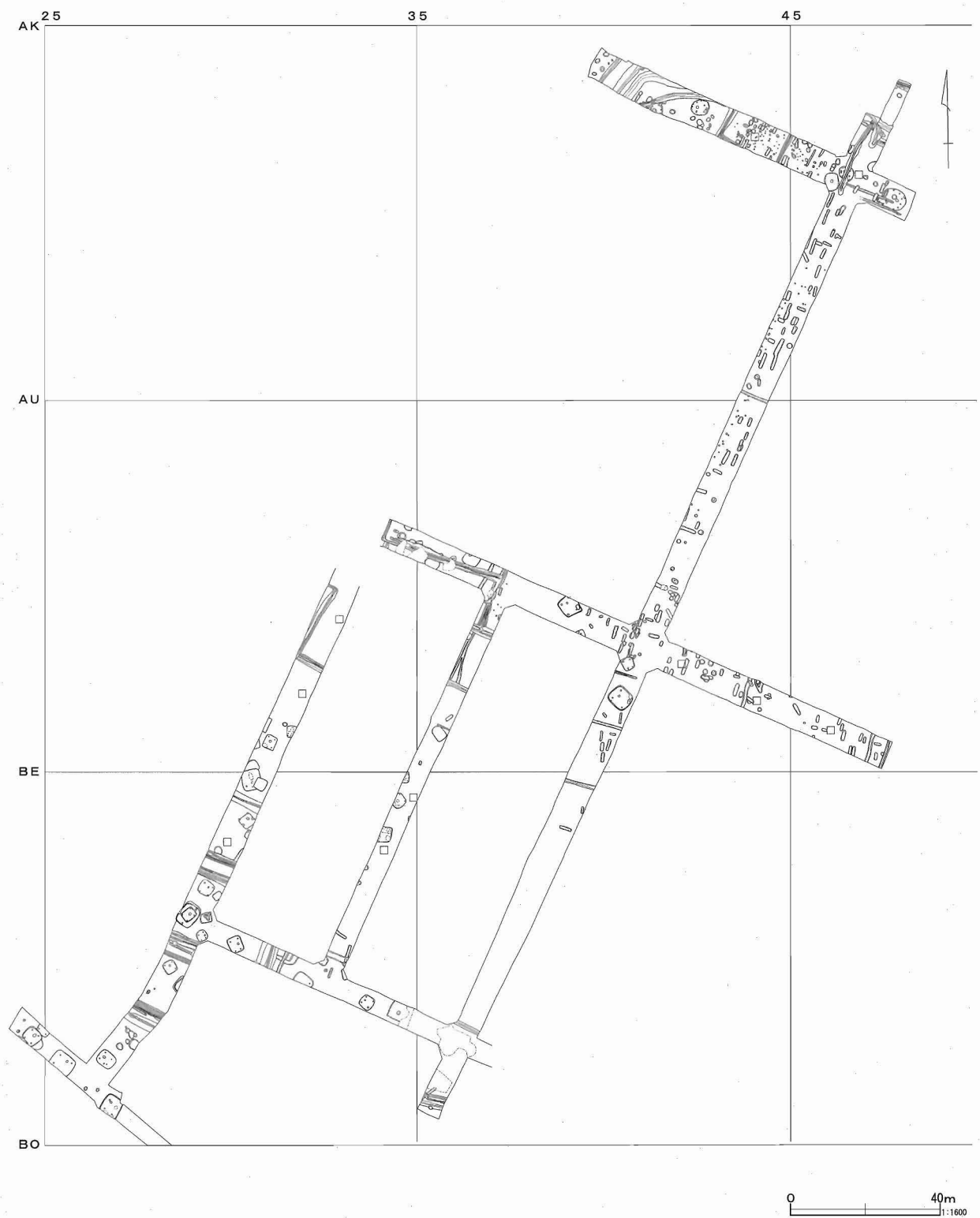
中・近世期

調査区のほぼ全域で中・近世期の溝が検出されている。遺物がほとんど出土しなかったため時期は必ずしも明瞭ではないが大部分は近世期以降の所産であろう。中央部から北側にかけて当地方に独特な隅丸長方形を呈する近世期の土壌も多数検出された。また、掘立柱建物跡、井戸なども検出されている。

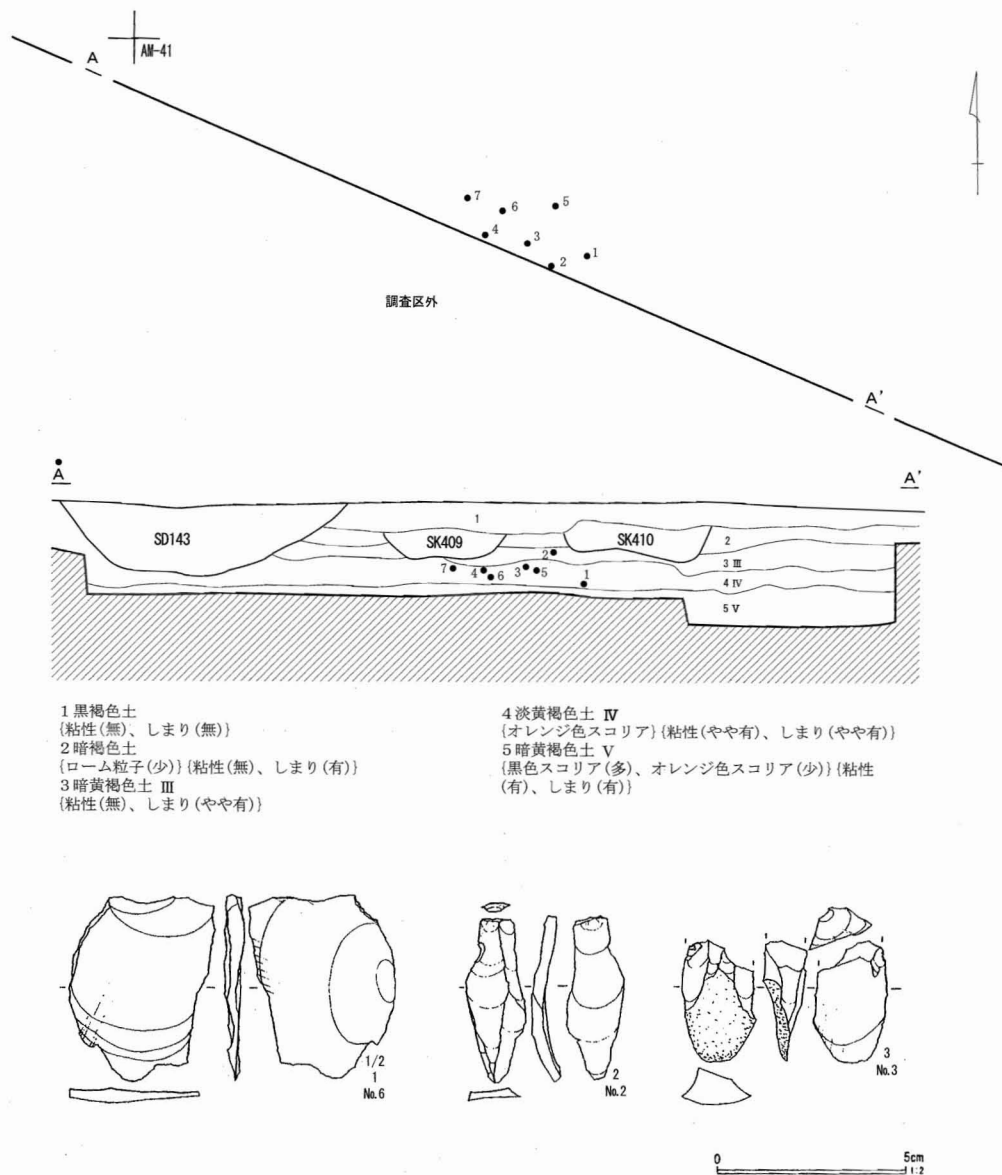
第11図 向原遺跡グリッド配置図（第10次）



第12図 第10次調査区全体図



第13図 第12号石器集中



第3表 第12号石器集中
第12号石器集中

No.	グリッド	北-南	東-西	標高(m)	器種	石質	縦×横×厚さ	重量	接合	石器集中	備考
1	AM-41	3.58	1.67	12.21	剥片	安山岩	1.63×2.85×0.33	1.33		第12号石器集中	
2	AM-41	3.27	1.78	12.49	剥片	安山岩	4.23×1.60×0.70	2.9		第12号石器集中	第13図2
3	AM-41	3.12	1.58	12.36	剥片	安山岩	3.28×2.00×1.22	4.3		第12号石器集中	第13図3
4	AM-41	2.28	1.51	12.33	剥片	安山岩	2.05×1.28×0.35	0.66		第12号石器集中	
5	AM-41	3.34	1.28	12.33	剥片	安山岩	1.53×1.46×0.28	0.48		第12号石器集中	
6	AM-41	2.91	1.33	12.27	剥片	安山岩	4.85×3.55×5.00	10.27		第12号石器集中	第13図1
7	AM-41	2.64	1.23	12.35	剥片	安山岩	1.25×1.69×0.32	0.56		第12号石器集中	

(1) 旧石器時代の石器集中

第12号石器集中 (第13図 図版)

調査区の北側、AM-41グリッドで検出された。南側は調査区域外で、石器集中の大部分が未調査である。第7次調査で検出した第11号石器集中と連続する。黒色帯より上のローム層 (IV層中) で確認され、小規模な集中が認められた。現状で、径-1.2m ほどに遺物が集中していた。一番浅い遺物と深いものとの差は約20cmであった。一番深い遺物はわず

かに第V層にかかる。

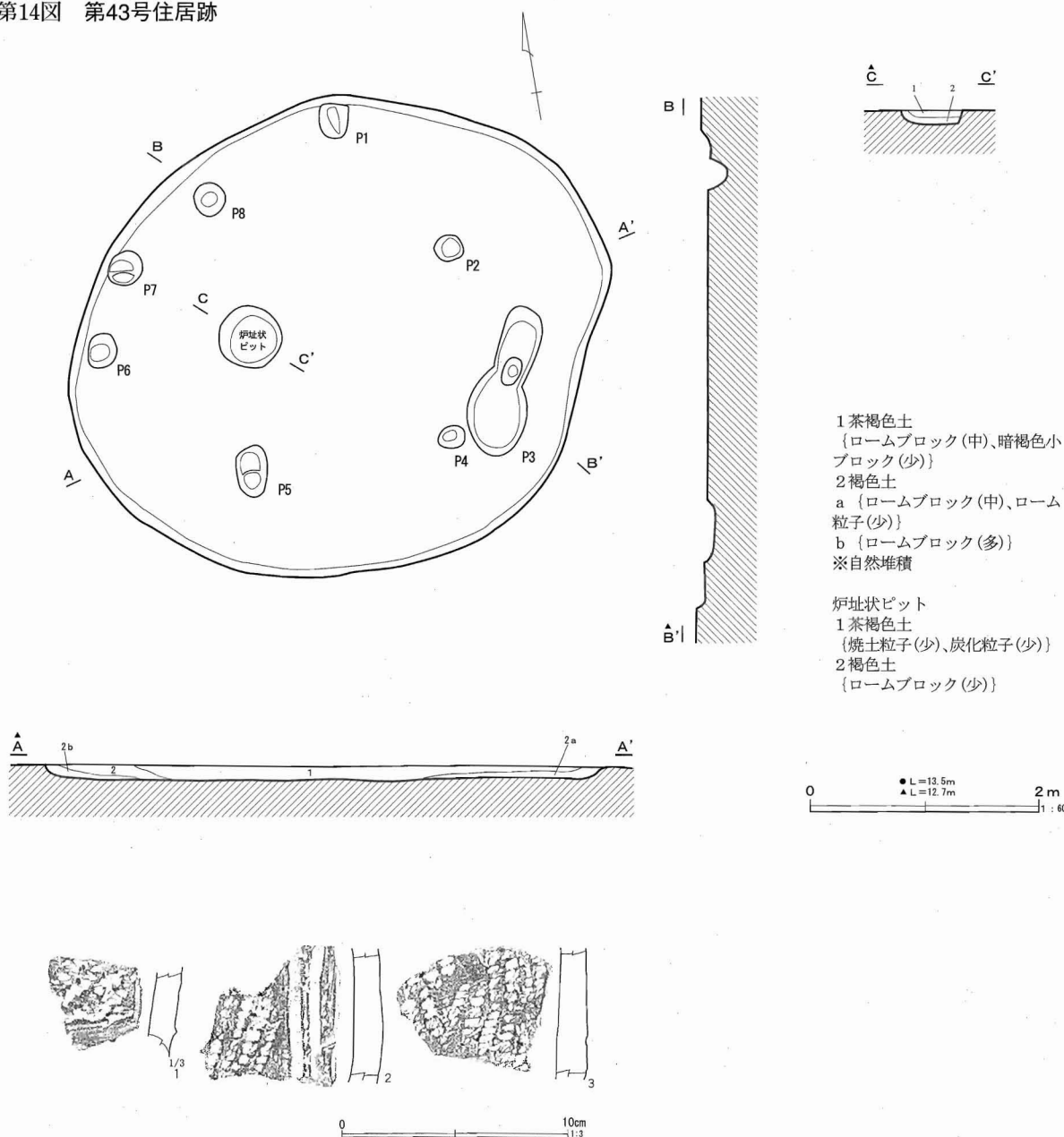
遺物はいずれも剥片で製品はなかった。検出した7点の石材は、すべて安山岩製であった。一部にかなり風化の認められるものもあった。

(2) 住居跡

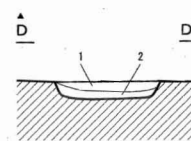
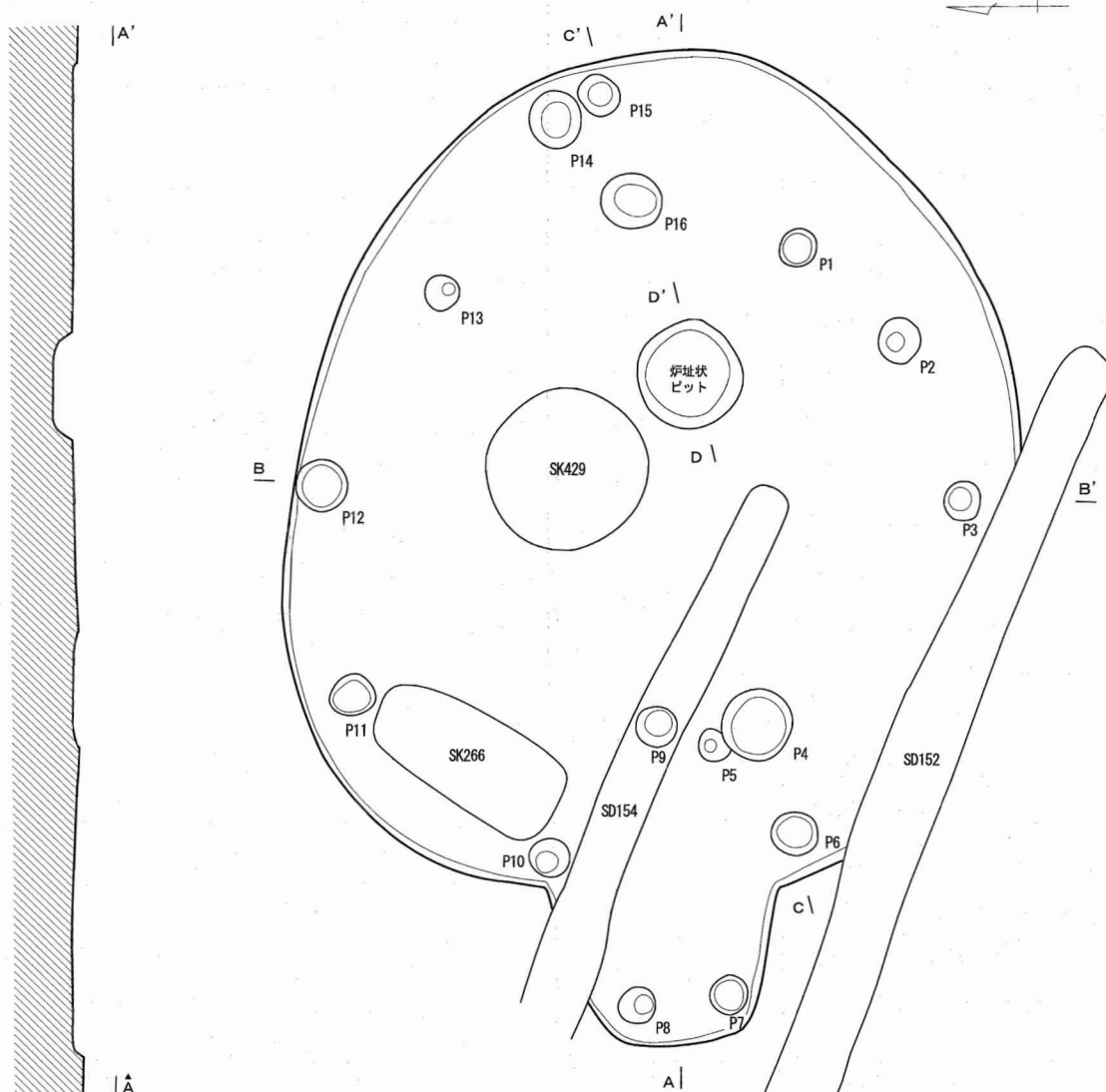
第43号住居跡 (第14図、図版9)

AL-42・AM-42グリッドにかけて検出された。長径-約5.0m、短径-約4.15mの楕円形をしていた。

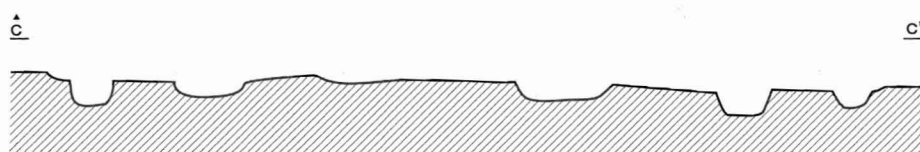
第14図 第43号住居跡



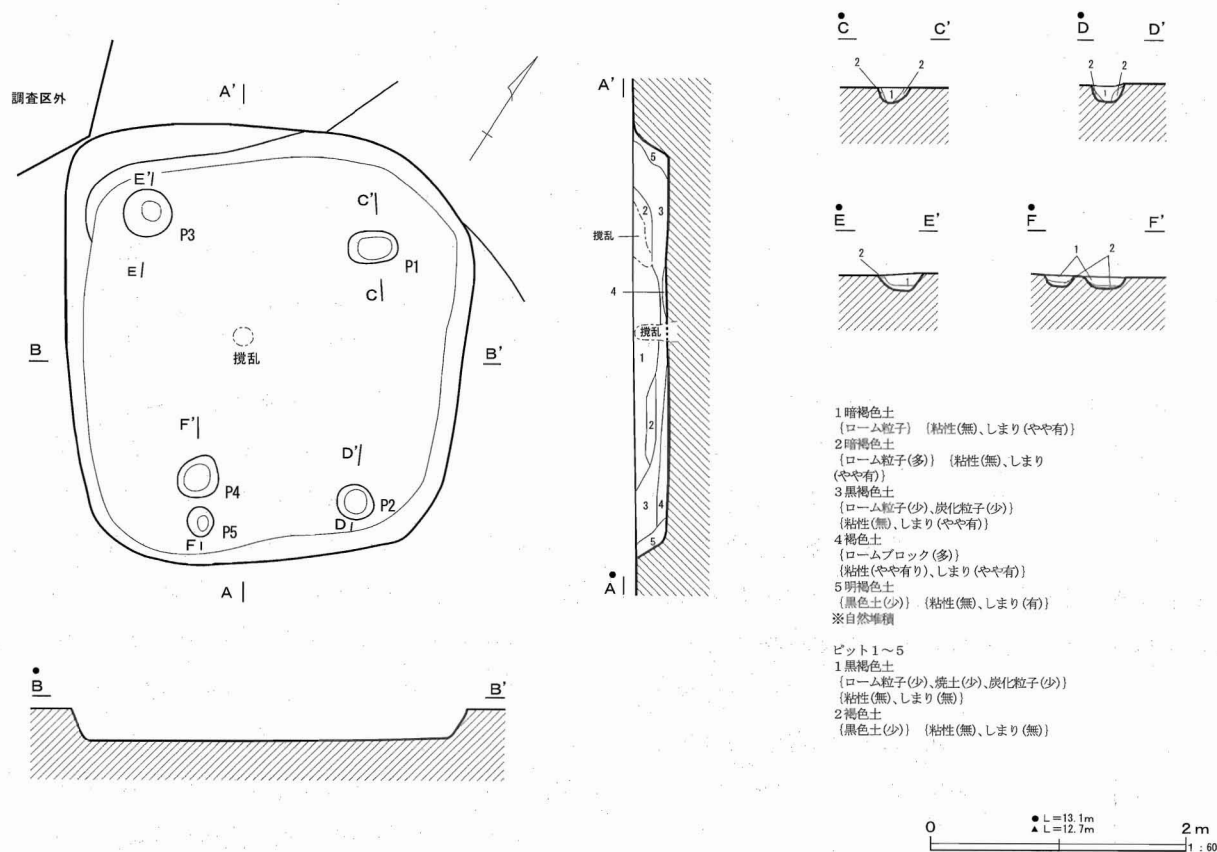
第15図 第44号住居跡



炉址状ピット
1 暗褐色土
{ローム粒子(少)、焼土粒子
(少)、炭化粒子(少)}
2 褐色土
{ロームブロック(中)}



第16図 第45号住居跡



遺構確認面からの深さは、深さ-0.15mとかなり浅かった。ピットは、壁に沿うような形で8個検出され、東側にあるP3が楕円形をしていた。西側にずれた中央部に焼土粒子と炭化粒子が土層に中に入った炉跡状のピットが見つかった。床面はあまりしまりがなかった。住居跡の埋まり具合は、自然に堆積したものであった。

遺物はほとんど出土していない。わずかに出土した土器は、縄文時代中期加曾利EⅢ式、後期加曾利EⅣ式に属するものであった。

第44号住居跡 (第15図、図版9)

AO-47・AO-48グリッドにかけて検出された。長径-約8.0m、短径-約5.7mの不整柄鏡形をしていた。西側に突出する部分は、ほぼ1.2mであった。遺構確認面からの深さはほとんどなく深さ-0.08mであった。床面もわずかに検出されたにとどまった。中央

には、焼土粒子、炭化粒子を埋土に含んだ炉跡状ピットが見つかった。壁に沿って、小ピットが並んで配置されている。

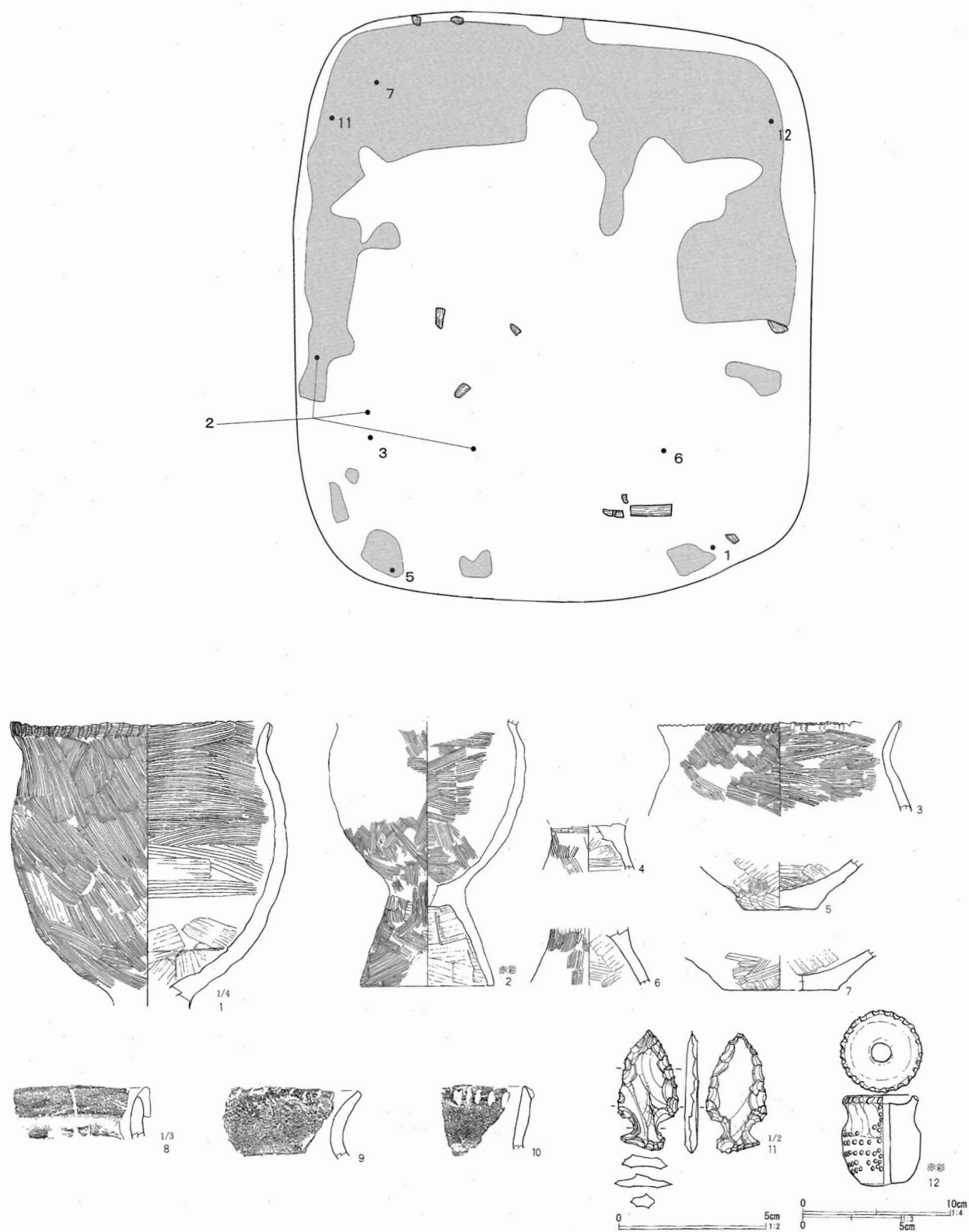
全体的に削平が激しく、ピット以外のほとんどが消失している。図示できるような遺物もなかった。住居跡の形状と付近遺構の状況から、縄文時代後期、加曾利EⅣ式の住居跡と推定される。

第45号住居跡 (第16図、図版9)

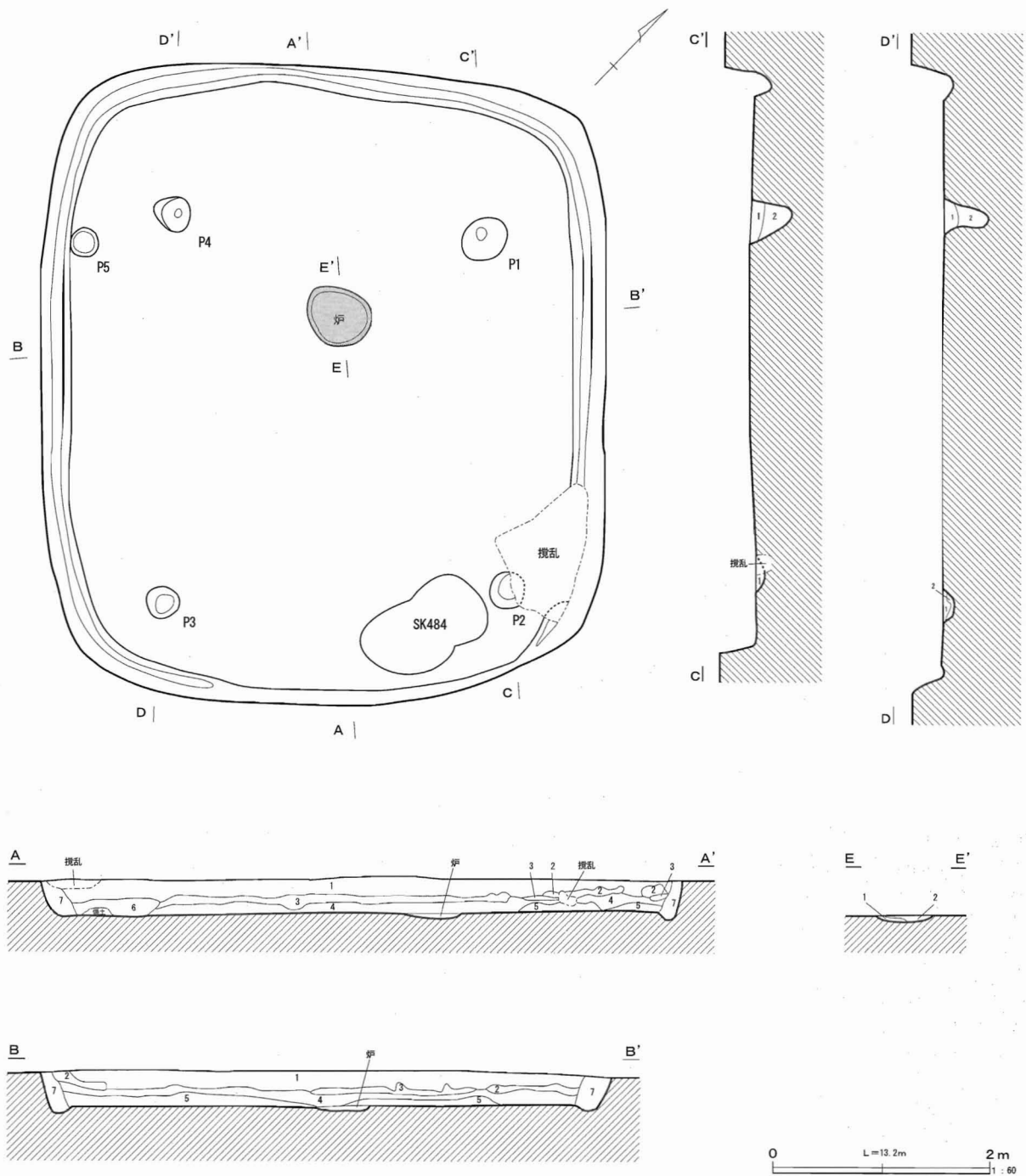
BA-40・BB-40グリッドで検出された。第46号住居跡との距離は4mである。長径-約3.45m、短径-約3.15mの方形をした小形の住居跡であった。確認面からの深さは、0.3mであった。4本柱穴で深さは0.15mと浅かった。土層は自然堆積と思われる。床面は比較的硬く、中央部にわずかに焼土の認められるところがあった。

遺物は、ほとんど見つからなかった。住居跡の形

第17図 第46号住居跡（1）



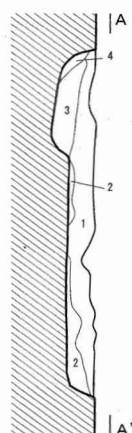
第18図 第46号住居跡（2）



- 1 暗褐色土
 {ロームブロック、ローム粒子(少)、焼土(少)、炭化粒子(少)}
 {粘性(無)、しまり(やや有)}
 2 明褐色土(焼土層)
 {焼土(多)炭化粒子(多)} {粘性(無)、しまり(無)}
 3 黒褐色土
 {焼土(少)、炭化粒子(多)} {粘性(無)、しまり(無)}
 4 暗褐色土
 {焼土(少)、炭化粒子(少)} {粘性(無)、しまり(やや有)}
 5 暗褐色土
 {大粒ローム(多)} {粘性(無)、しまり(有)}
 6 暗褐色土
 {焼土(少)、炭化粒子(少)} {粘性(無)、しまり(やや有)}
 7 暗褐色土
 {ローム粒子(多)} {粘性(無)、しまり(やや有)}
 ※人為堆積

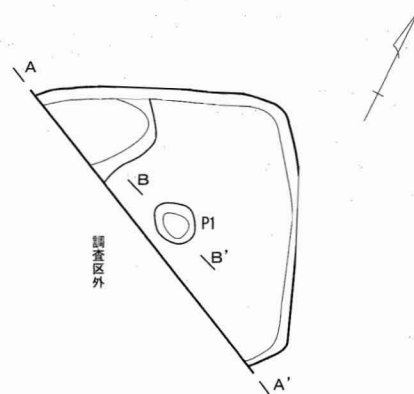
- ピット1～4
 1 黒褐色土
 {ロームブロック(多)、焼土(多)、炭化粒子(多)} {粘性(無)、しまり(無)}
 2 暗褐色土
 {ロームブロック(多)} {粘性(無)、しまり(無)}
 炉址
 1 黒褐色土
 {ローム粒子(多)、焼土(多)、炭化粒子(多)} {粘性(無)、しまり(無)}
 2 暗赤褐色土
 {ロームブロック(多)、焼土粒子(多)} {粘性(無)、しまり(無)}

第19図 第47号住居跡



- 1 暗褐色土
 {ロームブロック(多)} {粘性(無)、しまり(やや有)}
 2 暗黄褐色土
 {ロームブロック(多)} {粘性(無)、しまり(やや有)}
 3 暗褐色土
 {黒色土(多)} {粘性(無)、しまり(やや有)}
 4 黄褐色土
 {ロームブロック(多)} {粘性(無)、しまり(無)}

- ピット1
 1 暗褐色土
 {ロームブロック(多)} {粘性(無)、しまり(やや有)}



0 10cm
1/4

状より古墳時代前期と思われる

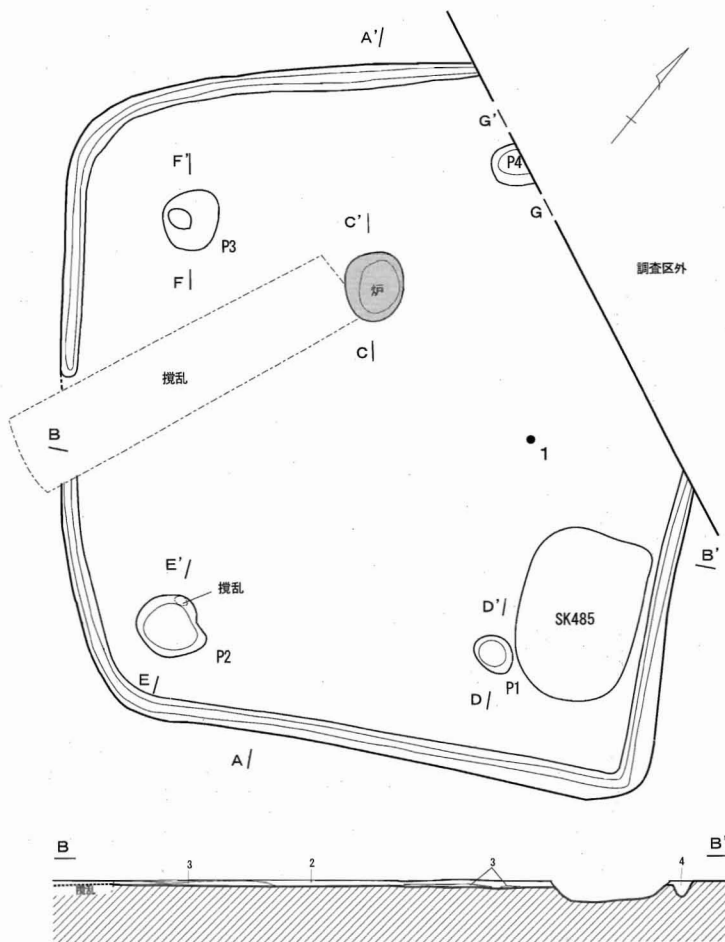
第46号住居跡 (第17図、第18図、図版9)

BB-40・BC-40グリッドで検出された。長径-約6.0m、短径-約5.1mで隅丸方形をしていた。確認面からの深さは0.4mと深くかなりしっかりした住居跡である。東側コーナー付近以外は壁下に溝が回っている。4本柱穴でP2は攪乱で切られている。北側のピットは0.4m前後の深さを持つ。中央北よりに炉跡があり、床面は硬くしっかりしていた。土層は人為堆積の様相を示す。

焼失住居で、覆土にかなりの量の焼土が混じっていた。床面近くには、焼土と大粒のロームブロックの層が交互に入り込む特有な土層があった。焼土は2層以降にかなりの量が入っているが第17図に見るとおり壁周辺は抜けている。木炭片もかなり入っており、壁下で直立するものも見られた。

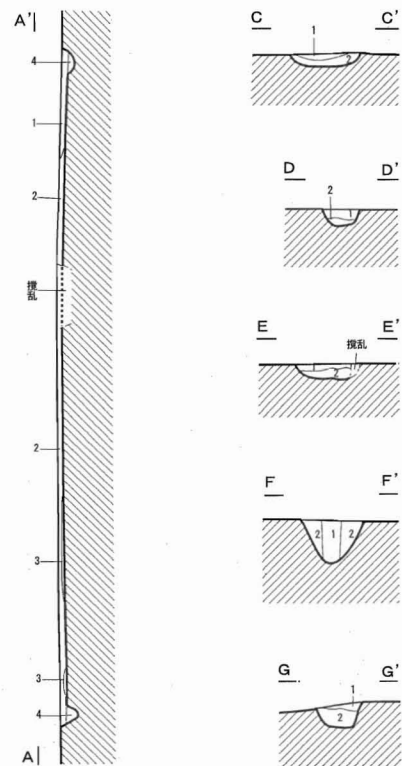
遺物は、台付甕を中心に出土した。1は口唇部に刻みを持つ台付甕。口唇部にも小口ナデAが施文される。かなり厚手。2は小形の台付甕。口縁部付近が欠損する。内外面ともに小口ナデA、台部内面は

第207図 第48号住居跡



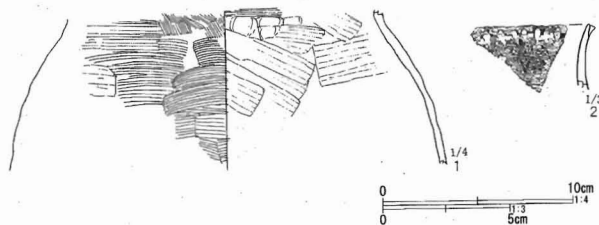
- 1 黒褐色土
{ローム粒子(少)} {粘性(無)、しまり(無)}
- 2 暗褐色土
{ローム粒子(少) 炭化粒子(少)} {粘性(無)、しまり(無)}
- 3 暗黄褐色土
{ロームブロック(多)} {粘性(無)、しまり(無)}
- 4 黄褐色土
{黒色土(少)} {粘性(無)、しまり(やや有)}

- 炉址
1 暗黄褐色土
{焼土粒子(多)} {粘性(無)、しまり(有)}
- 2 黄褐色土
{焼土粒子(少)} {粘性(無)、しまり(有)}

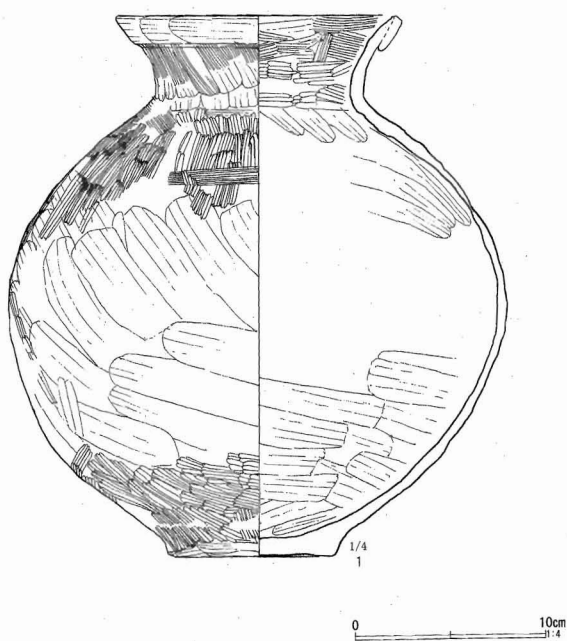
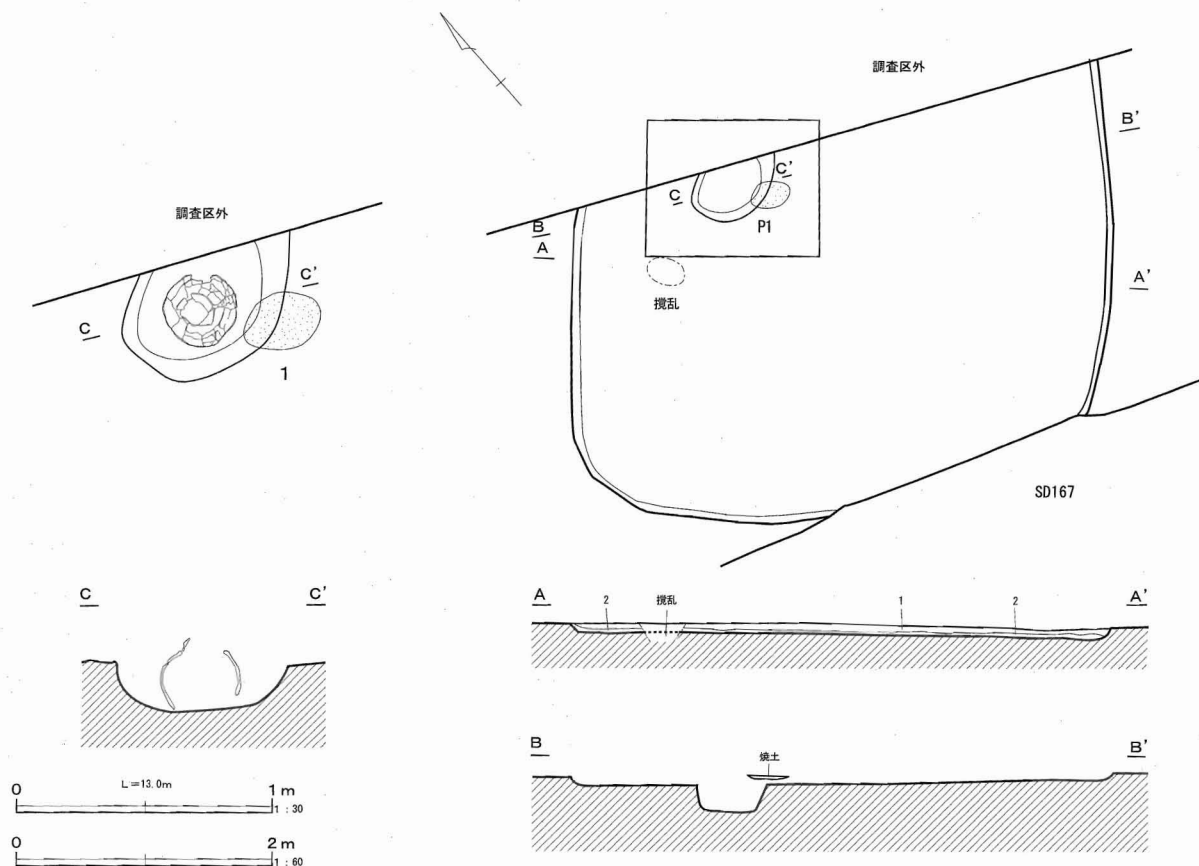


- ピット1
1 黒褐色土
{ロームブロック(多)} {粘性(無)、しまり(無)}
- 2 暗褐色土
{ロームブロック(多)} {粘性(無)、しまり(無)}
- ピット2
1 黒褐色土
{ロームブロック(多)} {粘性(無)、しまり(無)}
- 2 暗黄褐色土
{ロームブロック(多)} {粘性(無)、しまり(無)}
- ピット3
1 暗褐色土
{ローム粒子(多)} {粘性(無)、しまり(やや有)}
- 2 暗黄褐色土
{ロームブロック(多)} {粘性(無)、しまり(やや有)}
- ピット4
1 黒褐色土
{ローム粒子(多)} {粘性(無)、しまり(無)}
- 2 暗黄褐色土
{ロームブロック(多)} {粘性(無)、しまり(無)}

0 13.1m 2m
1:60



第21図 第49号住居跡



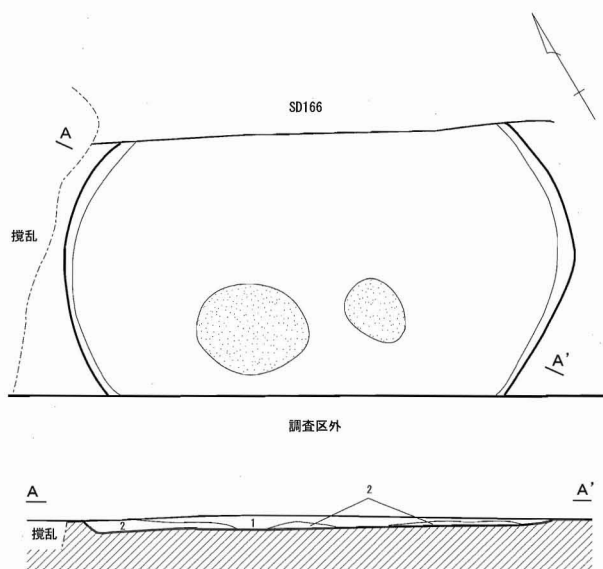
小口ナデB。3は台付甕口縁部で前二者より器壁が薄い。8は壺口縁部。11はアメリカ式石鋸。基部に挟りが入る大形品。12は手づくね土器で、きわめて小さい。中央部に貫通孔を持つ。広口壺の形状を持ち、刺突文によって文様を表現している。頸部に無文部を表出し、2箇所だけに縦の刺突列が配される。胴部下半部には刺突列が描かれる、東関東の弥生式土器によく似た器形をしている。

遺構・遺物などより古墳時代前期の住居跡と思われる。

第47号住居跡（第19図、図版9）

BA-39グリッドで検出された。南西側半分が調査区外である。一片2m前後の方形をしていたものと思われる。隣接する第48号住居跡との距離は約4mである。深さは0.2m前後であった。床面はやわらかく、中央付近に浅いピット、北西コーナー付近に

第22図 第50号住居跡



S J 49
1 暗褐色土
{ローム粒子(少)、炭化粒子
(少)} {粘性(無)、しまり(無)}
2 暗黄褐色土
{ローム粒子(多)} {粘性(無)、
しまり(無)}

S J 50
1 暗褐色土
{ローム粒子(少)} {粘性(無)、
しまり(無)}
2 暗黄褐色土
{ロームブロック(少)} {粘性
(無)、しまり(無)}

浅くて広いピットが見つかった。覆土は自然堆積であった。

遺物の出土はわずかであった。1は、壺口縁部破片。折り返し口縁で、表裏両面に小口ナデAが施されている。遺構・遺物などより古墳時代前期と思われる。

第48号住居跡 (第20図、図版9)

AZ-38・AZ-39グリッドにかけて検出された。北側は調査区外である。長径-約5.56m、短径-約5.0mの不整な隅丸方形をしていた。深さは0.08m前後ときわめて薄い。一部に攪乱が入る。壁下には溝が配されほぼ全周する。4本柱穴で、北側のP4がわずかにずれる。P3以外は浅い。炉跡は中央部やや北寄りに設置されている。土層は薄いので判断は難しいが人為堆積と思われる。

遺物はわずかに出土した。1は台付甕の胴部で器

壁はかなり薄い。表面は小口ナデA、内面は小口ナデBである。遺構・遺物などより古墳時代前期と思われる。

第49号住居跡 (第21図、図版10)

AY-36グリッドで検出された。第50号住居跡までの距離は約6mであった。北半分は調査区外で、南半分は溝に切られている。一辺が4.3m前後の隅丸方形をしていたものと思われる。深さは0.08m前後ときわめて薄い。床面は軟らかく、ピットは検出できなかった。明瞭な炉跡も検出できなかった。

北側にほぼ直立した状態で壺が出土した。掘り込みを伴うもので、この住居跡に伴う焼土が覆っていることからこの住居跡に伴うものとした。外反する折り返し口縁部を持ち、胴部は球形に近い。胴部上半部は小口ナデAとミガキで、中央部が小口ナデC、下半部にさらにミガキが見られる。胴部上半部の横に施文される一条の小口ナデAが特徴である。遺構・遺物などより古墳時代前期と思われる。

第50号住居跡 (第22図)

AY-35グリッドで検出された。標高の一番高い部分にある。北側は溝に切られ、南側は調査区外である。長径-3.7m前後の隅丸方形になるものと思われる。深さ-0.1m前後と浅く、土層の堆積状況は人為堆積と思われる。部分的に焼土が認められた。

遺物は出土していない。遺構などの状況から古墳時代前期と思われる。

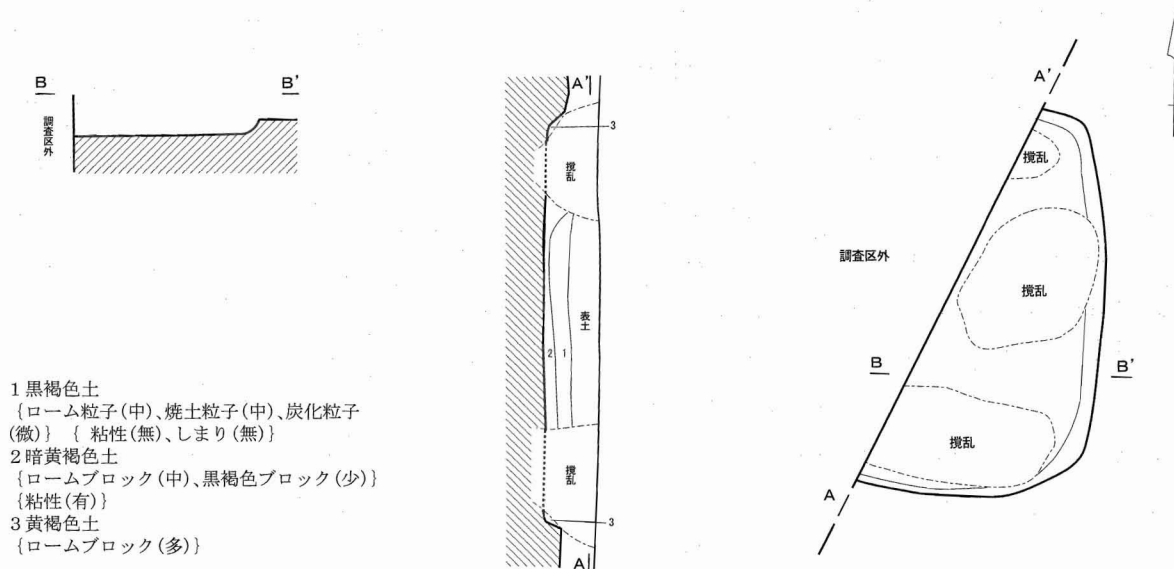
第51号住居跡 (第23図、図版10)

BE-34グリッドで検出された。標高の一番高い部分にある。隣接する第10号住居跡からの距離は約3mであった。西半分は調査区外で、調査した全体が攪乱に覆われていた。一辺約3m前後の隅丸方形をいていたと思われる。柱穴・炉跡などは見つからなかった。わずかに残った土層からは自然堆積が伺える。実測できる遺物は出土しなかった。住居跡の形状などより古墳時代前期と思われる。

第52号住居跡 (第24図、図版10)

BF-33グリッドで検出された。標高の一番高い部

第23図 第51号住居跡



第4表 土器観察表(1)

第46号住居跡(第17図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土・産地	焼成	色調	注記	備考
1	台付甕	17.8	19.3	—	B 4	A	褐色	SJ 4 No9	
2	台付甕	—	18.2	9.1	A	A	橙色	SJ4 No5.10.11	
3	台付甕	16.5	6	—	A	A	赤褐色	SJ4 No13	
4	台付甕	—	3.1	—	B 3	C	にぶい灰色	SJ4 一括	
5	壺	—	3.1	4.8	B 3	A	黒褐色	SJ4 No19	
6	台付甕	—	3.7	—	A	C	にぶい赤褐色	SJ4 No6	
7	壺	—	2.4	7.4	B 3	A	赤褐色	SJ4 No22	
12	てづくね工器	2.4	3	1.4	A	A	赤褐色	SJ4 No23	

第47号住居跡(第19図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土・産地	焼成	色調	注記	備考
1	壺	16.5	3	—	B 4	A	黒褐色	SJ5 フク土	

第48号住居跡(第20図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土・産地	焼成	色調	注記	備考
1	甕	—	8	—	B 4	A	暗褐色	SJ6. B No2	

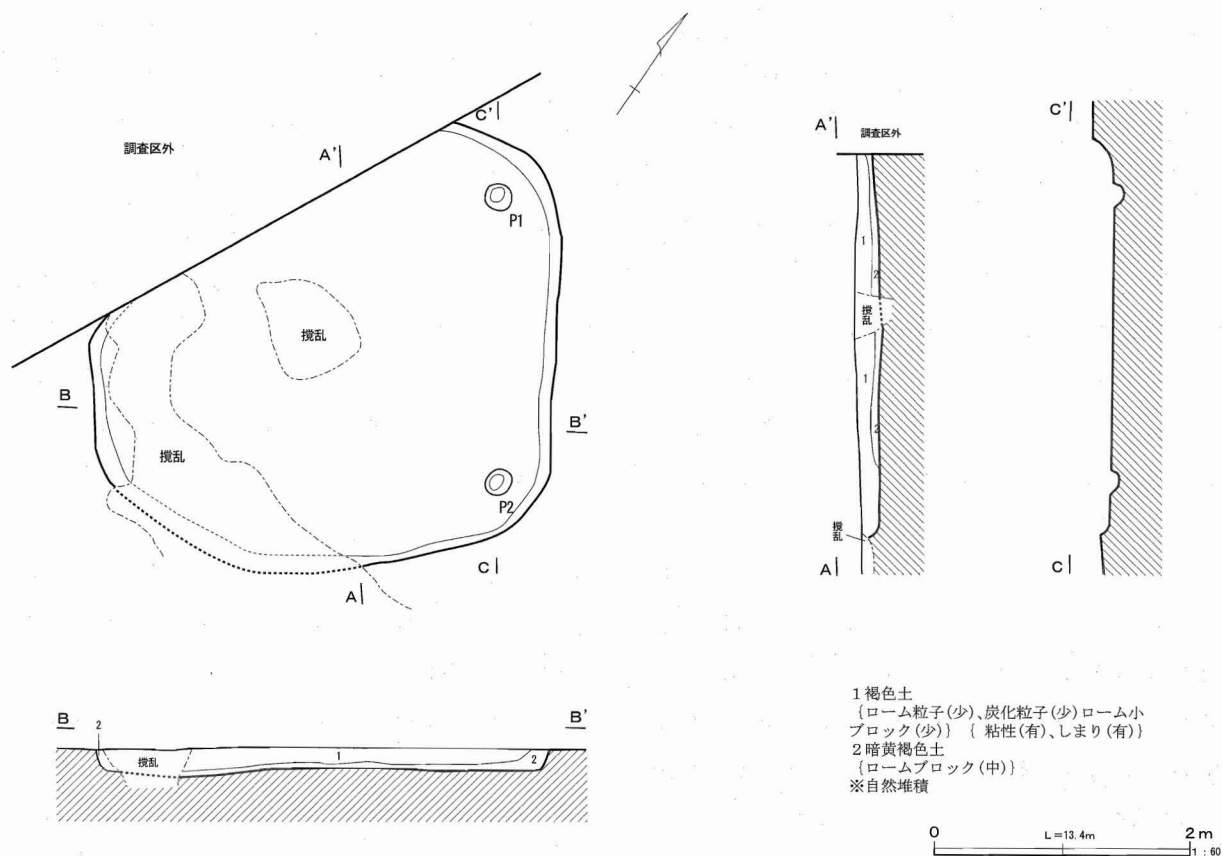
第49号住居跡(第21図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土・産地	焼成	色調	注記	備考
1	壺	15.2	28	9	B 4	A	暗褐色(黒色斑)	SJ7 No 1	

第52号住居跡(第24図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土・産地	焼成	色調	注記	備考
1	甕	19.8	3	—	B 4	A	赤褐色	SJ10 フク土	

第24図 第52号住居跡

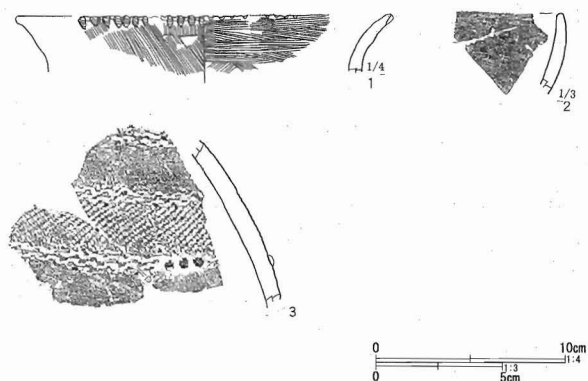


分にある。第11号住居跡との距離は、9 mであった。北東側は調査区域外でかなり多くの攪乱が入っていた。一辺が3.7m前後の隅丸方形になるものと思われる。深さは0.2m前後で部分的に床面の固い部分が残っていた。柱穴は2本検出された。いずれも浅かった。全体で4本柱穴になると思われる。土層の埋土状況は自然堆積と思われる。

遺物はわずかに出土した。1は甕口縁部で、口唇部に刻みがある。3は飾り壺胴部破片。三連のボタン状貼り付け文、結節横「S」字状文とLR単節の縄文が施文されている。3の土器を含むが全体で古墳時代前期としておきたい。

第53号住居跡（第25図、図版10）

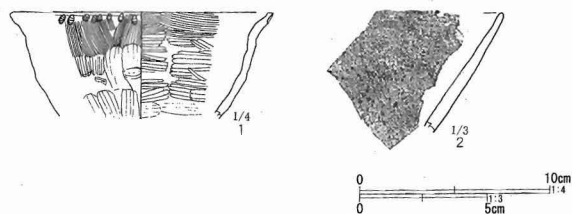
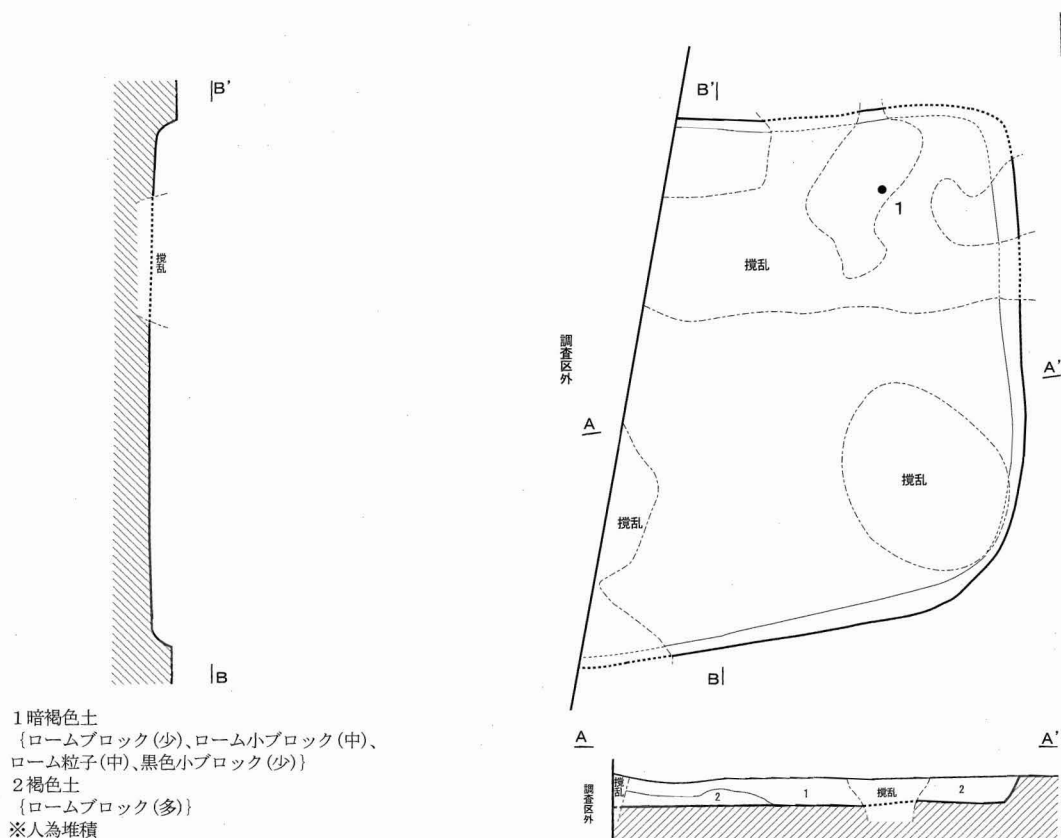
BI-32・BJ-32グリッドにかけて検出された。標高の一番高い部分にあたる。西側半分は調査区外である。全面に攪乱が入り、床面が攪乱の中に浮かんで



いるような状況であった。床面は部分的に固い面があった。柱穴・炉跡などは検出できなかった。一辺が4.2m前後の隅丸方形をするものと思われる。深さは約0.25mで不自然な埋まり方をしているところから人為堆積と思われる。

遺物はわずかに出土した。1は小形の碗。口唇部

第25図 第53号住居跡



に刻みがありわずかに外反する。2は大形高坏の坏部分。攪乱がかなりひどいが出土遺物などより古墳時代前期と思われる。

第54号住居跡 (第26図、図版10)

BJ-32・BJ-33グリッドで検出された。隣接する第59号住居跡との距離は約8mであった。中央部に攪乱が入り、北西半分は調査区外であった。一辺が2.6m前後の隅丸方形をしていたと思われる。確認面からの深さは約0.45mで本遺跡ではかなり深い部類である。柱穴は2本検出された。いずれも浅いも

のであった。覆土全体に焼土・木炭が混入していた。焼土ブロック層は床面にも及んでいた。現状での判断は難しいが一応人為堆積としておきたい。

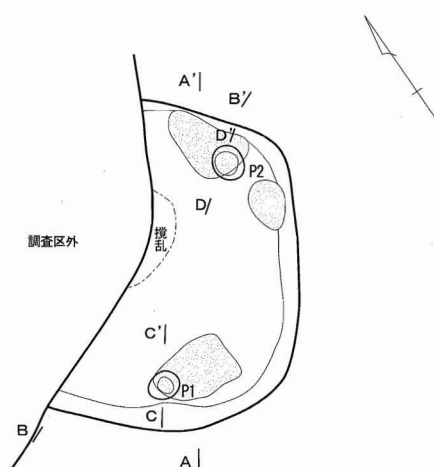
遺物は出土しなかった。住居跡の形状などから古墳時代前期と思われる。

第55号住居跡 (第27図、図版10)

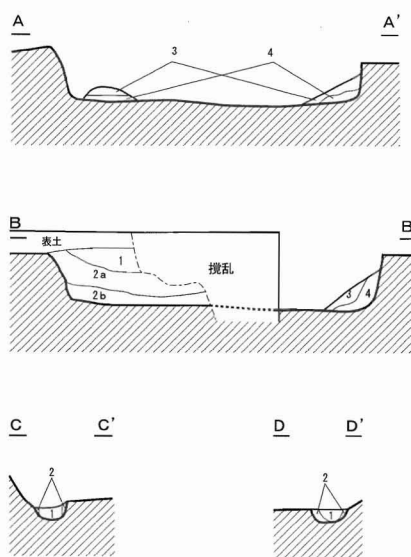
BK-33グリッドで検出された。隣接する第54号住居跡からの距離は、約6mであった。住居跡の大部分は調査区外であった。かなり攪乱が入る。一辺が3.2m前後の隅丸方形をしていたものと思われる。確認面から深さ0.2mであった。土層堆積は不自然で人為堆積と思われる。床面は柔らかく、住居跡との認定は難しいが、暗褐色の落ち込みが明瞭であったため住居跡とした。

遺物はほとんど出土しなかった。住居跡の形状などより古墳時代前期と思われる。

第26図 第54号住居跡



- 1 黒褐色土
{ローム小ブロック(少)、ローム粒子(少)} {粘性(無)、しまり(無)}
- 2 暗褐色土
a {ロームブロック(少)ローム粒子(多)炭化粒子(中)} {粘性(無)、しまり(有)}
- b {ロームブロック(少)ローム粒子(少)炭化粒子(中)} {粘性(無)、しまり(有)}
- 3 黒赤色土
{焼土ブロック(多)、焼土粒子(多)、炭化粒子(中)} {しまり(無)}



- 4 暗褐色土
{ロームブロック(多)、ローム粒子(少)} {しまり(無)}
- ビット1~2
1 黒褐色土
{ロームブロック(中)、ローム粒子(中)} {しまり(無)}
- 2 明褐色土
{ロームブロック(中)} {しまり(有)}

0 L=13.7m 2m
1:60

第56号住居跡 (第28図、図版10)

BJ-33・BK-33グリッドで検出された。隣接する第88号住居跡との距離は6mであった。一辺3.7m前後の隅丸方形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。部分的に攪乱が入る。柱穴は4本でいずれも浅いものであった。床面は中央部分が固くしまっていた。中央北西側に寄って炉跡が検出された。焼土の堆積は薄い。土層は自然堆積。

遺物はほとんど出土しなかった。住居跡の形状などより古墳時代前期と思われる。

第57号住居跡 (第29図)

BA-36グリッドで検出された。調査区内で近接した住居跡はない。東西両側を溝と調査区外で阻まれ、線状のわずかな部分のみの調査で規模などは明瞭ではない。確認面からの掘り込みは0.1m前後であった。たぶん小形の住居跡であろう。攪乱がかなり入

る。土層の状況は人為堆積であった。

遺物はわずかに出土した。1は台付甕の台部、端部がわずかに内彎する。2は高坏の坏部でミガキがかけられる。古墳時代前期。

第58号住居跡 (第30図)

BC-35・BD-35グリッドで検出された。調査区内で近接した住居跡はない。北側が溝で切られる。かなり攪乱が入る。長径約4.0m、短径約2.8mの長方形をしていた。北側の丸みは掘り過ぎである。深さは0.1m以下でほとんど覆土はない。少し浮いた状態で焼土が一箇所検出されている。柱穴、炉跡ともに検出できなかった。

遺物は出土しなかった。住居跡の形状から古墳時代前期と思われる。

第59号住居跡 (第31図、第32図、図版11)

BJ-31、BJ-32グリッドで検出された。第54号住居

第27図 第55号住居跡

S J 55

1 暗褐色土

a {ロームブロック(中)、ローム粒子(中)、炭化粒子(少)}

b {ロームブロック(少)、ローム粒子(多)}

2 褐色土

{ロームブロック(多)、ローム粒子(中)、炭化粒子(少)}

※人為堆積

S J 56

1 暗褐色土

a {ローム小ブロック(少)、ローム粒子(中)、炭化粒子(少)} {しまり(無)}

b {ローム粒子(少)、炭化粒子(少) 黒色ブロック(少)} {しまり(無)}

2 暗黄褐色土

{ロームブロック(中)、ローム小ブロック(少)} {壁崩のロームブロック含む}

※自然埋土

ビット1～4

1 暗褐色土

{ロームブロック(少)、褐色ブロック(少)}

2 黄褐色土

{ロームブロック(多)}

3 暗褐色土

{ロームブロック(少)、黒色ブロック(中)} {しまり(無)}

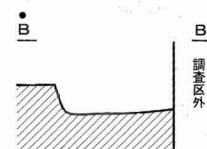
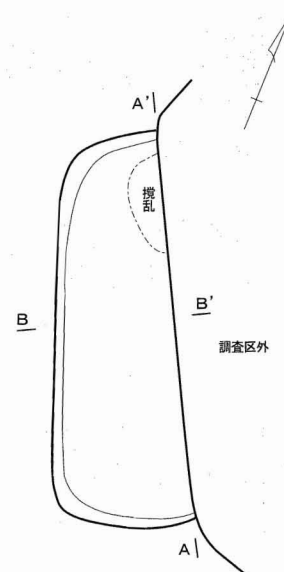
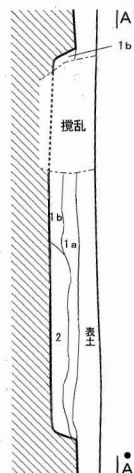
炉址

1 暗赤褐色土

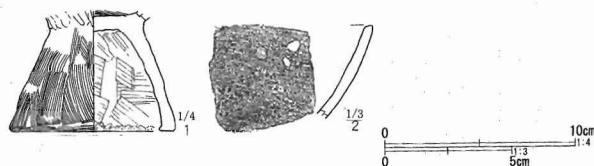
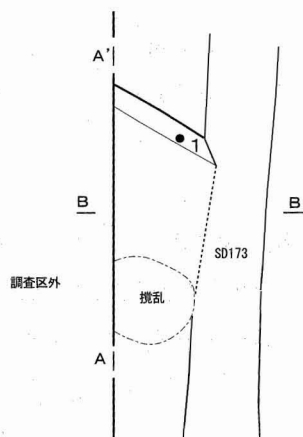
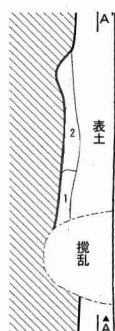
{焼土ブロック(中)、焼土粒子(少)} {しまり(無)}

2 明褐色土

{ロームブロック(少)、焼土粒子(少)}



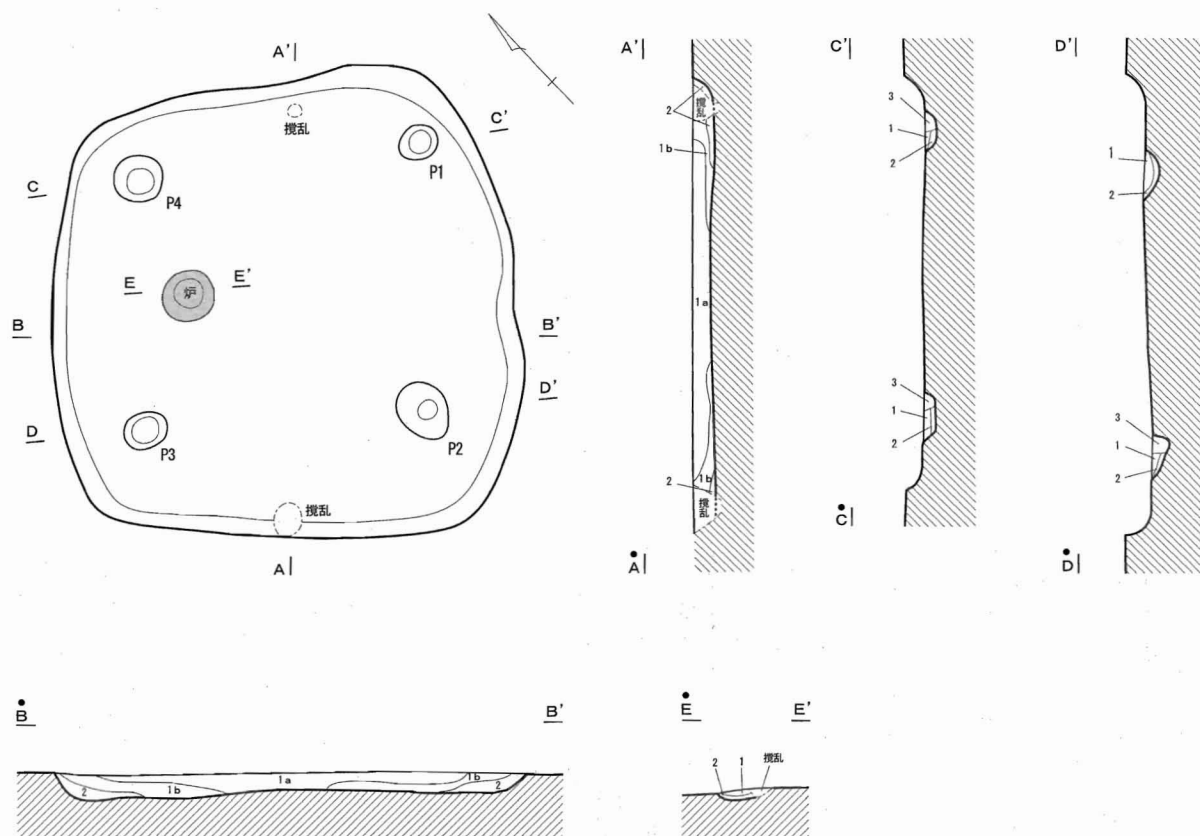
第29図 第57号住居跡



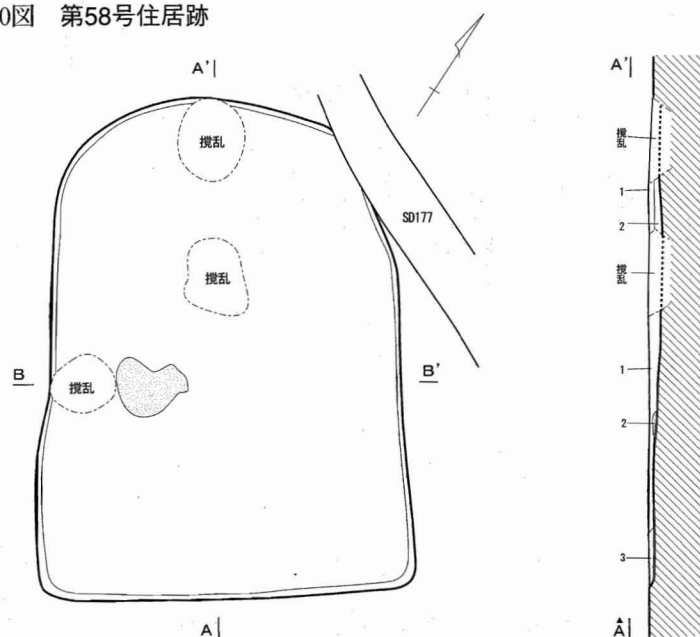
跡と隣接している。南側半分は調査区外であった。中央部にかなり大きな攪乱があった。長径5.4m前後の隅丸方形をしていたものと思われる。確認面からの深さは0.25mであった。覆土からは4箇所焼土ブロックが検出されたが、いずれも浮いたもので土層の埋まり具合は自然堆積であった。また、南東コーナー付近で小石がブロック上に固まっているところが見つかった。柱穴は2本検出された。いずれも浅いものであった。床面は中央部分が固くしまっていた。現状で炉は検出できなかった。

調査終了後、床面をはがした段階で柱穴がさらに

第28図 第56号住居跡

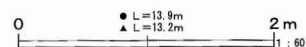
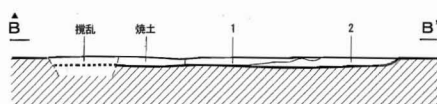


第30図 第58号住居跡

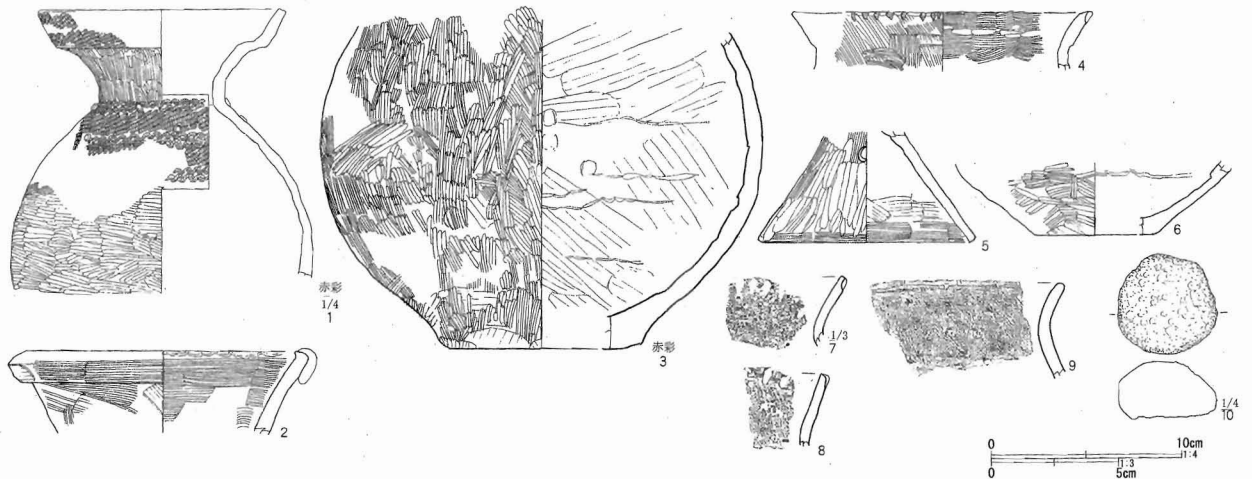
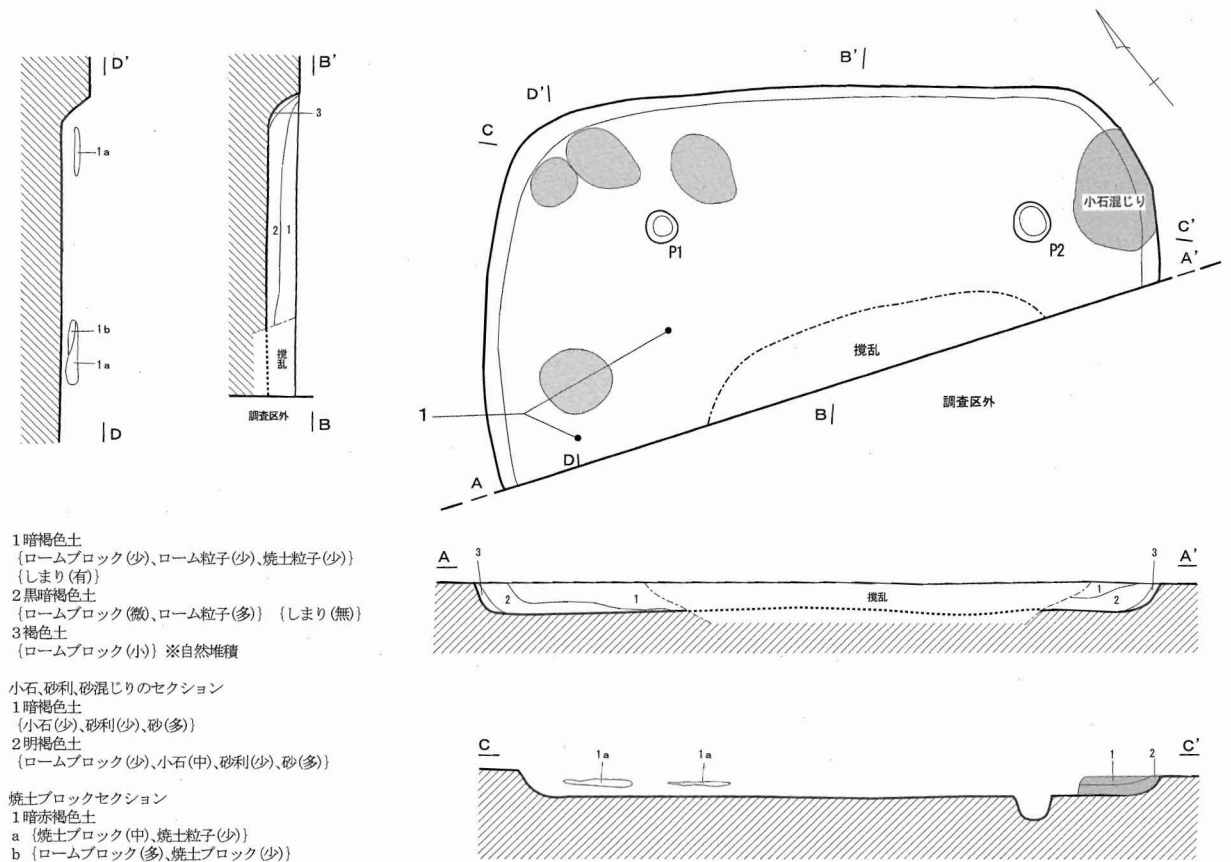


S J 57
 1 暗黄褐色土
 {ロームブロック(多)} (粘性(無)、しまり(やや有))
 2 暗褐色土
 {ロームブロック(多)} (粘性(無)、しまり(やや有))
 ※人為堆積

S J 58
 1 暗褐色土
 {ローム粒子(少)} (粘性(無)、しまり(無))
 2 暗黄褐色土
 {ロームブロック(多)} (粘性(無)、しまり(無))
 3 黄褐色土
 {ロームブロック(多)} (粘性(無)、しまり(無))



第31図 第59号住居跡（1）

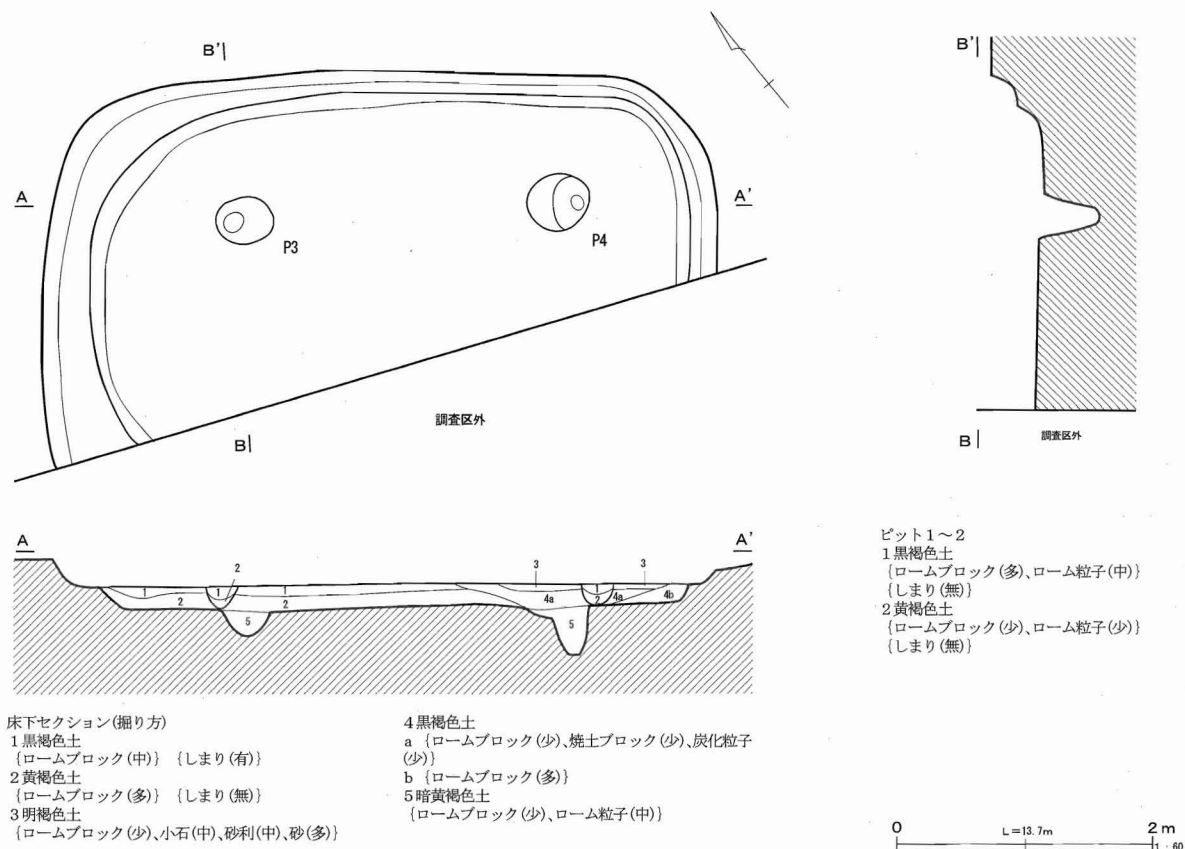


2箇所確認された。上位の住居跡の柱穴と非常に近い位置であった。埋土の状況も黒色土が入るなどして人為堆積であったため、下位の住居跡を埋めて改築したと理解した。同一番号で処理した。

遺物は多少まとまって出土した。1は複合口縁の小形飾り壺である。かなり欠損部分があるが、胴部

上半部まで復元できた。口縁部と胴部上半部にLR横回転の単節縄文が施文される。胴部上半には横「S」字状の結節縄文が付加される。胴部上半部には小さなボタン上彫り付け文が2段に施文され、同様に赤彩で円形を描いたものが加わる。この円形赤彩施文は口縁部にも配される。頸部と胴部は入念な

第32図 第59号住居跡（2）



第5表 土器観察表（2）

第53号住居跡（第25図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土・産地	焼成	色調	注記	備考
1	椀	13.9	5.6	—	B 3、B 4	A	表, 黒褐色 裏, 暗褐色	SJ11 No. 2	

第57号住居跡（第29図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土・産地	焼成	色調	注記	備考
1	台付甕	—	6.3	8.9	B 4	B	赤褐色	SJ15 No. 1	

第59号住居跡（第31図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土・産地	焼成	色調	注記	備考
1	かざり壺	13.1	14.9	—	B 4	A	うすい赤褐色	SJ17 No. 2.3	
2	壺	14.2	4.4	—	B 4	B	うすい赤橙色	SJ17(A)+床下pit 1	
3	壺	—	18	10.8	B 4	A	にぶい赤褐色	SJ17(B)	
4	台付甕	15.6	3.1	—	B 4	A	にぶい赤褐色	SJ17 床下	
5	高坏	—	5.8	11.4	B 4	A	暗赤褐色	SJ17	
6	壺	—	3.8	6.4	B 4	A	うすい赤褐色	SJ17	

ミガキが行われる。2は折り返し口縁の壺口縁部。3、6は壺胴部で表面は丁寧に磨かれる。赤彩。4、7～9は甕口縁部、9以外は口唇部に刻みがある。10は軽石の浮子と思われる。

第60号住居跡（第33図、図版11）

BC-30・BC-31グリッドで検出された。西側の大部分は調査区域外である。第61号住居跡～第63号住居跡と近接する。付近はかなり密集した分布になっているので対応関係はわからない。かなりの面積で攪乱が入る。一辺が4.0m前後の隅丸方形になるものと思われる。確認面からの深さは0.1m以下できわめて浅い。床は柔らかかった。現状で柱穴も炉跡も検出できなかった。

遺物はわずかに出土した。1は複合口縁の飾り壺である。口縁部と口唇部に付加条3種（網目状燃糸文）が施文される。頸部と内面は丁寧にミガキが入る。2は甕口縁部で刻みが入る。3は高坏の坏部かまたは椀。古墳時代前期。

第61号住居跡（第34図、図版11）

BC-31・BD-31グリッドで検出された。東側半分が調査区域外である。中央部に大きな攪乱が入る。一辺が3.2m前後の隅丸方形をしているものと思われる。深さは0.18m前後で自然堆積であった。現状で柱穴や炉跡は検出できなかった。

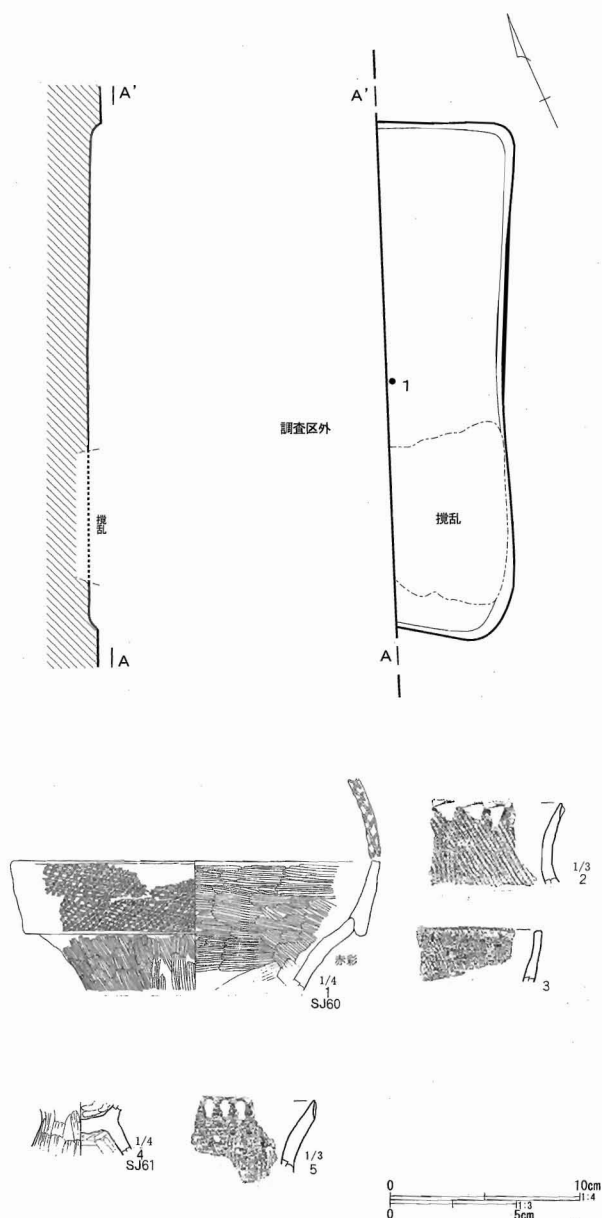
遺物はほとんど出土しなかった。攪乱がかなり多く住居跡かどうかの認定もかなり難しいが、覆土の状況や形状から古墳時代前期の住居跡とした。

第62号住居跡（第35図、第36図、図版11）

BD-30・BD-31グリッドで検出された。第60号住居跡、第61号住居跡、第63号住居跡と近接する。長径・約3.9m、短径・約2.2mの隅丸方形をし、深さ・約0.23m前後であった。柱穴は3本検出された。深さは0.25m前後であった。炉跡は中央部にあり、よく焼けていた。床面はよくしまっていて固かった。埋土は人為堆積で焼土ブロックをかなり多く含んでいた。

本住居跡は火災にあったと思われる。前述の焼土

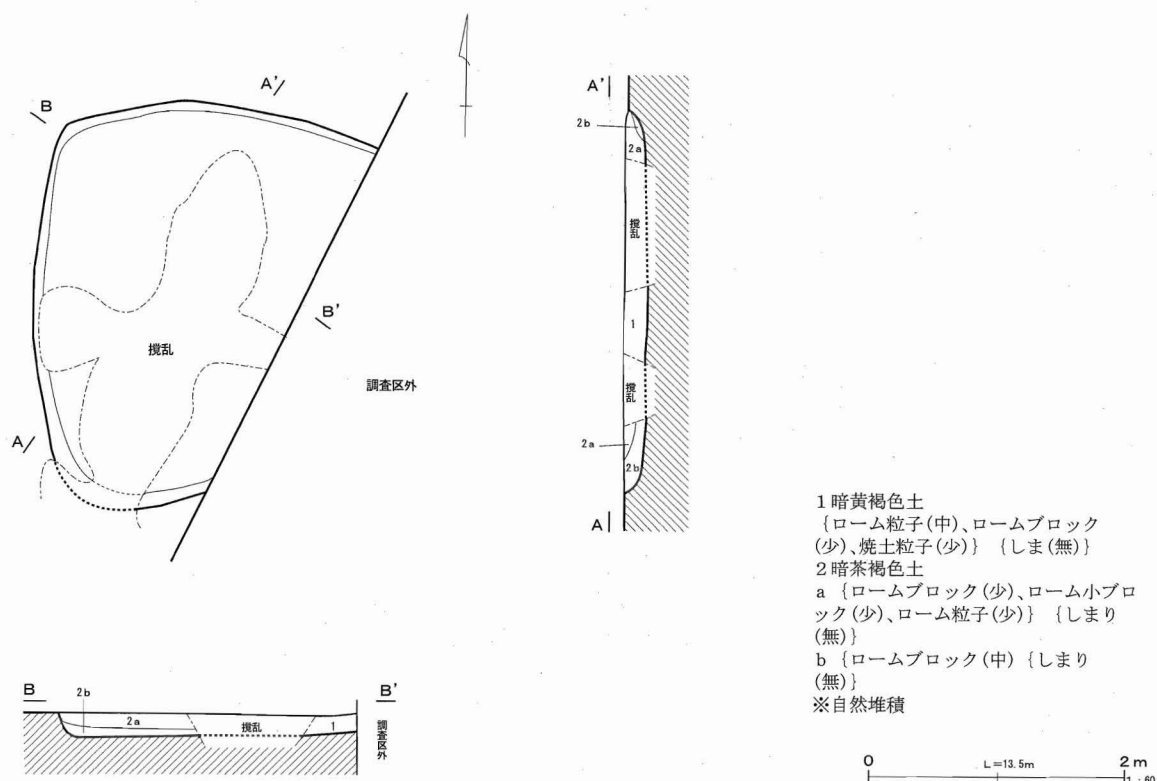
第33図 第60・61号住居跡



ブロックとともに木炭化した柱材や屋根材がある程度組まれた状態で検出された。

遺物は、実測可能な土器が数点出土した。1は複合口縁の飾り壺である。口縁部に単接RLとLRの羽状縄文が施文される。LRの方は多少付加条的である。頸部下にもわずかに縄文が見えている。他に棒状添付文が加えられる。頸部、内面ともに入念に磨かれる。赤彩。2は高坏。脚部と接合はしない。内外面ともに入念なミガキが行われる。脚部に比して坏部の径が異常に大きい。3～7、9は甕口縁部破

第34図 第61号住居跡



片。3～6は口唇部に刻みが入る。8は高坏の坏部で、口縁端部が尖っている。

10～12は手づくねで作られた土製円盤。指頭状の成型痕が明瞭に残っている。用途は不明。13は石製の玉で貫通孔はない。ほぼ全面が磨かれている。14は小形の玉で貫通孔がある。球形でよく磨かれている。古墳時代前期。

第63号住居跡 (第37図、図版12)

BD-30グリッドで検出された。近接して第62号住居跡、第64号住居跡がある。東側の大半が調査区域外で南東コーナー付近を調査したに過ぎない。規模は不明。確認面からの掘り込みはほとんどなく床面が露呈した状態であった。現状で柱穴、炉跡などは出土していない。床面は軟弱であった。

遺物はわずかに出土した。3は高坏の坏部。他は甕または台付甕。1は内外面ともにナデAで内面に

指頭状の痕跡が残る。2は台付甕の台部。古墳時代前期。

第64号住居跡 (第38図、図版12)

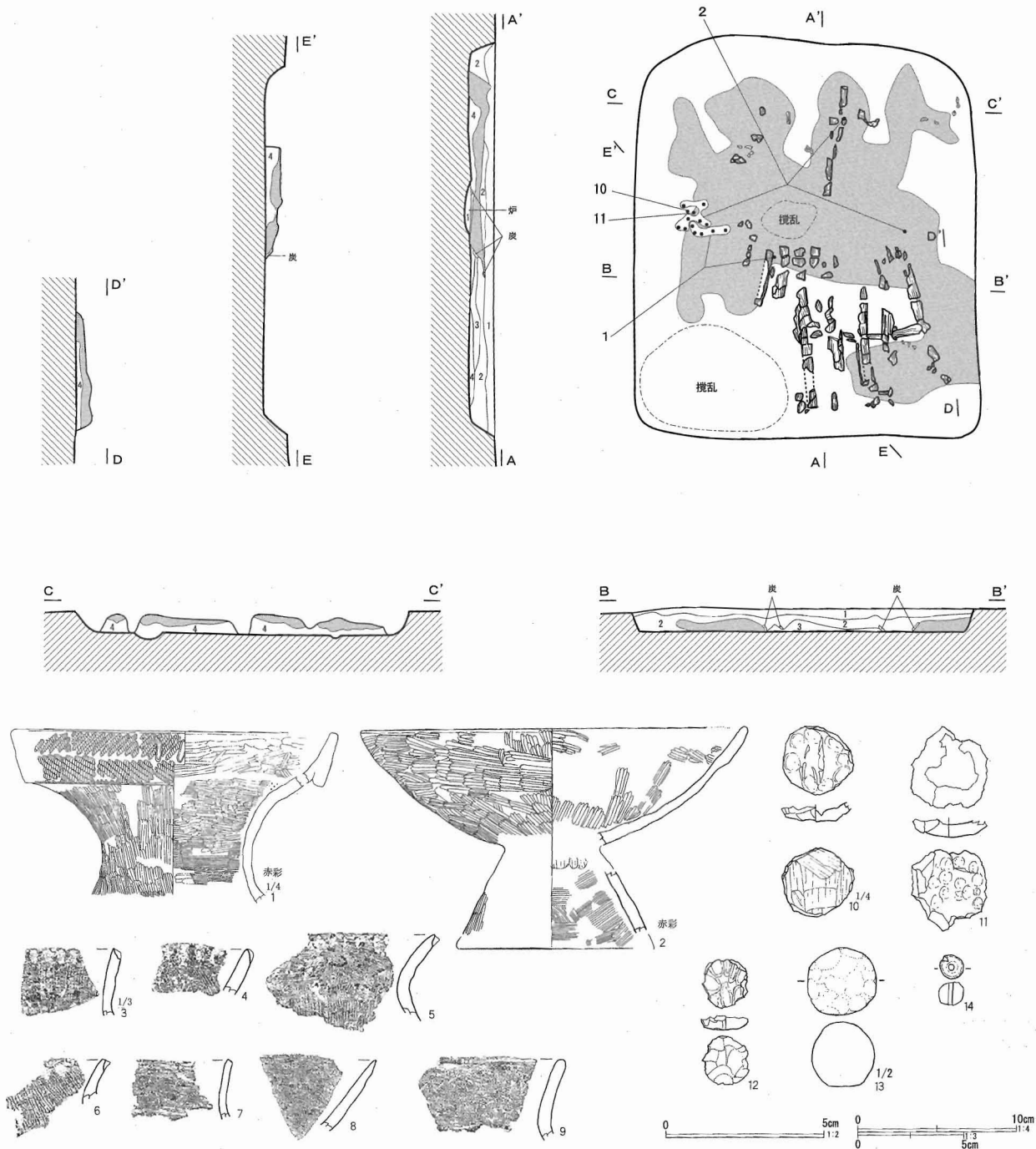
BD-30グリッドで検出された。西側は調査区域外、南側は第65号住居跡に切られている。第63号住居跡、第66号住居跡に近接する。短辺が5.3m前後の隅丸方形になるものと思われる。確認面からの深さは0.15mで浅い。柱穴、炉跡は検出できなかった。床面は柔らかで、人為堆積であった。

遺物はごくわずかに出土した。6は壺底部。7・8は甕口縁部である。7は端部に刻みがある。古墳時代前期。

第65号住居跡 (第38図、図版12)

BD-30・BE-30グリッドで検出された。第64号住居跡、第66号住居跡を切っている。北西側コーナー付近が調査区域外である。長径約5.7m、短径約5.1

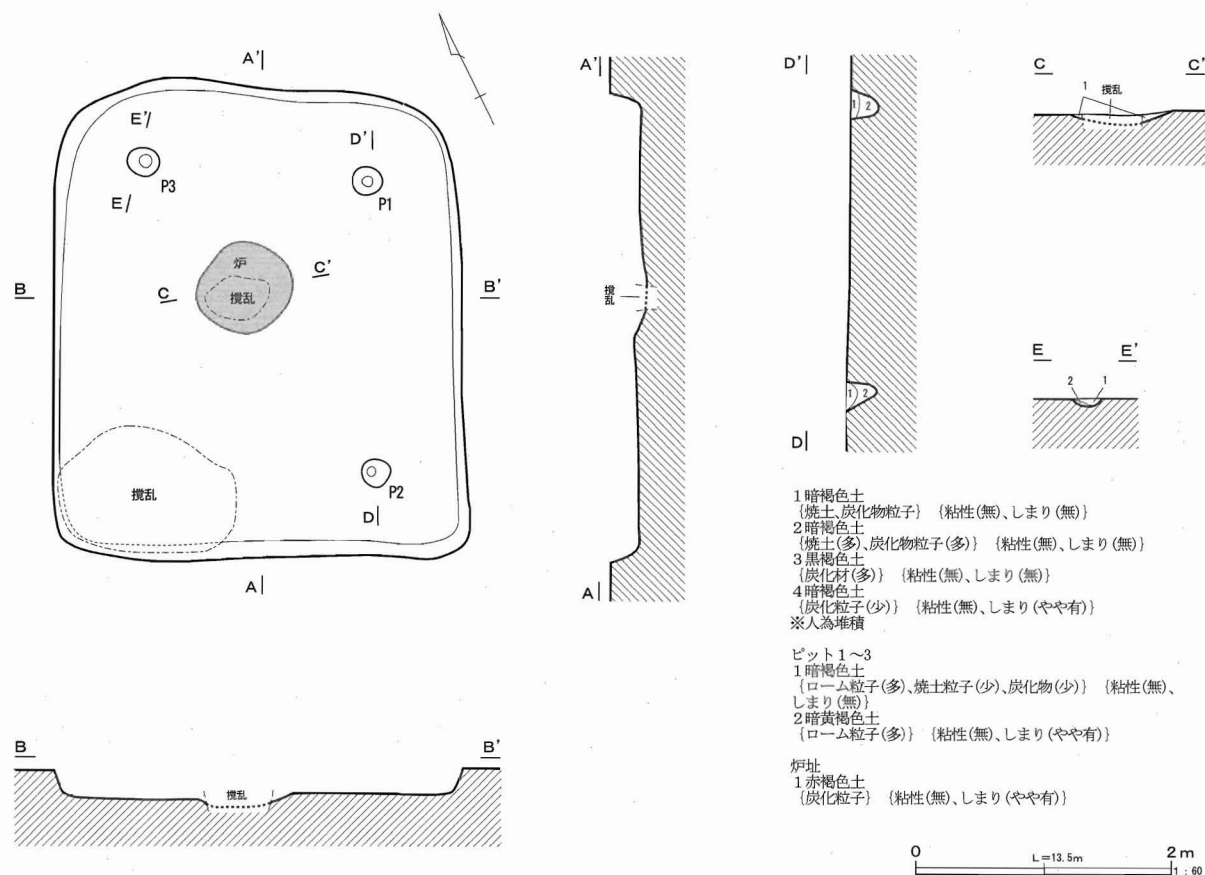
第35図 第62号住居跡（1）



第6表 石器一覧表（2）

図版番号	出土位置	器種	縦×横×厚さ(cm)	重量(g)	石質	備考
17図-11	第46号住居跡	石鏃	4.1×2.1×0.5	3.91	チャート	
31図-10	第59号住居跡	浮子	4.0×3.9×2.2	8.83	軽石	
35図-13	第62号住居跡	玉	2.1×2.1×1.9	10.41	安山岩	
35図-14	第62号住居跡	小玉	0.8×0.7×0.7	0.35	安山岩	

第36図 第62号住居跡（2）



第7表 土器観察表（3）

第60号住居跡（第33図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土・産地	焼成	色調	注記	備考
1	かざり壺	19.5	6.9	—	B 4	A	赤褐色	SJ18 No1	

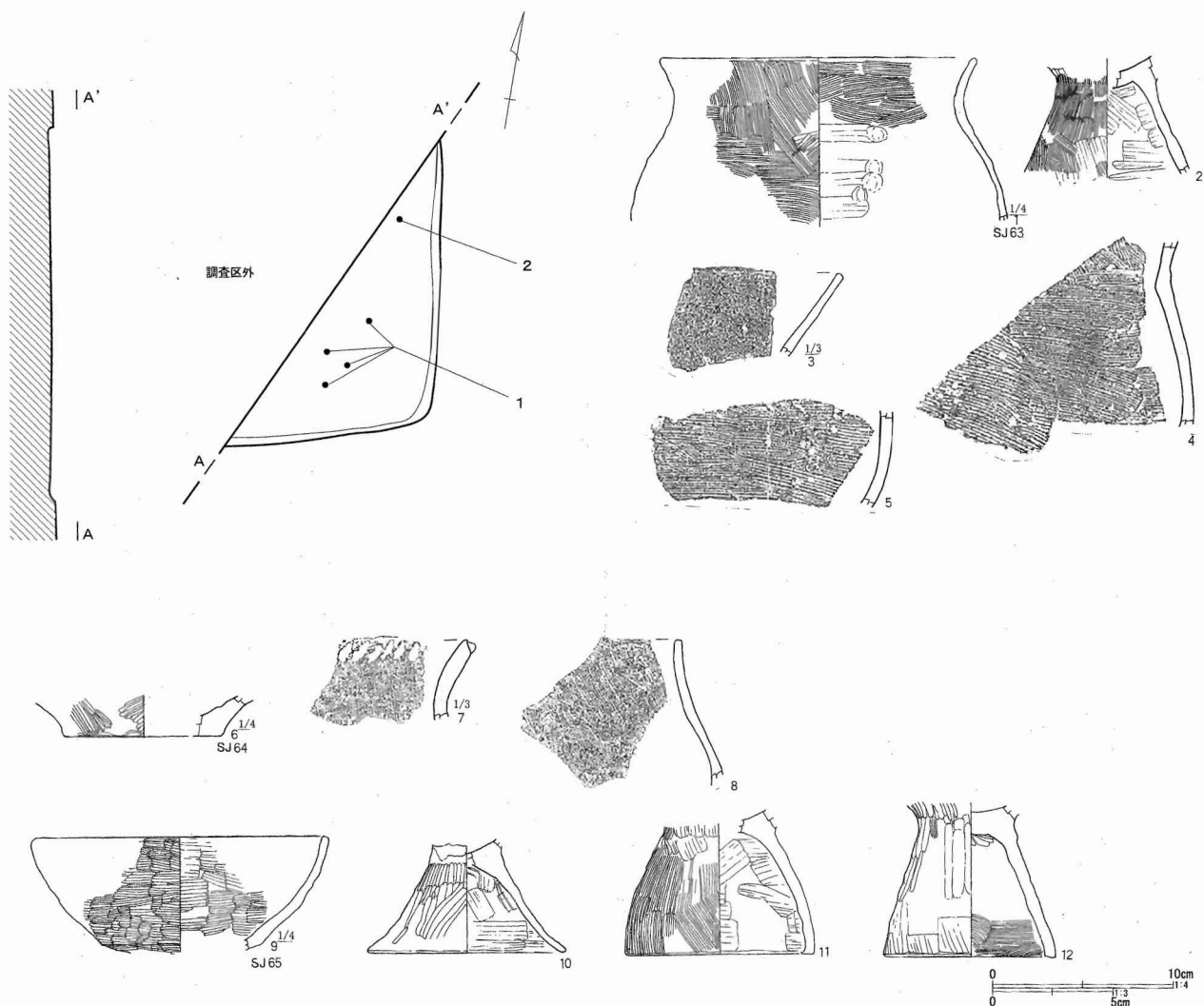
第61号住居跡（第33図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土・産地	焼成	色調	注記	備考
1	台付甕	3.8	2.8	—	B 4	A	褐色土	SJ19 フク土	

第62号住居跡（第35図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土・産地	焼成	色調	注記	備考
1	壺	10.8	10.5	—	B 4	A	赤褐色	SJ20 No12.13.25.26.34.40.42	
2	高坏	24.6	12.8	14	B 4	A	赤褐色	SJ20 No6.9.20.22~24.29.~31.36~39	
10	土製円盤	4.5	1.2	2.4	B 3、B 4		暗褐色	SJ20 No27	
11	土製円盤	—	—	—	B 4	B	暗褐色	SJ20 No28	
12	土製円盤	—	0.9	2	B 4	A	暗赤褐色	SJ20 一括	

第37図 第63・64・65号住居跡



第8表 土器観察表(4)

第63号住居跡(第37図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土・産地	焼成	色調	注記	備考
2	台付甕	—	6.7	—	B 4	B	橙色	SJ21 No.1	
1	甕	17.7	9	—	B 4	B	橙色	SJ21 No.5.7~9	

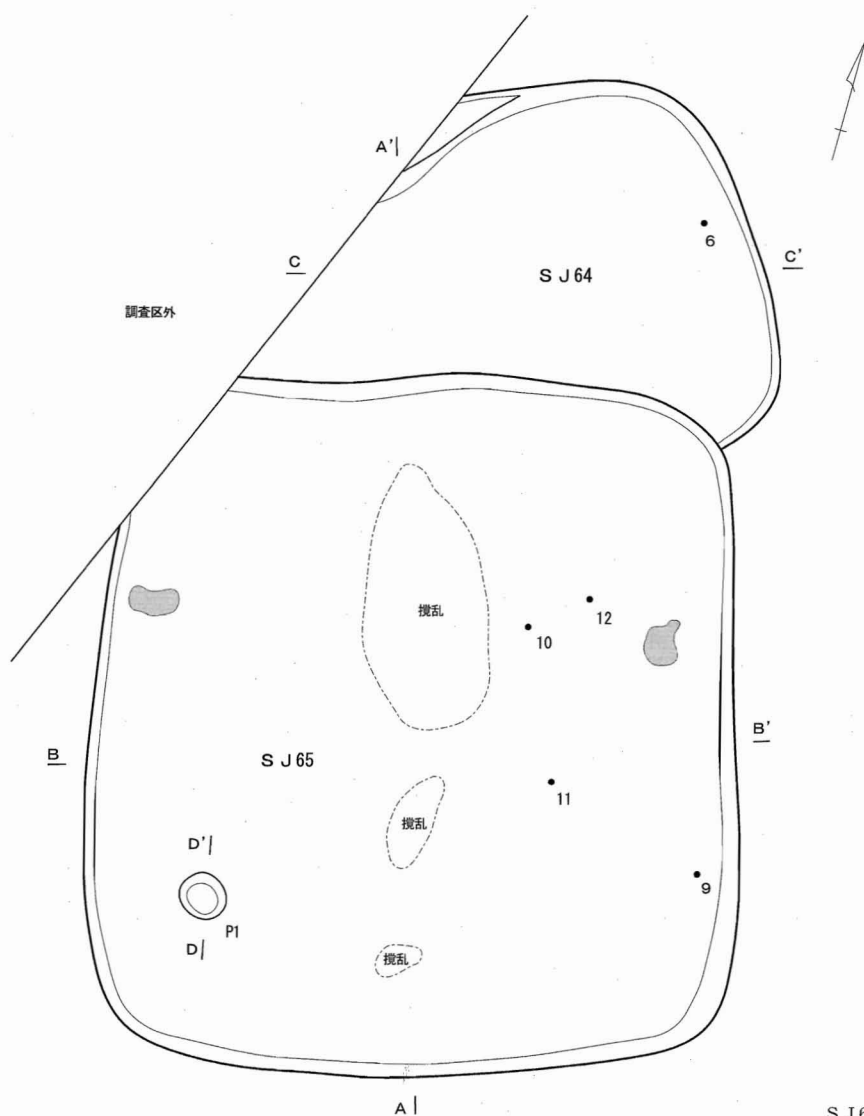
第64号住居跡(第37図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土・産地	焼成	色調	注記	備考
6	壺	—	—	8.8	B 4	A	赤褐色	SJ22 No.1	

第65号住居跡(第37図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土・産地	焼成	色調	注記	備考
9	高坏	16.4	6.4	—	B 4	A	暗褐色土	SJ23a No.12	
10	高坏	—	6.4	11	B 4	C	赤褐色	SJ23a No.9	
11	台付甕	—	8	10.5	B 4	A	褐色	SJ23a No.11	
12	台付甕	—	8.5	9.6	B 4	B	にぶい赤褐色	SJ23a No.4	

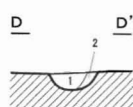
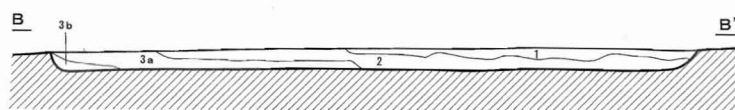
第38図 第64・65号住居跡



S J 64
1 暗褐色土
{炭化粒子} {粘性(無)、しまり(やや有)}
2 暗黄褐色土
{ローム粒子} {粘性(無)、しまり(やや有)}
※人為堆積

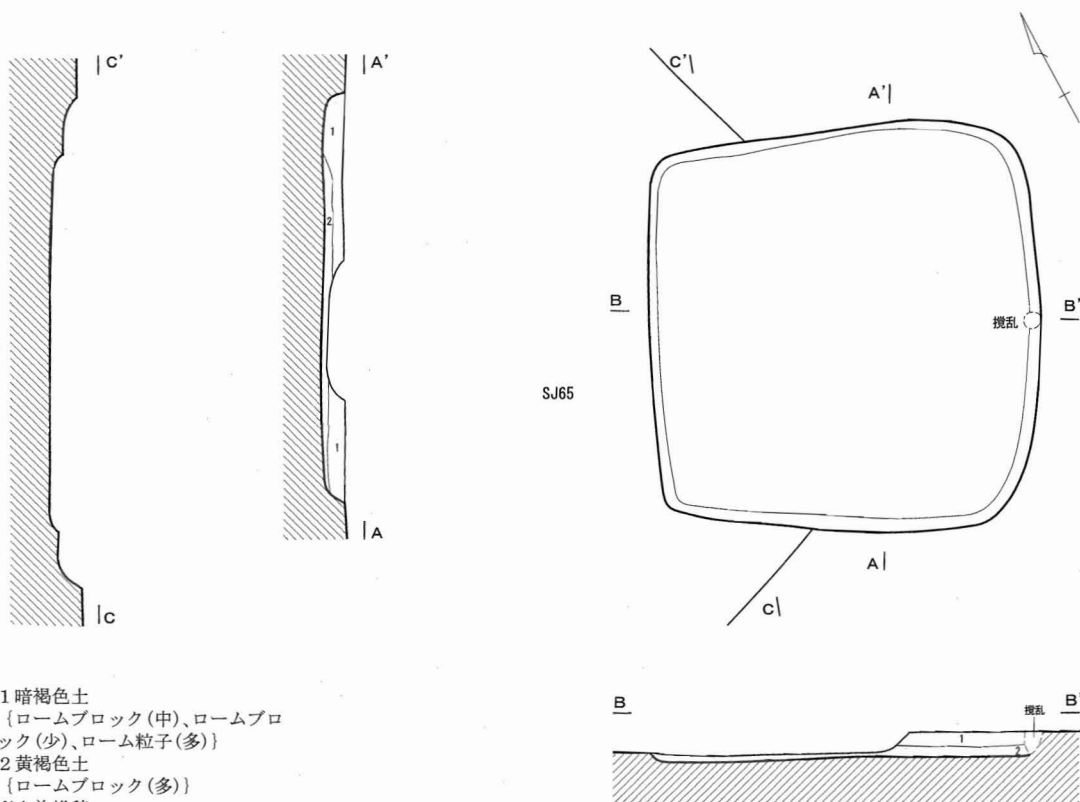
S J 65
1 暗褐色土
{ロームブロック(少)、ローム粒子(多)、炭化粒子(少)}
2 黒褐色土
{ローム小ブロック(少)、ローム粒子(多)、黒色ブロック(少)}
3 暗茶褐色土
a {ローム粒子(少)、炭化粒子(少)}
b {ロームブロック(少)、ローム粒子(少)}
※人為堆積

ビット1
1 黒褐色土
{ロームブロック(少)、ローム小ブロック(少)、ローム粒子(少)} {しまり(無)}
2 黄褐色土
{ロームブロック(多)}
※人為堆積

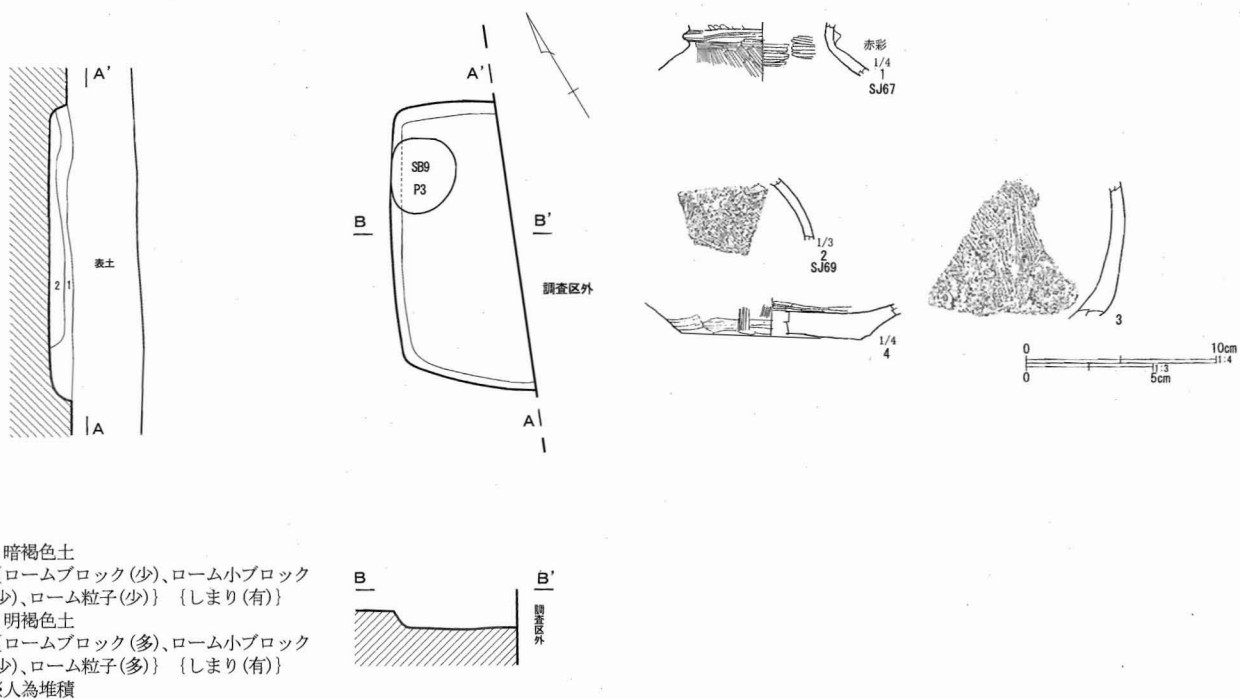


0 L=13.0m 2m
1:60

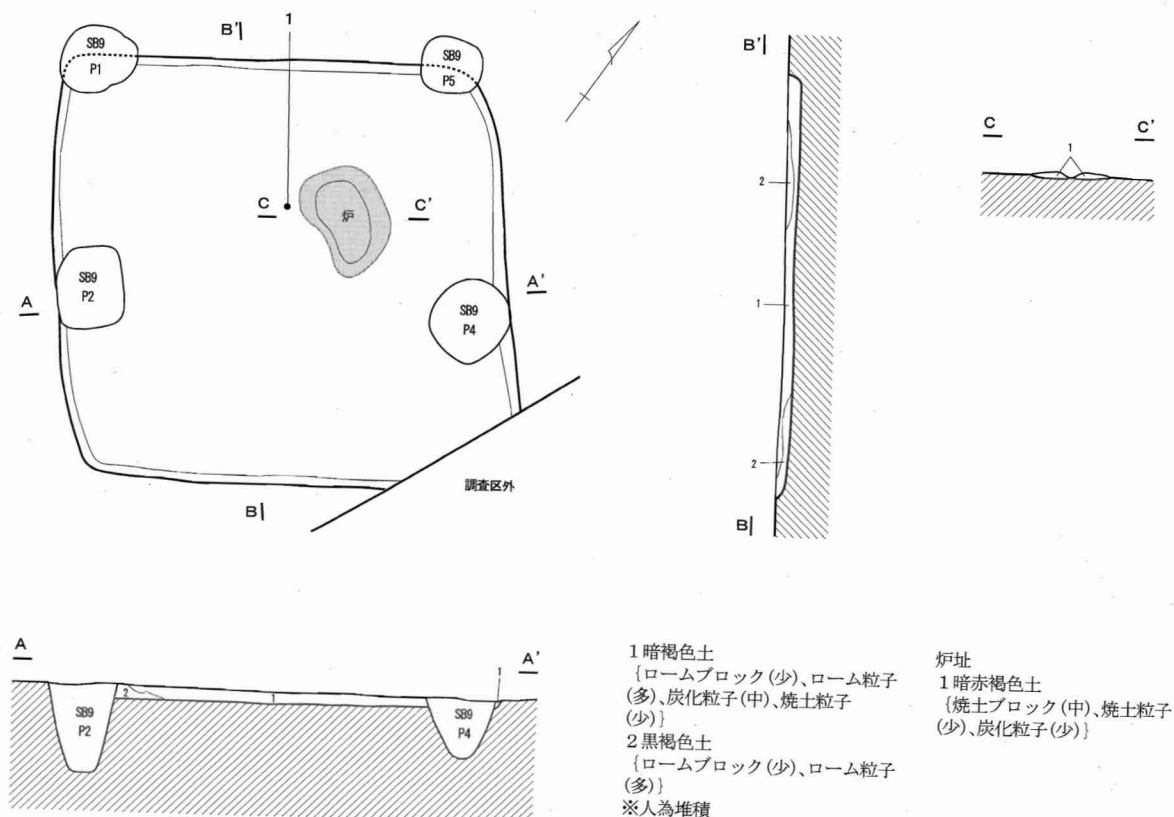
第39図 第66号住居跡



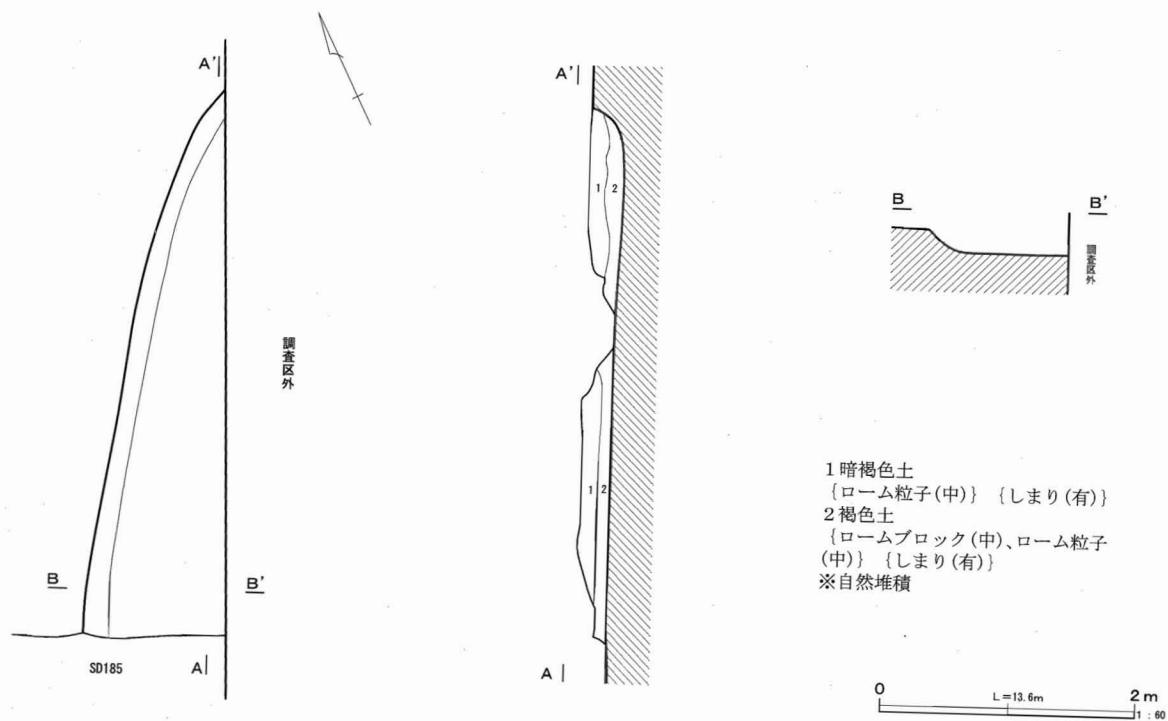
第41図 第67・68・69号住居跡



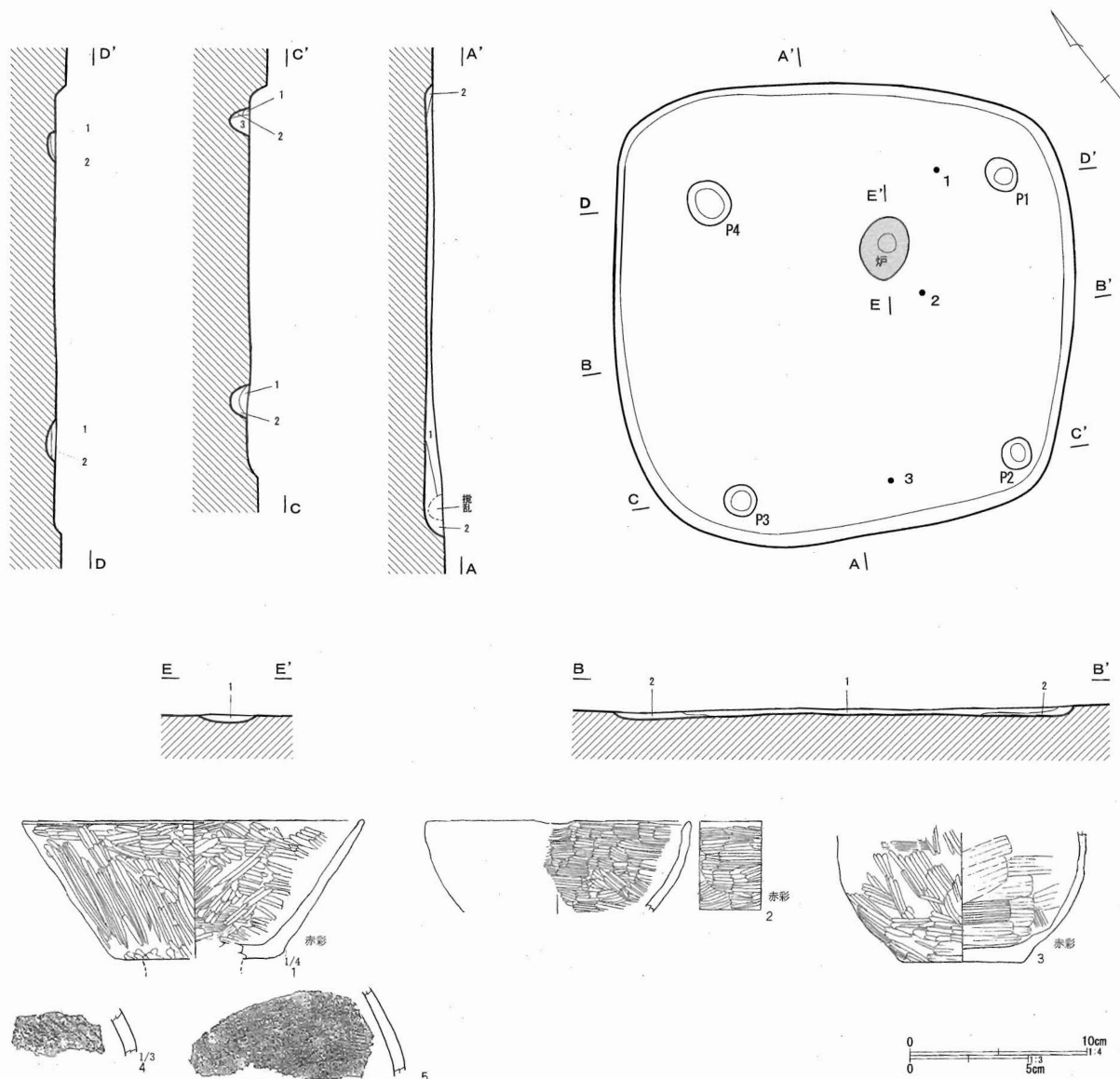
第40図 第67号住居跡



第42図 第69号住居跡



第43図 第70号住居跡



mの隅丸方形をしていて、深さは約0.18mであった。浅い柱穴が1箇所検出されただけで、炉跡などは見つからなかった。覆土では焼土ブロックが2箇所で見出された。床面は軟弱で、埋土は人為堆積であった。

遺物のごくわずかに出土した。9は高坏の坏部。内外面とも入念にミガキがかけられる。坏部下半で屈曲し稜を持つ。10は高坏脚部。荒いつくりで下端部でわずかに開く。11、12は台付甕台部。11は内彎する。12はほぼ直線的に開く。古墳時代前期。

第66号住居跡（第39図、図版12）

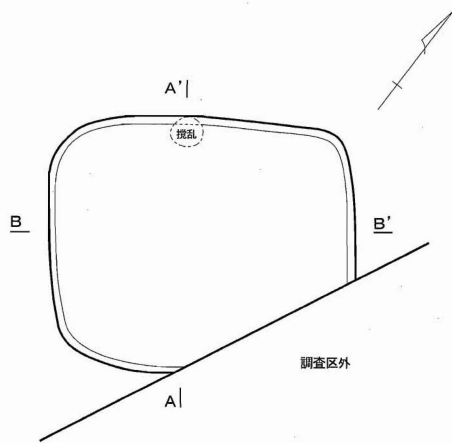
BE-30グリッドで検出された。第66号住居跡に切られるが、床面レベルが下で、全体が把握できた。長径3.3m、短径3.1mの隅丸方形をしていた。柱穴、炉跡などは検出できなかった。床面は軟弱で、埋土にロームブロックを多く含む人為堆積であった。

遺物は、出土しなかった。埋土の状況や軟弱な床面から住居跡との判断は難しいが、ここでは古墳時代前期の住居跡としておきたい。

第67号住居跡（第40図、図版12）

BF-30グリッドで検出された。東側の一部が調査区外であった。第9号掘立柱建物跡に切られている。

第44図 第71号住居跡



S J 71
1 暗褐色土
{ローム小ブロック(少)、ローム粒子(少)} {しまり(無)}
2 黄褐色土
{ロームブロック(少)} {しまり(無)}
※自然堆積

S J 70
1 暗茶褐色土
{ローム粒子(中)、ロームブロック(少)}
2 茶褐色土
{ローム粒子(多)、ロームブロック(中)}
※自然堆積

ピット1~4
1 黒褐色土
{ロームブロック(中)、ローム粒子(中)}
{しまり(有)}
2 褐色土
{ロームブロック(多)} {しまり(有)}
3 茶褐色土
{ロームブロック(少)、ローム粒子(少)}
{しまり(無)}

炉址
1 暗赤褐色土
{焼土小ブロック(中)、焼土粒子(多)}
{しまり(無)}

0 L=13.7m 2m 1:60

第9表 土器観察表(5)

第67号住居跡(第40図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土・産地	焼成	色調	注記	備考
1	小型壺		2.7		B 4	B	暗赤褐色	SJ24 No.5	

第69号住居跡(第42図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土・産地	焼成	色調	注記	備考
3	壺	—	1.8	9.6	B 4	C	橙色	SJ26	

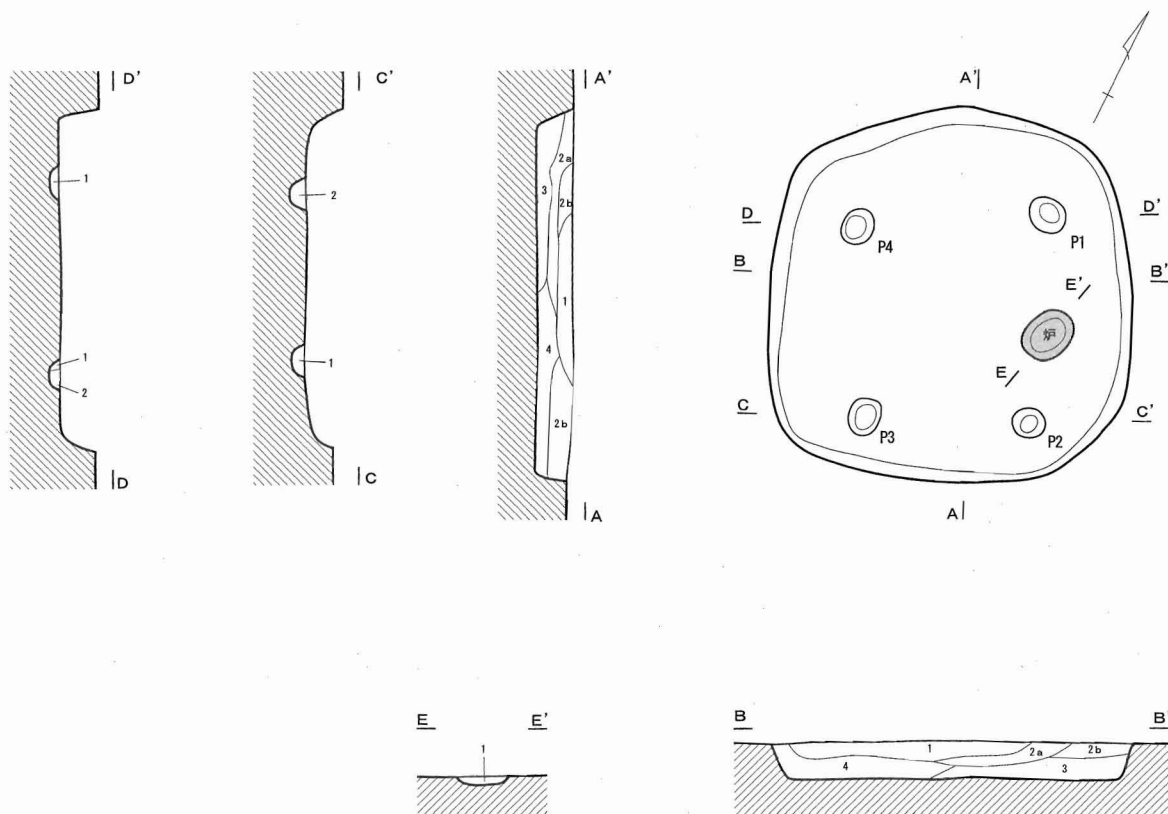
第70号住居跡(第43図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土・産地	焼成	色調	注記	備考
1	高坏	—	—	—	B 4	A	黒褐色	SJ27 No.1	
2	片口碗	14.8	5.2	—	B 4	A	にぶい赤褐色	SJ27 No.4	
3	壺	—	7.3	7	B 4	A	にぶい赤褐色	SJ27 No.2	

第74号住居跡(第47図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土・産地	焼成	色調	注記	備考
1	甕	22.4	—	—	B 4	A	橙色	SJ31 No.8, 12	
2	高坏	—	4.5	—	B 4	C	にぶい橙色	SJ31 No.14	
3	高坏	—	6.5	11.4	B 4	A	赤褐色	SJ31 No.26	
4	台付甕	—	2.5	8.4	A	B	暗褐色	SJ31 No.11	

第45図 第72号住居跡



第68号住居跡が近接する。長径3.7m、短径3.3mの長方形をしていた。確認面からの深さは0.1m前後とかなり浅い。柱穴は検出されなかった。炉跡は中央部北寄りに検出された。焼土の堆積状態は非常によかった。床面は固くしまっていた。土層の堆積状況はとても不自然で人為堆積と思われる。

遺物はほとんど検出できなかったが、かろうじて1点だけ実測できた。1は小形壺の頸部で三角形の突帯が加えられている。古墳時代前期と思われる。

第68号住居跡 (第41図)

BF-30グリッドで検出された。東側の大部分が調査区域外であった。第9号掘立柱建物跡に切られている。一辺2.3m前後の小形住居跡になるものと思われる。確認面からの深さは0.23m前後で、柱穴や炉跡は検出できなかった。床面は軟弱。土層の堆積状況は不自然で、人為堆積と思われる。

遺物は出土しなかった。住居跡の形状や分布状況から古墳時代前期と思われる。

第69号住居跡 (第42図、図版12)

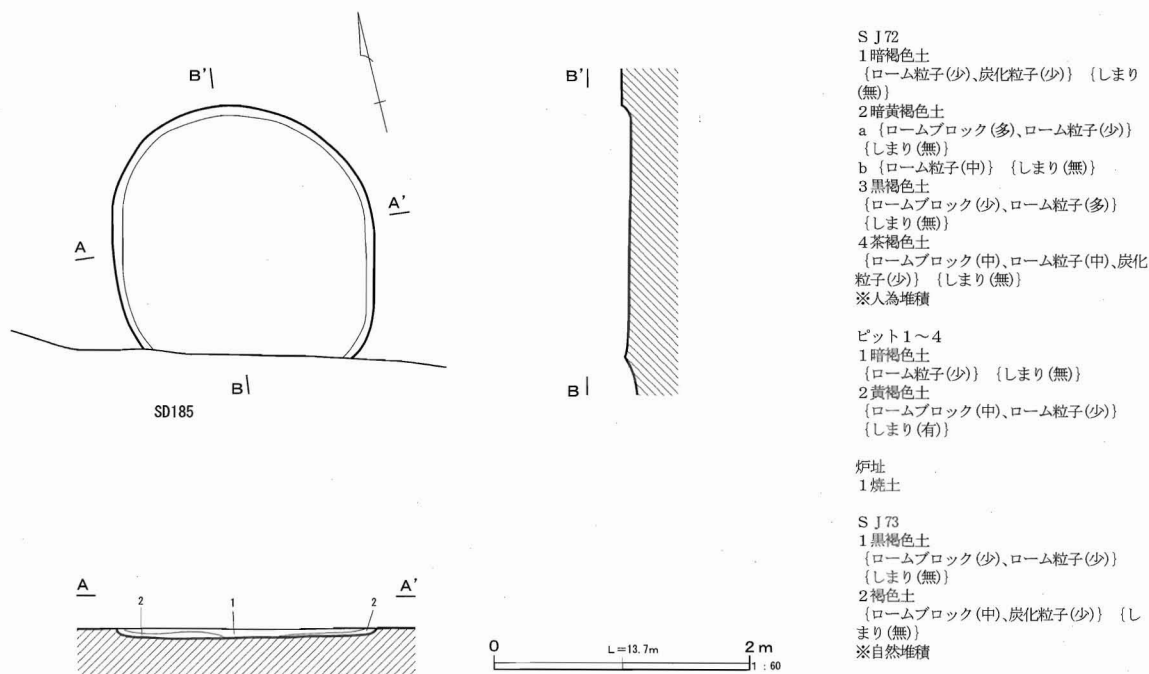
BG-30グリッドで検出された。東側大部分は調査区域外であった。南側は溝に切られていた。一辺を掘りきっていないので規模などは不明であるが、大形住居跡の部類に入る。確認面からの深さは0.3m前後で、埋土の状況は自然堆積であった。現状で、柱穴や炉跡は確認できなかった。床面は軟弱。

遺物はわずかに出土した。1・2は台付甕の胴部破片。3は壺底部。古墳時代前期と思われる。

第70号住居跡 (第43図、図版12)

BG-29・BH-29グリッドで検出された。第71号住居跡、第77号住居跡、第78号住居跡に近接する。一辺が4.0m前後の隅丸方形をしていた。確認面からの深さは約0.1mとかなり浅い。柱穴は4箇所検出

第46図 第73号住居跡



された。西側が0.2m前後の深さで、東側が浅い。炉跡は中央東寄りに検出された。よく焼けていた。床面は中央部付近が固くしまっていた。覆土の埋まり具合は、自然堆積であった。

遺物はわずかに出土した。1は大形高坏の坏部。内外面ともに入念なミガキが施されている。体部下半で水平に屈曲し、稜を持つ。2は片口の椀か。表裏両面ともに入念なミガキがかけられる。3は小形壺の胴部下半部である。表面にはミガキが入る。4・5は壺上半部。古墳時代前期。

第71号住居跡 (第44図、図版12)

BH-29グリッドで検出された。東側コーナー部が調査区域外であった。第70号住居跡、第75号住居跡、第77号住居跡などに隣接する。長径2.4m、短径2.0mの隅丸長方形をしていた。深さは0.1m以下で極めて浅い。柱穴や炉跡は確認できなかった。床面は

軟弱であった。覆土の堆積状況は、自然堆積であった。

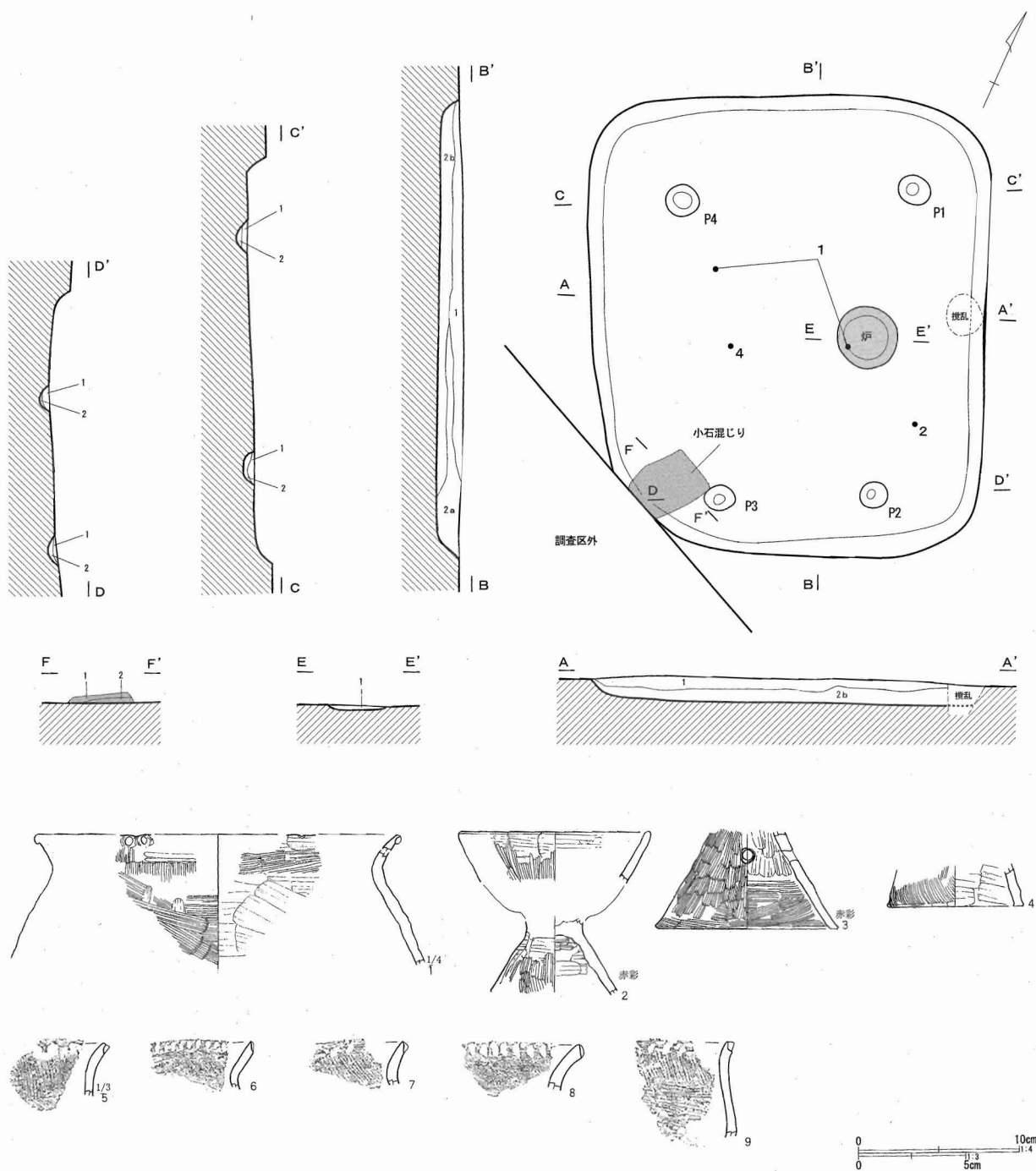
遺物はほとんど出土しなかった。小形の典型的なタイプである。古墳時代前期と思われる。

第72号住居跡 (第45図、図版12)

BI-29グリッドで検出された。第74号住居跡、第75号住居跡、第77・78号住居跡に近接する。一辺3.0m前後の隅丸長方形であった。確認面からの深さは0.3mであった。柱穴は4箇所検出した。いずれも浅いものであった。炉跡は中央部からかなり北に寄って見つかった。よく焼けていた。床面は固くよくしまっていた。覆土の埋まり具合は、不自然で人為堆積と思われる。

遺物はほとんど出土しなかった。古墳時代前期と思われる。

第47図 第74号住居跡



第73号住居跡（第46図、図版12）

BG-29グリッドで検出された。第68号住居跡と第70号住居跡の間にある。南側が溝で切られていた。一辺が約2.1mの丸みがかった隅丸方形であった。深さは0.1m以下で極めて浅い。柱穴や炉跡は検出できなかった。床面は軟弱であった。覆土の状況は、

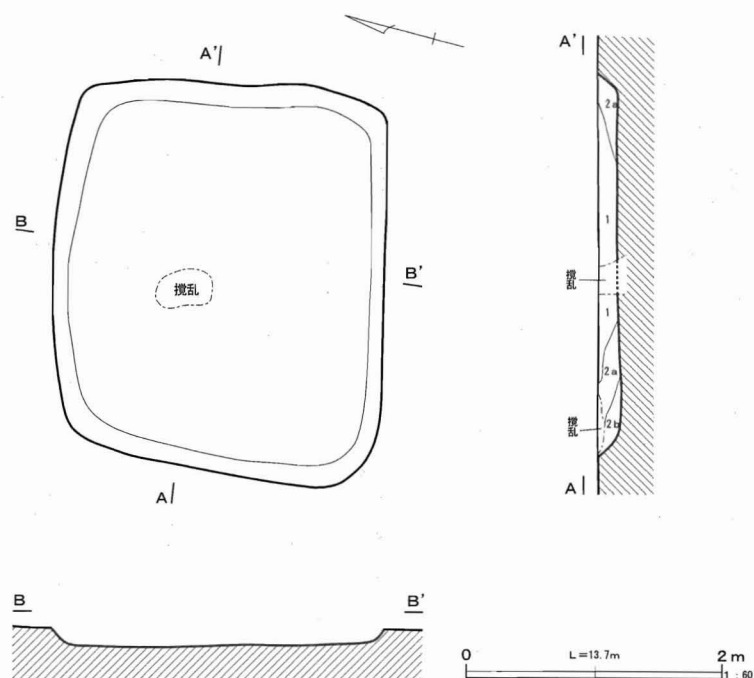
自然堆積であった。

遺物は出土しなかった。古墳時代前期と思われる。

第74号住居跡（第47図、図版13）

BI-29・BI-30グリッドで検出された。南西側コーナーの一部分が調査区外であった。第72号住居跡が近接する。長径4.3m、短径3.7mの隅丸長方形をし

第48図 第75号住居跡



S J 74
1 黒褐色土
{ロームブロック(少)、ローム粒子(中)、炭化粒子(少)} {しまり(有)}
2 暗褐色土
a {ロームブロック(少)、ローム粒子(少)、炭化粒子(少)} {しまり(有)}
b {ロームブロック(中)、ローム粒子(多)} {しまり(有)}
※人為堆積

ビット 1~4
1 暗褐色土
{ロームブロック(少)}
2 黄褐色土
{ロームブロック(中)}

炉址
1 淡赤茶褐色土
{焼土粒子(中)、炭化粒子(少)} {しまり(無)}

小石混じりのセクション
1 茶褐色土
{ローム小ブロック(少)、小石(少)}
2 黄褐色土
{ロームブロック(中)}

S J 75
1 黒褐色土
{ローム粒子(少)、焼土粒子(少)} {しまり(有)}
2 暗黄褐色土
a {ローム小ブロック(少)、ローム粒子(少)} {しまり(有)}
b {ロームブロック(中)} {しまり(有)}
※自然堆積

ていた。確認面からの深さは約0.25mであった。柱穴は4箇所確認できた。いずれも浅いものであった。炉跡は中央部の東寄りで検出された。あまり焼けてはいなかった。床面は、軟弱であった。南西コーナ一部付近で、小石交じりの層がブロック状に固まって検出された。床面にまで達する。覆土の埋まり具合は、不自然で人為堆積と思われる。

遺物はわずかに出土した。1は甕の上半部で口唇部に刻みがある。2は高坏。接合しないものを図上で復元した。小さめの坏部であるいは坏部下部で屈曲するかもしれない。口縁端部は小口ナデB。3は高坏の坏部。下部であまり開かない。貫通孔を持つ。赤彩。4は台付甕の台部。5~9は甕口縁部。いずれにも刻みがある。6、8は口唇刻み部に面を持つ。

第75号住居跡 (第48図)

BH-29・BI-29グリッドで検出された。縄文時代の炉穴上に構築されていた。長径約3.1m、短径約2.7mの隅丸長方形をしていた。確認面からの深さは約0.15mと浅かった。柱穴や炉跡は検出できなかった。

埋土の状況は自然堆積であった。

遺物などは出土していないが、古墳時代前期と思われる。

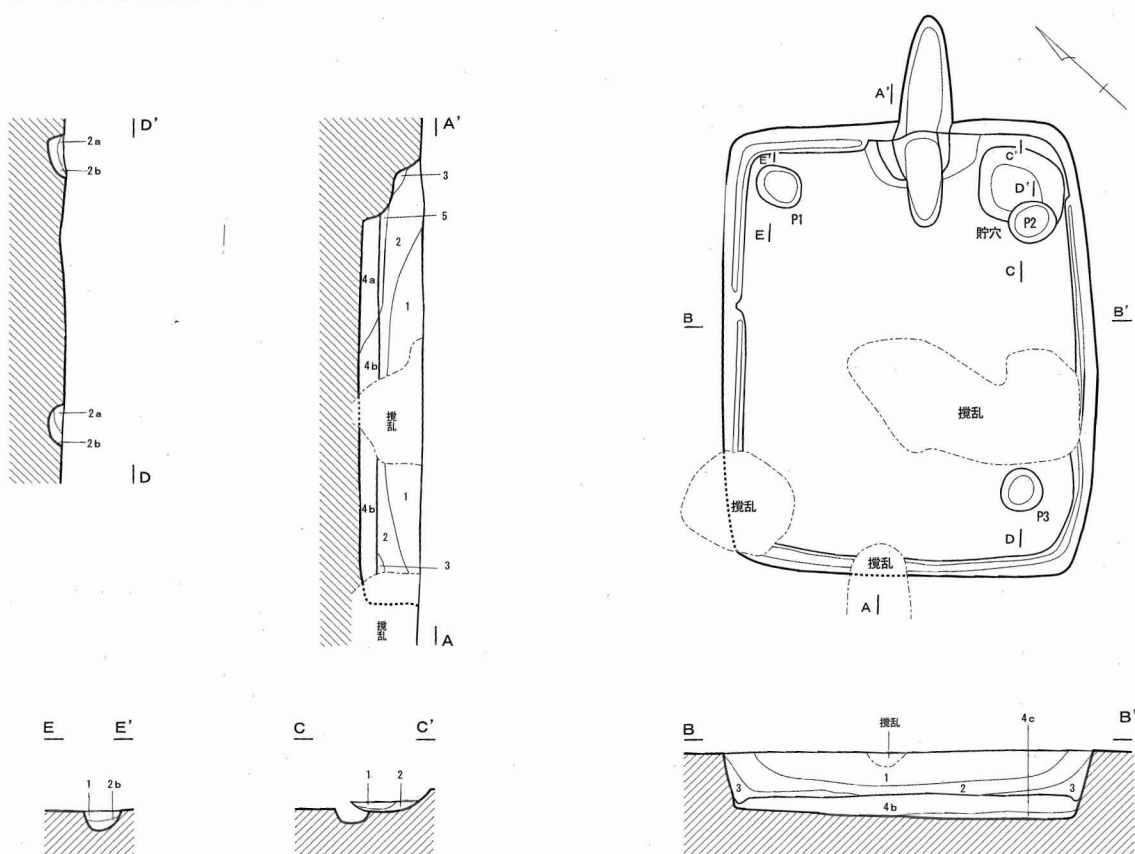
第76号住居跡 (第48図、第49図、図版13)

BH-28・BH-29・BI-28グリッドにわたって検出された。古墳時代前期の住居跡を切って作られている。かなりの部分に攪乱が入っていた。長径3.6m、短径3.0mの長方形をしていた。深さは0.55mでかなり深い。壁下には溝が回っている。北東片中央にカマドを持つ。カマドは袖の部分が残っていた。燃焼部からは段になっていて、約1.0mの煙道部に続く。カマドは作り変えられていて下側から古い燃焼部が検出された。

柱穴は3本検出された。残りは攪乱中か。いずれも浅いものであった。カマド東側に浅い貯蔵穴が柱穴に近接して検出された。

床面は、貼り床になっていて、床下の土層は人為堆積であった。改築があったと考えられる。床面下の柱穴は4本検出された。(第51図) いずれも浅い

第49図 第76号住居跡（1）



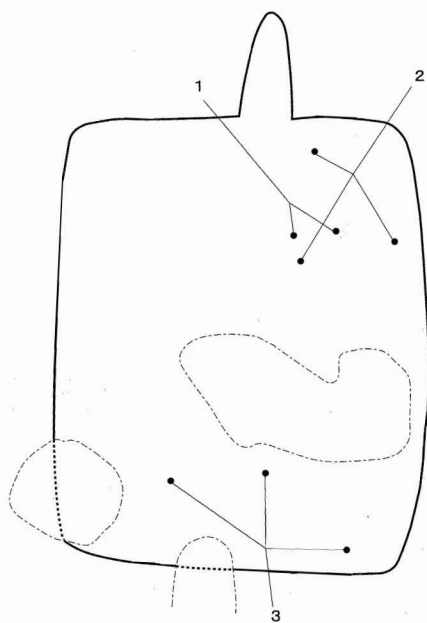
- 1 黒色土
 {ローム粒子(中)} {しまり(有)}
- 2 暗茶褐色土
 {ローム小ブロック(少)、ローム粒子(多)、炭化粒子(少)、焼土粒子(微)}
 {しまり(有)}
- 3 茶褐色土
 {ローム粒子(中)、焼土粒子(少)、炭化粒子(少)}
 {しまり(有)}
- 4 暗茶褐色土
 a {ロームブロック(少)、ローム粒子(多)、焼土ブロック(少)、焼土粒子(多)} {しまり(有)}
 b {ロームブロック(少)、ローム粒子(中)、炭化粒子(少)} {しまり(有)}
 c {ロームブロック(少)、焼土粒子(中)、炭化粒子(中)} {下面カマド崩壊土}
- 5 黒褐色土
 {粘土ブロック(中)、炭化粒子(中)、焼土粒子(中)}
 {上面たき口部}
- ※自然堆積

貯蔵穴

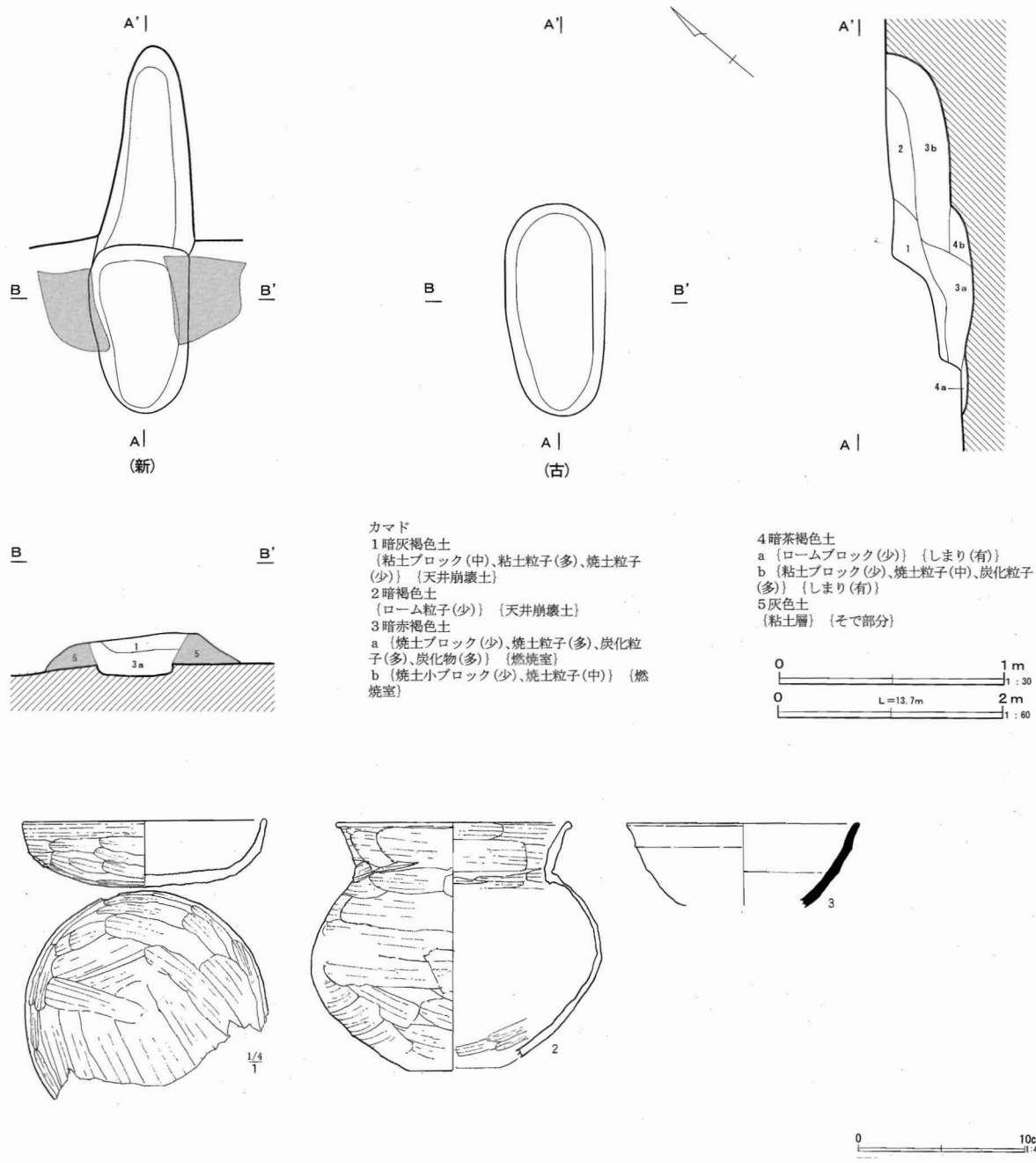
- 1 黒褐色土
 {ローム小ブロック(少)、炭化粒子(中)、粘土ブロック(中)} {しまり(無)}
- 2 暗褐色土
 {ロームブロック(少)、黒色ブロック(少)} {しまり(無)}

ビット1～3

- 1 暗褐色土
 {ロームブロック(少)、ローム粒子(少)} {しまり(無)}
- 2 黄褐色土
 a {ロームブロック(中)} {しまり(無)}
 b {ロームブロック(多)} {しまり(無)}



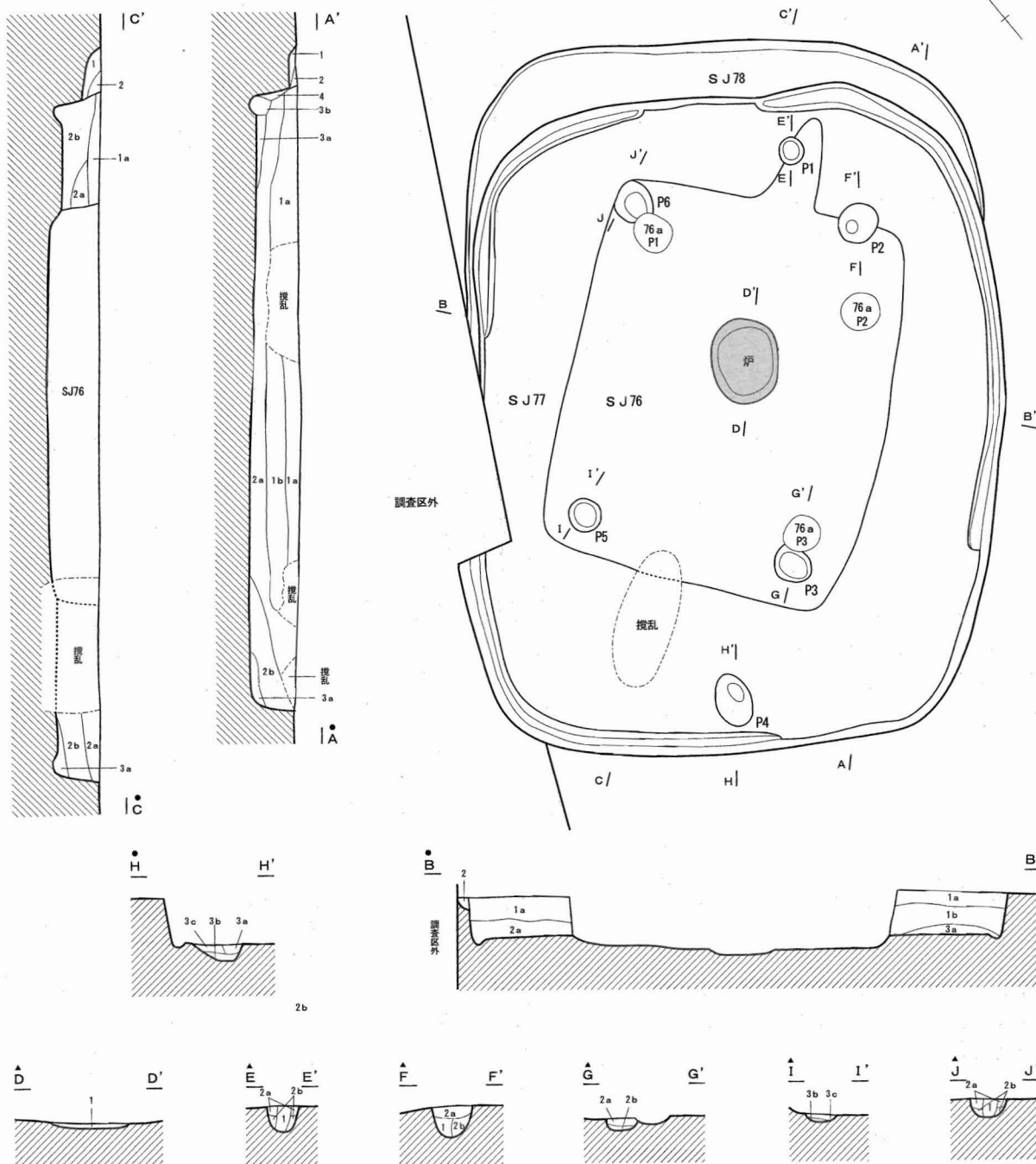
第50図 第76号住居跡（2）



第10表 土器観察表（6）
第76号住居跡（第50図）

番号	器 種	口径	器高	底径	胎土・産地	焼成	色 調	注 記	備 考
1	坏	14.7	4	11.5	A、C	B	暗赤褐色	SJ33a No.13.40	
2	壺	14.2	15	5.8	A	A	暗赤褐色	SJ33a No.3.12.14	
3	須恵器坏	14	5		A、C、H(小)	A	灰白色	SJ33a No.22.32.33	南比企

第51図 第77・78号住居跡



S J 77

1 暗褐色土

a {ローム小ブロック(少)、ローム粒子(少)} {しまり(有)}

b {ロームブロック(中)、ローム小ブロック(中)、ローム粒子(中)} {しまり(有)}

2 黒褐色土

a {ロームブロック(少)、ローム小ブロック(中)、ローム粒子(多)、炭化粒子(少)} {しまり(有)}

b {ローム粒子(少)} {しまり(有)}

3 暗黄褐色土

a {ロームブロック(中)} {しまり(有)}

b {ローム粒子(中)} {しまり(有)}

4 黄褐色土

{ロームブロック(多)} 壁崩落土

※自然堆積か

ビット1~6

1 暗褐色土

{ロームブロック(少)、ローム粒子(少)}

2 赤褐色土

a {ロームブロック(多)} {しまり(有)}

b {ロームブロック(中)} {しまり(有)}

3 暗茶褐色土

a {ローム粒子(少)} {しまり(無)}

b {ロームブロック(少)} {しまり(無)}

c {ロームブロック(少)、炭化粒子(少)} {しまり(無)}

炉址

1 暗赤褐色土

{焼土ブロック(少)、焼土粒子(少)、炭化粒子(少)}

{しまり(無)}

S J 78

1 黒黄褐色土

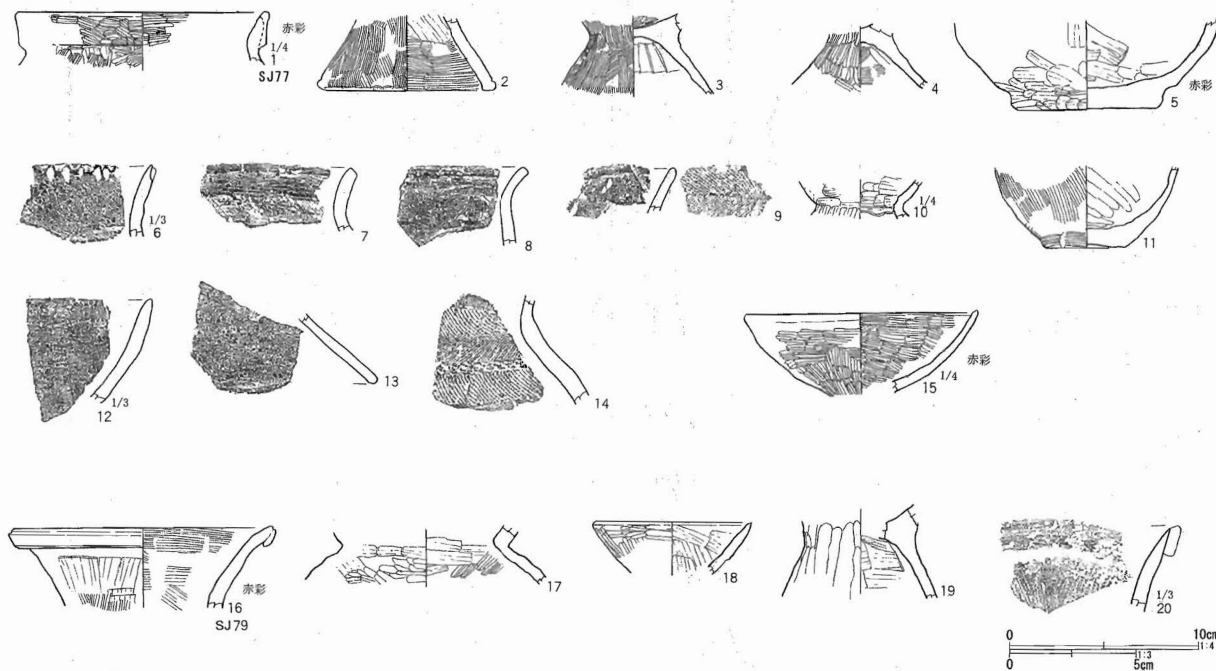
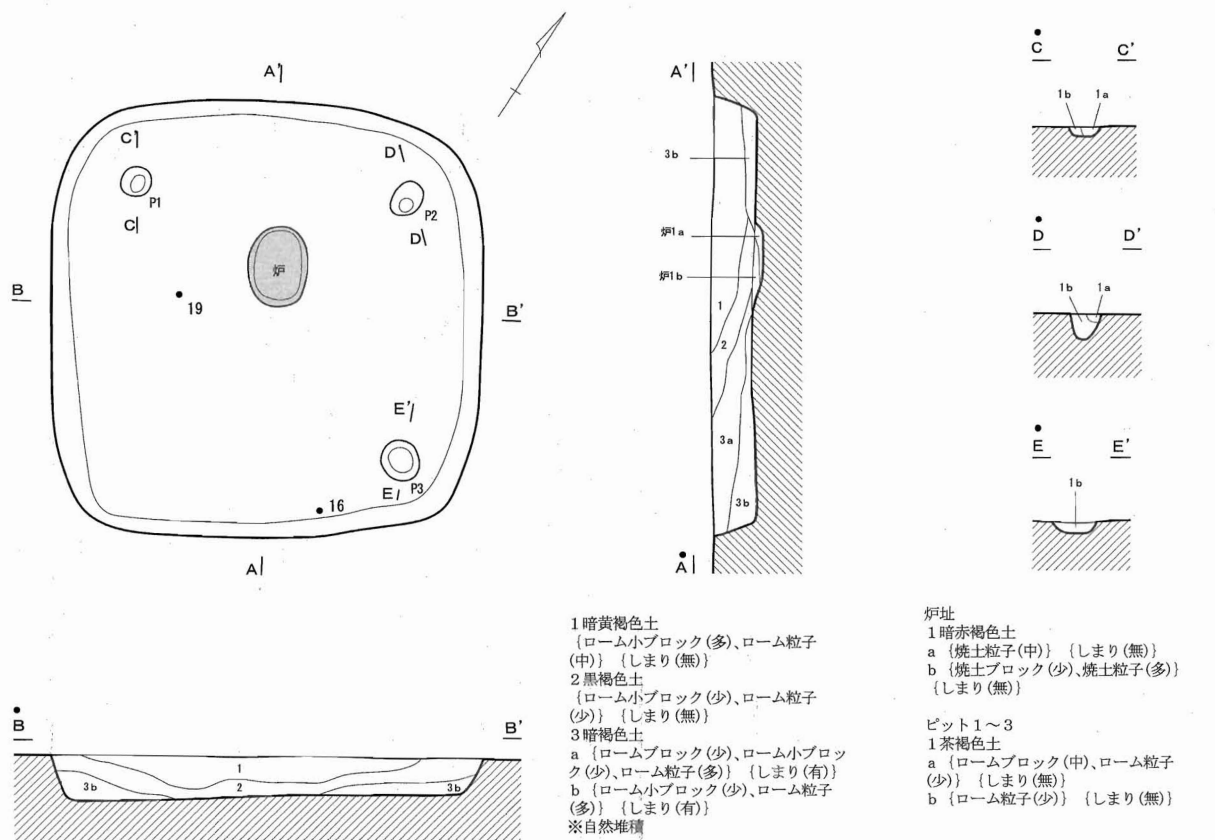
{ローム粒子(少)} {しまり(無)}

2 暗黄褐色土

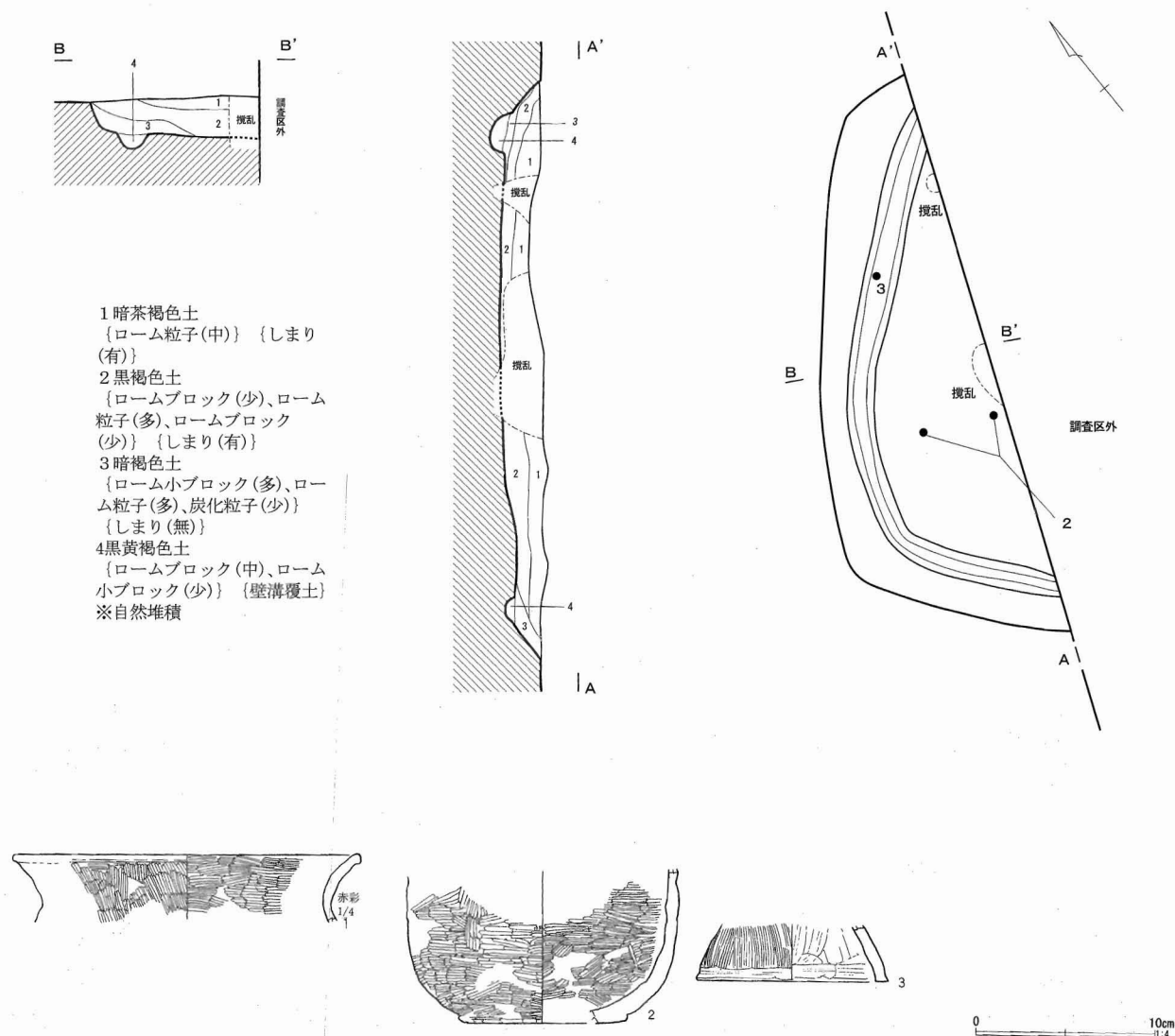
{ロームブロック(少)、ローム小ブロック(少)} {しまり(無)}

※自然堆積

第52図 第77・79号住居跡



第53図 第80号住居跡



ものであった。

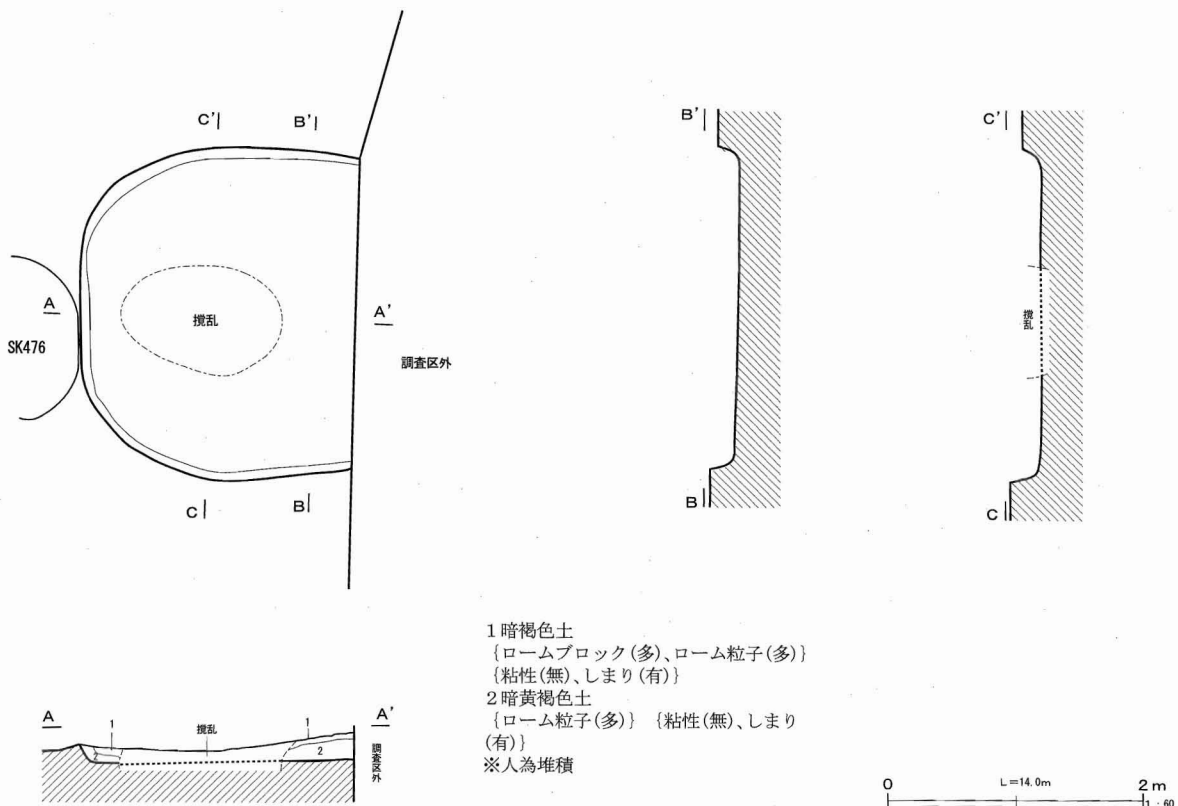
遺物は、土器破片と鉄碎が出土した。鉄碎は数点であった。土器はかなりの数の古墳時代前期土器が混入していた。これらについては、すべて第77号住居跡で説明する。1は体部にケズリが入る坏で口縁部はナデられる。2はケズリで整形された甕。口縁部は外反し端部で丸みを帯びる。胴部はほぼ球形に張り出す。ケズリで整形されている。3は須恵器碗で全体に回転ナデ。胎土が砂っぽく、わずかに小さな針状白色粒子が入る。南比企産で時期が土師器より

新しく混入か。確実な土師器年代で8世紀第三四半期前後と想定しておきたい

第77号住居跡（第51図、第52図、図版13）

BH-28・BH-29・BI-28・BI-29グリッドに渡って検出された。西側が調査区域外であった。中央部分がそっくり第76号住居跡に切られていて、古墳時代前期の第78号住居跡を切っていた。第70号住居跡～第72号住居跡、第75号住居跡が近接する。長径-6.1m、短径-4.9mの隅丸長方形をしていた。確認面からの深さは0.5m前後であった。南側コーナー以外は壁

第54図 第81号住居跡



下に溝を持っていた。柱穴は2本検出したが主柱穴の位置ではない。炉跡は中央部からわずかに北寄りで検出された。第76号住居跡に削られてわずかに残存するだけであった。床面は比較的固くしまっていた。覆土の堆積状況は自然堆積と思われる。

遺物の大部分は、第77号住居跡覆土から出土した。ここでまとめて説明する。1は小形壺口縁部。折り返し口縁は直立気味の特徴的なものである。内外面ともにミガキが加えられる。2・3は台付甕台部。6～8は甕口縁部。9、14は飾り壺。9は口縁部裏面に縄文が施文される。14は横「S」字状文と羽状縄文が施文される。4、12、13は高坏。脚部は下方で大きく開く。

第77号住居跡からプライマリーに出土したのは15の高坏だけであった。内外面にミガキの入った屈曲のない坏部を持つ。古墳時代前期。

第78号住居跡 (第51図、第52図、図版13)

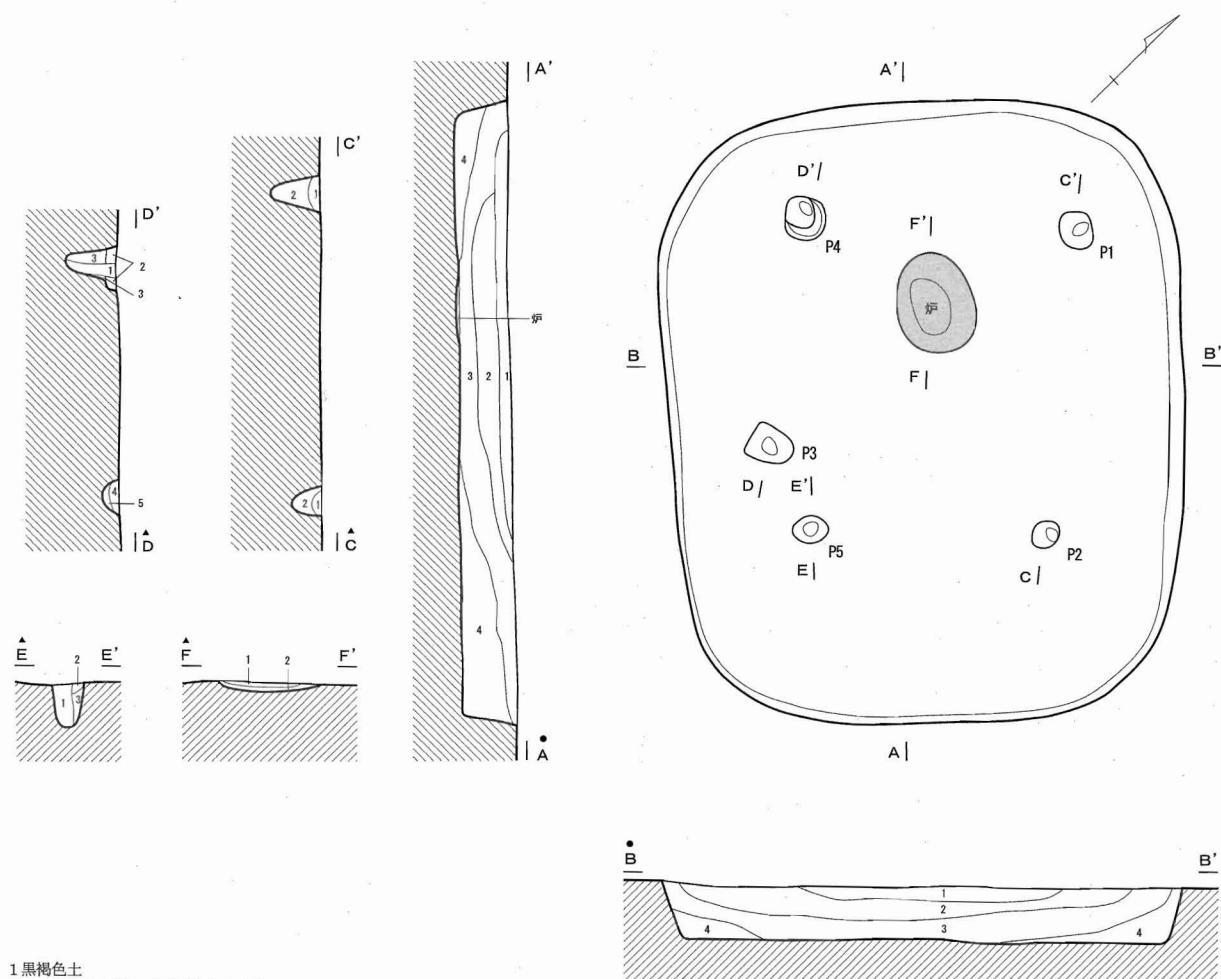
BH-28・BH-29グリッドに渡って検出された。第76号住居跡、第77号住居跡に大部分が切られていた。北東部分がわずかに残存する。一辺が4.7m前後の隅丸方形をしていたと思われる。確認面から深さは0.1m前後とかなり浅い。現状で柱穴も炉跡も検出できなかった。床面は軟弱であった。

遺物は出土しなかった。時期は古墳時代前期と思われる。

第79号住居跡 (第52図、図版14)

BJ-28グリッドで検出された。南西コーナー付近が木の根でかなり攪乱されていた。近接する住居跡は第80号住居跡であった。一辺が3.5m前後の隅丸方形をしていた。確認面からの深さは0.35m前後であった。柱穴は3箇所検出され、いずれも浅かった。炉跡は中央部付近で検出された。楕円形であまり焼

第55図 第82号住居跡



- 1 黒褐色土
{ローム粒子(少)} {粘性(無)、しまり(やや有)}
- 2 暗褐色土
{ロームブロック(少)} {粘性(無)、しまり(やや有)}
- 3 暗黄褐色土
{ロームブロック(多)、ローム粒子(多)、炭化粒子(少)} {粘性(無)、しまり(無)}
- 4 黒褐色土
{ローム粒子(多)} {粘性(無)、しまり(やや有)}

炉址

- 1 灰黒色土
{焼土粒子(少)、炭化粒子(少)}
- 2 黒褐色土
{焼土ブロック(少)}

ビット1~2

- 1 暗褐色土
{ローム粒子(少)、炭化粒子(少)} {粘性(無)、しまり(無)}
- 2 暗褐色土
{ロームブロック(多)} {粘性(無)、しまり(無)}

ビット3~4

- 1 暗褐色土
{ローム粒子(少)} {粘性(無)、しまり(無)}
- 2 暗褐色土
{ロームブロック、ローム粒子} {粘性(無)、しまり(無)}
- 3 暗褐色土
{ロームブロック(多)} {粘性(無)、しまり(有)}

4 黒褐色土

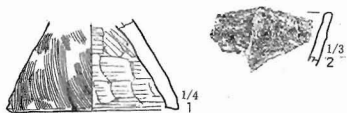
- {ローム粒子(少)、炭化粒子(少)} {粘性(無)、しまり(無)}

5 暗黄褐色土

- {ローム粒子(多)} {粘性(無)、しまり(無)}

ビット5

- 1 暗褐色土
{ローム粒子(少)} {粘性(無)、しまり(無)}
- 2 暗褐色土
{ロームブロック(多)} {粘性(無)、しまり(無)}
- 3 暗褐色土
{ロームブロック(多)} {粘性(無)、しまり(有)}



けてはいなかった。床面は固くしまっていた。覆土の埋没状況は自然堆積であった。

遺物はわずかに出土した。16、17、20は壺破片で

ある。16は折り返し口縁で小口ナデBが入り荒い印象である。20も同様の折り返し口縁部。18は高坏の坏部。19は台付甕の台部。

第11表 土器観察表(7)

第77号住居跡(第52図)

番号	器 種	口径	器高	底径	胎土・産地	焼成	色 調	注 記	備 考
1	壺	13.4	2.7	-	A	A	赤褐色	SJ33a No10	76住覆土
2	台付甕		3.9	9.4	A	B	暗赤褐色	SJ33a No11	76住覆土
3	台付甕	—	4.2	—	B 3、B 4	A	にぶい赤褐色	SJ33a No. 2	76住覆土
4	高坏		3.2		B 4	A	暗赤褐色	SJ33a No16	76住覆土
5	壺		4.9	7.2	B 3、B 4	A	暗赤褐色	SJ33a No45	76住覆土
10	小型壺		2		B 4	A	橙色	SJ33a No46	76住覆土
11	小型壺	—	4.3	4.2	B 4	A	暗赤褐色	SJ33a	76住覆土
15	碗	12.4	4.2	—	A	B	橙色	SJ33b	

第79号住居跡(第52図)

番号	器 種	口径	器高	底径	胎土・産地	焼成	色 調	注 記	備 考
16	壺	13.8	3.4	—	A	C	橙色	SJ34 No. 3	4
17	壺	—	2.8	—	B 4	A	にぶい橙色	SJ34	
18	高坏	4.6	2.8	—	B 3	A	外(褐色) 内(黒褐色)	SJ34	
19	台付甕	—	5	—	B 4	B	にぶい赤褐色	SJ34 No. 1	

第80号住居跡(第53図)

番号	器 種	口径	器高	底径	胎土・産地	焼成	色 調	注 記	備 考
1	壺	19.4	3.7	—	B 4	B	赤褐色	SJ35	
2	壺	—	8.6	8.8	B 3、B 4	A	暗褐色	SJ35 No8~12	
3	台付甕	—	3.2	10.6	B 4	B	褐色	SJ35 No17	

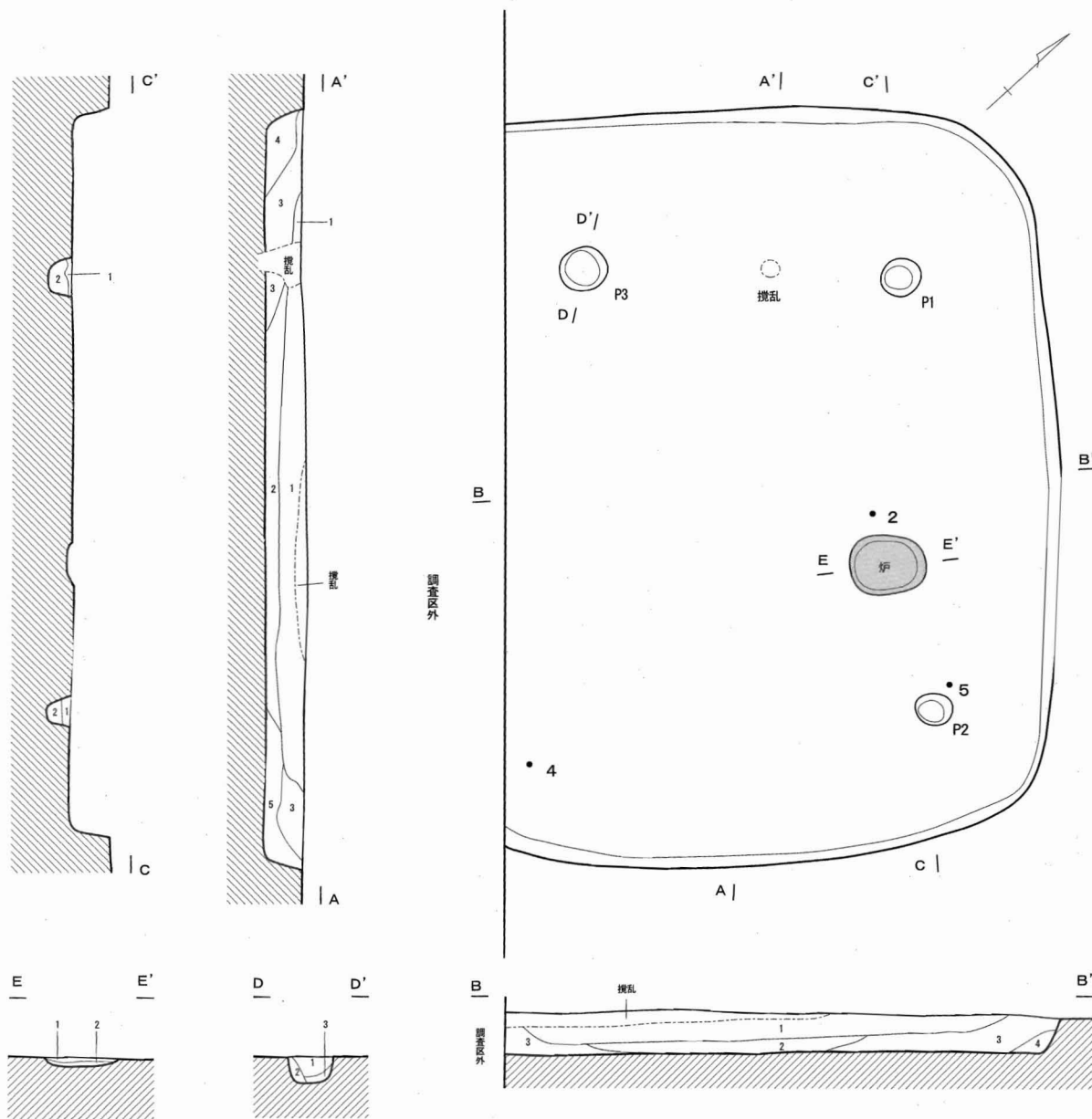
第82号住居跡(第55図)

番号	器 種	口径	器高	底径	胎土・産地	焼成	色 調	注 記	備 考
1	台付甕	9	4.7	-	B 3、B 4	A	褐色土	SJ37	

第83号住居跡(第57図)

番号	器 種	口径	器高	底径	胎土・産地	焼成	色 調	注 記	備 考
1	小型壺	6.6	3.6	—	B 3	A	橙色	SJ38	
2	壺	—	—	—	B 3	C	にぶい暗褐色	SJ38 No14	
3	壺	13.2	11.6	—	B 4	A	赤褐色	SJ38 No64	
4	台付甕	—	5.8	—	B 4	C	うすい橙色	SJ38 No36	
5	台付甕	—	6.1	—	A	C	褐色土	SJ38 No18	

第56図 第83号住居跡（1）

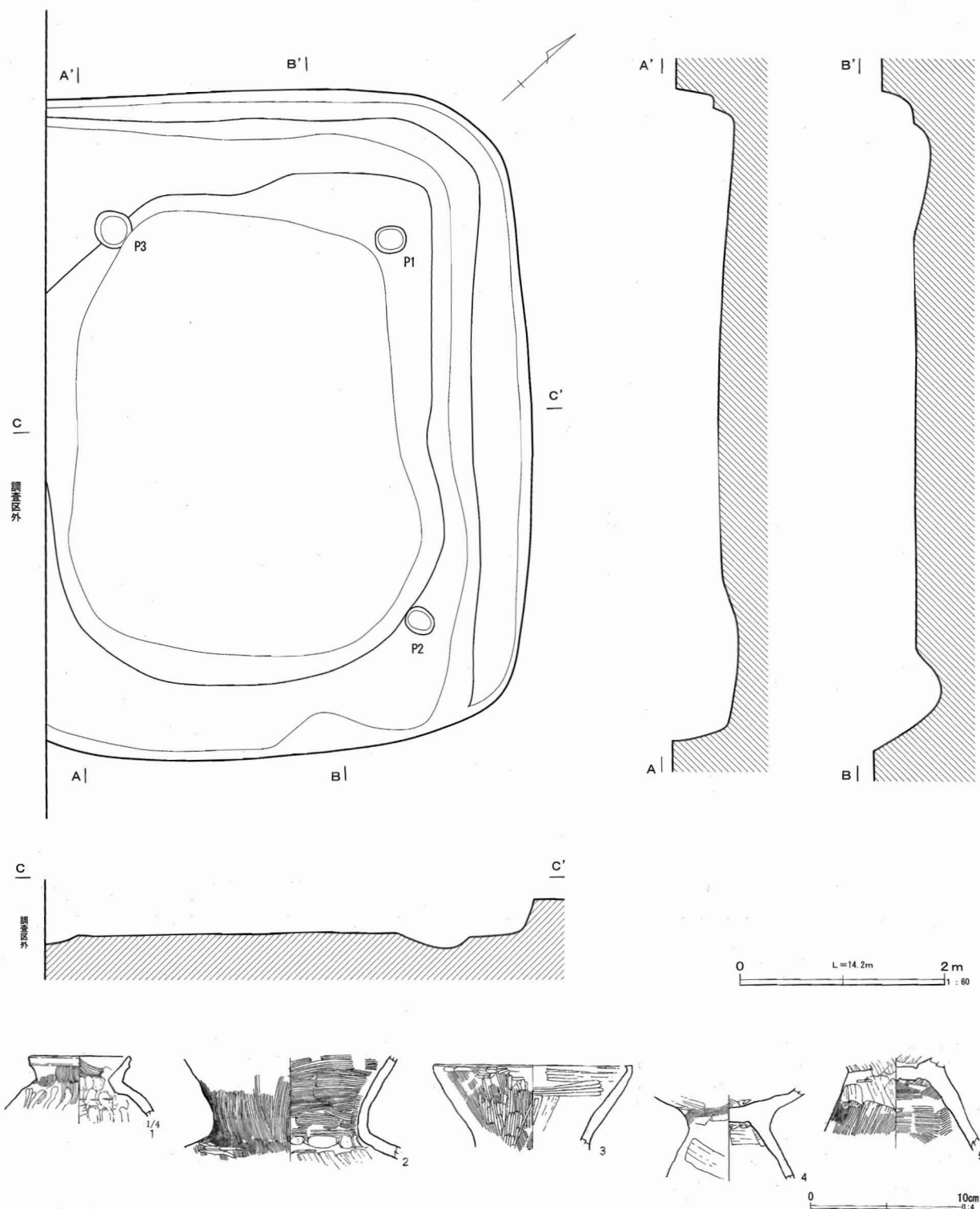


- 1 黒褐色土
 {ローム粒子(少)、焼土粒子(少)} {粘性(無)、しまり(有)}
- 2 暗褐色土
 {ローム粒子(少)、炭化粒子(少)} {粘性(無)、しまり(無)}
- 3 暗褐色土
 {ロームブロック(少)、ローム粒子(多)} {粘性(無)、しまり(無)}
- 4 暗褐色土
 {ロームブロック(多)} {粘性(無)、しまり(無)}
- 5 暗黄褐色土
 {ロームブロック(多)} {粘性(無)、しまり(有)}

- ビット1～2
 1 暗褐色土
 {ローム粒子(少)、炭化粒子(少)} {粘性(無)、しまり(無)}
- 2 暗褐色土
 {ロームブロック(多)} {粘性(無)、しまり(無)}
- ビット3
 1 暗褐色土
 {ローム粒子(少)} {粘性(無)、しまり(無)}
- 2 暗褐色土
 {ロームブロック(少)} {粘性(無)、しまり(無)}
- 3 暗黄褐色土
 {ロームブロック(多)} {粘性(無)、しまり(無)}

- 炉址
 1 黒褐色土
 {焼土(多)、炭化粒子(多)} {粘性(無)、しまり(無)}
- 2 黒褐色土
 {焼土ブロック(少)} {粘性(無)、しまり(無)}

第57図 第83号住居跡（2）



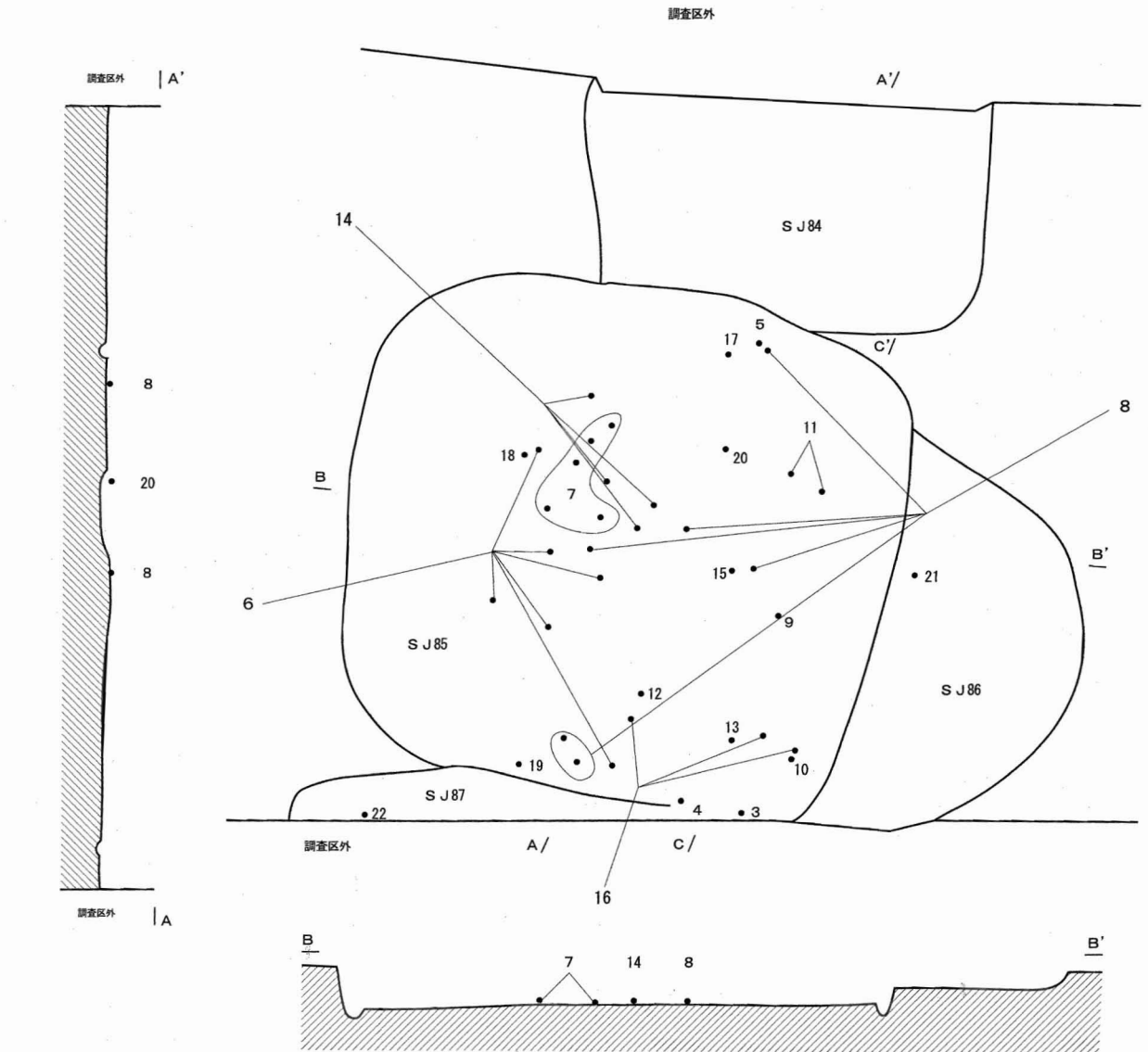
時期は古墳時代前期と思われる。

第80号住居跡（第53図、図版15）

BJ-28グリッドで検出された。東側大部分が調査

区域外であった。現状で規模は不明であるが、一辺が4.5m前後の隅丸方形をしていたものと思われる。壁下に溝が全周する。確認面からの深さは約0.4m

第58図 第84～87号住居跡（1）



S J 84

- 1 暗褐色土
 {ロームブロック(少)、ローム粒子(多)、炭化粒子(多)} {粘性(無)、しまり(有)}
 2 暗褐色土
 {ロームブロック(少)、ローム粒子(少)、炭化粒子(少)} {粘性(無)、しまり(有)}
 ※人為堆積

ビット1～2

- 1 黒褐色土
 {ロームブロック(少)、ローム粒子(少)} {粘性(無)、しまり(無)}
 2 暗黄褐色土

S J 85

- 1 暗褐色土
 {ロームブロック(少)、ローム粒子(少)} {粘性(無)、しまり(無)}
 2 a 黒褐色土
 {ローム粒子(多)、炭化粒子(多)} {粘性(無)、しまり(無)}
 b 暗黄褐色土
 {ローム粒子(多)} {粘性(無)、しまり(無)}
 c 黒褐色土
 {ローム粒子(少)} {粘性(無)、しまり(無)}
 3 暗褐色土
 {ロームブロック(少)、ローム粒子(多)、焼土(少)、炭化粒子(多)}
 {粘性(無)、しまり(無)}

4 褐色土

- {ロームブロック(少)}
 5 明褐色土
 {ロームブロック(多)}

ビット1～5

- 1 黒褐色土
 {ローム粒子(少)} {粘性(無)、しまり(無)}
 2 暗黄褐色土
 {ロームブロック(多)} {粘性(無)、しまり(無)}

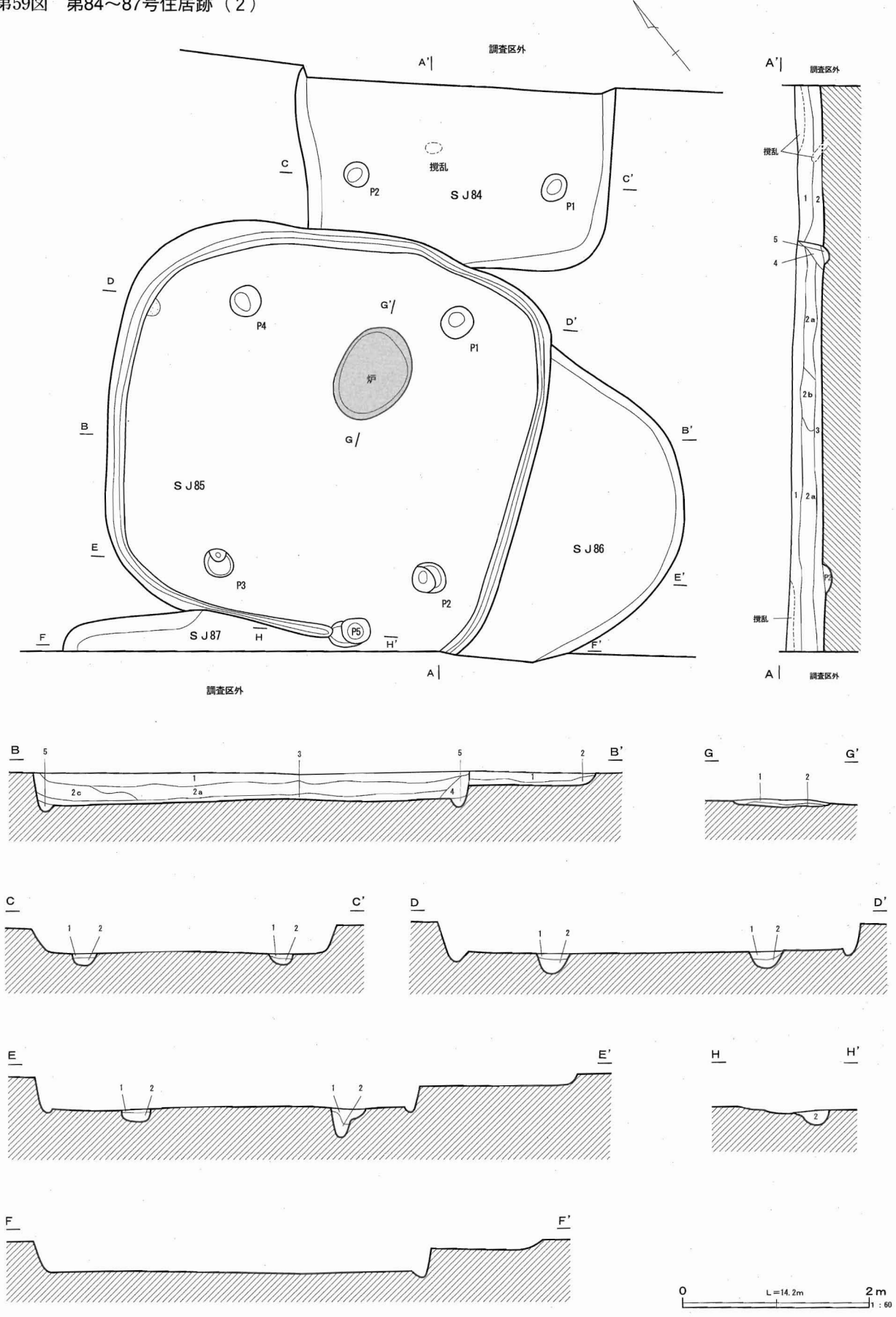
炉址

- 1 黒褐色土
 {焼土粒子(少)、炭化粒子(少)} {粘性(無)、しまり(無)}
 2 黒褐色土
 {焼土ブロック(多)} {粘性(無)、しまり(無)}

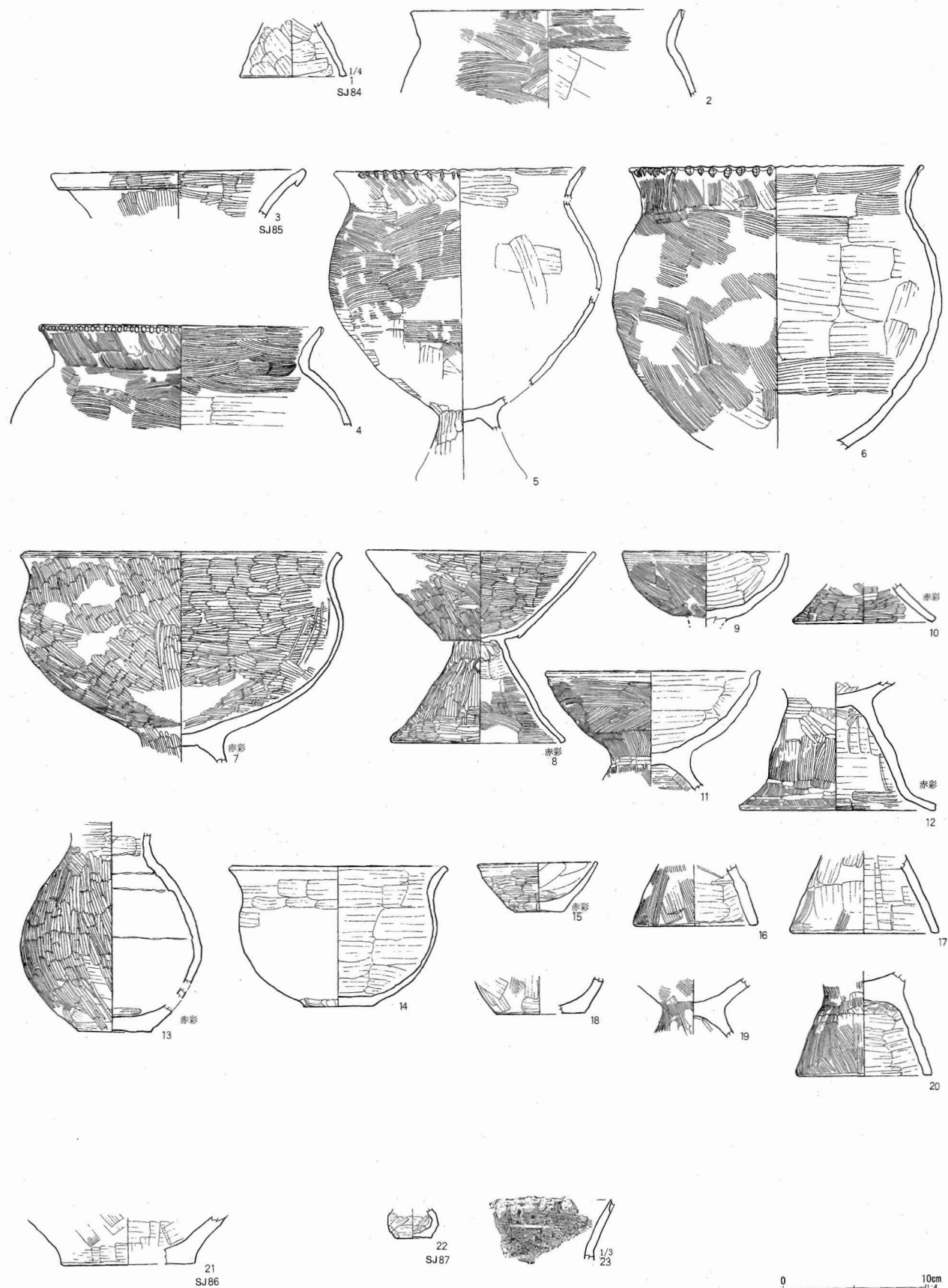
S J 86

- 1 暗褐色土
 {ローム粒子(少)} {粘性(無)、しまり(無)}
 2 暗黄褐色土
 {ローム粒子(多)} {粘性(無)、しまり(無)}

第59図 第84~87号住居跡（2）



第60図 第84~87号住居跡 (3)



第12表 土器観察表(8)

第84号住居跡(第60図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土・産地	焼成	色調	注記	備考
1	台付甕	—	3.9	7.5	B 3、B 4	A	赤褐色	SJ39	
2	甕	19	5.7	—	B 4	A	暗赤褐色	SJ39 一括	

第85号住居跡(第60図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土・産地	焼成	色調	注記	備考
3	甕	16	3.3	—	B 4	C	暗褐色	SJ40a No18	
4	甕	20.1	7.1	—	B 4	B	にぶい赤褐色	SJ40a No 3	
5	台付甕	17.4	20	—	A	C	赤褐色	SJ40a No11	
6	台付甕	20.6	20	—	B 4	B	暗褐色	SJ40a No23.28.29.32.33.36	
7	高坏	22.8	15.1	—	A	A	赤褐色	SJ40a No 9、10、35.37.41	
8	高坏	16.3	13.8	12.2	B 4	A	うすい褐色	SJ40a No 6、11.24.25.34.53	
9	高坏	11.7	4.9	—	B 4	B	褐色	SJ40a No 4	
10	器台	—	2.9	10	B 3、B 4	C	暗赤褐色	SJ40a No14	
11	高坏	15	8.4	—	B 4	A	赤褐色	SJ40a No 8.47.48	
12	高坏	—	9	13.9	B 4	B	褐色	SJ40a No 2	
13	小型壺	—	15	5.1	B 4	A	赤褐色	SJ40a No1	
14	甕	15.5	9.8	4.8	B 4	C	にぶい赤褐色	SJ40a No38.39.40.42	
15	?	8.3	3.5	3.5	B 4	B	黄褐色	SJ40a No 5	
16	台付甕	—	4.4	8.8	B 3	B	暗赤褐色	SJ40a No14.15.22	
17	台付甕	—	5.6	10.4	A	A	にぶい赤褐色	SJ40a No45	
18	小型壺	—	2.4	6.4	B 4	C	暗褐色	SJ40a No36	
19	台付甕	—	4.2	—	B 4	A	暗赤褐色	SJ40a No27	
20	台付甕	—	7.3	9.4	A	B	うすい赤褐色	SJ40a No 7	

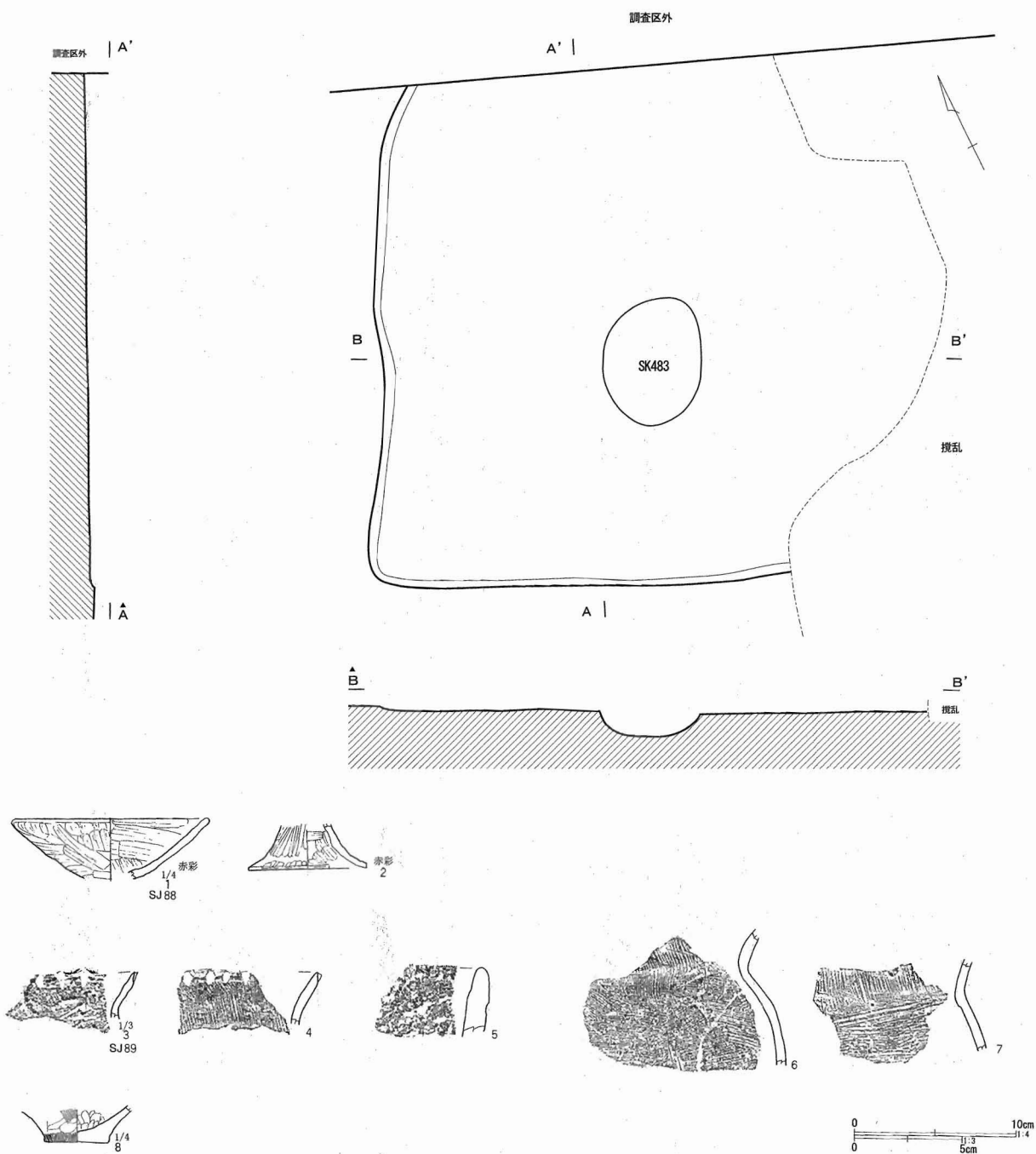
第86号住居跡(第60図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土・産地	焼成	色調	注記	備考
21	壺	—	3.3	9.4	B 4	B	にぶい赤褐色	SJ40b No 8	

第87号住居跡(第60図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土・産地	焼成	色調	注記	備考
22	手づくね土器	—	2.1	2.6	A	B	暗橙色	SJ41 No3	

第61図 第88・89号住居跡



第13表 土器観察表 (9)

第88号住居跡 (第61図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土・産地	焼成	色調	注記	備考
1	高坏	12	3.7	—	B 4	B	にぶい赤褐色	第88号内土壌	
2	高坏	—	2.8	7.2	B 3	A	橙色	第88号内土壌	

第89号住居跡 (第61図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土・産地	焼成	色調	注記	備考
8	小型壺		2.3	4.1	A	A	暗褐色	SJ43b	

[illegible]

遺物はわずかに出土した。1は広口壺。表裏両面ともに赤彩され、ミガキがかけられる。2は小形壺の胴部下半部。筒状になる独特な器形を持つ。入念

BL-27グリッドで検出された。東半分は調査区域外であった。近接する住居跡は第82号住居跡である。中央部にかなりの攪乱が入る。一辺が2.6m前後の

隅丸方形をしていたものと思われる。確認面からの深さは0.15mと浅かった。現状で柱穴も炉跡も検出できなかった。床面は軟弱であった。覆土の状況は、ロームブロックを含む層が上位にあり人為堆積と思われる。

遺物は出土しなかった。住居跡としての認定は難しいが、本遺跡でのほかの例と同じように古墳時代前期の住居跡としておきたい。

第82号住居跡（第55図、図版14）

BL-26グリッドで検出された。近接する住居跡は、第86号住居跡、第83号住居跡、第88号住居跡である。長径・約5.0m、短径・約4.2mの隅丸方形をしていた。確認面からの深さは0.45mと深くかなりしっかりとした住居跡であった。柱穴は5箇所検出されたが、P3を除く4本が支柱穴であろう。深さは0.4m前後であった。炉跡は楕円形をしていて中央から北西寄りに検出された。床面は固くしまっていた。覆土の埋まり具合は、自然な堆積であった。

遺物はわずかししか出土しなかった。1は台付甕台部。2は高坏の坏部である。住居跡の形状や遺物などより古墳時代前期のと思われる。

第83号住居跡（第56図、図版14）

BL-25・BM-25グリッドで検出された。南西側の一部が調査区外であった。第82号住居跡、第84号住居跡～第87号住居跡が隣接する。覆土の上面には攪乱が広範囲に入り検出がしにくかった。長径・約6.7m、短径は明らかでないが隅丸方形をしていたものと思われる。柱穴は3箇所検出されたが残りの1本は見つからなかった。深さは0.2m前後の浅いものであった。炉跡は中央より北側によって見つかった。楕円形をしていてよく焼けていた。床面は貼り床で固くしっかりしていた。覆土の埋まり具合は、自然堆積であった。

写真・図面などが終了した後、床面を下げた。壁際が長形状に落ち込む掘り方が見られた。調査区外の壁に近いことが判る。

遺物はわずかに出土した。1は手づくね状の小形

壺。口縁部が直立し、折り返し口縁状になる。小口ナデA、指頭状の押さえが見える。2は壺の口縁部。小口ナデAによる調整が見られる。3は壺の口縁部。口縁端部でやや内彎する。表面には丁寧な縦ミガキが入る。4、5は台付甕台部。住居跡の形状や遺物などから古墳時代前期と思われる。

第84号住居跡（第58図、第59図、第60図、図版14）

BK-24・BK-25・BL-24・BL-25グリッドにわたって検出された。第83号住居跡に近接する。第85号住居跡に切られ、北半分は調査区域外であった。規模は不明であったが一辺が3.5m前後の隅丸方形と思われる。確認面からの深さは約0.3m前後であった。第85号住居跡よりわずかに低い。柱穴は2箇所検出された。いずれも浅いものであった。床面は軟弱であった。現状で炉跡は見つからなかった。覆土の埋まり具合は、1・2層中にロームブロックが入る人為堆積であった。

遺物はわずかに検出された。1は台付甕の台部。2は甕の口縁部で比較的シンプルな作りである。口唇部に刻みが入る。住居跡の形状や出土遺物より古墳時代前期と思われる。

第85号住居跡（第58図～第60図、図版14、図版15）

BK-24・BL-24グリッドで検出された。第83号住居跡に近接する。第84号住居跡～第87号住居跡の中では一番新しい。長径・約4.75m、短径・約4.5mの隅丸方形をしていた。確認面からの深さは0.4m前後でかなりしっかりとした住居跡であった。柱穴は4本検出された。いずれも0.2m前後の浅いものであった。炉跡は中央部から北に寄って検出され、楕円形をしていた。床面は固くしっかりしていた。

遺物は、数多く検出された。特に高坏が多く特異な出土状況であった。3は壺の口縁部で折り返し口縁である。4～6、16～20は甕または台付甕で比較的薄手な作りである。4は表面と裏面の口縁部に小口ナデAで調整されている。口唇部の刻みはかなり密である。5は「く」の字状に外反する口縁部と球形の胴部を持つ。表面は小口ナデA、裏面は小口ナ

デB、Cとナデ。口唇部の刻みは疎である。6の口唇部の刻みは疎。裏面は小口ナデA、小口ナデB、工具の変わった小口ナデAの三段にナデが行われている。

7～12までは、高坏である。7は吉ヶ谷系で赤彩され、表裏両面ともに入念にミガキがかけられる。口縁部の径が大きく、丸みを帯びて張り出す胴部と独特の器形をしている。口唇部は浅い沈線状の段がつく。8は坏部下端で屈曲するタイプの流麗な高坏である。表裏両面ともに入念なミガキが加えられる。脚部に円孔が開く。多分3箇所。9は坏部が丸いタイプの高坏で表面は小口ナデAで口縁部がナデられる。11は坏部が丸く、表面は小口ナデA。口縁端部がわずかに窪む。脚部は端部でかなり開くものと思われる。12は脚部。中央部でやや膨らみ端部で「ハ」の字状に急激に開く。本遺跡では珍しい脚の形状である。小口ナデAに部分的な横方向のミガキが入る。

13は胴部が細長い小形壺である。表面は入念な縦ミガキ。裏面はナデで輪積痕が認められる。14は広口の椀。口縁部付近で緩く外反する。表裏両面ともに小口ナデB。15は小形の椀。赤彩される。出土遺物などから古墳時代前期と思われる。

第86号住居跡（第58図～第60図、図版14）

BI-24グリッドで検出された。西側の大半は第85号住居跡に切られていた。密集する住居跡群との共時的建設は不可能である。南側の一部は調査区域外であった。住居跡の規模は不明で、確認面からの深さは0.1m前後と浅かった。柱穴や炉跡などは検出できなかった。本遺跡中、小形で浅く柱穴や炉跡などが検出されないタイプと思われる。

遺物はわずかに出土した。21は壺の底部でわずかな破片である。判断の材料は少ないが周囲の状況から古墳時代前期としておきたい。

第87号住居跡（第58図～第60図、図版14）

BL-24グリッドで検出された。遺構の南側大半は調査区域外であった。第85号住居跡に切られている。切りあい関係にある住居跡を除くと第83号住居跡が

近接する。規模は不明。確認面からの深さは約0.4mであった。床面は軟弱であった。

遺物はわずかに出土した。22は小形の手づくね土器で壺形をしている。指頭状のナデが見られる。23は壺の口縁部で薄手、口唇部に刻みがある。形状と遺物などから古墳時代前期と思われる。

第88号住居跡（第61図、図版15）

BK-34グリッドで検出された。北側は調査区域外、東側は攪乱によって消失していた。規模は不明であるが、本遺跡では大きな部類と思われる。コーナー部はかなり角ばっていた。確認面からの深さは0.1m以下でほとんど床面が露呈していた。床面は中央部で固くしまっていた。柱穴や炉跡は検出されなかった。

遺物はわずかに出土した。1は高坏の坏部で外反の度合いが大きい。2は高坏の脚部でかなり小形。端部で「ハ」字状に外反する。同一個体か。住居跡の形状や遺物などから古墳時代前期と思われる。

第89号住居跡（第62図、図版15）

BM-26・BM-27・BN-26・BN-27グリッドにかけて検出された。北側と南側が調査区域外であった。住居跡の東側は直前まで工場の攪乱が入っていた。また、住居跡の内部にもかなり攪乱が入っていた。第82号住居跡と第83号住居跡が近接する。長径-6.0m前後、短径-約5.3mの隅丸方形をしていたものと思われる。確認面からの深さは約0.2mで浅かった。壁下には溝が全周していた。柱穴は3箇所を確認したが、残りの1箇所は検出できなかった。深さ0.2m前後の浅いものであった。炉跡は、中央から北に寄って検出され、P1にかなり接近していた。床面は、中央部付近で固くしまっていた。覆土の堆積状況は自然堆積であった。

遺物はわずかに出土したが、実測できるものはほとんどなかった。3・4は甕の口縁部。薄手で口唇部に刻みがある。6・7は甕の胴部である。住居跡の形状や遺物などから古墳時代前期と思われる。

(3) 土壌

第247号土壌 (第83図)

AN-43グリッドで検出された。長径 - 1.0m、短径 - 0.8mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第248号土壌 (第83図)

AM-42グリッドで検出された。長径 - 0.9m、短径 - 0.6mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第249号土壌 (第83図)

AM-43・AN-43グリッドで検出された。長径 - (2.5)m、短径 - 0.6mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.3mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第250号土壌 (第83図)

AM-43・AM-44グリッドで検出された。長径 - 1.1m、短径 - 1.0mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第251号土壌 (第83図)

AM-44グリッドで検出された。長径 - 0.9m、短径 - 0.7mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第252号土壌 (第83図)

AM-44グリッドで検出された。長径 - 1.3m、短径 - 0.7mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第253号土壌 (第83図)

AM-43・AM-44グリッドで検出された。長径 - 1.4m、短径 - 1.1mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第254号土壌 (第83図)

AM-44グリッドで検出された。長径 - (0.9)m、短径 - 0.6mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第255号土壌 (第83図)

AM-44グリッドで検出された。長径 - 0.8m、短径 - 0.6mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第256号土壌 (第83図)

AM-44グリッドで検出された。長径 - 1.5m、短径 - 0.8mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第257号土壌 (第83図)

AM-44グリッドで検出された。長径 - 0.8m、短径 - 0.3mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第258号土壌 (第83図)

AN-44グリッドで検出された。長径 - 2.2m、短径 - 0.8mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第259号土壌 (第83図)

AM-44グリッドで検出された。長径 - 0.8m、短径 - 0.6mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第260号土壌 (第83図)

AM-43・AN-43グリッドで検出された。長径 - 2.5m、短径 - 0.7mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第261号土壌 (第83図)

AN-44グリッドで検出された。長径 - 2.6m、短径 - 0.9mの楕円形をしていた。確認面からの深さは

は0.1mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第262号土壌 (第83図)

AN-44グリッドで検出された。長径 - (2.6)m、短径 - 0.7mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.3mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第263号土壌 (第83図)

AM-45・AN-45グリッドで検出された。長径 - 2.5m、短径 - 0.9mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.3mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第264号土壌 (第83図)

AM-45・AN-45グリッドで検出された。長径 - (1.8)m、短径 - 0.6mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.4mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第265号土壌 (第83図)

AN-45グリッドで検出された。長径 - (1.6)m、短径 - 0.7mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.3mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第266号土壌 (第83図)

AN-45グリッドで検出された。長径 - 0.6m、短径 - 0.5mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第267号土壌 (第83図)

AN-45グリッドで検出された。長径 - 0.7m、短径 - 0.6mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第268号土壌 (第83図)

AN-46グリッドで検出された。長径 - 1.1m、短径 - 0.9mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第269号土壌 (第83図)

AN-46グリッドで検出された。長径 - 1.2m、短径 - 1.0mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第270号土壌 (第83図)

AO-47グリッドで検出された。長径 - 1.4m、短径 - 0.6mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第271号土壌 (第83図)

AO-47グリッドで検出された。長径 - 2.7m、短径 - 0.9mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第272号土壌 (第83図)

AO-47グリッドで検出された。長径 - 1.5m、短径 - 0.8mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第273号土壌 (第83図)

AO-47・AO-48グリッドで検出された。長径 - 1.2m、短径 - 0.6mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第274号土壌 (第83図)

AO-46グリッドで検出された。長径 - 2.3m、短径 - 0.9mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

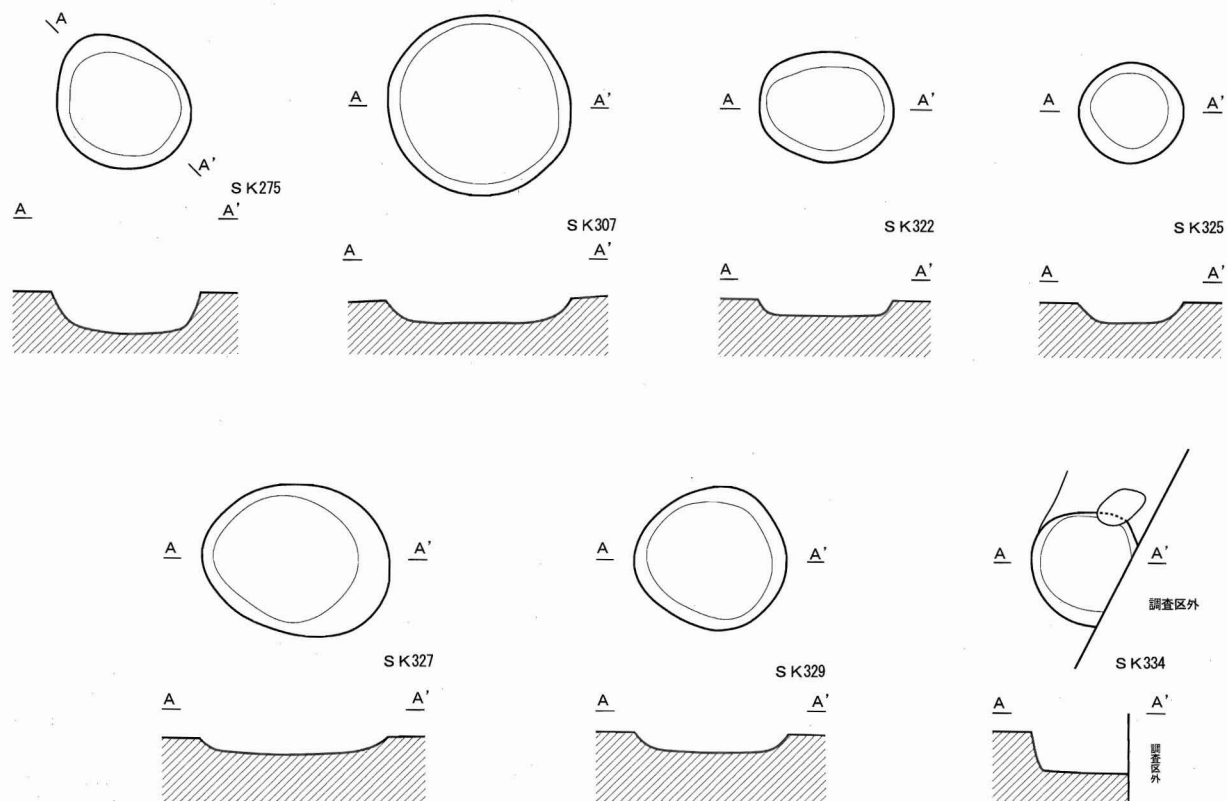
第275号土壌 (第63図)

AL-47・AL-48グリッドで検出された。長径 - 1.4m、短径 - 1.1mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.4mであった。遺物は出土しなかった。

第276号土壌 (第83図)

AO-46グリッドで検出された。長径 - 4.2m、短径 - 0.7mの楕円形をしていた。確認面からの深さ

第63図 土壌 (1)



は0.3mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第277号土壌 (第83図)

AO-46グリッドで検出された。長径 - 1.8m、短径 - 0.8mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第278号土壌 (第83図)

AO-46グリッドで検出された。長径 - 2.8m、短径 - 1.1mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第279号土壌 (第83図)

AO-45・AO-46・AP-45・AP-46グリッドで検出された。長径 - 4.1m、短径 - 0.7mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.3mであった。遺物は出

土しなかった。近世期以降のものと思われる

第280号土壌 (第83図)

AP-46グリッドで検出された。長径 - 1.2m、短径 - 0.7mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

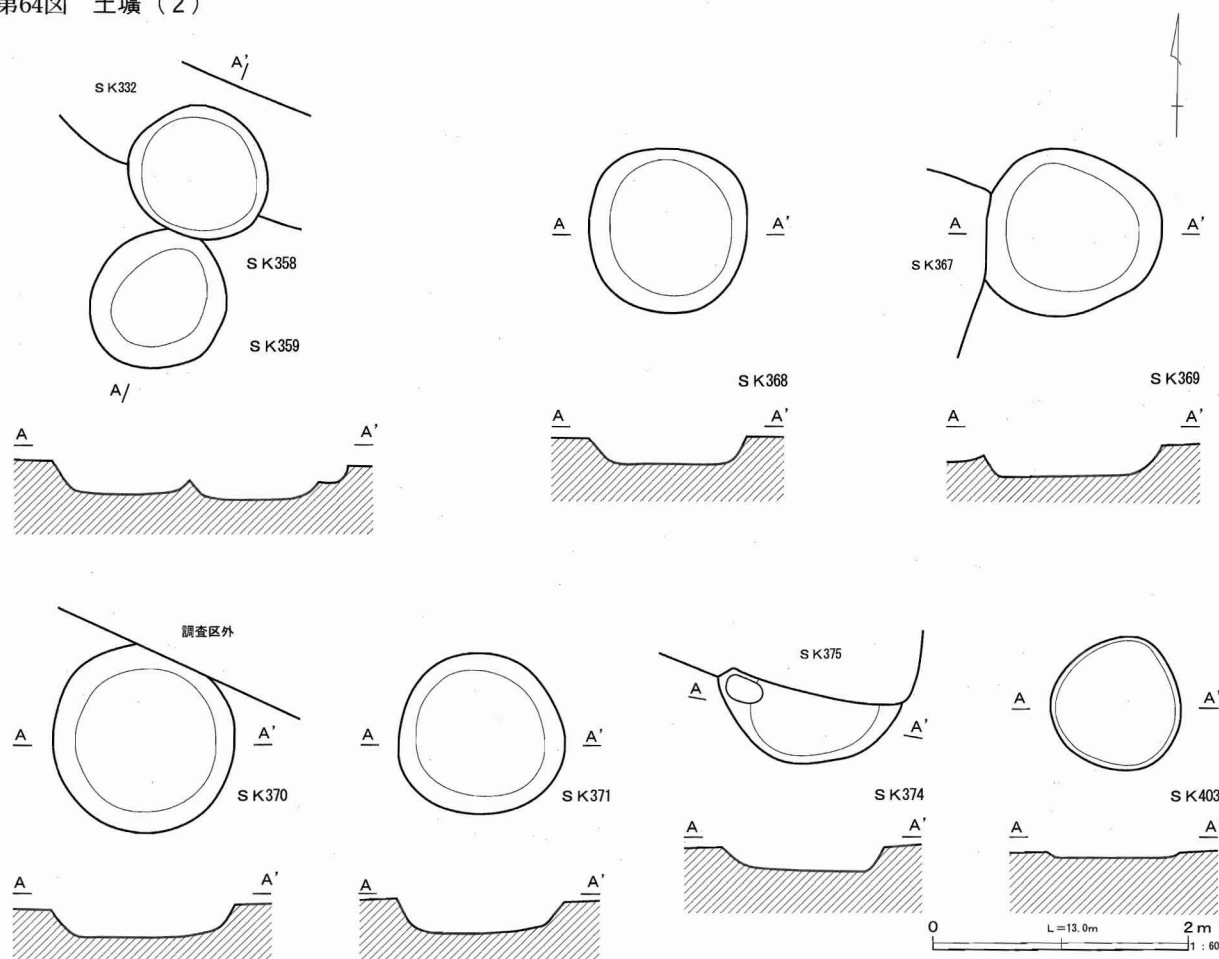
第281号土壌 (第83図)

AP-46グリッドで検出された。長径 - 1.4m、短径 - 0.5mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第282号土壌 (第83図)

AP-46グリッドで検出された。長径 - 1.7m、短径 - 0.6mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第64図 土壌 (2)



第283号土壌 (第83図)

AP-45・AP-46グリッドで検出された。長径 - 2.7 m、短径 - 0.6 mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1 mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第284号土壌 (第83図)

AP-45グリッドで検出された。長径 - 1.8 m、短径 - 0.9 mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2 mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第285号土壌 (第83図)

AP-45グリッドで検出された。長径 - 4.5 m、短径 - 0.7 mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.4 mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第286号土壌 (第83図)

AP-45・AQ-45グリッドで検出された。長径 - 2.7 m、短径 - 0.8 mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2 mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第287号土壌 (第83図)

AN-46グリッドで検出された。長径 - 1.7 m、短径 - (0.5) mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2 mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第288号土壌 (第83図)

AN-46グリッドで検出された。長径 - 2.5 m、短径 - 0.8 mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2 mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第289号土壌 (第83図)

AN-45グリッドで検出された。長径 - 1.2 m、短

径 - 0.7m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第290号土壌 (第83図)

AO-47グリッドで検出された。長径 - 2.2m、短径 - 1.0m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.3mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第291号土壌 (第83図)

AP-45グリッドで検出された。長径 - (6.1)m、短径 - (0.5)m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.3mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第292号土壌 (第83図)

AP-45・AQ-45グリッドで検出された。長径 - (2.7)m、短径 - 0.8m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.4mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第293号土壌 (第83図)

AQ-45グリッドで検出された。長径 - 3.5m、短径 - 0.8m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第294号土壌 (第83図)

AQ-45・AR-45グリッドで検出された。長径 - 1.8m、短径 - 0.8m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.3mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第295号土壌 (第83図)

AQ-45・AR-45グリッドで検出された。長径 - 2.7m、短径 - 0.6m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.3mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第296号土壌 (第83図)

AQ-45・AR-44・AR-45グリッドで検出された。長径 - 2.6m、短径 - 1.1m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.3mであった。遺物は出土しな

った。近世期以降のものと思われる。

第297号土壌 (第83図)

AR-45グリッドで検出された。長径 - 2.4m、短径 - 0.7m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第298号土壌 (第83図)

AR-45グリッドで検出された。長径 - 2.1m、短径 - 0.7m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.4mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第299号土壌 (第83図)

AR-44グリッドで検出された。長径 - 0.4m、短径 - 0.7m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.4mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第300号土壌 (第83図)

AR-44・AR-45グリッドで検出された。長径 - 2.3m、短径 - 1.1m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.4mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第301号土壌 (第83図)

AR-45グリッドで検出された。長径 - 2.3m、短径 - 0.9m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.3mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第302号土壌 (第83図)

AR-45グリッドで検出された。長径 - 2.3m、短径 - 0.7m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.3mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第303号土壌 (第83図)

AR-44グリッドで検出された。長径 - 1.9m、短径 - 1.1m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第304号土壌 (第83図)

AR-45、AS-45グリッドで検出された。長径 - 2.2m、短径 - 0.9mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.3mであった。遺物は出土しなかった。近世以降のものと思われる。

第305号土壙 (第83図)

AS-44グリッドで検出された。長径 - 1.7m、短径 - 0.7mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世以降のものと思われる。

第306号土壙 (第83図)

AS-44グリッドで検出された。長径-2.0m、短径-1.0mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世以降のものと思われる。

第307号土壙 (第63図)

AS-44、AS-45グリッドで検出された。長径-1.5m、短径-1.4mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。

第308号土壙 (第83図)

AS-44グリッドで検出された。長径-1.9m、短径-(0.7)mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.3mであった。遺物は出土しなかった。近世以降のものと思われる。

第309号土壙 (第83図)

AS-44・AT-44グリッドで検出された。長径4.4m、短径-0.8mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.3mであった。遺物は出土しなかった。近世以降のものと思われる。

第310号土壙 (第83図)

AU-43グリッドで検出された。長径 - 1.9m、短径 - 0.9mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世以降のものと思われる。

第311号土壙 (第83図)

AU-43グリッドで検出された。長径-2.3m、短径-0.8mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期以

降のものと思われる。

第312号土壙 (第83図)

AU-43グリッドで検出された。長径-2.1m、短径-0.7mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第313号土壙 (第83図)

AS-44グリッドで検出された。長径-5.0m、短径-1.4mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第314号土壙 (第83図)

AS-44、AT-44グリッドで検出された。長径-4.0m、短径-0.8mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第315号土壙 (第83図)

AV-43グリッドで検出された。長径 - 2.0m、短径 - 0.7mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第316号土壙 (第83図)

AV-43グリッドで検出された。長径 - 1.7m、短径 - (0.5)mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第317号土壙 (第83図)

AS-44グリッドで検出された。長径 - (0.7)m、短径 - 0.7mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第318号土壙 (第83図)

AT-44グリッドで検出された。長径 - 2.0m、短径 - 0.7mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第319号土壙 (第83図)

AV-43グリッドで検出された。長径 - 3.3m、短径 - 0.9mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第320号土壌 (第83図)

AV-43グリッドで検出された。長径 - 4.0m、短径 - 1.1mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第321号土壌 (第83図)

AV-42・AV-43グリッドで検出された。長径 - 2.7m、短径 - 0.7mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第322号土壌 (第63図)

AV-42グリッドで検出された。長径 - 1.2m、短径 - 0.7mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。

第323号土壌 (第86図)

AW-42グリッドで検出された。長径 - (2.7)m、短径 - 0.9mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第324号土壌 (第86図)

AW-42・AX-42グリッドで検出された。長径 - (3.7)m、短径 - (0.3)mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第325号土壌 (第63図)

AX-42グリッドで検出された。径 - 0.7m円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。

第326号土壌 (第86図)

AX-42グリッドで検出された。長径 - 2.0m、短径 - 0.8mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.3mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第327号土壌 (第63図)

AX-42グリッドで検出された。長径 - 1.5m、短径 - 1.2mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。

第328号土壌 (第86図)

AX-42グリッドで検出された。長径 - (4.5)m、短径 - 0.7mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第329号土壌 (第63図)

AX-41・AX-42グリッドで検出された。長径 - 1.2m、短径 - 1.0mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。

第330号土壌 (第86図)

AY-41・AY-42グリッドで検出された。長径 - 1.9m、短径 - 1.2mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第331号土壌 (第86図)

AY-41・AZ-41グリッドで検出された。長径 - 2.0m、短径 - 0.6mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第332号土壌 (第86図)

AZ-41グリッドで検出された。長径 - 2.8m、短径 - 1.0mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第333号土壌 (第86図)

AZ-41グリッドで検出された。長径 - 1.9m、短径 - 0.9mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.3mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第334号土壌 (第63図)

AZ-41グリッドで検出された。長径 - 1.0m、短径 - 0.8mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.4mであった。遺物は出土しなかった。

第335号土壌（第86図）

AZ-41・AZ-41グリッドで検出された。長径 - (1.7)m、短径 - 1.0mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第336号土壌（第86図）

AZ-41グリッドで検出された。長径 - 2.1m、短径 - 1.2mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.3mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第337号土壌（第86図）

AZ-41グリッドで検出された。長径 - 1.5m、短径 - (0.7)mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第338号土壌（第86図）

AZ-41グリッドで検出された。長径 - 3.4m、短径 - 0.9mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第339号土壌（第86図）

AZ-41グリッドで検出された。長径 - (2.7)m、短径 - 0.7mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第340号土壌（第86図）

AZ-41・BA-41グリッドで検出された。長径 - 1.8m、短径 - 0.8mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第341号土壌（第86図）

AZ-41グリッドで検出された。長径 - 2.3m、短径 - 0.6mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第342号土壌（第86図）

AZ-41グリッドで検出された。長径 - 0.8m、短

径 - 0.6mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第343号土壌（第86図）

AZ-41グリッドで検出された。長径 - (1.5)m、短径 - 0.8mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第344号土壌（第86図）

AZ-40・AZ-41・BA-40グリッドで検出された。長径 - 2.1m、短径 - 0.8mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.3mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第345号土壌（第86図）

AZ-40・AZ-41・BA-40グリッドで検出された。長径 - (0.7)m、短径 - 0.9mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第346号土壌（第83図）

AM-47グリッドで検出された。長径-1.9m、短径-1.2mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.4mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第347号土壌（第86図）

BA-40グリッドで検出された。長径-1.4m、短径-0.4mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第348号土壌（第86図）

BA-40グリッドで検出された。長径 - 1.4m、短径 - 0.6mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第349号土壌（第86図）

BA-40グリッドで検出された。長径 - 1.7m、短径 - 1.2mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期

以降のものと思われる。

第350号土壙（第86図）

BA-40グリッドで検出された。長径 - 1.8m、短径 - 0.8mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.3mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第351号土壙（第86図）

BA-40グリッドで検出された。長径-2.2m、短径-0.5mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第352号土壙（第86図）

BA-40グリッドで検出された。長径 - (0.4)m、短径 - 0.7mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第353号土壙（第86図）

BA-40グリッドで検出された。長径 - (0.5)m、短径 - 0.6mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第354号土壙（第86図）

BA-40グリッドで検出された。長径 - 1.4m、短径 - (0.4)mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第355号土壙（第86図）

BA-40グリッドで検出された。長径 - 2.1m、短径 - 0.9mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第356号土壙（第86図）

BA-41グリッドで検出された。長径 - 2.9m、短径 - 1.0mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.3mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第357号土壙（第86図）

BA-41グリッドで検出された。長径 - 1.4m、短径 - 0.8mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第358号土壙（第64図）

AZ-41グリッドで検出された。長径 - 1.3m、短径 - 0.9mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.3mであった。遺物は出土しなかった。

第359号土壙（第64図）

AZ-41グリッドで検出された。長径 - 1.1m、短径 - 1.0mの略円形をしていた。確認面からの深さは0.3mであった。遺物は出土しなかった。

第360号土壙（第86図）

BA-41・BB-41グリッドで検出された。長径 - 1.7m、短径 - 0.8mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第361号土壙（第86図）

BB-41グリッドで検出された。長径 - (1.5)m、短径 - 0.9mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第362号土壙（第86図）

BB-41グリッドで検出された。長径 - (1.5)m、短径 - 1.0mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第363号土壙（第86図）

BA-42グリッドで検出された。長径 - (2.1)m、短径 - 0.9mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第364号土壙（第86図）

BA-42・BB-42グリッドで検出された。長径 - 4.5m、短径 - 0.9mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第365号土壌 (第86図)

BA-42グリッドで検出された。長径 - (0.1) m、短径 - (0.6) mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第366号土壌 (第86図)

BA-42グリッドで検出された。長径 - (1.0) m、短径 - 1.0mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第367号土壌 (第86図)

BA-42・BB-42グリッドで検出された。長径 - 2.3m、短径 - 0.8mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第368号土壌 (第64図)

BB-42グリッドで検出された。長径 - 1.5m、短径 - 1.3mの略円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。

第369号土壌 (第64図)

BA-42・BB-42グリッドで検出された。長径 - 1.3m、短径 - 1.2mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.3mであった。遺物は出土しなかった。

第370号土壌 (第64図)

BB-42グリッドで検出された。径 - 1.4mの円形をしていた。確認面からの深さは0.3mであった。遺物は出土しなかった。

第371号土壌 (第64図)

BB-42グリッドで検出された。径 - 1.4m円形をしていた。確認面からの深さは0.3mであった。遺物は出土しなかった。

第372号土壌 (第86図)

BB-43グリッドで検出された。長径 - 1.8m、短径 - 0.9mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.4mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第373号土壌 (第86図)

BB-42グリッドで検出された。長径 - (1.6) m、短径 - 0.9mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第374号土壌 (第64図)

BB-42グリッドで検出された。長径 - 2.5m、短径 - 1.3mの楕円形をしていたと思われる。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。

第375号土壌 (第86図)

BB-42グリッドで検出された。長径 - 2.3m、短径 - 1.0mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.5mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第376号土壌 (第86図)

BB-43グリッドで検出された。長径 - 1.7m、短径 - 0.6mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.3mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第377号土壌 (第86図)

BB-43グリッドで検出された。長径 - (0.9) m、短径 - 1.0mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第378号土壌 (第86図)

BB-43グリッドで検出された。長径 - 3.5m、短径 - 1.1mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.3mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第379号土壌 (第86図)

BB-43グリッドで検出された。長径 - 1.6m、短径 - 1.0mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第380号土壌 (第86図)

BB-43・BB-44グリッドで検出された。長径 - 1.9m、短径 - 0.9mの楕円形をしていた。確認面から

の深さは0.5mであった。遺物は出土しなかった。
近世期以降のものと思われる。

第381号土壙（第86図）

BB-44グリッドで検出された。長径 - (0.9)m、短径 - 0.9mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第382号土壙（第86図）

BB-44グリッドで検出された。長径 - (3.4)m、短径 - 2.4mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第383号土壙（第86図）

BB-44グリッドで検出された。長径 - (1.8)m、短径 - (1.0)mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第384号土壙（第86図）

BC-43・BC-44グリッドで検出された。長径 - 2.4m、短径 - 0.6mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.5mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第385号土壙（第86図）

BC-43グリッドで検出された。長径 - 1.2m、短径 - (0.5)mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.6mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第386号土壙（第86図）

BB-44・BC-44グリッドで検出された。長径 - 1.0m、短径 - 0.6mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第387号土壙（第86図）

BB-44グリッドで検出された。長径 - 1.5m、短径 - 0.9mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第388号土壙（第86図）

BC-45グリッドで検出された。長径 - 3.4m、短径 - 0.9mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第389号土壙（第86図）

BC-45グリッドで検出された。長径 - 1.6m、短径 - 0.9mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第390号土壙（第86図）

BC-45グリッドで検出された。長径 - 2.0m、短径 - 0.9mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第391号土壙（第86図）

BD-45グリッドで検出された。長径 - (0.5)m、短径 - 0.7mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第392号土壙（第86図）

BC-45グリッドで検出された。長径 - 1.5m、短径 - 0.8mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第393号土壙（第86図）

BC-46グリッドで検出された。長径 - (1.9)m、短径 - 0.9mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第394号土壙（第86図）

BC-46グリッドで検出された。長径 - 2.0m、短径 - 0.8mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第395号土壙（第86図）

BC-46・BD-46グリッドで検出された。長径 - 2.9

m、短径 - 1.1mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.4mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第396号土壌 (第86図)

BD-46グリッドで検出された。長径 - (2.1)m、短径 - 0.7mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第397号土壌 (第86図)

BD-46グリッドで検出された。長径 - (2.2)m、短径 - 0.9mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第398号土壌 (第86図)

BC-46・BD-46グリッドで検出された。長径 - 2.2m、短径 - 0.8mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第399号土壌 (第86図)

BD-46・BD-47グリッドで検出された。長径 - 1.7m、短径 - 0.6mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第400号土壌 (第86図)

BD-47グリッドで検出された。長径 - 2.0m、短径 - 0.7mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第401号土壌 (第86図)

BD-47グリッドで検出された。長径 - 2.0m、短径 - 0.8mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第402号土壌 (第86図)

BD-47グリッドで検出された。長径 - 0.9m、短径 - (0.7)mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期

以降のものと思われる。

第403号土壌 (第64図)

BC-44グリッドで検出された。長径 - 1.3m、短径 - 1.1mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。

第404号土壌 (第65図)

AL-39グリッドで検出された。長径 - 1.2m、短径 - 0.9mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。縄文時代早期。

第405号土壌 (第65図)

AK-39グリッドで検出された。長径 - 1.4m、短径 - 1.0mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.3mであった。遺物は出土しなかった。縄文時代早期。

第406号土壌 (第65図、図版15)

AK-40グリッドで検出された。長径 - 1.6m、短径 - 1.6mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.3mであった。遺物は出土しなかった。縄文時代早期。

第407号土壌 (第65図、図版15)

AL-39・AL-40グリッドで検出された。長径 - 1.3m、短径 - 1.2mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.4mであった。遺物は出土しなかった。縄文時代早期。

第408号土壌 (第65図)

AL-41グリッドで検出された。長径 - (1.5)m、短径 - (1.1)mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。縄文時代早期。

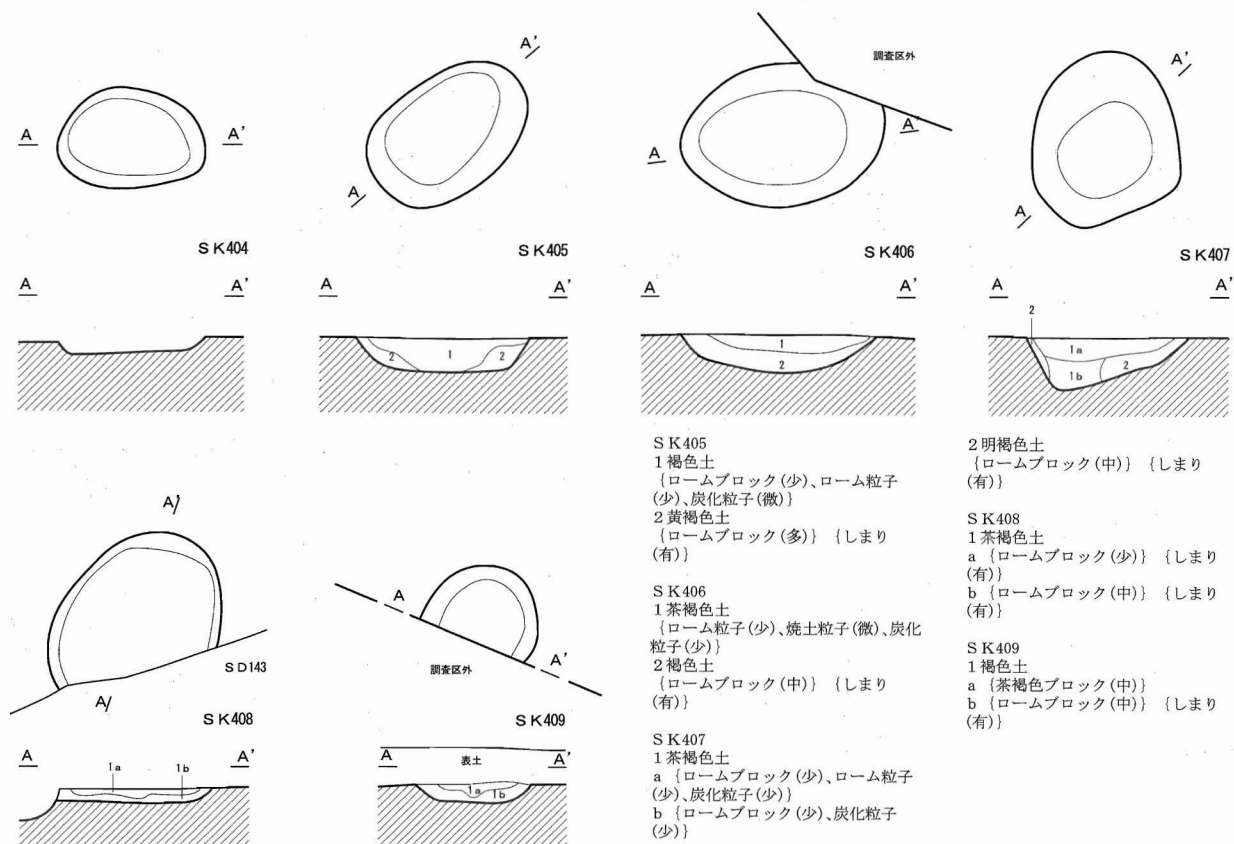
第409号土壌 (第65図)

AM-41グリッドで検出された。長径 - (0.8)m、短径 - (0.8)mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。

第410号土壌 (第66図)

AM-41グリッドで検出された。長径 - (1.0)m、短径 - (0.9)mの楕円形をしていたと思われる。確認面

第65図 土壌 (3)



からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。縄文時代と思われる。

第411号土壌 (第66図)

AM-41グリッドで検出された。長径 - 1.5m、短径 - 1.0mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。縄文時代の土壌。

第412号土壌 (第66図、図版16)

AM-42グリッドで検出された。長径 - 1.4m、短径 - 1.0mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。縄文時代の土壌。

第413号土壌 (第66図、図版16)

AM-42グリッドで検出された。長径 - (1.6)m、短径 - 0.7mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。縄文時代の土壌。

代の土壌。

第414号土壌 (第66図、図版16)

AM-42グリッドで検出された。長径 - 2.0m、短径 - 1.4mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.3mであった。遺物は出土しなかった。縄文時代の土壌。

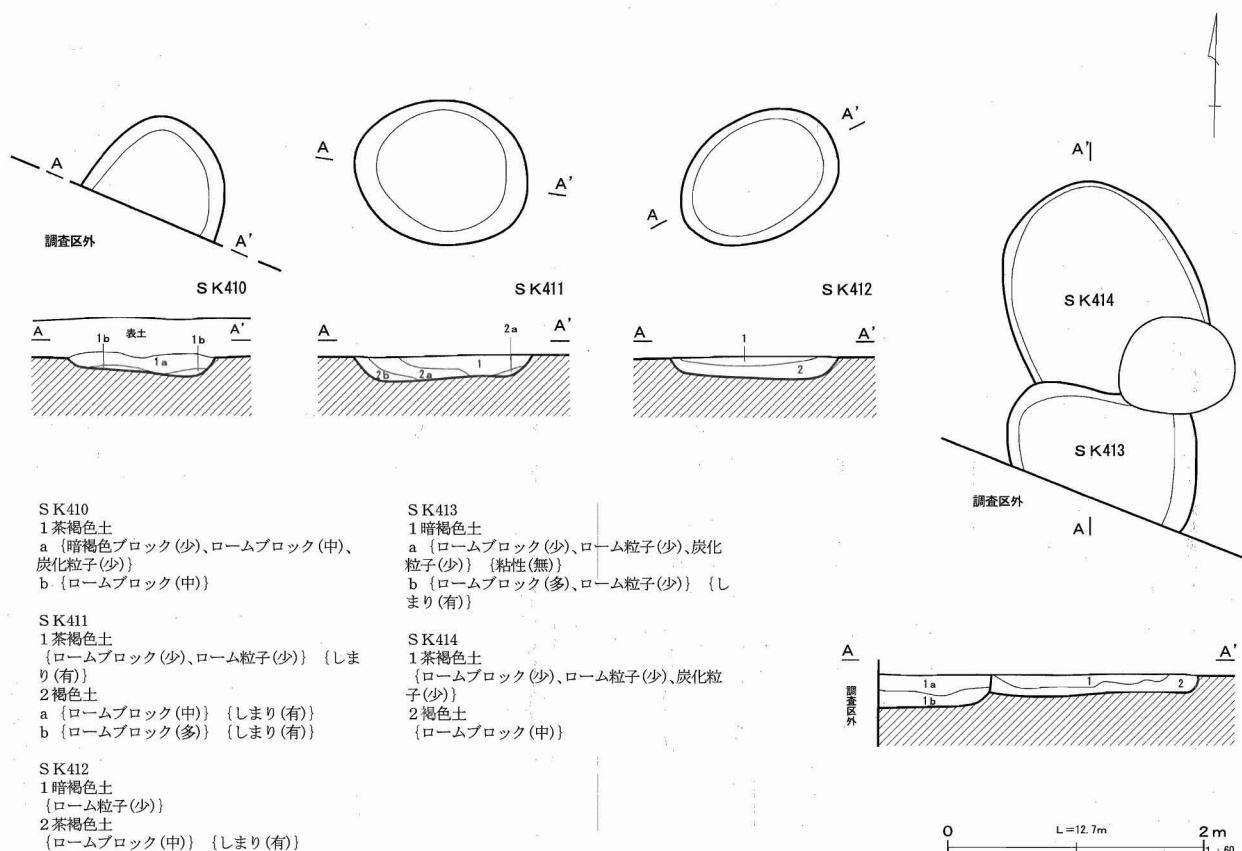
第415号土壌 (第67図)

AM-42グリッドで検出された。長径 - 1.2m、短径 - 1.0mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。縄文時代の土壌。

第416号土壌 (第67図)

AM-42グリッドで検出された。長径 - 1.1m、短径 - 0.6mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。縄文時代の土壌。

第66図 土壌 (4)



第417号土壌 (第67図)

AM-43グリッドで検出された。長径 - 1.5m、短径 - 0.7mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。縄文時代の土壌。

第418号土壌 (第67図)

AM-43グリッドで検出された。長径 - 0.8m、短径 - 0.7mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。縄文時代の土壌。

第419号土壌 (第67図)

AM-43グリッドで検出された。長径 - 1.0m、短径 - 0.8mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。縄文時代の土壌。

第420号土壌 (第67図)

AM-43グリッドで検出された。長径 - 0.9m、短径 - 0.7mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。縄文時代の土壌。

第421号土壌 (第67図)

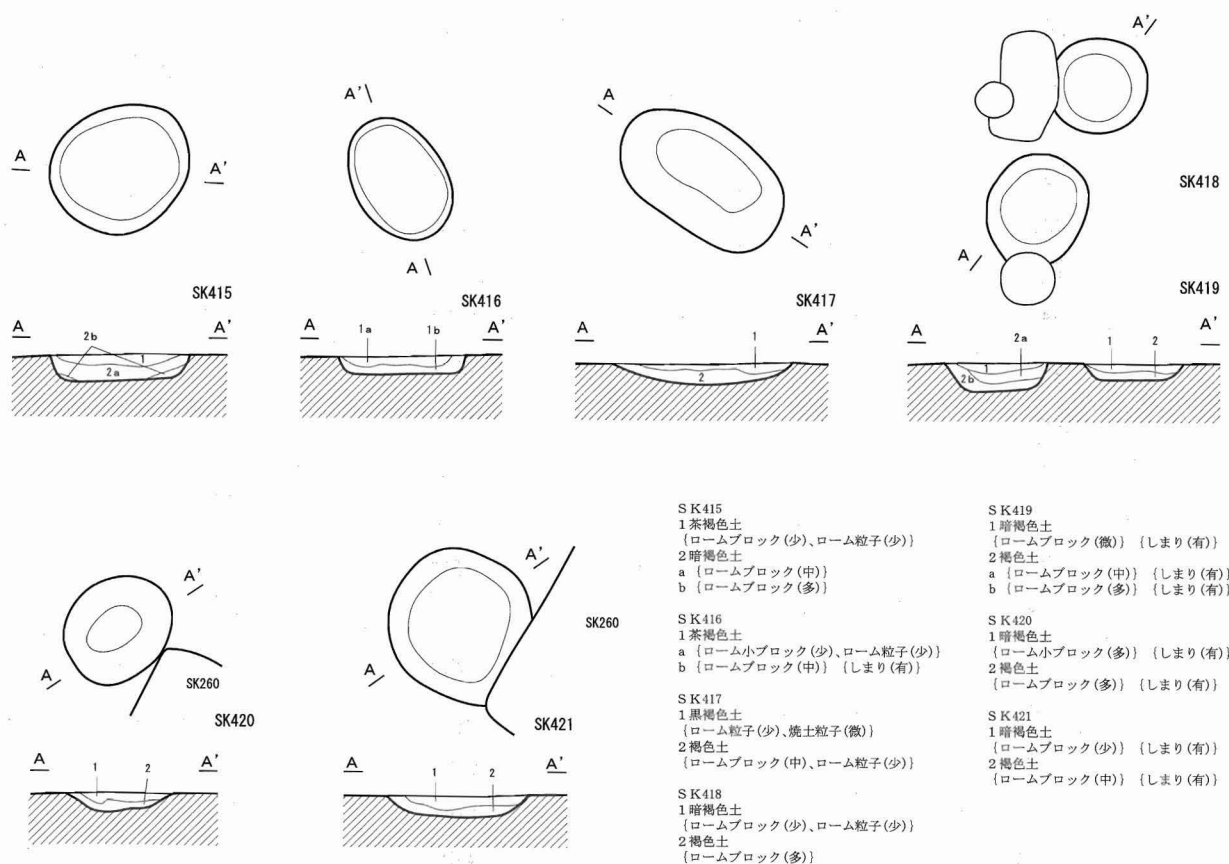
AM-43・AN-43グリッドで検出された。長径 - 1.1m、短径 - 1.0mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。縄文時代の土壌。

第422号土壌 (第68図、図版16)

AN-45グリッドで検出された。長径 - 0.9m、短径 - 0.5mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。縄文時代中期後半の土器破片が2点出土した。加曾利EⅢ式で、2は胴部渦圈文系の土器である。

第423号土壌 (第68図)

第67図 土壌 (5)



- SK415
1 茶褐色土
{ロームブロック(少)、ローム粒子(少)}
2 暗褐色土
a {ロームブロック(中)}
b {ロームブロック(多)}
- SK416
1 茶褐色土
a {ローム小ブロック(少)、ローム粒子(少)}
b {ロームブロック(中)} {しまり(有)}
- SK417
1 黒褐色土
{ローム粒子(少)、焼土粒子(微)}
2 褐色土
{ロームブロック(中)、ローム粒子(少)}
- SK418
1 暗褐色土
{ロームブロック(少)、ローム粒子(少)}
2 褐色土
{ロームブロック(多)}
- SK419
1 暗褐色土
{ロームブロック(微)} {しまり(有)}
2 褐色土
a {ロームブロック(中)} {しまり(有)}
b {ロームブロック(多)} {しまり(有)}
- SK420
1 暗褐色土
{ローム小ブロック(多)} {しまり(有)}
2 褐色土
{ロームブロック(多)} {しまり(有)}
- SK421
1 暗褐色土
{ロームブロック(少)} {しまり(有)}
2 褐色土
{ロームブロック(中)} {しまり(有)}

AN-45グリッドで検出された。長径 - 1.3m、短径 - 0.9mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。

第424号土壌 (第68図、図版16)

AN-46グリッドで検出された。長径 - 1.6m、短径 - 1.2mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。

第425号土壌 (第68図)

AO-47グリッドで検出された。長径 - 1.4m、短径 - 1.1mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。縄文時代中期後半に属する土器破片が1点図示できた。口縁部を無文とし胴部に縦位の櫛描文が配される。

第426号土壌 (第68図)

AL-41・AM-41グリッドで検出された。長径 - (0.8)m、短径 - (0.7)mの楕円形をしていたと思われ

る。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。

第427号土壌 (第68図)

AM-44グリッドで検出された。長径 - (1.2)m、短径 - (0.9)mの楕円形をしていたと思われる。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。

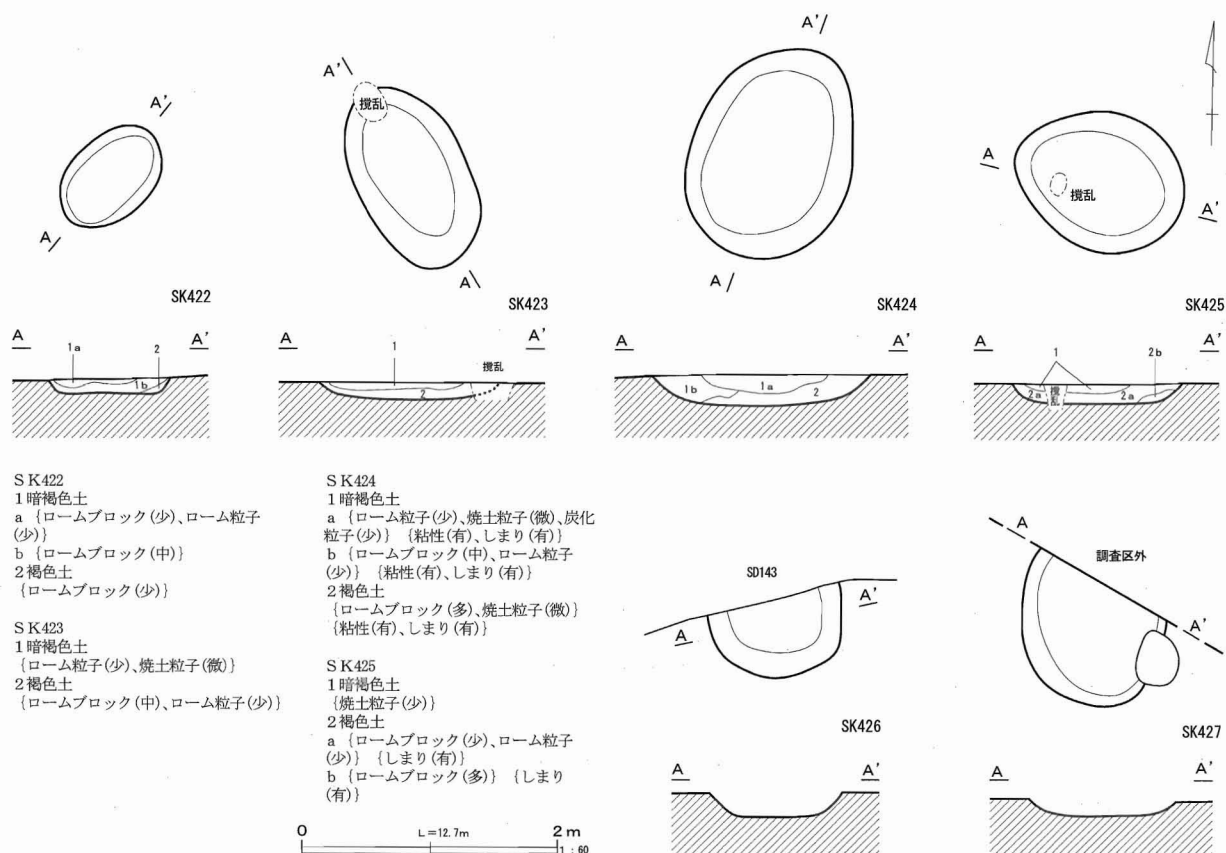
第428号土壌 (第69図)

AO-47グリッドで検出された。径 - 1.1mの円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。

第429号土壌 (第83図)

AO-47グリッドで検出された。長径 - 1.4m、短径 - 1.4mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第68図 土壌 (6)



第430号土壌 (第69図)

AX-42グリッドで検出された。長径 - 0.7m、短径 - 0.6mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。

第431号土壌 (第69図)

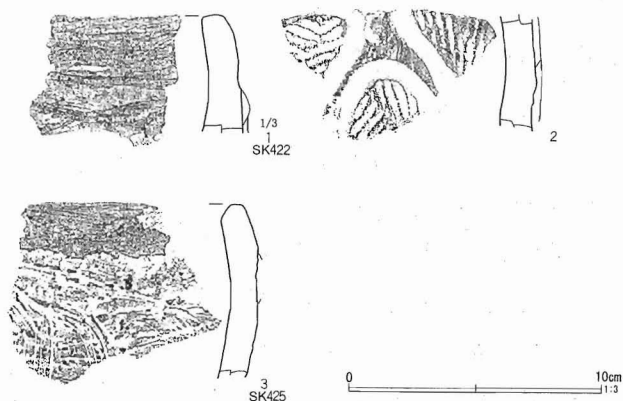
AY-41グリッドで検出された。長径 - 1.1m、短径 - 1.0mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。

第432号土壌 (第86図)

BA-40グリッドで検出された。長径 - (0.6)m、短径 - 1.0mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第433号土壌 (第86図)

BA-40グリッドで検出された。長径 - 3.6m、短径 - 0.7mの楕円形をしていた。確認面からの深さは

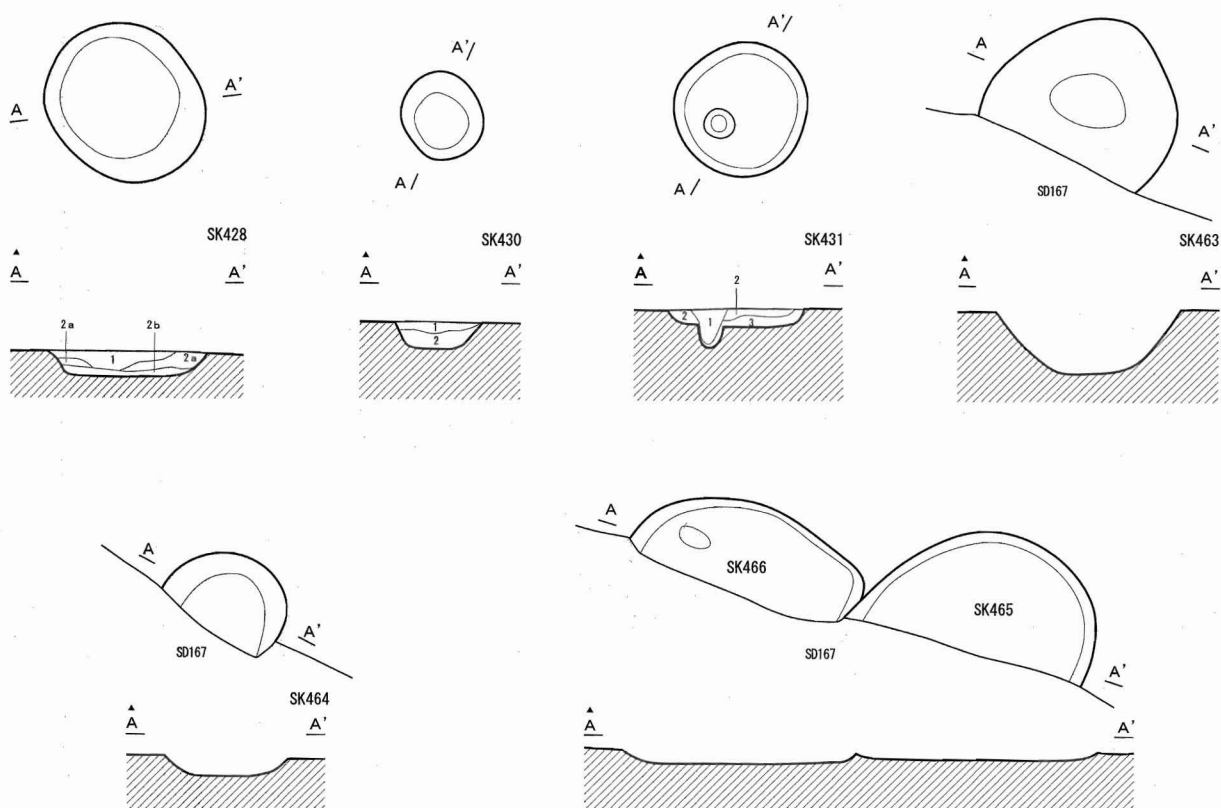


は0.3mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第434号土壌 (第86図)

BA-40グリッドで検出された。長径 - (2.1)m、短径 - (0.3)mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第69図 土壌 (7)



第435号土壌 (第86図)

BA-40・BA-41グリッドで検出された。長径 - 0.9 m、短径 - 0.9 mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.4 mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第436号土壌 (第86図)

BC-40グリッドで検出された。長径 - 2.9 m、短径 - 0.6 mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.3 mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第437号土壌 (第86図)

BC-39・BD-39グリッドで検出された。長径 - 2.7 m、短径 - 0.6 mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2 mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第438号土壌 (第86図、第71図)

BD-40グリッドで検出された。長径 - 3.2 m、短径 - 0.7 mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2 mであった。遺物はわずかに出土した。1、2ともに縄文時代中期後半加曾利EⅡ式の胴部破片であった。1は縄文を地文とした磨消縄文が、2は隆起線文が施文されている。

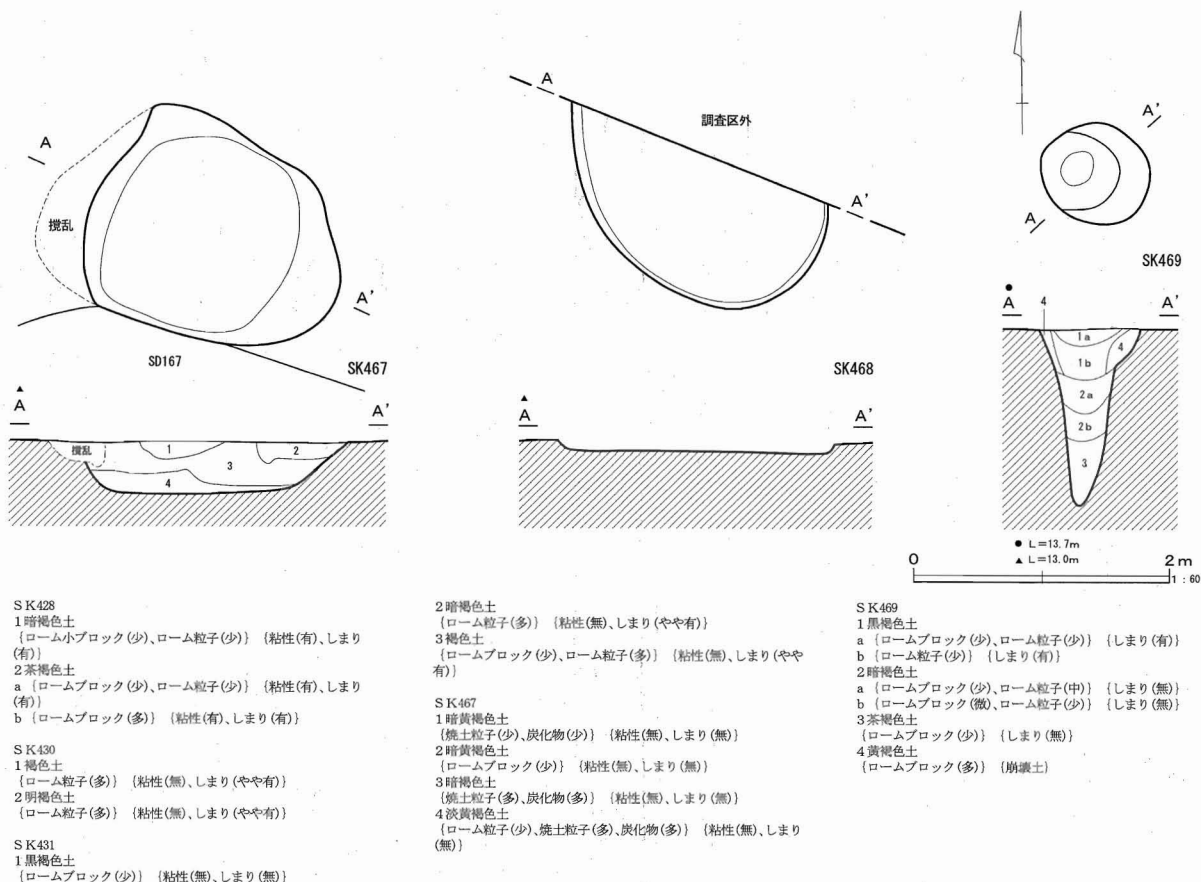
第439号土壌 (第86図)

BD-39・BD-40グリッドで検出された。長径 - 2.4 m、短径 - 0.9 mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.3 mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第440号土壌 (第86図)

BD-39・BD-40グリッドで検出された。長径 - 2.5 m、短径 - 0.9 mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.3 mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第70図 土壌 (8)



第441号土壌 (第86図)

BE-39・BF-39グリッドで検出された。長径 - 1.7 m、短径 - 0.6 mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.4 mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第442号土壌 (第86図)

BF-38・BF-39グリッドで検出された。長径 - 3.4 m、短径 - 0.7 mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.3 mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第443号土壌 (第86図)

BA-40グリッドで検出された。長径 - 2.0 m、短径 - 0.6 mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2 mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第444号土壌 (第86図)

AZ-40・BA-40グリッドで検出された。長径 - (2.3) m、短径 - (0.3) mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2 mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第445号土壌 (第88図)

BF-34グリッドで検出された。長径 - (1.6) m、短径 - (0.6) mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.3 mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

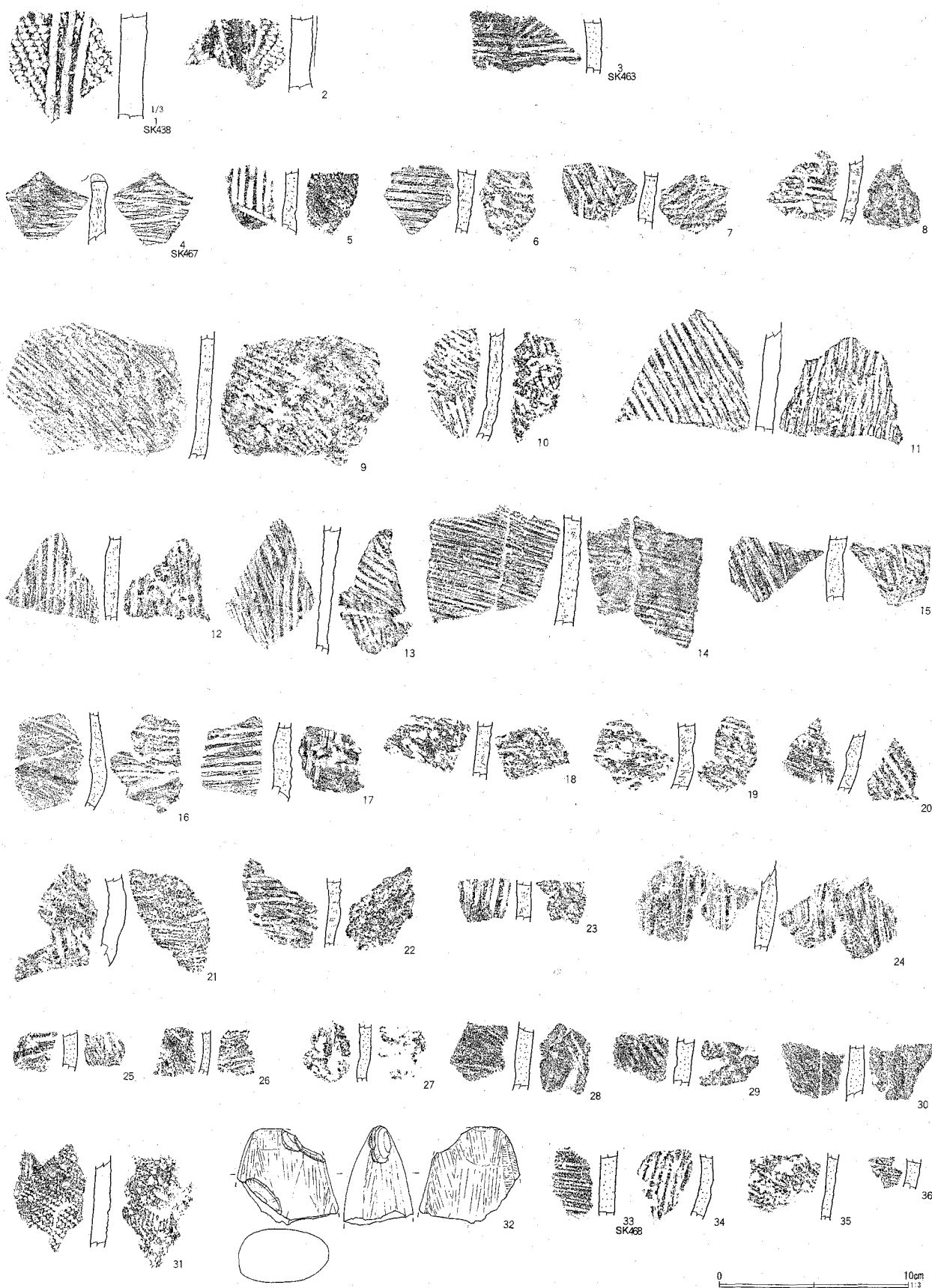
第446号土壌 (第88図)

BG-33グリッドで検出された。長径 - 1.3 m、短径 - (0.9) mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.3 mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第447号土壌 (第88図)

BI-32・BI-33グリッドで検出された。長径 - 3.3 m、

第71図 土壌（9）



短径 - 0.7mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第448号土壌 (第86図)

BD-35グリッドで検出された。長径 - 1.0m、短径 - 0.7mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第449号土壌 (第86図)

BC-35グリッドで検出された。長径 - 2.2m、短径 - 0.9mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第450号土壌 (第86図)

BA-39グリッドで検出された。長径 - 1.4m、短径 - 0.5mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第451号土壌 (第86図)

AZ-39グリッドで検出された。長径 - 2.2m、短径 - 0.9mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第452号土壌 (第86図)

BC-40グリッドで検出された。長径 - 1.4m、短径 - 0.6mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第453号土壌 (第86図)

BA-40グリッドで検出された。長径 - 1.2m、短径 - 0.8mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第454号土壌 (第86図)

BA-40グリッドで検出された。長径 - 1.8m、短径 - 0.7mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。近世期

以降のものと思われる。

第455号土壌 (第86図)

BA-40グリッドで検出された。長径 - 2.6m、短径 - 0.8mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第456号土壌 (第86図)

BA-40グリッドで検出された。長径 - 1.3m、短径 - 0.9mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第457号土壌 (第86図)

BA-40グリッドで検出された。長径 - 2.2m、短径 - 0.7mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.3mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第458号土壌 (第86図)

BA-40グリッドで検出された。長径 - 3.5m、短径 - 0.9mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.3mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第459号土壌 (第86図)

BC-40グリッドで検出された。長径 - 1.6m、短径 - 0.5mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第460号土壌 (第86図)

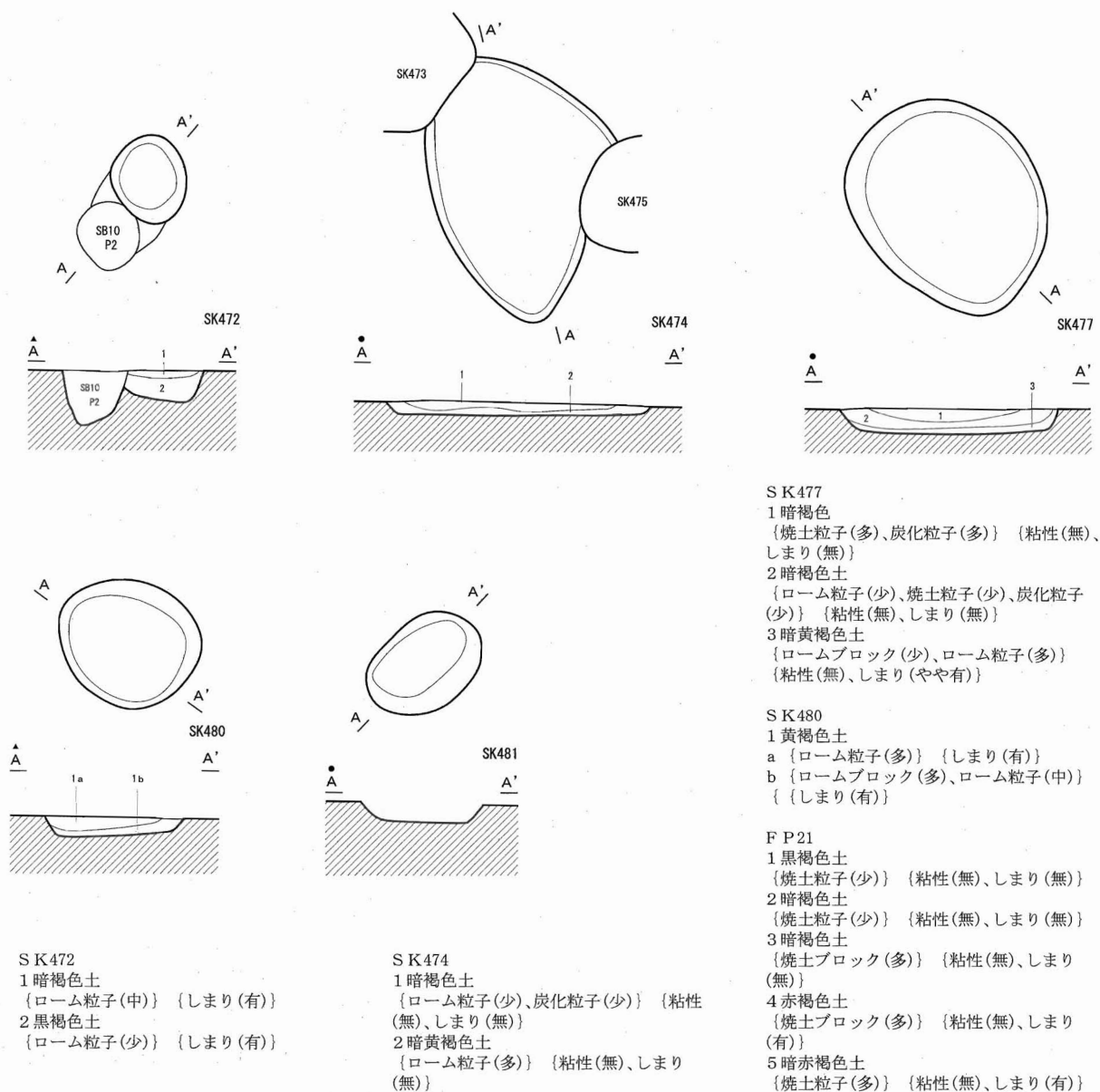
AZ-39グリッドで検出された。長径 - 1.2m、短径 - 0.5mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第461号土壌 (第86図)

AZ-37グリッドで検出された。長径 - 2.2m、短径 - 0.6mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.3mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第462号土壌 (第86図)

第72図 土壌 (10)



AZ-37グリッドで検出された。長径 - (1.2)m、短径 - (0.6)mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.5mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第463号土壌 (第69図、第71図)

AY-35・AY-36グリッドで検出された。長径 - 1.5m、短径 - 1.0mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.5mであった。遺物は1点だけ図示できた。3は繊維を含み、表面にだけ条痕文が施文される。縄文時代早期後半。

第464号土壌 (第69図)

AY-35グリッドで検出された。長径 - 1.0m、短径 - 0.4mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。

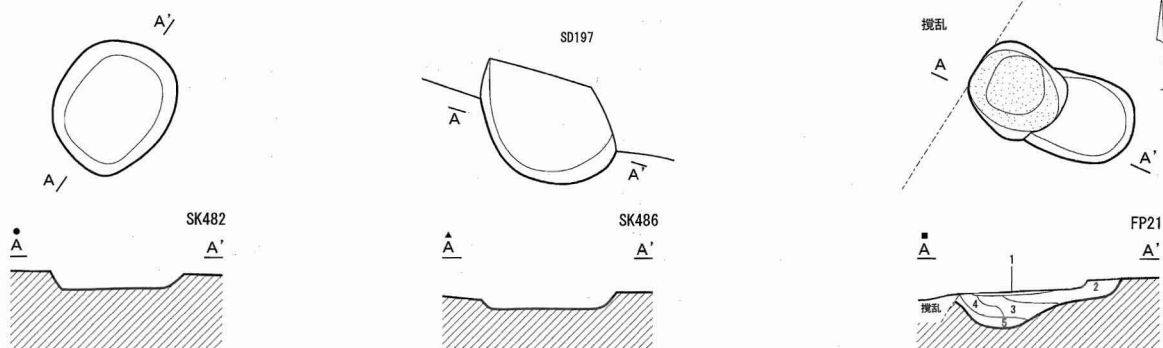
第465号土壌 (第69図)

AX-34・AX-35グリッドで検出された。長径 - 1.8m、短径 - (0.5)mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。

第466号土壌 (第69図)

AX-34グリッドで検出された。長径 - 1.9m、短

第73図 土壌 (11)・炉穴 (第21・22号)



FP22

1 黒色土

{ローム粒子(中)} {しまり(有)}

2 暗褐色土

a {ローム粒子(中)、炭化粒子(少)} {しまり(有)}

b {焼土ブロック(少)、焼土粒子(中)、炭化物(少)、炭化粒子(少)} {しまり(有)}

3 暗赤褐色土

{焼土粒子(中)} {軟らかい}

4 暗赤褐色土

a {焼土ブロック(少)、焼土粒子(多)} {しまり(有)}

b {焼土ブロック(多)、焼土粒子(多)} {しまり(有)}

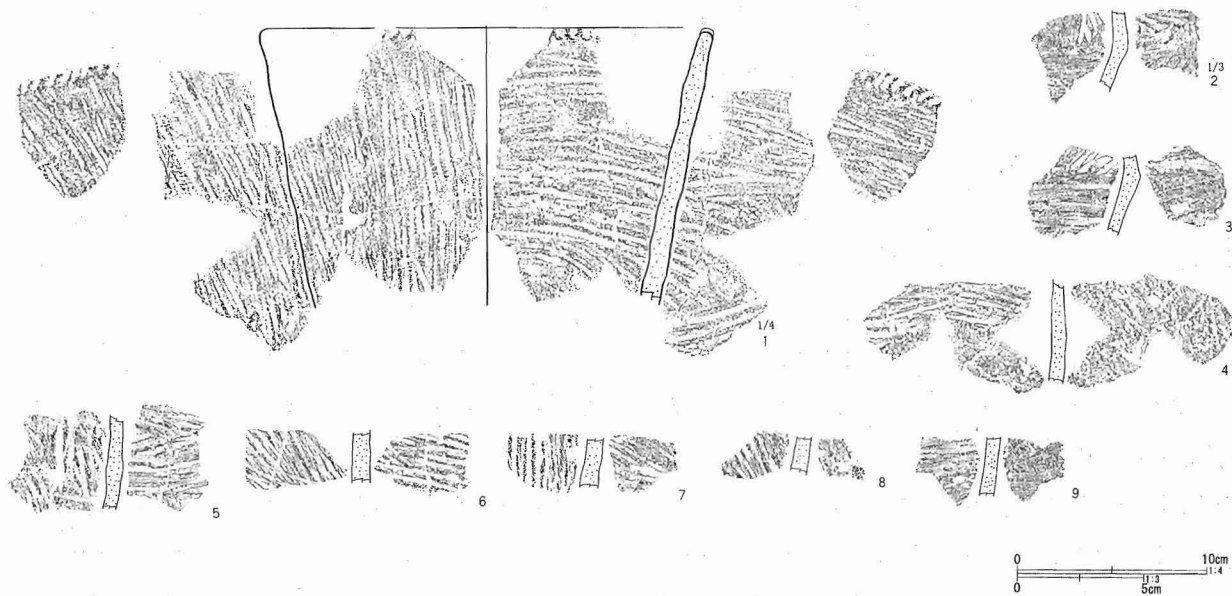
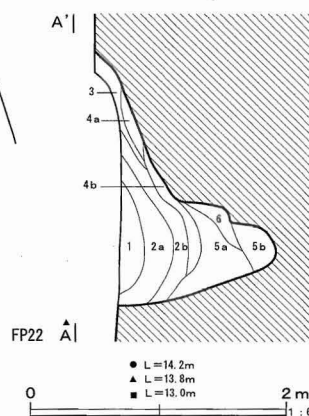
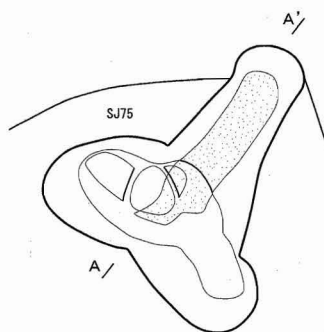
5 暗茶褐色土

a {ロームブロック(少)、ローム小ブロック(少)、炭化物(多)} {しまり(有)}

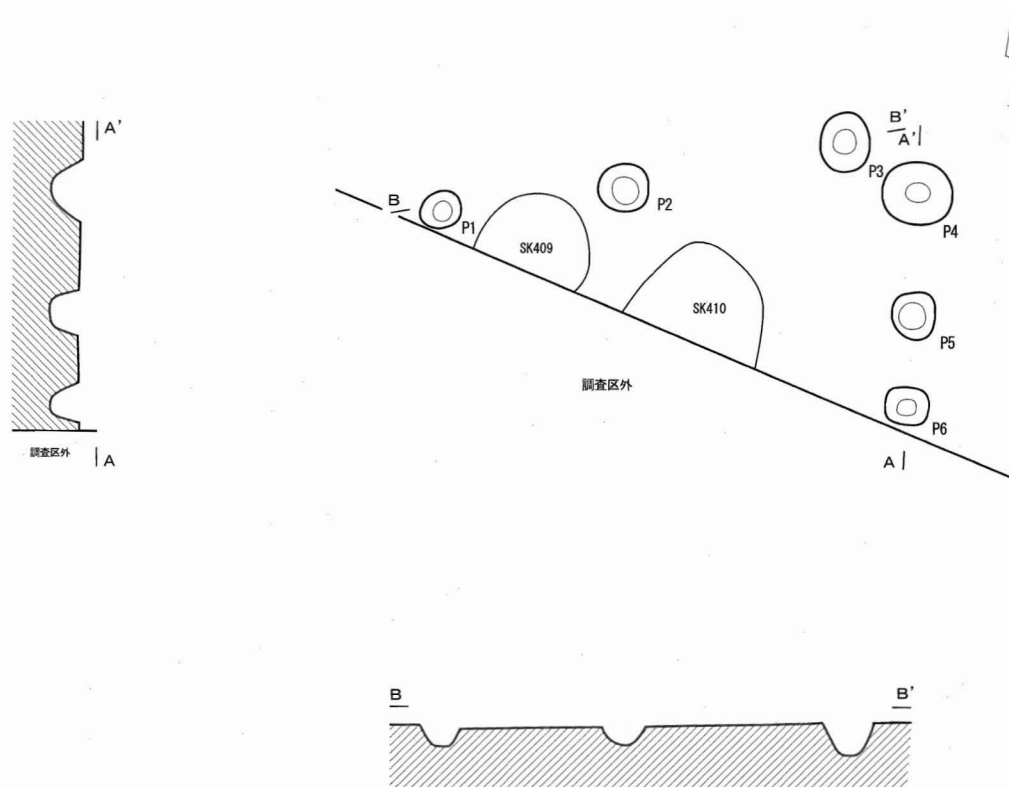
b {ローム粒子(少)} {しまり(有)}

6 黄褐色土

{ロームブロック(多)} {崩壊土}



第74図 第2号小竪穴



径 - (0.9)mの楕円形をしていたと思われる。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。

第467号土壇 (第70図、第71図、図版16)

AX-34グリッドで検出された。長径 - 2.4m、短径 - 1.5mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.5mであった。

多数の土器破片が出土した。いずれも表裏に条痕文が施文される縄文時代早期後半の土器である。11、13、31は現状で繊維が入っていなかった。他の土器はいずれも胎土に繊維が含まれる。4は波状口縁部破片。5は浅めの沈線文で区画し、同様の沈線を充填している。他は表裏に条痕文を施文する胴部破片。31は表面に縄文が施文される。裏面には条痕文が同える。32は磨製石斧の頭部破片。研磨は荒い。縄文時代早期後半の土壇と思われる。

第468号土壇 (第70図、第71図)

AX-34グリッドで検出された。長径 - 2.2m、短径 - (1.1)mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。出土した土器破片いずれも胎土に繊維を含む。条痕文や擦痕文が表面に施文されている。現状では裏面には施文されていない。縄文時代早期後半の土器であろう。

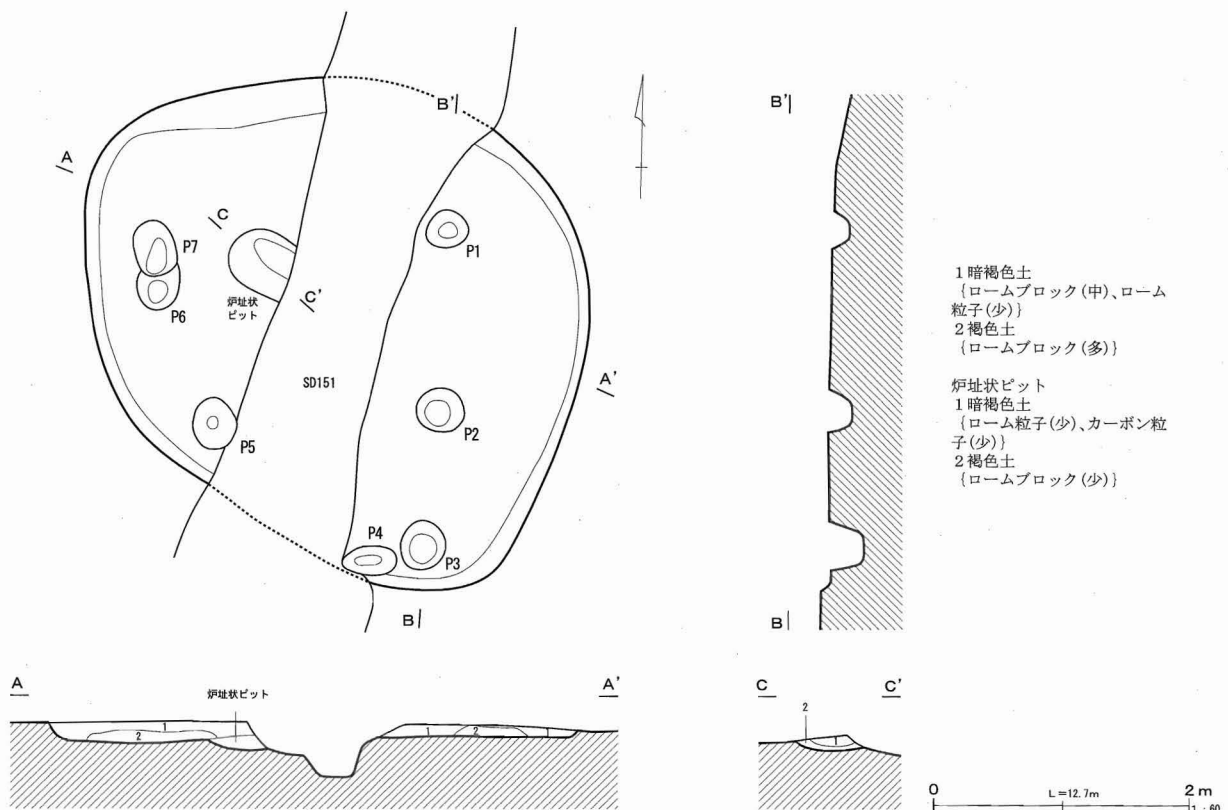
第469号土壇 (第70図、図版16)

BJ-32グリッドで検出された。長径 - 0.8m、短径 - 0.7mの楕円形をしていた。確認面からの深さは1.4mであった。遺物は出土しなかった。

第470号土壇 (第88図)

BI-33・BJ-33グリッドで検出された。長径 - (0.9)m、短径 - 1.3mの楕円形をしていた。確認面からの深さは1.0mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第75図 第3号小竪穴



第471号土壌 (第88図)

BJ-33グリッドで検出された。長径 - (1.0)m、短径 - 1.0mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.9mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第472号土壌 (第72図)

BL-27グリッドで検出された。長径 - 0.7m、短径 - 0.6mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.3mであった。遺物は出土しなかった。

第473号土壌 (第88図、図版16)

BK-27グリッドで検出された。長径 - 1.2m、短径 - 1.2mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.7mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第474号土壌 (第72図、図版16)

BK-27・BL-27グリッドで検出された。長径 - 2.1

m、短径 - 1.4mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。

第475号土壌 (第88図、図版16)

BL-27グリッドで検出された。長径 - 1.0m、短径 - 0.9mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第476号土壌 (第88図)

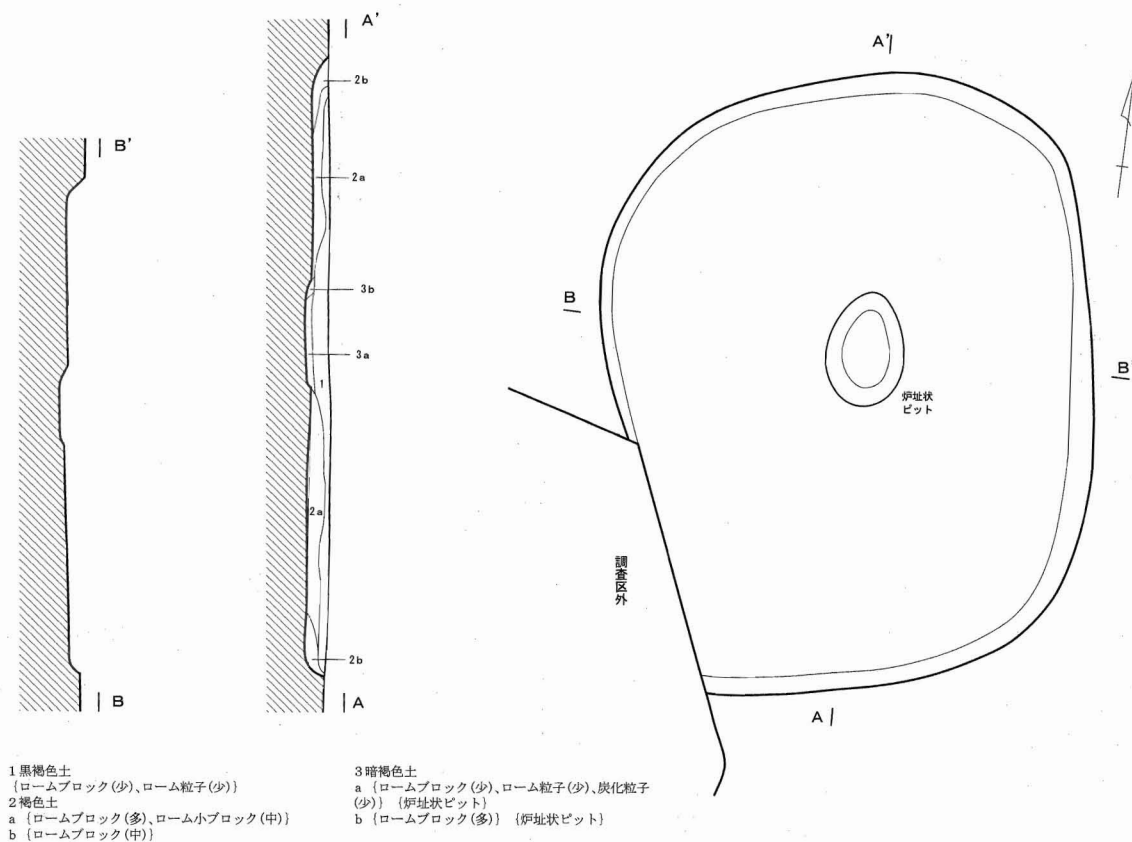
BL-27グリッドで検出された。長径 - 1.4m、短径 - 1.0mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。

第477号土壌 (第72図、図版16)

BL-27グリッドで検出された。長径 - 1.9m、短径 - 1.5mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。

第478号土壌 (第88図)

第76図 第4号小竪穴



BK-24グリッドで検出された。長径 - 0.7m、短径 - 0.5mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.5mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第479号土壌 (第88図)

BK-24グリッドで検出された。長径 - 1.0m、短径 - 0.7mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.3mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第480号土壌 (第72図)

BC-31グリッドで検出された。長径 - 1.3m、短径 - 0.9mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。

第481号土壌 (第72図)

BM-26グリッドで検出された。長径 - 0.9m、短径 - 0.7mの楕円形をしていた。確認面からの深さは

は0.2mであった。遺物は出土しなかった。

第482号土壌 (第73図)

BM-26グリッドで検出された。長径 - 1.0m、短径 - 0.8mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。

第483号土壌 (第88図)

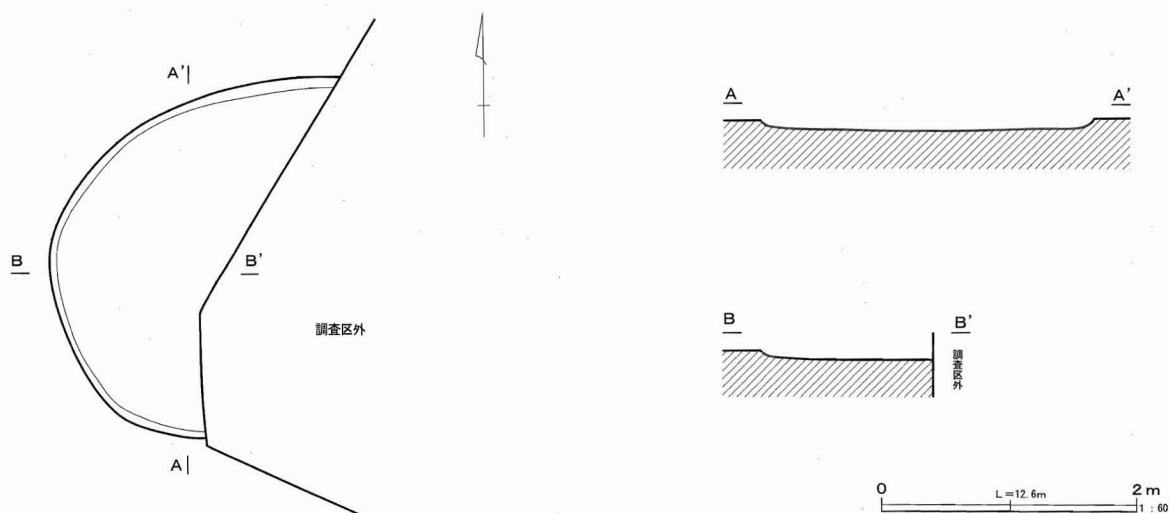
BK-34グリッドで検出された。長径 - 1.1m、短径 - 0.9mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第484号土壌 (第86図)

BC-40グリッドで検出された。長径 - 0.7m、短径 - 0.5mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.3mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第485号土壌 (第86図)

第77図 第5号小竪穴



AZ-39グリッドで検出された。長径 - 1.4m、短径 - 0.9mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第486号土壙 (第73図)

BN-35グリッドで検出された。長径 - 1.1m、短径 - 0.9mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。

(4) 炉穴

第21号炉穴 (第73図)

AX-34グリッドで検出された。上面は攪乱によってかなり削られている。長径-1.3m、短径-0.8mの不整楕円形をしていて、二段に掘り込まれる。焼土が詰まっていた東側は0.3mの深さであった。

遺物は、縄文時代早期後半条痕文系の土器群が出土している。1は口径が0.24m程の深鉢であろう。胴部以下はなかった。繊維を含み表裏に条痕文が施文される。口唇部に刻みがある。屈曲はなく単純に外反する器形である。2・3は屈曲がある破片で文様が施文されている。沈線文で幾何学状の文様を区画し、浅めの沈線を充填している。4～9は胴部破片。表裏に条痕が施文される。

第23号炉穴 (第73図)

長径2.0m、短径2.0mの不整形をしていた。中央

部が1.3mと深く、三方に立ち上がる。北方向に上がる部分はなだらかに立ち上がり、底面付近にかなりの焼土が認められた。土層自体は自然堆積であった。

遺物は出土しなかった。縄文時代早期と思われる。

(5) 小竪穴

第2号小竪穴 (第74図)

AM-41グリッドで検出された。付近には第43号住居跡があった。南側の大部分が調査区域外であった。確認時点で柱穴のみが検出された。長径4.4m前後の楕円形をしていたものと思われる。柱穴は6箇所検出された。深さ0.2m前後と浅かった。

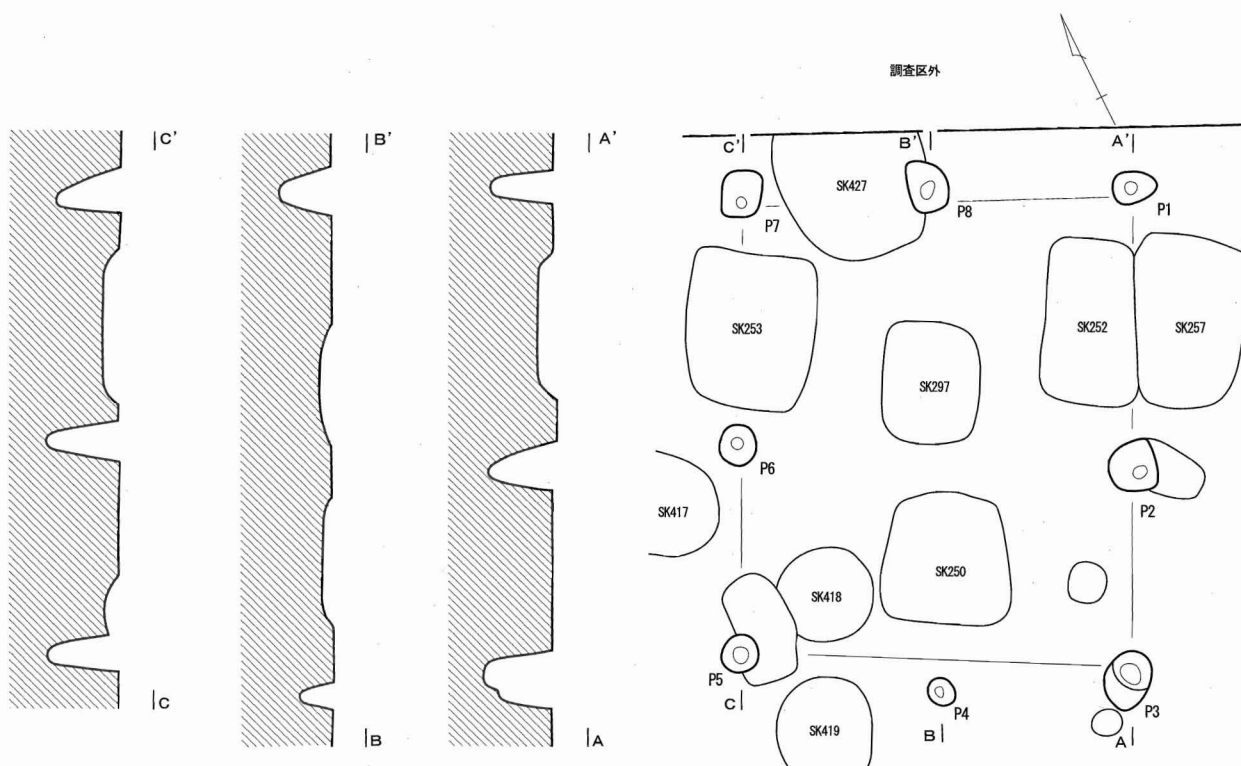
遺物は出土しなかった。周辺の状況から縄文時代中期後半～後期初頭にかけての時期かと思われる。

第3号小竪穴 (第75図)

AN-46・AO-46グリッドで検出された。付近には第44号住居跡と第4号、第5号小竪穴がある。中央部を溝に切られている。長径約4.4m、短径約3.5m前後の不整楕円形をしていた。深さは0.15m前後と浅かった。柱穴は7本検出されたが配列は不規則であった。深さはいずれも浅い。中央部に炉跡に相当する楕円形のピットが検出されたが、焼土の埋土はなかった。

遺物は縄文時代中期後半～後期初頭の破片が出

第78図 第7号掘立柱建物跡



土したが、図示できるものはなかった。住居跡との判断は難しいので、小竪穴とした。縄文時代中期後半～後期初頭にかけての時期と思われる。

第4号小竪穴（第76図）

AN-45・AN-46・AO-45・AO-46グリッドで検出された。南西側が調査区域外であった。長径・約5m、短径・約3.9m前後の楕円形をしていた。深さは0.2m前後と浅かった。床面は軟弱であった。中央部に楕円形のピットが検出されたが明瞭な焼土の堆積はなかった。他に柱穴などは検出されなかった。

遺物は縄文時代中期後半に属する土器が極わずかに出土した。図示できるものはなかった。周辺の状況から縄文時代中期後半～後期初頭であろう。

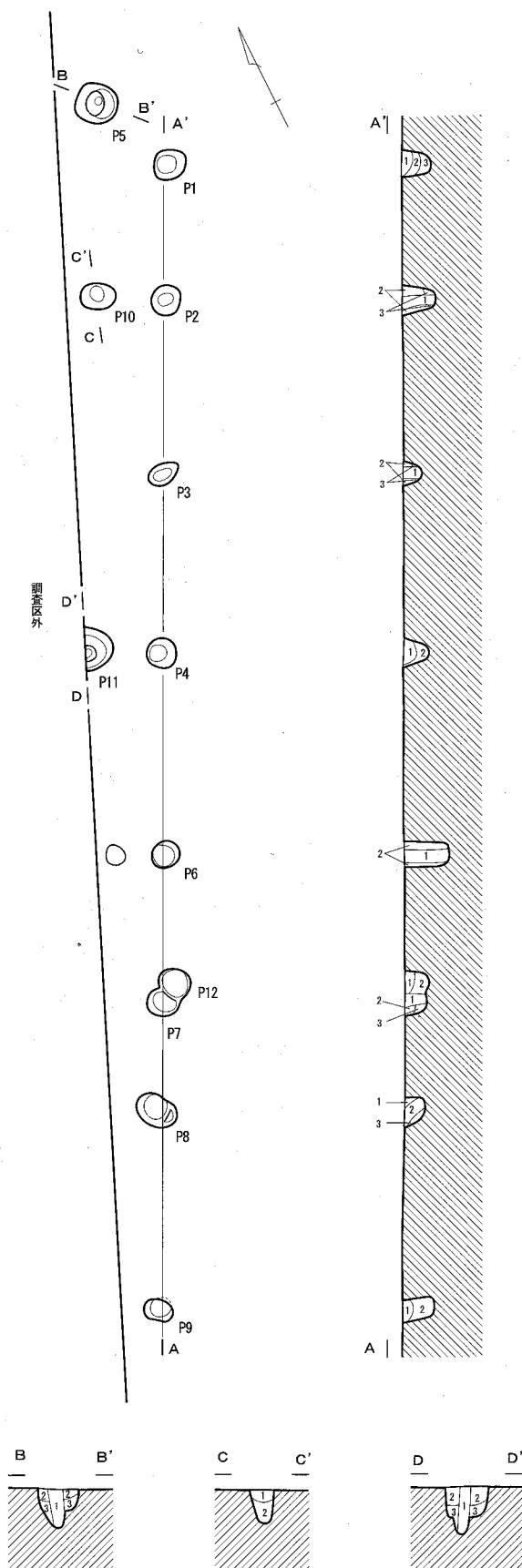
第5号小竪穴（第77図）

AN-47グリッドで検出された。東側は調査区域外であった。径が3m前後の楕円形になるものと思わ

れる。深さは0.1m前後で浅かった。柱穴などは検出できなかった。

遺物は出土しなかった。周囲の以降の状況から縄文時代中期後半～後期初頭の時期としておきたい。

第79図 第8号掘立柱建物跡



ビット1
1 灰褐色土
{ローム粒子(少)} {粘性(低)}
2 褐色土
{ローム粒子(少)} {粘性(低)}
3 暗褐色土
{ローム粒子(微)} {粘性(低)}

ビット2
1 褐色土
{ロームブロック(多)、ローム粒子(多)} {粘性(低)}
2 褐色土
{ローム小ブロック(多)、ローム粒子(多)} {粘性(低)}
3 暗褐色土
{ローム粒子(少)} {粘性(低)}

ビット3
1 褐色土
{ローム粒子(中)} {粘性(低)}
2 淡褐色土
{ローム粒子(多)} {粘性(低)}
3 茶褐色土
{ローム粒子(少)} {粘性(低)}

ビット4
1 褐色土
{ローム粒子(中)} {粘性(低)}
2 灰褐色土
{ローム粒子(少)} {粘性(低)}

ビット5
1 淡暗褐色土
{ローム粒子(少)} {粘性(低)}
2 褐色土
{ローム粒子(少)} {粘性(低)}
3 淡明褐色土
{ローム粒子(中)} {粘性(低)}

ビット6
1 褐色土
{ローム粒子(中)、炭化物(微)} {粘性(低)}
2 明褐色土
{ローム粒子(多)} {粘性(低)}

ビット7
1 褐色土
{ローム粒子(少)} {粘性(低)}
2 淡褐色土
{ローム粒子(少)} {粘性(低)}
3 淡褐色土
{ローム粒子(少)} {粘性(低)}

ビット8
1 黄色土
{ロームブロック}
2 暗褐色土
{ローム小ブロック(中)、ローム粒子(少)} {粘性(低)}
3 黄色土
{ロームブロック(多)}

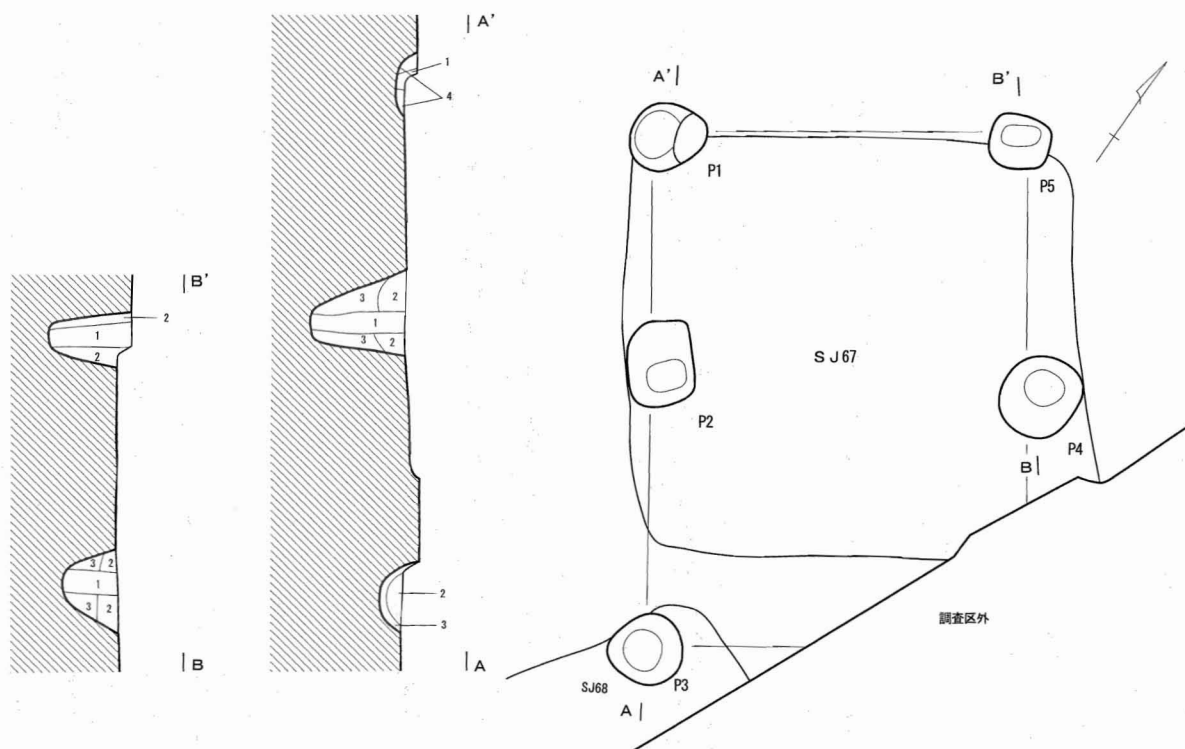
ビット9
1 褐色土
{ロームブロック(中)、ローム粒子(微)} {粘性(低)}
2 褐色土
{ロームブロック(少)、ローム粒子(少)} {粘性(低)}

ビット10
1 褐色土
{ローム粒子(少)} {粘性(低)}
2 淡暗褐色土
{ローム粒子(少)} {粘性(低)}

ビット11
1 暗褐色土
{ローム粒子(少)、炭化物(微)} {粘性(低)}
2 茶褐色土
{ローム小ブロック(多)、ローム粒子(多)} {粘性(中)}
3 褐色土
{ローム粒子(少)} {粘性(低)}

ビット12
1 褐色土
{ロームブロック(中)、ローム粒子(微)} {粘性(低)}
2 褐色土
{ロームブロック(少)、ローム粒子(少)} {粘性(低)}

第80図 第9号掘立柱建物跡



(6) 掘立柱建物跡

第7号掘立柱建物跡 (第78図、第85図)

AM-43・AM-44グリッドで検出された。溝で区画された内部にあった。区画内にはピットが多数あったが、建物跡としての組み合わせはこれだけであった。桁行約3.9m、梁行3.1mで2間×2間の柱間であった。柱間は桁行1.9m、梁行1.5mであった。柱穴は深さ0.6m前後としっかりしていた。

遺物は出土しなかったが、近世期の所産と思われる。

第8号掘立柱建物跡 (第79図)

AR-44・AS-44グリッドにかけて検出された。西側大半は調査区域外であった。長径約14mで、8本の柱で構成されていた。柱穴の深さは0.5m前後であった。

遺物は出土しなかったが近世期の所産と思われる。

柵列との呼称が正しいのかも知れないが、ここでは現場での呼称を尊重した。

第9号掘立柱建物跡 (第80図)

BF-30グリッドで検出された。南西部分は調査区域外であった。第67号住居跡、第68号住居跡を切っている。2×1間で桁行4.2m、梁行3.0mであった。柱間は桁行2.1m、梁行3.0mであった。深さは0.6m前後と0.3m前後の2種類あった。

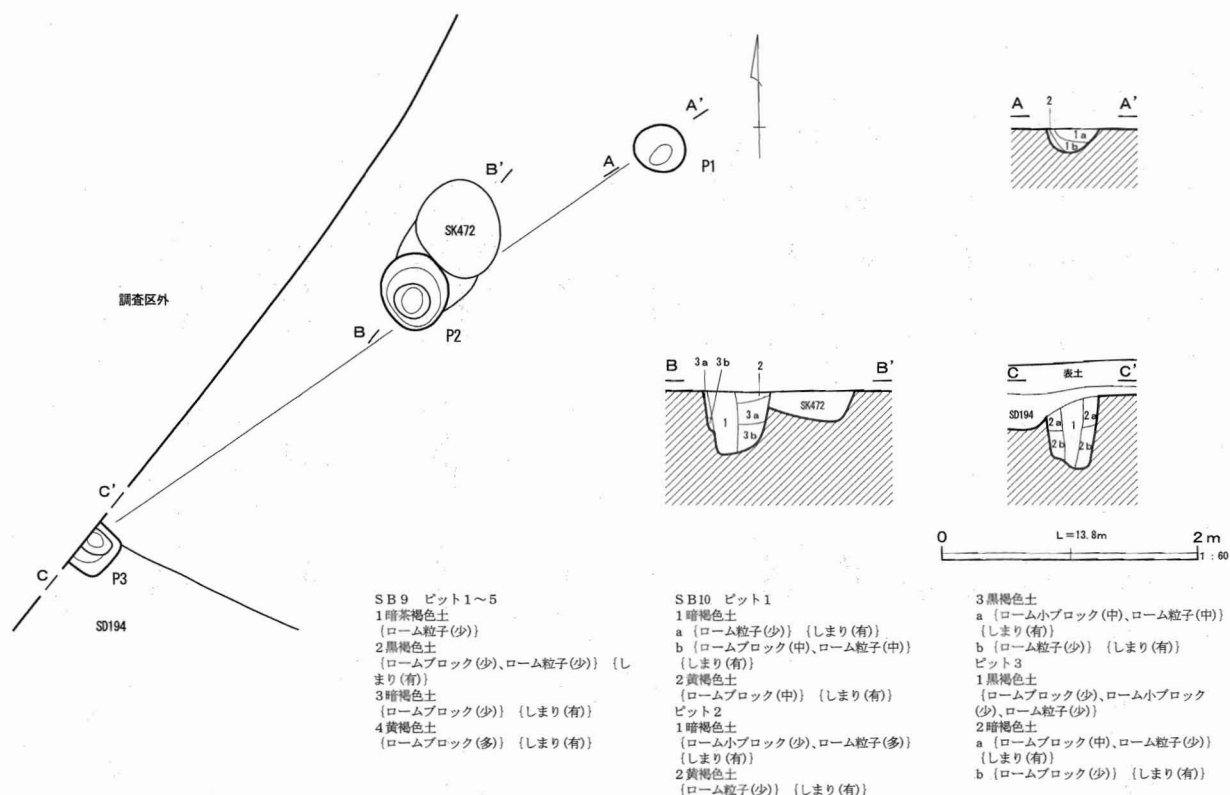
遺物は出土しなかった。時期は近世期の所産と思われる。

第10号掘立柱建物跡 (第81図)

BJ-27、BK-27グリッドで検出された。西側の大部分は調査区域外であった。東側2間分が確認された。長さは5.5mであった。現状で規模は不明である。

遺物は出土しなかった。時期は近世期の所産と思われる。

第81図 第10号掘立柱建物跡



(7) 井戸

第7号井戸 (第82図)

AM-42グリッドで検出された。付近には第7号掘立柱建物跡がある。直径-0.9m前後の円形をしていた。確認面から約1.2m掘り下げた段階で出水したため深さは不明である。

遺物は出土しなかった。近世期以降の時期と思われる。

第8号井戸 (第82図)

AN-45グリッドで検出された。付近には第7号掘立柱建物跡がある。直径-1.2m前後の円形をしていた。確認面から約1.3mで出水したため深さは不明である。覆土の堆積状況は自然堆積であった。

遺物は出土しなかった。近世期以降の所産と思われる。

第9号井戸 (第82図)

AM-47グリッドで検出された。第151号溝の端部にあった。直径-0.7m前後の円形をしていた。確認面からの深さは0.9mであった。

遺物は出土しなかった。近世期以降の所産と思われる。

第10号井戸 (第82図)

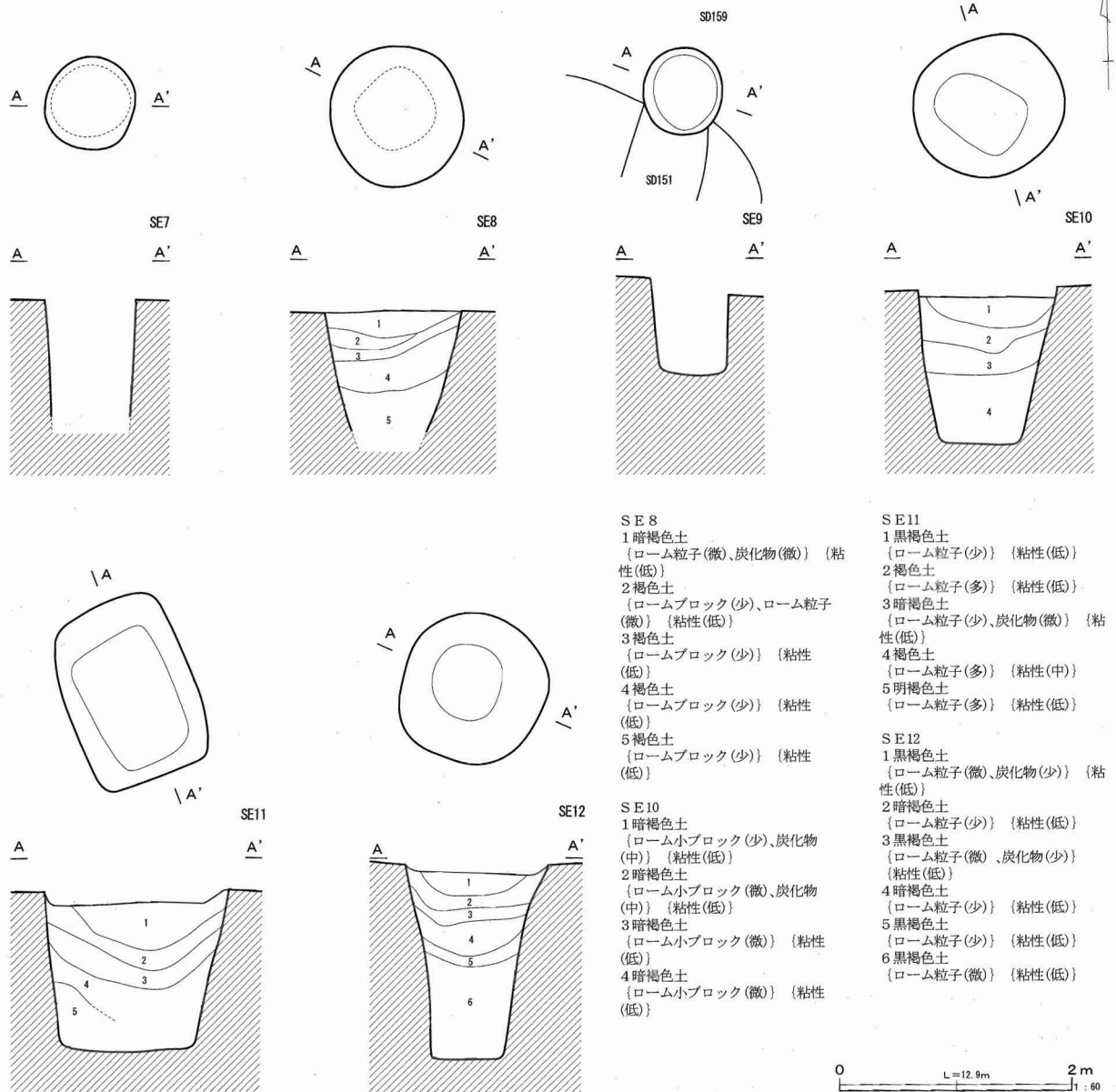
AS-44グリッドで検出された。付近には第8号掘立柱建物跡がある。直径-1.35m前後の円形をしていて、底面付近で四角形に近くなる。確認面からの深さは1.35mであった。覆土の埋まり方は自然堆積であった。

遺物は出土しなかった。近世期以降の所産と思われる。

第11号井戸 (第82図)

AT-43グリッドで検出された。付近には第8号掘立柱建物跡がある。直径-1.6m、短径-1.1mの長方形

第82図 井戸（第7～12号）



をしていた。確認面からの深さは1.4mであった。 れる。

覆土の埋まり方は自然堆積であった。

遺物は出土しなかった。近世期以降の所産と思われる。

第12号井戸（第82図）

AW-42・AW-43グリッドで検出された。付近に建物跡はない。直径-1.3m前後の円形をしていた。確認面からの深さは約1.7mであった。覆土の埋まり方は自然堆積であった。

遺物は出土しなかった。近世期以降の所産と思わ

(8) 溝

第139号溝 (第83図)

AK-40グリッドからAL-39グリッドにかけて位置していた。長さ-約(8.4)m、幅-約1.2m、深さ-約0.3mであった。ほぼN-40°-Eに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第140号溝 (第83図)

AK-40グリッドからAL-41グリッドにかけて位置していた。長さ-約(9.3)m、幅-約2.6m、深さ-約0.5mであった。ほぼN-41°-Eに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第141号溝 (第83図、第84図)

AL-40グリッドからAL-42グリッドにかけて位置していた。長さ-約(20.0)m、幅-約2.5m、深さ-約0.6mであった。ほぼN-42°-Eに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期の溝であろう。

第142号溝 (第83図)

AL-40グリッドからAL-41グリッドにかけて位置していた。長さ-約(3.4)m、幅-約0.8m、深さ-約0.3mであった。ほぼN-34°-Eに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第143号溝 (第83図)

AL-43グリッドからAM-41グリッドにかけて位置していた。長さ-約(18.7)m、幅-約1.6m、深さ-約0.4mであった。ほぼN-78°-Eに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第144号溝 (第83図、第84図)

AM-43グリッドに位置していた。長さ-約(8.5)m、幅-約0.9m、深さ-約0.2mであった。ほぼN-29°-Eに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第145号溝 (第83図、第84図)

AM-43グリッドからAN-43グリッドにかけて位置していた。長さ-約(13.6)m、幅-約1.3m、深さ-約0.4mであった。ほぼN-31°-Eに伸びていた。遺物は出

土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第146号溝 (第83図、第84図)

AM-44グリッドからAN-45グリッドにかけて位置していた。長さ-約(8.3)m、幅-約1.4m、深さ-約0.3mであった。ほぼN-27°-Eに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第147号溝 (第83図)

AN-45グリッドに位置していた。長さ-約5.2m、幅-約0.5m、深さ-約0.1mであった。ほぼN-29°-Eに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第148号溝 (第83図)

AN-45グリッドに位置していた。長さ-約(2.4)m、幅-約0.6m、深さ-約0.1mであった。ほぼN-33°-Eに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第149号溝 (第83図、第84図)

AL-47グリッドからAL-48グリッドにかけて位置していた。長さ-約(3.7)m、幅-約2.1m(第153号溝と併せて)、深さ-約0.5mであった。ほぼN-67°-Wに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第150号溝 (第83図、第84図)

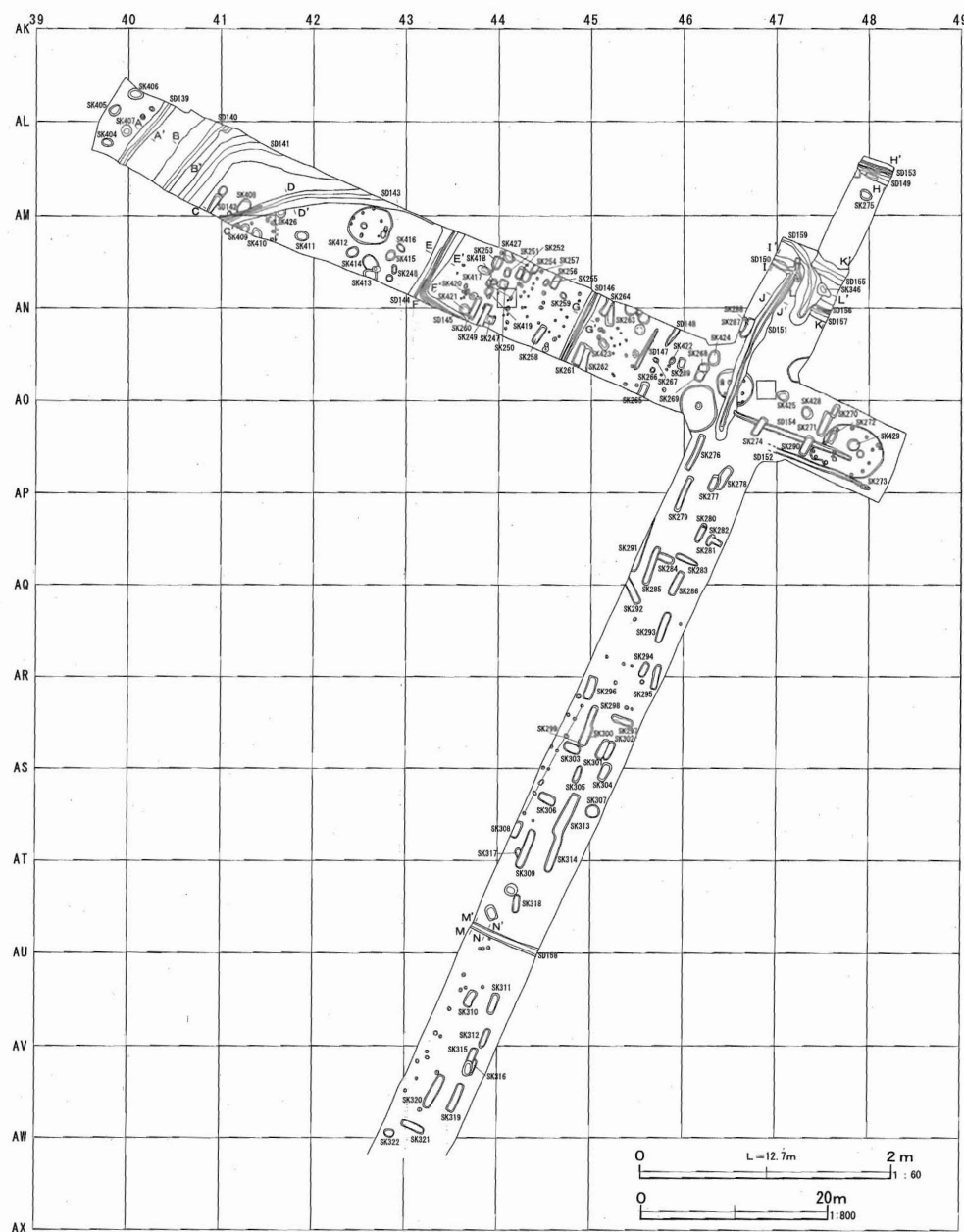
AM-46グリッドからAM-47グリッドにかけて位置していた。長さ-約(4.2)m、幅-約0.8m、深さ-約0.1mであった。ほぼN-61°-Wに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第151号溝 (第83図、第84図)

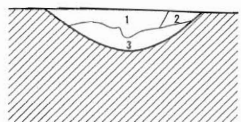
AM-47グリッドからAO-46グリッドにかけて位置していた。長さ-約(20.8)m、幅-約1.6m、深さ-約0.5mであった。ほぼN-25°-Eに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第152号溝 (第83図)

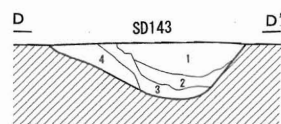
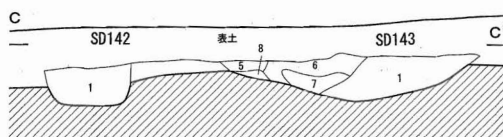
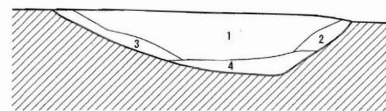
第83図 土壌・溝（中・近世）（1）



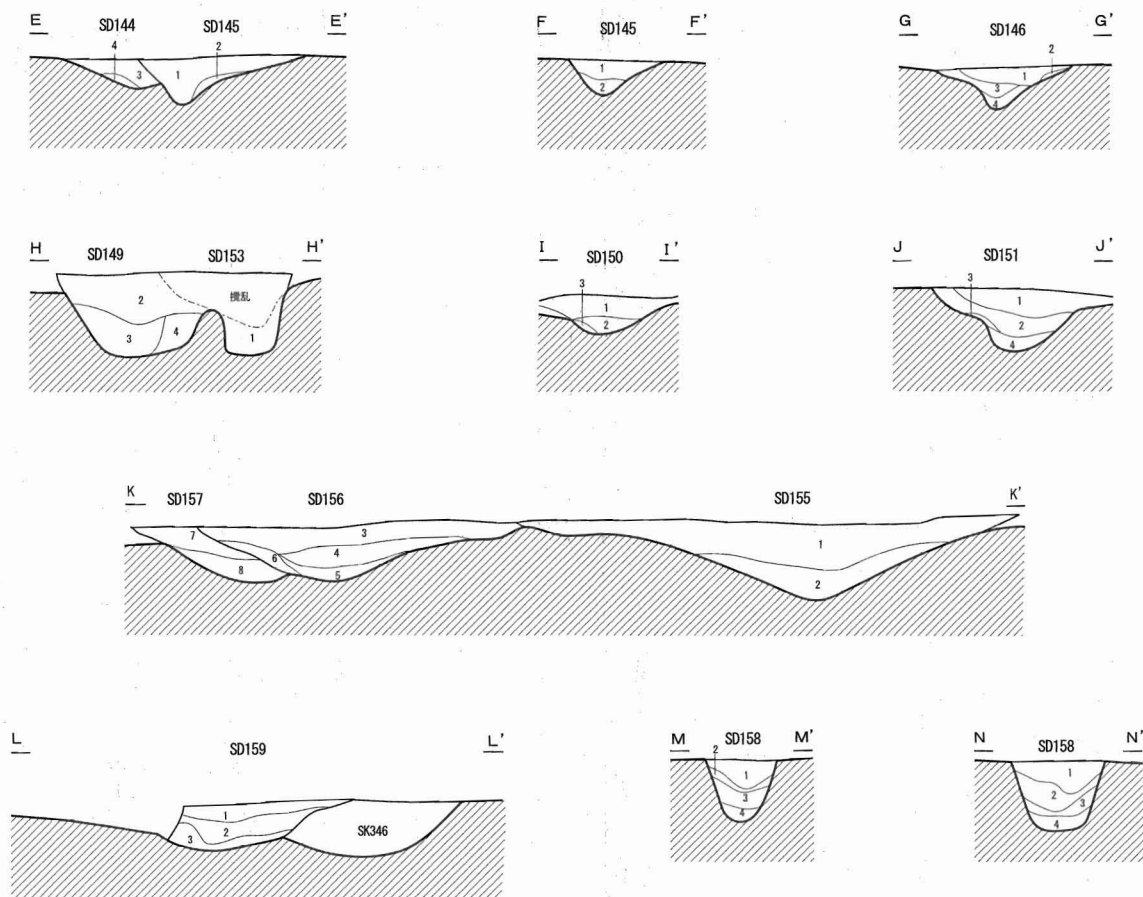
A SD139 A'



B SD140 B'



第84図 土壌・溝（中・近世）（2）

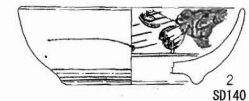


- SD139
1 濃褐色土
{ローム粒子(微)} {粘性(低)}
2 褐色土
{ローム粒子(多)} {粘性(低)}
3 褐色土
{ローム粒子(多)} {粘性(低)}
- SD140
1 茶褐色土
{ローム粒子(微)、炭化粒子(微)}
{粘性(低)}
2 茶褐色土
{ローム粒子(微)} {粘性(低)}
3 茶褐色土
{ローム粒子(微)} {粘性(低)}
4 暗褐色土
{ローム粒子(微)} {粘性(低)}
- SD142
1 茶褐色土
{ローム粒子(少)ロームブロック(少)}
{粘性(低)}
- SD143
1 黒褐色土
{ローム粒子(少)} {粘性(低)}
2 茶褐色土
{ローム粒子(多)} {粘性(低)}
3 茶褐色土
{ローム粒子(多)} {粘性(低)}
4 茶褐色土
{ローム粒子(多)} {粘性(低)}
5 黒褐色土
{ローム粒子(少)} {粘性(低)}
6 明褐色土
{ローム粒子(多)}
7 黒褐色土
{ローム粒子(少)} {粘性(低)}
8 黒褐色土
{ローム粒子(少)} {粘性(低)}
- SD144・145
1 黒褐色土
{ローム粒子(微)} {粘性(低)}
2 茶褐色土
{ロームブロック(少)、ローム粒子(少)}
{粘性(低)}

- 3 茶褐色土
{ローム粒子(少)} {粘性(低)}
4 茶褐色土
{ローム粒子(少)} {粘性(低)}
- SD146
1 茶褐色土
{ローム粒子(少)} {粘性(低)}
2 褐色土
{ロームブロック} {粘性(低)}
3 明褐色土
{ローム小ブロック(多)、ローム粒子(多)}
{粘性(低)}
4 暗褐色土
{ローム粒子(微)} {粘性(低)}
- SD149・153
1 褐色土
{ローム粒子(微)} {粘性(低)}
2 明褐色土
{ローム粒子(少)} {粘性(低)}
3 3 褐色土
{ローム粒子(微)} {粘性(低)}
4 褐色土
{粘性(低)}
- SD150
1 褐色土
{ローム粒子(少)} {粘性(低)}
2 褐色土
{ローム粒子(少)} {粘性(低)}
3 明褐色土
{ローム粒子(多)} {粘性(低)}
- SD151
1 褐色土
{ローム小ブロック(少)、
ローム粒子(微)、
炭化物(微)} {粘性(低)}
2 褐色土
{ローム粒子(少)、炭化物(微)}
{粘性(低)}
3 褐色土
{ローム粒子(少)} {粘性(低)}
4 褐色土
{ローム粒子(少)} {粘性(低)}

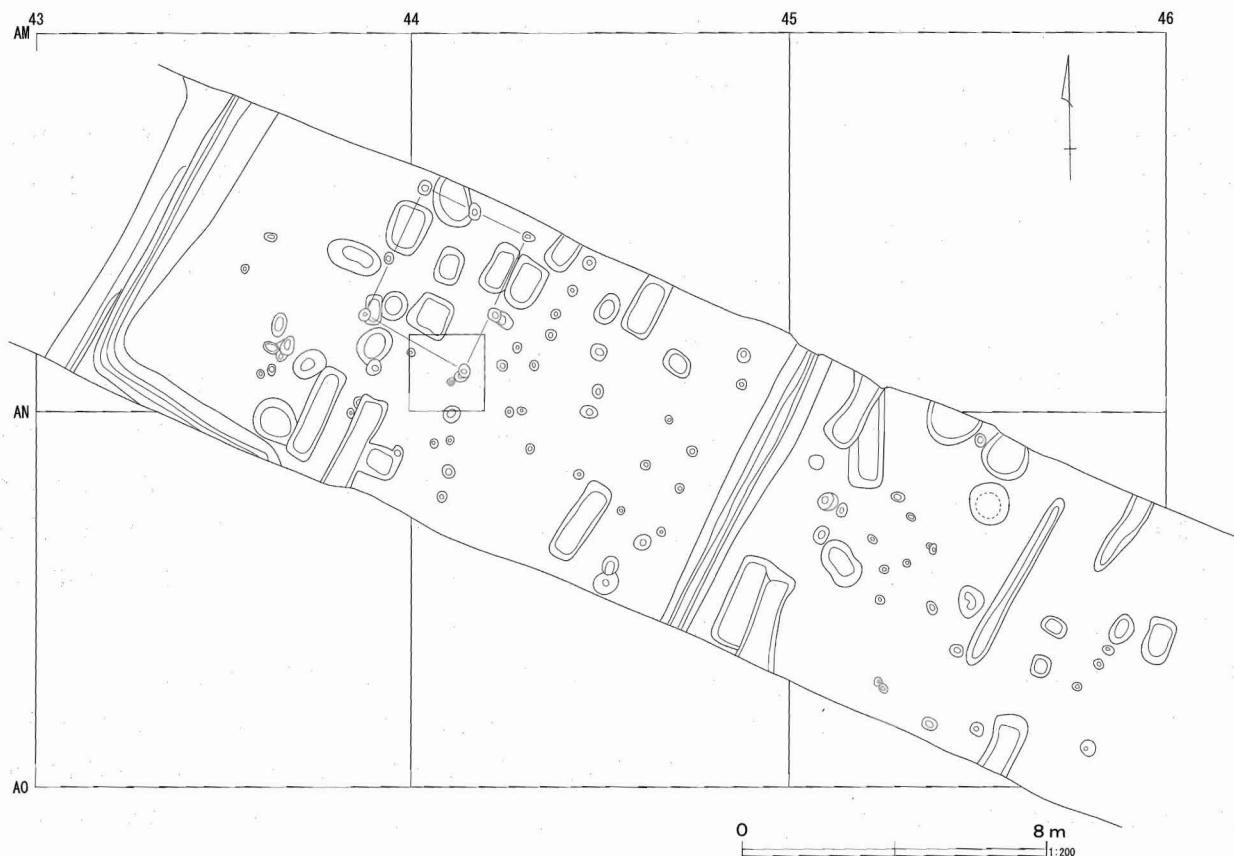
- SD155・156・157
1 褐色土
{ローム粒子(少)、炭化物(微)}
{粘性(低)}
2 暗褐色土
{ローム粒子(少)} {粘性(低)}
3 褐色土
{ローム粒子(微)} {粘性(低)}
4 褐色土
{ロームブロック(少)} {粘性(低)}
5 褐色土
{ローム粒子(微)} {粘性(低)}
6 褐色土
{ローム粒子(微)} {粘性(低)}
7 明褐色土
{ローム粒子(多)} {粘性(低)}
8 明褐色土
{ローム粒子(多)} {粘性(低)}
- SD159
1 褐色土
{ロームブロック(少)、ローム粒子(少)、
炭化物(少)} {粘性(低)}

- 2 褐色土
{ロームブロック(多)、ローム粒子(小)、
炭化物(微)} {粘性(低)}
3 褐色土
{ローム粒子(微)} {粘性(低)}
- SD158
1 暗褐色土
{ローム粒子(微)} {粘性(無)、しまり(無)}
2 茶褐色土
{ローム粒子(少)} {粘性(無)、しまり
(やや有)}
3 明褐色土
{ローム粒子(多)} {粘性(無)、しまり
(やや有)}
4 黒褐色土
{ローム粒子(多)} {粘性(無)、しまり
(やや有)}



0 10cm

第85図 土壌・溝（中・近世）（3）



AO-47グリッドに位置していた。長さ-約(9.9) m、幅-約0.6 m、深さ-約0.1 mであった。ほぼN-68°-Wに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第153号溝（第83図、第84図）

AL-47グリッドからAL-48グリッドにかけて位置していた。長さ-約(3.7) m、幅-約2.1 m(第149号溝と併せて)、深さ-約0.5 mであった。ほぼN-70°-Wに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第154号溝（第83図）

AO-46グリッドからAO-47グリッドにかけて位置していた。長さ-約(13.7) m、幅-約0.7 m、深さ-約0.1 mであった。ほぼN-68°-Wに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第155号溝（第83図）

AM-47グリッドに位置していた。長さ-約(4.0) m、幅-約1.6 m、深さ-約0.5 mであった。ほぼN-63°-Wに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第156号溝（第83図、第84図）

AM-47グリッドからAN-47グリッドにかけて位置していた。長さ-約(1.8) m、幅-約1.3 m(第157号溝と併せて)、深さ-約0.3 mであった。ほぼN-63°-Wに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第157号溝（第83図、第84図）

AN-47グリッドに位置していた。長さ-約(2.1) m、幅-約1.3 m(第156号溝と併せて)、深さ-約0.3 mであった。ほぼN-64°-Wに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第158号溝 (第83図、第84図)

AT-43グリッドからAU-44グリッドにかけて位置していた。長さ約(7.7)m、幅約0.8m、深さ約0.6mであった。ほぼN-67°-Wに伸びていた。染付の磁器が1個体実測できた。形状より中・近世期以降の溝であろう。

第159号溝 (第83図、第84図、第87図、図版18)

AM-47グリッドからAN-47グリッドにかけて位置していた。長さ約(6.1)m、幅約2.7m、深さ約0.4mであった。ほぼN-60°-Wに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第160号溝 (第86図、図版18)

BB-43グリッドからBC-43グリッドにかけて位置していた。長さ約(8.4)m、幅約0.9m、深さ約0.2mであった。ほぼN-15°-Eに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第161号溝 (第86図、図版18)

BC-47グリッドからBD-47グリッドにかけて位置していた。長さ約(7.8)m、幅約1.0m、深さ約0.3mであった。ほぼN-16°-Eに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第162号溝 (第86図、図版18)

BD-47グリッドに位置していた。長さ約(7.7)m、幅約0.8m、深さ約0.2mであった。ほぼN-19°-Eに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第163号溝 (第86図、第87図)

BB-40グリッドに位置していた。長さ約(6.1)m、幅約0.7m、深さ約0.2mであった。ほぼN-74°-Wに伸びていた。内耳土器の破片が実測できた。口縁部が立ち気味で古めの印象がある。中・近世期以降の溝であろう。

第164号溝 (第86図)

BE-38グリッドからBE-39グリッドにかけて位置し

ていた。長さ約(8.3)m、幅約0.9m、深さ約0.4mであった。ほぼN-74°-Wに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第165号溝 (第86図、第87図)

AY-37グリッドからAZ-36グリッドにかけて位置していた。長さ約(9.4)m、幅約1.7m、深さ約0.3mであった。ほぼN-29°-Eに伸びていた。鉄釉のかかった灯明受け皿が出土した。中・近世期以降の溝であろう。

第166号溝 (第86図、第87図、図版18)

AX-34グリッドからAY-37グリッドにかけて位置していた。長さ約(31.5)m、幅約2.0m(第167号溝と併せて)、深さ約0.2mであった。ほぼN-70°-Wに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第167号溝 (第86図、第87図、図版18)

AX-34グリッドからAY-37グリッドにかけて位置していた。長さ約(30.7)m、幅約2.0m(第166号溝と併せて)、深さ約0.2mであった。ほぼN-70°-Wに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第168号溝 (第86図、第87図)

BC-39グリッドからBC-40グリッドにかけて位置していた。長さ約(8.3)m、幅約0.8m、深さ約0.2mであった。ほぼN-75°-Wに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

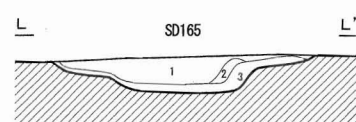
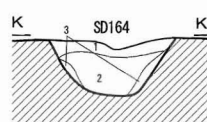
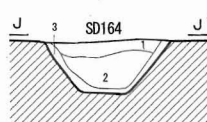
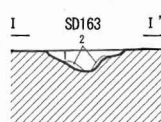
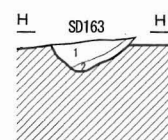
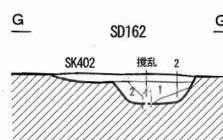
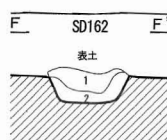
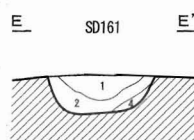
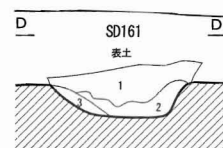
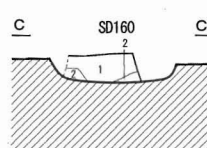
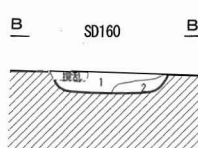
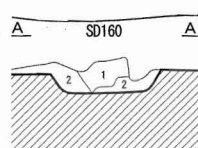
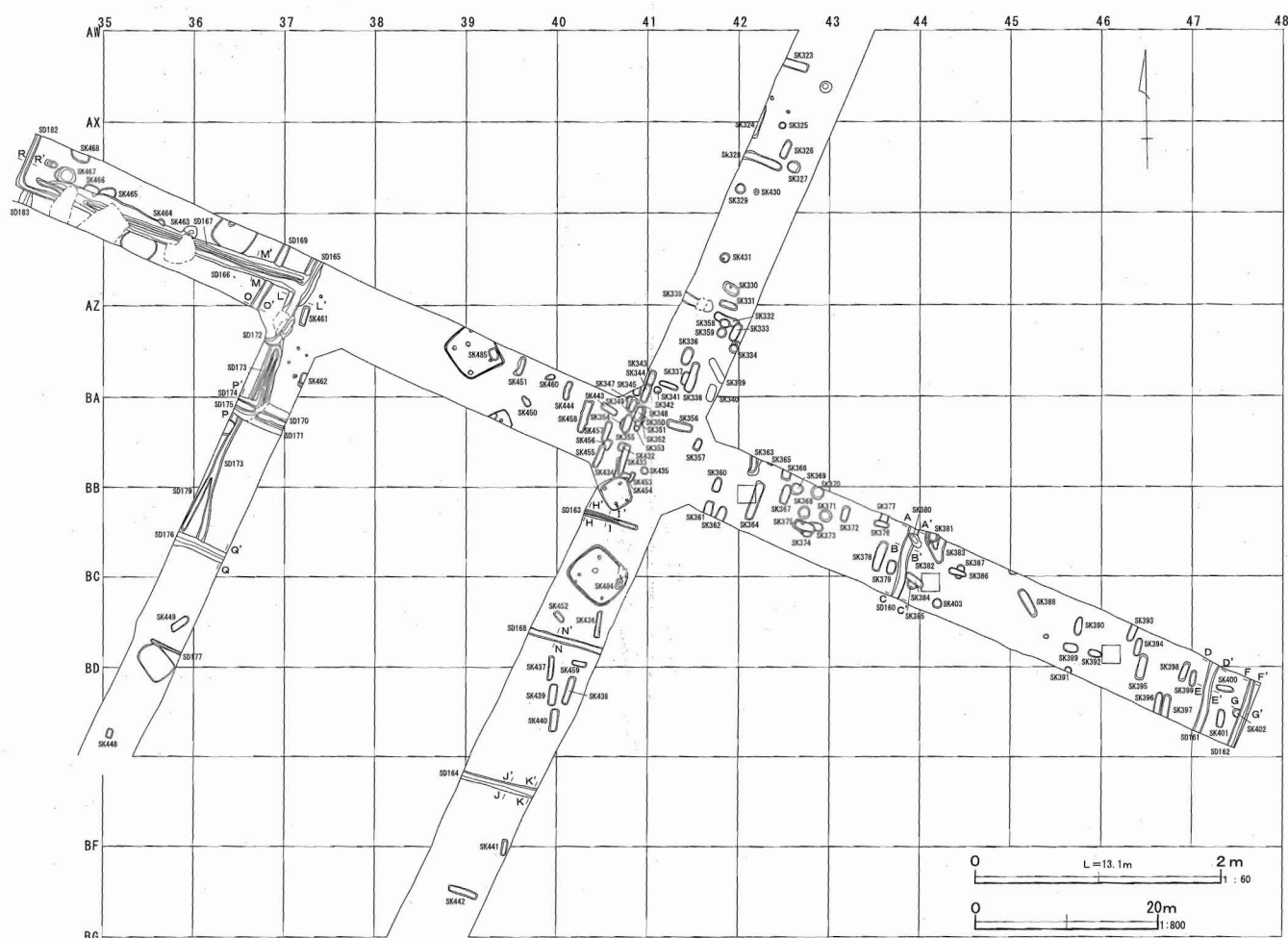
第169号溝 (第86図、第87図、図版19)

AY-37グリッドからAZ-36グリッドにかけて位置していた。長さ約(7.8)m、幅約1.0m、深さ約0.1mであった。ほぼN-28°-Eに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

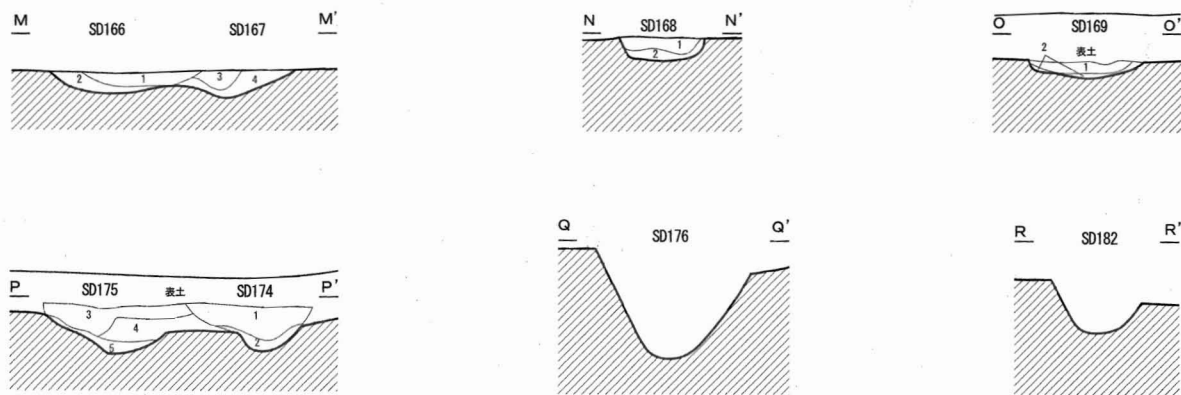
第170号溝 (第86図、第87図)

BA-36グリッドからBA-37グリッドにかけて位置していた。長さ約(2.9)m、幅約1.3m、深さ約0.4mであった。ほぼN-69°-Wに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第86図 土塙・溝（中・近世）（4）



第87図 土壌・溝 (中・近世) (5)



SD160
1 黒褐色土
{ローム粒子(少)} {粘性(無)、しまり(無)}
2 暗褐色土
{ロームブロック(少)} {粘性(無)、しまり(無)}

SD161
1 黒褐色土
{ローム粒子(少)} {粘性(無)、しまり(無)}
2 暗褐色土
{ローム粒子(多)、炭化粒子(少)} {粘性(無)、しまり(無)}
3 暗褐色土
{ローム粒子(多)} {粘性(無)、しまり(無)}
4 黒褐色土
{ローム粒子(少)} {粘性(無)、しまり(やや有)}

SD162
1 黒褐色土
{ローム粒子(少)} {粘性(無)、しまり(無)}
2 暗褐色土
{ローム粒子(多)} {粘性(無)、しまり(無)}

SD163
1 黒褐色土
{ローム粒子(少)、炭化粒子(少)} {粘性(無)、しまり(無)}
2 暗褐色土
{ロームブロック(多)} {粘性(無)、しまり(無)}

SD164
1 黒褐色土
{ローム粒子(少)} {粘性(無)、しまり(無)}
2 暗褐色土
{ロームブロック(少)} {粘性(無)、しまり(やや有)}
3 暗黄褐色土
{ロームブロック(多)} {粘性(無)、しまり(やや有)}

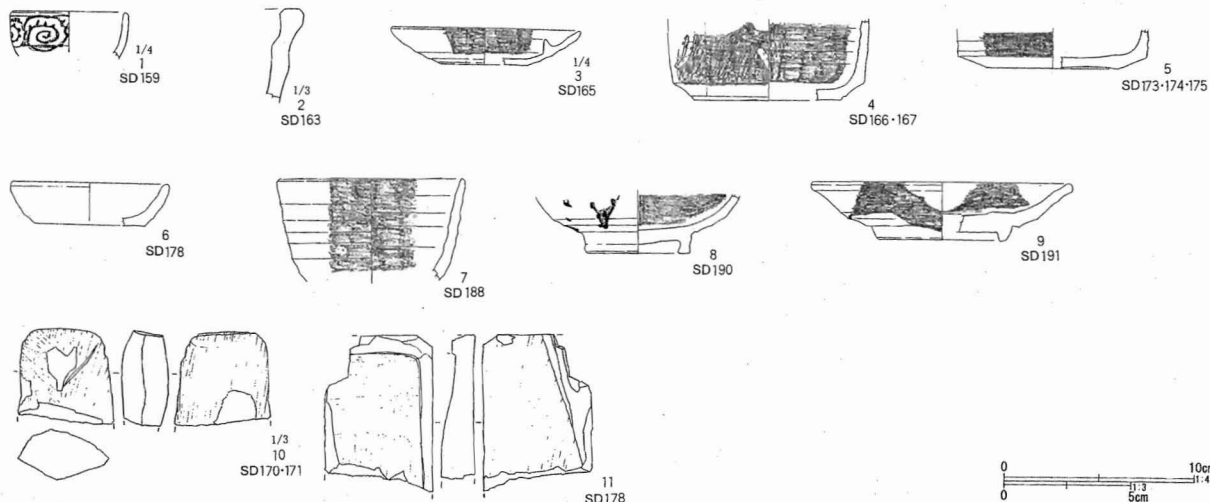
SD165
1 暗褐色土
{炭化粒子(少)} {粘性(無)、しまり(無)}
2 黒褐色土
{ローム粒子(少)} {粘性(無)、しまり(無)}
3 黄褐色土
{ロームブロック(多)} {粘性(無)、しまり(やや有)}

SD166・167
1 暗褐色土
{ローム粒子(少)} {粘性(無)、しまり(無)}
2 黄褐色土
{ロームブロック(多)} {粘性(無)、しまり(無)}
3 黒褐色土
{ローム粒子(少)、炭化粒子(少)} {粘性(無)、しまり(無)}
4 黄褐色土
{ロームブロック(多)} {粘性(無)、しまり(無)}

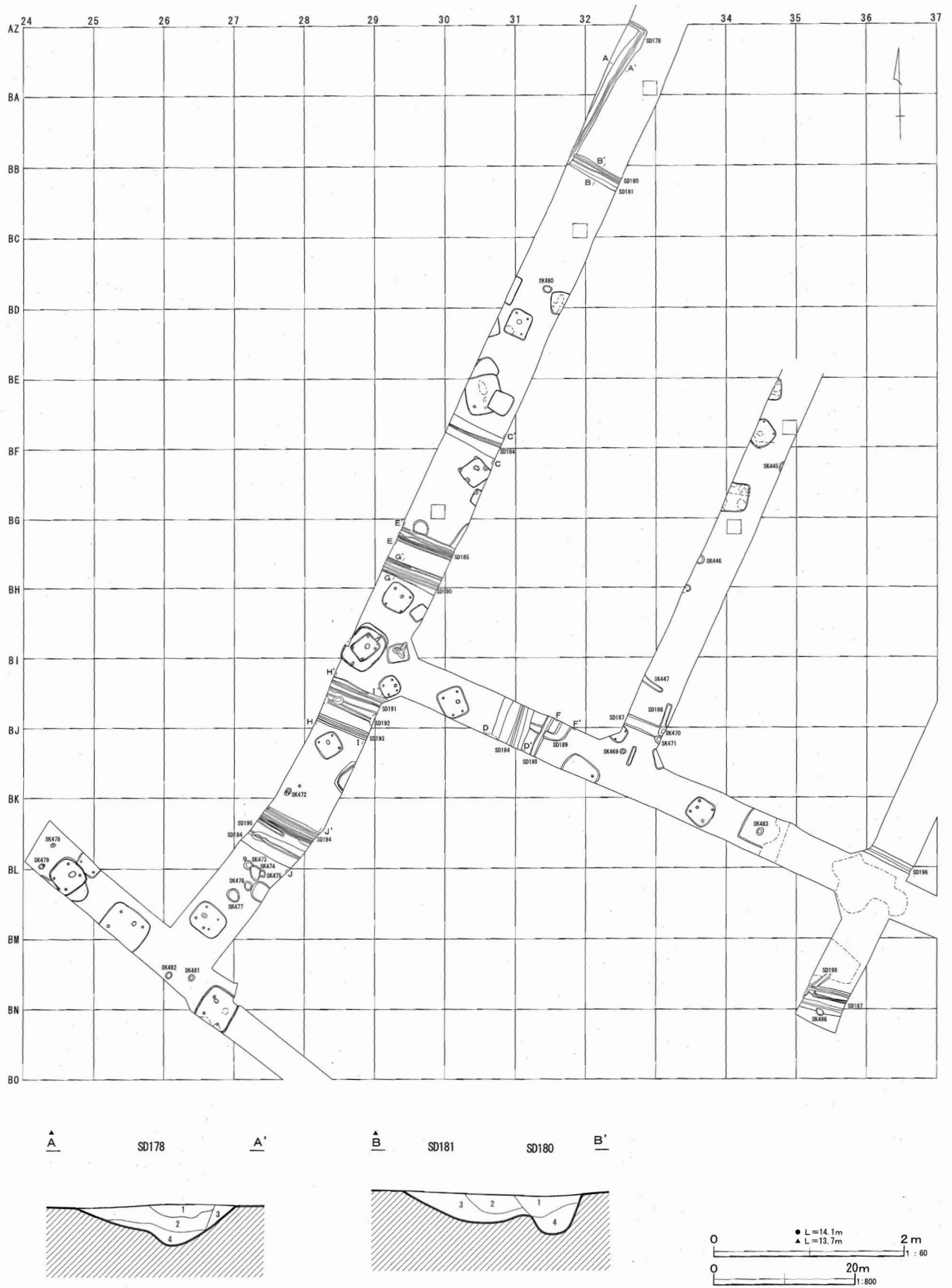
SD168
1 黒褐色土
{ローム粒子(少)} {粘性(無)、しまり(無)}
2 明褐色土
{ローム粒子(多)} {粘性(無)、しまり(無)}

SD169
1 黒褐色土
{ローム粒子(少)} {粘性(無)、しまり(無)}
2 暗褐色土
{ローム粒子(多)} {粘性(無)、しまり(無)}

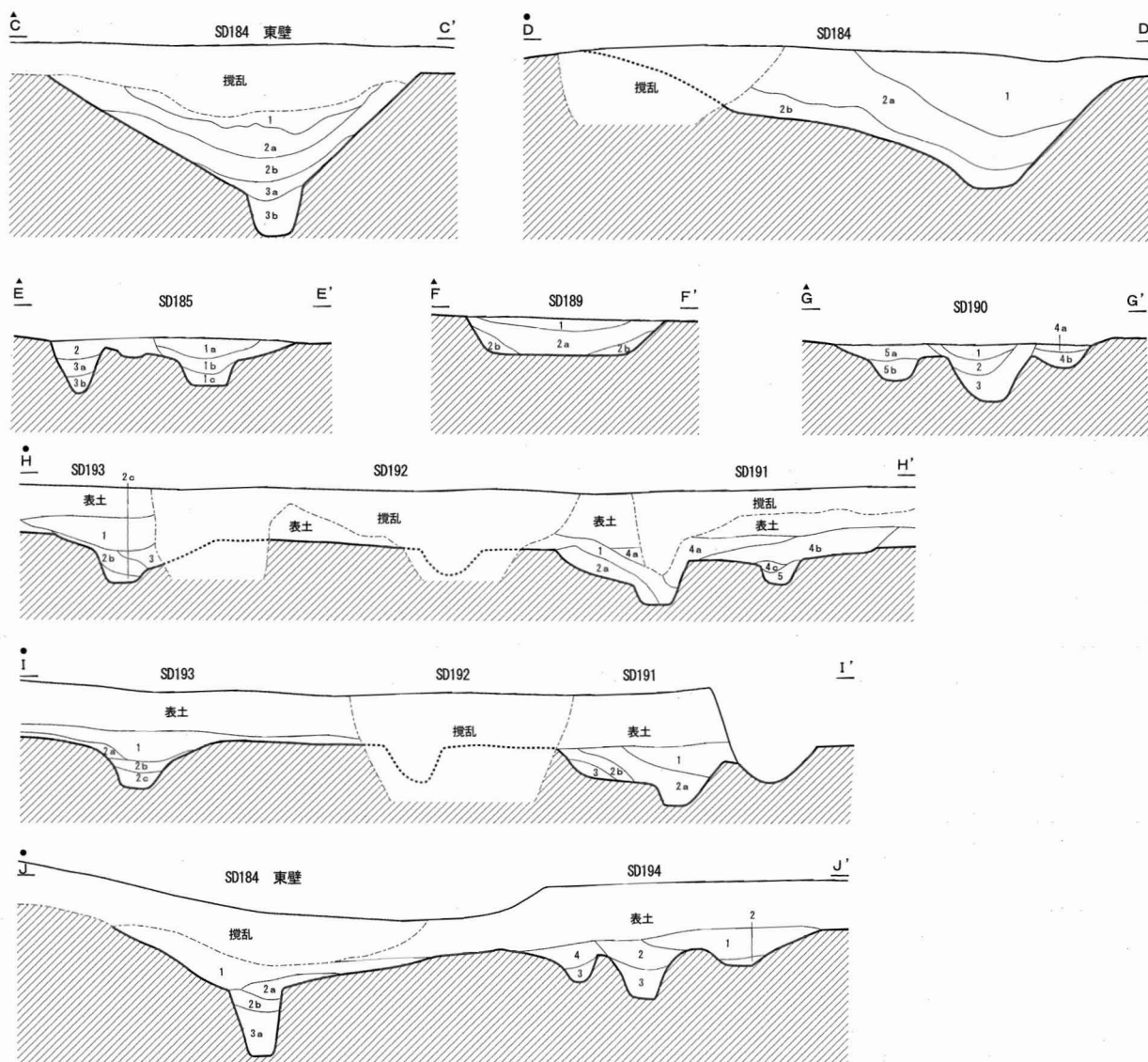
SD174・175
1 黒褐色土
{ロームブロック(少)} {粘性(無)、しまり(無)}
2 暗褐色土
{ロームブロック(少)、ローム粒子(少)} {粘性(無)、しまり(無)}
3 暗褐色土
{ローム粒子(少)、炭化粒子(少)} {粘性(無)、しまり(無)}
4 暗褐色土
{ロームブロック(多)} {粘性(無)、しまり(無)}
5 暗褐色土
{ローム粒子(多)} {粘性(無)、しまり(無)}



第88図 土墳・溝（中・近世）（6）



第89図 土壌・溝（中・近世）（7）



SD178
1 暗褐色土
{ローム粒子(少)、炭化粒子(少)} {粘性(無)、しまり(無)}
2 暗褐色土
{ローム粒子(少)} {粘性(無)、しまり(無)}
3 暗褐色土
{ロームブロック(多)} {粘性(無)、しまり(無)}
4 暗褐色土
{ロームブロック(少)} {粘性(無)、しまり(無)}

SD181・180
1 黄褐色土
{ロームブロック(多)} {粘性(無)、しまり(やや有)}
2 暗褐色土
{ローム粒子(少)、炭化粒子(少)} {粘性(無)、しまり(無)}
3 暗褐色土
{ロームブロック(少)、炭化粒子(少)} {粘性(無)、しまり(無)}
4 暗褐色土
{焼土粒子(少)、炭化粒子(少)} {粘性(無)、しまり(無)}

SD184 東壁
1 黒褐色土
{ロームブロック(少)ローム粒子(少)} {しまり(有)}
2 淡灰黄色土

a {ロームブロック(少)、ローム粒子(少)} {しまり(有)}
b {ローム粒子(少)} {しまり(有)}
3 暗灰黄色土
a {ローム小ブロック(少)、ローム粒子(少)} {粘性(無)、しまり(無)}
b {ローム小ブロック(中)、ローム粒子(少)} {粘性(無)、しまり(無)}
※自然堆積

SD184
1 黒褐色土
{ロームブロック(少)、ローム粒子(多)}
2 暗褐色土
a {ロームブロック(少)、ローム粒子(中)}
b {ロームブロック(多)}

SD185
1 暗褐色土
a {ロームブロック(中)、ローム粒子(多)、黒色ブロック(少)} {粘性(無)、しまり(無)}
b {ロームブロック(少)、ローム粒子(多)} {粘性(無)、しまり(無)}
c {ローム粒子(少)} {粘性(無)、しまり(無)}
2 暗褐色土
{ロームブロック(多)} {しまり(やや有)}
3 暗褐色土
a {ロームブロック(中)、ローム粒子(少)} {粘性(無)、しまり(無)}
b {ローム小ブロック(中)、ローム粒子(少)} {粘性(無)、しまり(無)}

SD189
1 暗褐色土
{ローム粒子(中)、炭化粒子(微)} {しまり(有)}
2 茶褐色土
a {ロームブロック(少)、ローム粒子(少)} {しまり(有)}
b {ロームブロック(中)} {しまり(有)}

SD190
1 暗黄褐色土
2 黒褐色土
3 暗茶褐色土
4 暗褐色土
a {ロームブロック(少)}
b {ロームブロック(多)}
5 黒褐色土
a {ロームブロック(少)}
b {ロームブロック(中)}

SD193
1 暗褐色土
{ロームブロック(少)、ローム粒子(少)}
2 暗黄褐色土
a {ロームブロック(多)}
b {ロームブロック(少)、ローム粒子(多)} {粘性(無)、しまり(無)}
c {ロームブロック(中)、ローム粒子(多)} {粘性(無)、しまり(無)}
3 黄褐色土
{ロームブロック(少)、ローム粒子(少)}

SD191
1 黄褐色土
{ロームブロック(多)、黒色ブロック(少)}
2 暗褐色土
a {ロームブロック(少)、ローム小ブロック(多)} {粘性(無)、しまり(無)}
b {ロームブロック(多)} {粘性(無)、しまり(無)}
3 暗黄褐色土
{ロームブロック(少)}
4 黒褐色土
a {ローム小ブロック(中)、ローム粒子(多)、黒褐色粒子(少)}
b {ローム小ブロック(少)}
c {ローム粒子(少)}
5 暗褐色土
{ロームブロック(少)}

SD194
1 暗黄褐色土
{ロームブロック(少)、ローム粒子(多)} {粘性(無)、しまり(無)}
2 黄褐色土
{ロームブロック(多)} {ロームブロック層}
3 暗褐色土
{ローム粒子(少)} {粘性(無)、しまり(無)}
4 暗黒褐色土
{ローム小ブロック(多)、ローム粒子(多)}

第171号溝 (第86図、第87図)

BA-36グリッドに位置していた。長さ-約(3.5)m、幅-約1.2m、深さ-約0.4mであった。ほぼN-68°-Wに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第172号溝 (第86図)

AZ-36グリッドからAZ-37グリッドにかけて位置していた。長さ-約(5.1)m、幅-約0.9m、深さ-約0.2mであった。ほぼN-43°-Eに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第173号溝 (第86図、第87図)

AZ-36グリッドからBB-36グリッドにかけて位置していた。長さ-約(22.8)m、幅-約2.0m(第174号溝・175号溝と併せて)、深さ-約0.1mであった。ほぼN-21°-Eに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第174号溝 (第86図、第87図)

AZ-36グリッドからBA-36グリッドにかけて位置していた。長さ-約(8.1)m、幅-約2.0m(第173号溝・175号溝と併せて)、深さ-約0.2mであった。ほぼN-18°-Eに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第175号溝 (第86図、第87図)

AZ-36グリッドからBA-36グリッドにかけて位置していた。長さ-約(11.0)m、幅-約2.0m(第173号溝・174号溝と併せて)、深さ-約0.3mであった。ほぼN-15°-Eに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第176号溝 (第86図、第87図)

BB-35グリッドからBB-36グリッドにかけて位置していた。長さ-約(5.9)m、幅-約1.3m、深さ-約0.9mであった。ほぼN-65°-Wに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第177号溝 (第86図)

BC-35グリッドに位置していた。長さ-約(3.7)m、幅-約0.5m、深さ-約0.1mであった。ほぼN-64°-Wに

伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第178号溝 (第87図、第88図)

AY-32グリッドからBA-31グリッドにかけて位置していた。長さ-約(23.3)m、幅-約1.8m、深さ-約0.4mであった。ほぼN-30°-Eに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第179号溝 (第86図)

BA-36グリッドからBB-35グリッドにかけて位置していた。長さ-約(5.8)m、幅-約0.7m、深さ-約0.2mであった。ほぼN-27°-Eに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第180号溝 (第88図)

BA-31グリッドからBB-32グリッドにかけて位置していた。長さ-約(7.5)m、幅-約0.7m、深さ-約0.4mであった。ほぼN-61°-Wに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第181号溝 (第88図)

BA-31グリッドからBB-32グリッドにかけて位置していた。長さ-約(7.6)m、幅-約1.2m、深さ-約0.3mであった。ほぼN-63°-Wに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第182号溝 (第86図、第87図)

AX-34グリッドに位置していた。長さ-約(10.3)m、幅-約0.7m、深さ-約0.5mであった。ほぼN-22°-Eに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第183号溝 (第86図)

AX-34グリッドに位置していた。長さ-約(1.5)m、幅-約1.5m、深さ-約0.5mであった。ほぼN-23°-Eに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第184号溝 (第88図、第89図、図版19)

BE-30グリッドからBK-47グリッドにかけて位置していた。長さ-南北に約(58.0)m-東西に約(29.0)mで枡形に廻る溝で、幅約4.5m、深さ約1.3mであった。ほぼN-19°-EからN-67°-Wに廻っていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第185号溝 (第88図、第89図、図版19)

BG-29グリッドからBG-30グリッドにかけて位置していた。長さ約(8.3)、幅約2.1m、深さ約0.4mであった。ほぼN-68°-Wに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

現段階では、溝として捕らえているが南側に並行して走る第190号と対になり、道路状遺構となるものと思われる。

第186号溝 (第88図)

BI-33グリッドに位置していた。長さ約(3.5)m、幅約0.7m、深さ約0.1mであった。ほぼN-16°-Eに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第187号溝 (第88図)

BI-32グリッドからBJ-33グリッドにかけて位置していた。長さ約(5.7)m、幅約1.6m、深さ約0.1mであった。ほぼN-69°-Wに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第188号溝 (第87図、第88図、図版19)

BI-31グリッドからBJ-31グリッドにかけて位置していた。長さ約(6.1)m、幅約1.1m、深さ約0.3mであった。ほぼN-26°-Eに伸びていた。陶磁器破片がわずかに出土している。形状より中・近世期以降の溝であろう。

第189号溝 (第88図、第89図、図版19)

BI-31グリッドからBJ-31グリッドにかけて位置していた。長さ約(7.1)m、幅約1.8m、深さ約0.3mであった。ほぼN-64°-Wに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第190号溝 (第87図、第88図、第89図、図版19)

BG-29グリッドからBH-29グリッドにかけて位置

していた。長さ約(8.3)m、幅約2.4m、深さ約0.5mであった。ほぼN-70°-Wに伸びていた。鉄釉のかかった碗が出土している。形状より中・近世期以降の溝であろう。前記したように、第185号溝と対になり、道路状遺構の排水施設になるものと思われる。

第191号溝 (第87図、第88図、第89図)

BI-28グリッドからBI-29グリッドにかけて位置していた。長さ約(8.4)m、幅約2.7m、深さ約0.5mであった。ほぼN-69°-Wに伸びていた。遺物は陶器の皿が出土している。形状より中・近世期以降の溝であろう。第192号溝に切られている。第193号溝と対になって道路状遺構の排水施設となるものと思われる。

第192号溝 (第88図、第89図)

BI-28グリッドに位置していた。長さ約(7.6)m、幅約0.6m、深さ約0.2mであった。ほぼN-65°-Wに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。第191号溝より新しい。第193号溝を対になって、道路状遺構の排水施設になるものと思われる。

第193号溝 (第88図、第89図)

BI-28グリッドからBJ-28グリッドにかけて位置していた。長さ約(7.6)m、幅約1.2m、深さ約0.4mであった。ほぼN-67°-Wに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。新旧二回の道路状遺構に共通して使われる。

第194号溝 (第88図、第89図)

BK-27グリッドからBK-28グリッドにかけて位置していた。長さ約(8.2)m、幅約2.3m、深さ約0.5mであった。ほぼN-62°-Wに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第195号溝 (第88図)

BK-27グリッドに位置していた。長さ約(4.5)m、幅約0.5m、深さ約0.1mであった。ほぼN-58°-Wに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第196号溝 (第88図)

BK-35グリッドからBL-36グリッドにかけて位置していた。長さ-約(6.8)m、幅-約1.3m、深さ-約0.5mであった。ほぼN-62°-Wに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第197号溝 (第88図、図版19)

BM-35グリッドからBN-35グリッドにかけて位置していた。長さ-約(6.0)m、幅-約3.7m、深さ-約0.4mであった。ほぼN-78°-Wに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第198号溝 (第88図)

BM-35グリッドに位置していた。長さ-約(4.7)m、幅-約0.7m、深さ-約0.2mであった。ほぼN-50°-Eに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

(9) グリッド出土遺物

グリッド出土遺物 (第90図～92図)

第1群土器 (第90図1)

縄文時代早期前半、撚り糸文系の土器群を一括する。第90図1は口縁部がわずかに肥厚し外反する。Lの撚り糸文が口唇部にまで施文される。

第2群土器 (第90図2～23)

早期後半条痕文系土器を本群とする。総じて鶴ヶ島台式前後のものか。数が少ないのでまとめて説明する。23以外は表裏に縄文が施文されている。2～6は口縁部破片である。2は斜行する沈線文を横位の沈線文が区切っている。5は波状口縁で口唇部に刻みがある。7は沈線文による幾何学形状の文様が配される。23は表面に粗雑な縄文が施文されている。あるいは時期が新しくなるものか。

第3群土器 (第90図24～30)

縄文時代中期中葉の土器を一括する。勝坂式土器に属する。25～28はあるいは阿玉台式か。27、28には断面三角形の隆帯が貼り付けられる。24、29、30はキャタピラー文や隆帯上の押し引き刻み文などがある。

第4群土器 (第90図31～41、第91図1～26)

縄文時代中期後半加曾利EⅢ式～縄文時代後期前半加曾利EⅣ式までの土器を一括する。

a (第90図31～41、第91図1～18)

縄文時代中期後葉加曾利EⅢ式を本類とする。31～33は口縁部文様帯を持つ加曾利E系列土器の口縁部である。35～37は連弧文系土器の口縁部破片である。37はかなり変形している。地文が条線になっている。36、40、41は口縁部に無文部を持つ。

第91図1～3は隆帯が配される胴部破片。

b (第91図19～26)

微隆帯が配される加曾利EⅣ系列の土器群である。いずれも胴部破片。加曾利EⅢ・胴部巻圈文系列との区別はむずかしい。

第5群土器 (第91図27～37)

縄文時代後期前半堀ノ内2式に属すると思われる土器群を一括する。27は波状口縁深鉢で頸部で緩やかに括れる。口縁下に刻みが入る。端部に盲孔を配したに隆線が2条垂下する。28～31は単純に外反する深鉢。29、30は横走する沈線文が配される。32～34は縄文を地文として3本単位の沈線で文様が描かれる。沈線間が部分的に磨消される。35、36は充填縄文系の土器である。

第6群土器 (第91図38)

縄文時代後期後半安行式に属すると思われる土器群を一括する。1点だけ出土した。38は口縁部が肥厚する粗製土器と思われる。

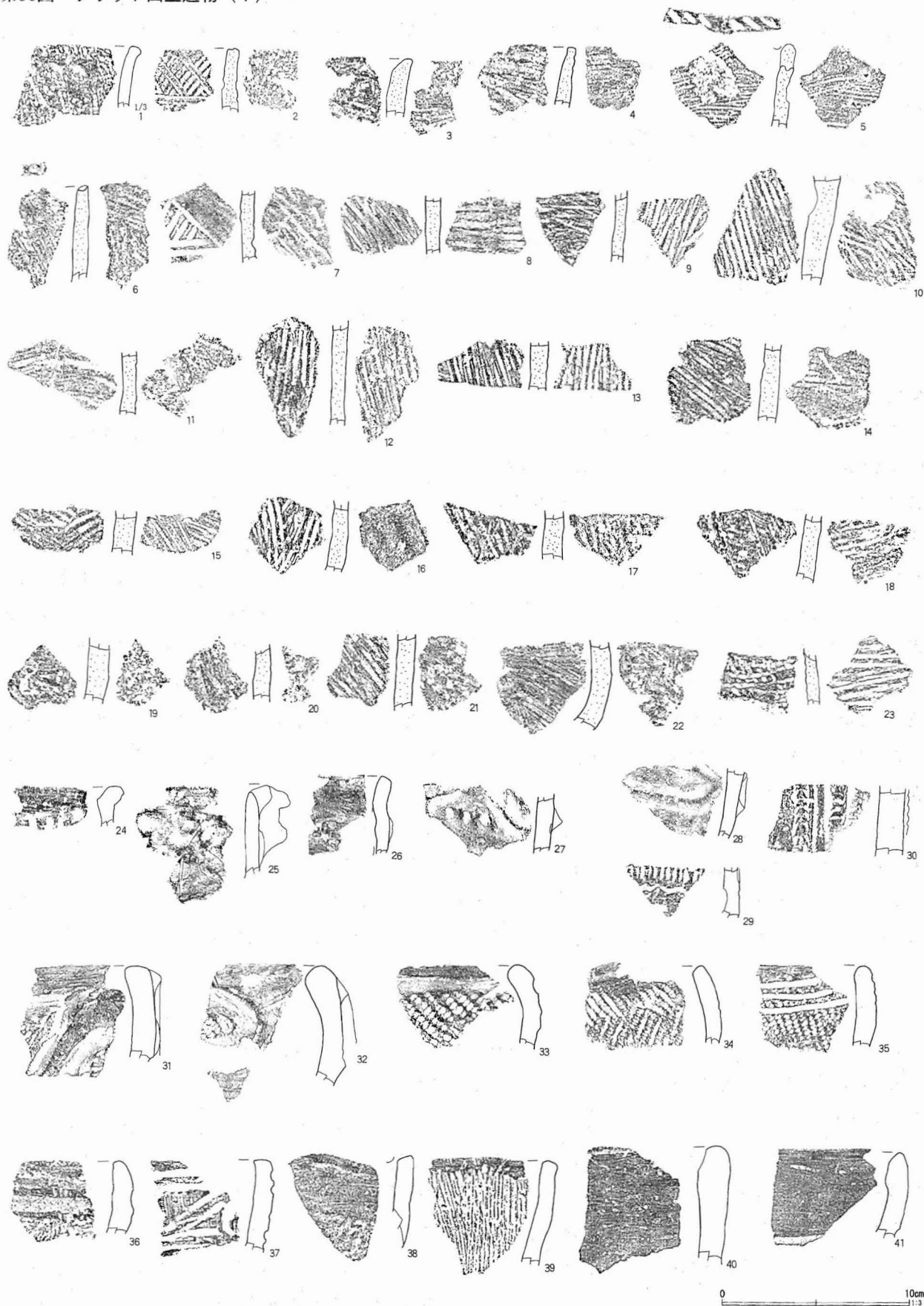
石器 (第92図)

1は旧石器時代のナイフ形石器である。刃部が欠損する。基部は裏面からの入念なブランディングが行われている。

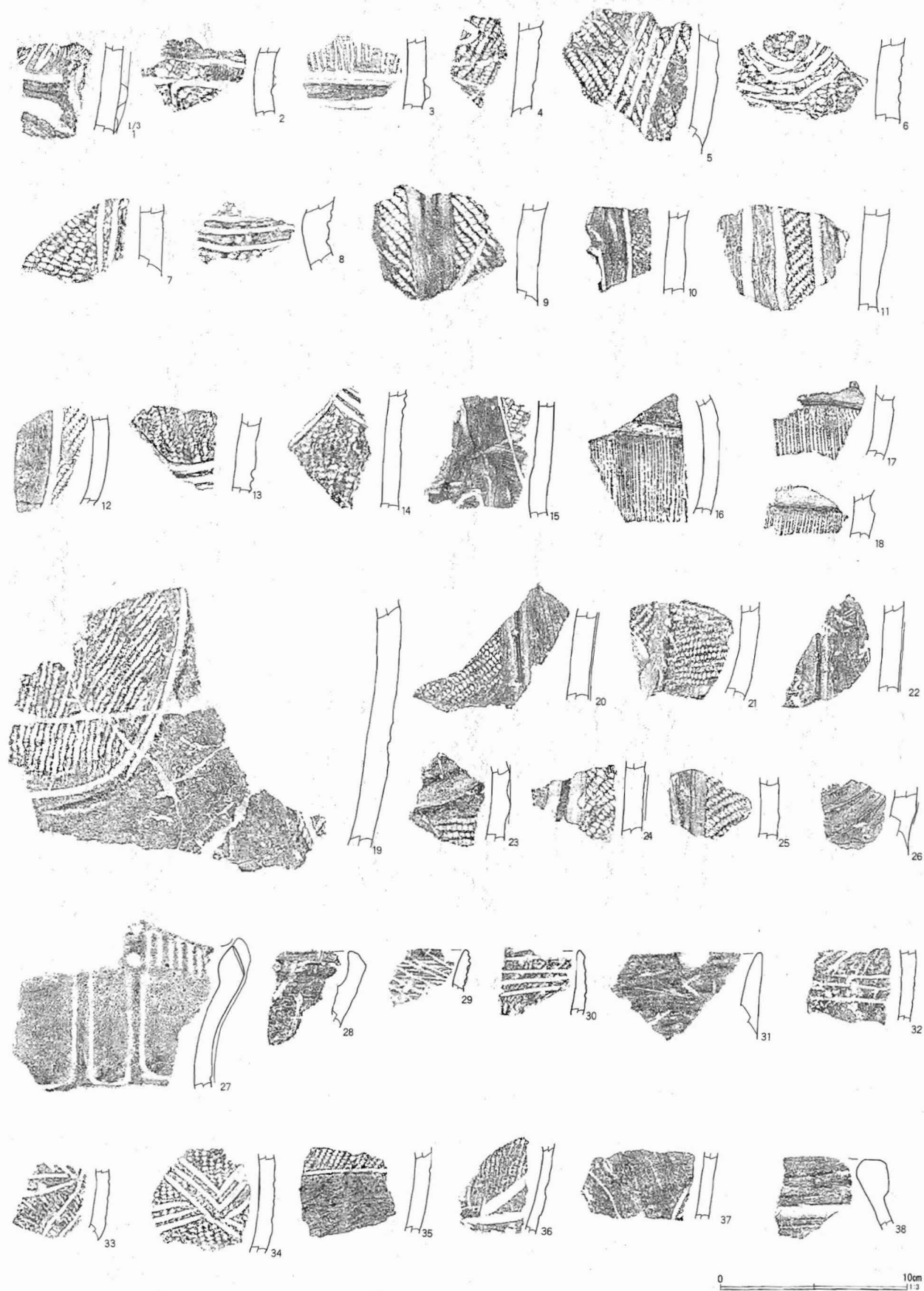
2～6は縄文時代の石器である。1は石鏃。三角形状をしていて基部に抉りが入る。3～5は使用痕のある剥片である。3は黒曜石製。6は敲打石で、側面部に使用痕が認められる。

7～9は、近世期の火打石である。石英製。いずれも破断してしまっているが、微小な敲打痕が集中

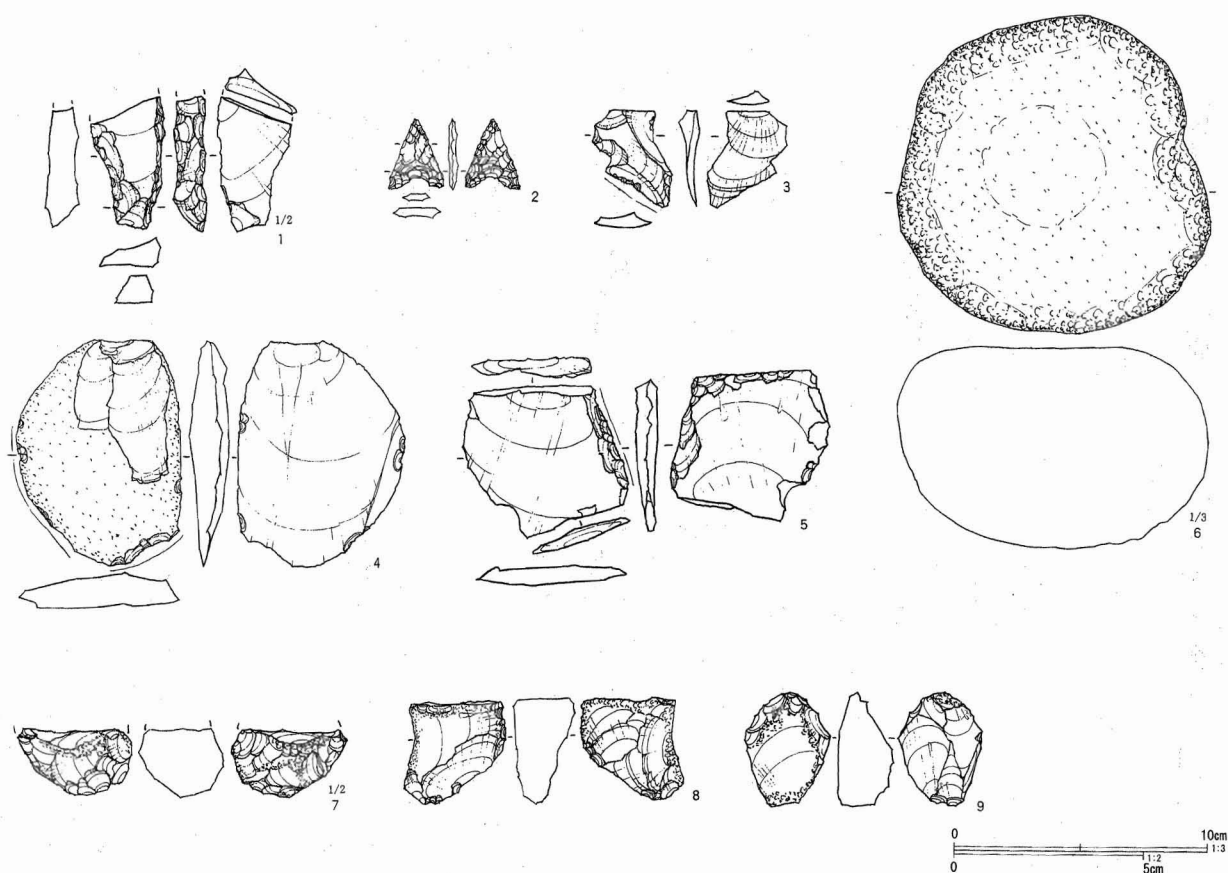
第90図 グリッド出土遺物（1）



第91図 グリッド出土遺物（2）



第92図 グリッド出土遺物（3）



して認められる部分がある。

第14表 石器一覧表（3）

図版番号	出土位置	器 種	縦×横×厚さ(cm)	重量(g)	石 質	備 考
71図-32	第467号土壙	磨製石斧	5.0×5.3×3.8	99.5	安山岩	
87図-10	第170・171号溝	砥石	3.8×3.8×1.9	31.69	安山岩	
87図-11	第178号溝	硯	6.2×4.3×1.3	49.97	硬質砂岩	
92図-1	グリッド	ナイフ形石器	3.45×1.97×0.94	5.76	玄武岩	
92図-2	グリッド	石鏃	1.9×1.4×0.2	0.43	チャート	
92図-3	グリッド	剥片	2.6×2.1×0.6	1.25	黒曜石	使用痕
92図-4	グリッド	剥片	6.0×4.4×1.0	28.23	安山岩	使用痕
92図-5	グリッド	スクレイパー	4.1×4.4×0.7	14.38	安山岩	
92図-6	グリッド	磨石・敲石	12.5×12.4×8.0	1691.18	安山岩	使用痕
92図-7	グリッド	火打石	1.7×3.0×2.2	11.9	石英	使用痕
92図-8	グリッド	火打石	2.8×2.7×1.6	11.94	チャート	使用痕
92図-9	グリッド	火打石	3.0×2.2×1.4	8.55	石英	使用痕